

1. 植物

選定・評価方法の概要

本評価では、東京都全体を区部、北多摩、南多摩、西多摩の4地域に区分し、それぞれの地域について評価を行った。上記区分は行政上での区分けに対応するものであるが、概ね低地（区部）、台地（北多摩）、丘陵地（南多摩）、山地（西多摩）と主要な植生帯を異にしており、東京都における絶滅や絶滅のおそれのある種の植生帯ごとの選定と評価の区分として適切である。

前回（本土部レッドリスト 2010）まで植物は本土部全体としての評価を見送ってきたが、今回は本土部全体としての評価のランク付けを行った。新たに本土部全体としての評価を加えたのは、都道府県を単位とした評価を求める全国的な傾向への対応が主たる理由である。

検討対象種は、東京都（本土部）に自生する植物全種の一覧を含む『東京都の野生生物種目録 1998 年版』を基礎に、本土部レッドリスト 2010 の掲載種 800 種に新たに 250 種を加えた計 1,050 種とした。検討対象種の選定にあたっては、まず現状と本土部レッドリスト 2010 からの変化を把握するために、前回以降の確認記録の収集と整理を行った。文献資料の収集とともに現地確認調査を行い、更に各地域における植物の分布状況等に詳しい方々から情報を提供いただいた。あわせて一部ではあるが、前回以前の古い文献や標本を再確認し、過去の状況の把握にも努めた。こうして収集整理した情報をもとに、分類に関する最新の知見を反映して、検討対象種の選定を行った。なお、本解説版（本土部レッドデータブック 2023）の作成時に本土部レッドリスト 2020 の一部を見直した。

選定・評価結果の概要

検討対象種について、1種ずつ評価を行った結果、本書に掲載される絶滅または絶滅のおそれのある種として選定されたのは 943 種で、その数は本土部レッドリスト 2010 に比べて 143 種増加した。種数の増加は、主に現在も続いている各種の開発による自然環境のかく乱と破壊の進行に加え、里山の利用の衰退や変化、外来生物の定着、あるいは地球規模で引き起こされる極端な気候現象など、複合的要因による生育場所の消失や環境の劣化によるものであるが、山間部を中心に顕著となってきた野生鳥獣被害、すなわちニホンジカによる食害の影響も評価結果に大きく表れている。その代表が今回の新規掲載種では、ツバメオモト、ツマトリソウ、アカバナヒメイワカガミ、カニコウモリなどであり、いずれも山地帯から亜高山帯に分布する植物である。



拡散が懸念されるニホンジカ（奥多摩町）

アカバナヒメイワカガミ

ツマトリソウ

今回新たに 32 種の絶滅が確認され、都における絶滅（EX）は 100 種に及ぶこととなった。新たに絶滅が確認された種には、オオヤマサギソウやルリソウなどの山地性のものもみられるが、その大半は池沼や水田に生育するデンジソウやヤナギスブタ、あるいは湿地に生育するコイヌノハナヒゲ、アゼオトギリなどの植物である。これらの水湿生植物絶滅の主な原因は、直接的な生育環境の消滅や悪化によるものであり、除草剤等の使用のほか、水田面積の減少が大きく影響していると考えられる。



低地の水田環境（葛飾区）

デンジソウ

ヤナギスブタ

その一方で、前回のリストからランクが下がったものとして、キンラン、マツモ、コウモリカズラ、チダケサシ、オカタツナミソウなどがあげられる。これらは生育状況が改善された結果だけでなく、調査が進み、分布についての情報が増加した結果のランクの変更である。また、前回のリストから外れたものは 36 種あり、これらは主に複数の地域区分において普通種であるもの（例：イワヒメワラビ、ラショウモンカズラ）、過去の記録や標本の再確認を行った結果、非分布であることが明らかになったもの（例：ヒメマイヅルソウ、ミミカキグサ）、最新の知見により雑種であることがわかったもの（例：ハイホラゴケ、ヤツシロヒトツバ）などである。

地域別にみると区部ではアギナシ、イヌイ、ホシクサ、ドロイなど、絶滅種が 207 種ときわめて多く、北多摩でもセイタカハリイ、ヒメコヌカグサ、フナバラソウ、タムラソウなど絶滅種が 116 種と多い。伊藤（1873）、著者不明（1888）、檜山（1953・1965）などによれば、かつては丘陵地だけでなく、低地においても豊かな自然が存在したことが明らかであるが、区部や北多摩では、とくに 1950 年以降の開発が著しく、河川中～下流域にかけての湧水湿地を伴う原野や河畔林、沿岸河口部などに広がっていた塩生湿地などが広範囲に改変され、多様な植物の生育環境が失われてしまった。生物多様性の保全や回復を重要視する昨今にあって、これらの地域に記録されていた特徴的な植物相を再度吟味し、現在残されている水と緑の拠点整備などに反映させる努力を怠ってはならないだろう。こうした状況の下、区部においてはオニバスやミズネコノオなどの水湿生植物、ウラギク、ハチジョウナ、ツルナなどの塩生湿地の植物が、また、北多摩においてはタチスゲ、ヒナワチガイソウ、ノジトラノオ、シソクサ、ヤマジノタツナミソウなど、各地域の特徴を示す植物相が危機的な状況の中にも現存しており、重点的な保全対策が望まれるところである。区部やそれ以外の地域の平地から台地の崖線沿いに残る小規模な緑地では、かつての東京に広く分布していたとみられるヤナギイノコヅチ、アイナエ、クサスゲなどの植物が今も生存し続けており、開発を逃れて残存している緑地の重要性が改めて注目される。



水元公園のオニバス（葛飾区）

葛西海浜公園東なぎさの塩性湿地（江戸川区）

南多摩は高地性の種を欠くものの、丘陵地を中心とした低平地から山地にいたる植生帯の広がりを反映した、多様性の高い植物相が発達している。宅地等の開発が進み、立地の分断が急速に進んだが、都心からわずか50km程の距離にある高尾山をはじめとして、植物相は今なお比較的良好な状態が保たれ、高い種多様性を維持している。とりわけ、その前線に位置し、常に開発の波にさらされてきた丘陵地では、支谷の入り組んだ谷戸地形に特徴づけられる里山環境が少なからず残存しており、今後も南多摩の豊かな植物相の源泉として重点的に保全していく必要がある。絶滅危惧種（CR、EN、VU）が451種、準絶滅危惧や情報不足（NT、DD）が94種あり、約1,400万人の人口を抱える首都東京の一部であるこの地域の生物多様性と今後におけるその維持は世界的にも注目される。南多摩を特徴づける植物のなかで、生育状況の悪化や個体数減少が懸念される植物としては、カイコバイモ、ヒメフタバラン、タマノホシザクラ、トラノオジソ、ツルギキョウ、シロバナイナモリソウ、ミズオトギリ、ハチオウジアザミなどを挙げる事ができる。



谷戸の里山環境（町田市）

ヒメフタバラン

ミズオトギリ

西多摩は低平地も含むが、主要な植生帯は丘陵地と関東山地の一部をなす山地の森林植生である。南多摩同様に植物相の種多様性は高く、都心部に隣接する立地として驚異的である。絶滅危惧種（CR、EN、VU）が570種、準絶滅危惧や情報不足（NT、DD）が154種あり、東京都の生物多様性保全の上からは特に重要な地域である。亜高山帯の森林植生が東京都に存在するかどうかは議論の分かれるところであるが、広い範囲を占める亜高山針葉樹林を構成する樹種とされるシラビソ、ヒメコマツ（ゴヨウマツ）が少数個体見出され、低木・草本種のタカネバラ、ウラジロヒカゲツツジ、ヒメミヤマウズラ、カモメランなども、山頂部や尾根の高所に少数個体が確認されているだけである。この森林は隣接の埼玉県側の高所に連続しており、むしろ東京都側の林分は断片的である。なお、西・南多摩の山地では緩やかな尾根や急峻な尾根など多様な地形がみられ、保護対象になる樹種も少なくない。



針葉樹が生える山岳地（奥多摩町）

ヒメコマツ

タカネバラ

山地を中心に石灰岩が露出した立地が散見し、主に西多摩では石灰岩地に特有なミヤマモジズリ、ヨコグラノキ、ツゲなどが出現する。さらには、東京都周辺に分布が限られたヤマクラマゴケ、ブコウマメザクラ、チチブミネバリなどがみられる。これらのすべてが好石灰岩性植物か否かは断定できないが、広域分布種中で石灰岩地に生え、形態上も特性を示す変種コバノクロウメモドキ（クロウメモドキ、以下括弧内は種）、ミョウギカラマツ（アキカラマツ）、ショウドシマベンケイソウ（ミツバベンケイソウ）などが産する地域においては、希少性の高い個々の分類群の保全はもちろんのこと、特異な植物が生育する石灰岩地そのものの保全が求められる。特に石灰岩の採掘跡地や休鉱区などの改変された場所も、これらの植物にとって新たに創出された生育地となる可能性に注目すべきであろう。



石灰岩地（あきる野市）

ツゲ

ミヤマモジズリ

西多摩や南多摩の山間部を中心に、前回リスト作成時も指摘したニホンジカ食害がさらに広範囲かつ顕著に進行していることが危惧される。食害の拡大は、冬季のニホンジカの重要な餌資源であるスズタケの、2000年代頃に始まる一斉開花と枯死も影響しているものと考えられるが、ニホンジカは不嗜好性とされるものの以外ほとんどの植物を採食するため、植物への影響は林床植物や草索性植物全般に対し脅威となっており、植生保全のための対策が急務となっている。

今回の改定では、シダ植物に関して「配偶体」も対象に含めたことは注目すべき点である。シダ植物には、孢子体（通常、シダ植物として見ているもの）と配偶体（小型でコケのようなもの）の2つの世代があり、これらが交互に世代交代している。ところが、通常のハート型ではなくリボン状の配偶体の中には、無性芽による栄養繁殖を活発に行い、配偶体世代だけで生育し続ける独立配偶体の存在が明らかにされ、近年、DNA情報により配偶体だけでも容易に種の同定ができるようになった。その結果、都内では孢子体の記録が無く、愛知県と岐阜県のみで生育が確認されている日本固有の絶滅危惧種、ミカワコケシノブとオオコケシノブの独立配偶体が西多摩の複数の谷で発見されたのである。これまでのシダのレッドリスト評価は孢子体のみを対象としてきたが、未調査地域も多く残され、配偶体が生育し続けているのであれば、今後、周辺域において孢子体が発見されることが期待されるため、情報不足（DD）のランクを適用したものである。



オオコケシノブ（孢子体）

オオコケシノブ（独立配偶体）

また、今回新たに見出されたイワヤナギシダ等は南方系の種であり、それらの都内における新産地がこれらの種の新たな北限となった。そのほか、新たにレッドリストに加えられたクルマシダ、ホンゴウソウ、ナツエビネなども暖地性植物としての傾向が強く、地球温暖化などの影響で、南方系の種がより北方に分布を拡大していることが垣間見えているのかもしれない。



イワヤナギシダ

本来、長期間に及ぶ分布動態を緻密に把握するためには、地域植物相を示す証拠標本などの資料を十分に調査する必要がある。日本国内におけるレッドリストの評価において、公的機関に収蔵された植物標本が根拠となるデータとして利用された例は未だ少なく、東京都もその例外ではない。そこで今回は、東京大学、東京都立大学、国立科学博物館、パルテノン多摩歴史ミュージアム等に蓄積されてきた分類学研究を目的に収集された標本の調査を一部の種、変種で試みた。一部とはいえ、これまで分布の動態が把握されていなかった区部を中心に相当数の産地、採集年月日、採集者名等が記入された標本が採取蓄積されており、動態調査上第一級の資料であることが判明した。次回以降の動態調査では、更に率先して博物館等に収蔵される標本の調査がなされることを期待したい。加えて、いまだ十分ではない東京都産植物標本の収集保管活動を広域的に展開し、標本のデータベース化を進めることが求められる。

●本土部レッドリスト 2020 の一部見直しについて

今回、本土部レッドリスト 2020 を受けた本土部レッドデータブック 2023 をまとめるに当たり、カテゴリーを一部変更し、それに基づくレッドリストと種別解説を掲載した。この見直しについては、本土部レッドデータブック 2023 の作成過程において、種別解説の中に分布図を入れることとし、上記に示した博物館等のデータを精査する過程で専門家よりカテゴリーランクを変更すべき種があることを確認した。152 種についてデータを確認し、80 種についてカテゴリーランクを変更した。その結果は P.837-838 に示すとおりである。いくつか例示すると、アケボノシュスランやベニシュスランは、北多摩では非分布であったが、2000 年以降に開花株が確認され、非分布、データなしから絶滅危惧 I A (CR) に変更した。カワラハハコやカワラヨモギは同じく北多摩で 2000 年以降に分布が確認されたが、河川敷での消長が激しい植物のため絶滅 (EX) から情報不足 (DD) に変更した。また、ヒロハノカワラサイコ、ウシタキノウ、コオニユリは、区部ではデータなしであったが、過去の標本が見つかったために絶滅 (EX) に変更した。

絶滅危惧種は、ランク (希少性) が高いものほど大切にされる傾向がある。しかし、最近の絶滅危惧種の遺伝的解析によれば、個体数が一桁または二桁レベルまで減少してしまった種は、遺伝的多様性が既に失われてしまっており、生存や繁殖上、不利となる劣性の遺伝子の影響を受け、もはや自然状態での自立的な個体群再生が困難となってしまった可能性が示唆されている。このような手遅れの状態にしないためにも、ランクの高さは保全の優先度の高さとは異なることを理解し、一定の個体群サイズを維持することの注意喚起が必要であろう。

今回の評価作業もこれまで同様、主に既存資料を用いた評価がなされたが、現地の情報については、主に植物愛好家や各種団体によって行われてきた自発的な小地域ごとの克明な植物相調査の結果や知見を参考にさせていただいた。ここに改めて謝意を表したい。

(大場 秀章)

引用文献

- 檜山庫三, 1953. 武蔵野植物記. 内田老鶴圃.
- 檜山庫三, 1965. 武蔵野の植物. 井上書店.
- 伊藤圭介, 1873. 日本産物志・武蔵部 (上・下巻). 文部省.
- 著者不明, 1888. 東京近郊植物採集地. 植物学雑誌, 2: 89-90, 119-120.

写真提供者

畔上能力、内山香、内野秀重、金光浩伸 (いであ株式会社)、田畑伊織、藤井良造、御手洗望、米岡克啓、(株)愛植物設計事務所

ヒメスギラン

Huperia miyoshiana

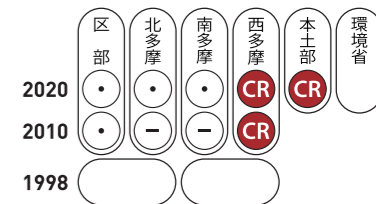
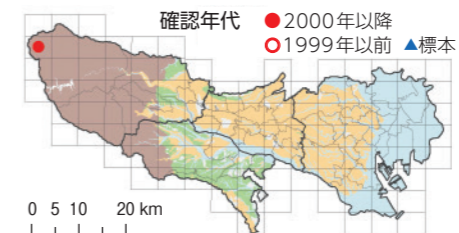
シダ植物
ヒカゲノカズラ科

■種の特性と生育状況: 北海道、本州、四国、九州、屋久島に自生する常緑性シダ。茎の基部は斜上し、分岐して直立茎を伸ばす。直立茎は5~20cm、頂部に芽体をつける。葉は針状披針形で全縁、基部から先端に向かって狭くなり、先はとがる。山地帯から亜高山帯の樹林下のやや日陰の湿った岩上に自生する。都内では西多摩の亜高山帯針葉樹林の林床に稀に生育する。

■生存を脅かす要因: 森林伐採、シカの食害、局所分布。生育地の環境変化、特に樹林内の乾燥化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項: 葉が幅広く、開出傾向が強いコスギランと酷似するが、本種は葉がやや薄く細長く、下部の葉が斜上する。

執筆者 田畑伊織
協力者 藤井良造
文献一覧 37, 55, 61



奥多摩町 2018年4月23日

コスギラン

Huperia selago

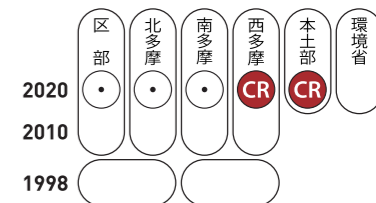
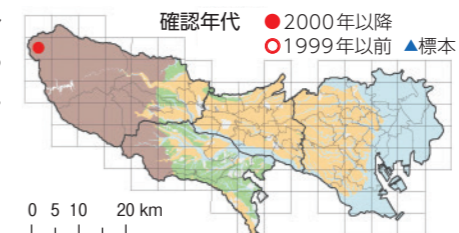
シダ植物
ヒカゲノカズラ科

■種の特性と生育状況: 北海道、本州 (石川県以東)、屋久島に自生する常緑性シダ。茎の基部は斜上し、分岐して直立茎を伸ばす。直立茎は5~10cm、頂部に芽体をつける。葉は線状披針形から狭披針形で全縁、下半分はほぼ同じ幅で上半分は次第に狭くなり、先はとがる。亜高山帯から高山帯の尾根筋などの明るい草地や岩上に自生する。都内では西多摩の高標高地に稀に生育する。

■生存を脅かす要因: 森林伐採、シカの食害、局所分布。生育地の環境変化、特に樹林内の乾燥化などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項: ヒメスギランと酷似しており、精査により本種も分布していることが明らかになったが、近年確認されていない。ヒメスギランは葉がやや薄く細長く、下部の葉が斜上するが、本種の葉は幅広く短めで、開出傾向が強い。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 55, 61, 132



奥多摩町 2010年5月10日

ヒカゲノカズラ

Lycopodium clavatum var. *nipponicum*

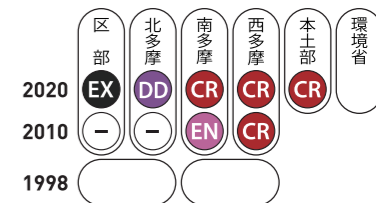
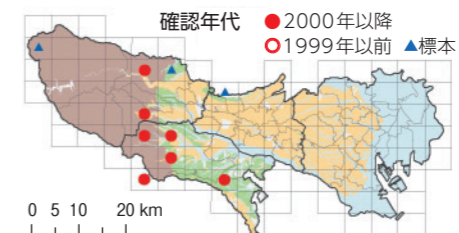
シダ植物
ヒカゲノカズラ科

■種の特性と生育状況: 北海道、本州、四国、九州、南西諸島 (奄美大島) に分布する常緑性シダ。匍匐茎は地表を長く這い、不規則に叉状分枝する。直立茎は1~数回分岐し、長さ4~7mmの線形の葉を密生する。胞子囊穂の柄は直立し3~6個の胞子囊穂をつける。日当たりの良い斜面草地、芝草地、裸地に生育する。南多摩や西多摩の丘陵から山地にかけて分布する。

■生存を脅かす要因: 人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化、局所分布。

■特記事項: 自生地を周辺環境と一体的に保全することや、草刈りなどの管理をすることが望ましい。

執筆者 御手洗望
文献一覧 4, 243



八王子市 2013年5月21日

マンネンスギ

Lycopodium obscurum

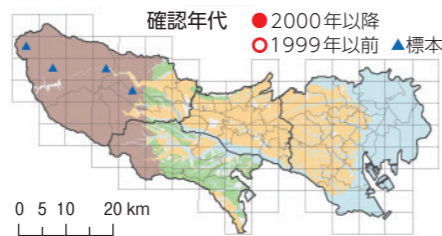
シダ植物
ヒカゲノカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性シダ。茎は地中を長く這い、まばらに分枝する。側枝は直立茎となり、上部は樹枝状に分枝し、高さ10～30cmとなる。葉は線形でやや硬く、直立茎では圧着し、枝部では開出する。孢子嚢穂は1本の側枝から数個の穂を頂生し、円柱形で長さ1～6cmとなる。南多摩や西多摩の山地にごく稀に分布し、樹林の地上、岩上に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、局所分布。

■ **特記事項**：南多摩・西多摩での少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 181, 243



2020	EX	DD	CR	CR	CR	CR	環境省
2010	-	-	EN	EN	-	-	
1998							



福井県 1988年7月6日

スギラン

Phlegmariurus cryptomerinum

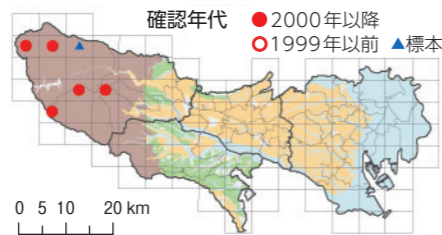
シダ植物
ヒカゲノカズラ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道（南部）、本州、四国、九州に自生する常緑性シダ。茎はまばらに又状分枝し斜上、ときに下向きに垂れる。茎は径3～5mm、わり色か緑色、大きいものは長さ30cmほどになる。葉は密に開出または斜上し、線状披針形から狭披針形で長さ1～2cm、緑色～深緑色、全縁、革質で中肋ははっきりしない。孢子葉は栄養葉よりやや小型で、孢子嚢は枝端近くにつき、孢子嚢穂といった形はとらない。都内では南多摩で近年確認されており、西多摩の山地沢沿いで空中湿度の高い樹上、稀に岩上に点在する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。生育環境は樹上や岩壁などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 55, 132, 243



2020	-	-	CR	CR	CR	VU	環境省
2010	-	-	VU	VU	-	-	
1998				A			



奥多摩町 2018年10月4日

エゾノヒメクラマゴケ

Selaginella helvetica

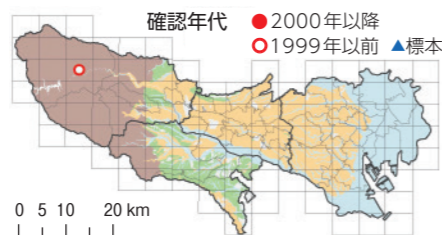
シダ植物
イワヒバ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（静岡、長野以北および滋賀、京都、鳥取）に分布する常緑性シダ。主茎は這い、しばしばマット状になる。葉は二形性でやや密につく。孢子葉のつく枝は高さ2～8cm、孢子嚢穂は見かけ上区別しがたい。西多摩の石灰岩露頭に生育したとされるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、局所分布。分布が局限されており、生育地の消失が絶滅の原因と考えられる。

■ **特記事項**：過去の記録の精査と、西多摩高標高地の石灰岩地帯での現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 121, 190



2020	•	•	•	EX	EX	EX	環境省
2010	•	•	•	EX	EX	-	
1998							



伊吹山 2017年8月3日

タチクラマゴケ

Selaginella nipponica

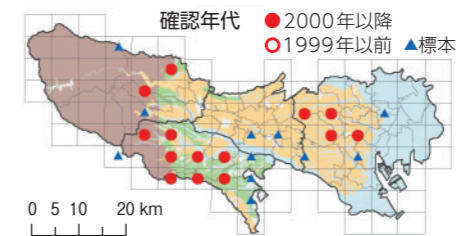
シダ植物
イワヒバ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性シダ。主茎は這い、しばしばマット状となる。葉はやや密につき、栄養葉は二形性で腹葉と背葉の形状が異なる。孢子嚢穂は直立するが、他の部分とほぼ同形。都内本土部の台地から丘陵、山地にかけての日当たりの良い芝草地、石垣の隙間、路傍に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：区部では庭園などに生育地が維持されており、草刈りなどの管理を行うことが望ましい。

執筆者 御手洗望
文献一覧 161, 243



2020	CR	DD	VU	VU	VU	VU	環境省
2010	CR	-	VU	VU	-	-	
1998			C	C			



八王子市 1987年7月9日

ヒモカズラ

Selaginella shakotanensis

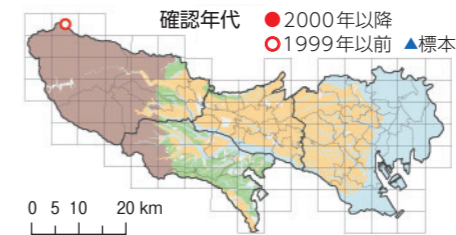
シダ植物
イワヒバ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北、京都、奈良、広島）に分布する常緑性シダ。茎は短く這い、重なり合ってマット状となる。葉の先端は鋭尖し、辺縁にはまばらに縁毛がある。孢子嚢穂は小枝に1個頂生し、四角柱状で長さ0.5～2.5cm、孢子葉は4列に並ぶ。西多摩の山地の湿った岩上などにごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：採取、局所分布。園芸目的の採取の対象となり、生存を脅かしている。

■ **特記事項**：西多摩でのごく少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170



2020	•	•	•	CR	CR	CR	環境省
2010	•	•	•	CR	CR	-	
1998							



福島県 1998年10月20日

ヤマクラマゴケ

Selaginella tamamontana

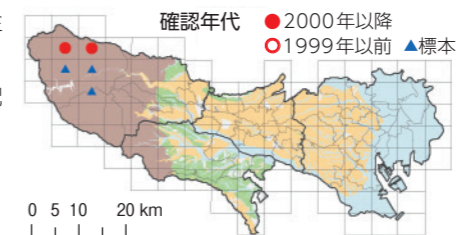
シダ植物
イワヒバ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東地方・紀伊半島）、四国（高知県）に自生する常緑性シダ。茎は這い、まばらに分枝、長さ5～10cm、幅は葉とともに3.5～5mm、マット状に広がる。葉は二形性、腹葉は卵形、鋭頭、鋸歯縁で長さ1.5～2.7mm、中肋は不明瞭、背葉は卵形、鋭尖頭で鋸歯縁、長さ1～1.5mm。孢子嚢穂は他の部分とはっきりした差がみられない。岩上に生育し石灰岩地によく見られるが、他の母岩にも生育する。都内では西多摩の石灰岩地に生育する。

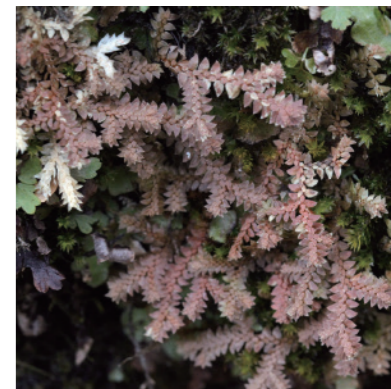
■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化や石灰採掘などによる生育地の破壊が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：奥多摩が基準産地で1978年に記載された。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 55



2020	•	•	•	VU	VU	VU	環境省
2010	•	•	•	NT	-	-	
1998				C			



奥多摩町

ミスニラ

Isoetes japonica

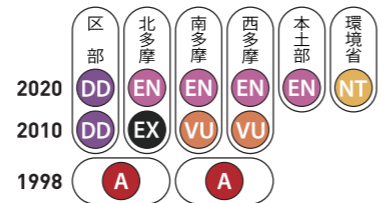
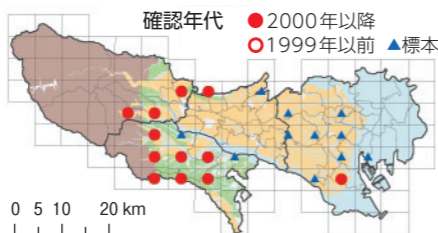
シダ植物
ミスニラ科

■ **種の特性と生育状況**：本州および四国に分布する沈水性または抽水性の夏緑性シダ植物。谷戸の休耕田や湿地、ため池の浅瀬などに生育する。直径2～3cmの塊茎から、長さ15～30cm程度の円柱状の葉を多数束生する。葉の基部は膨らみ、内側に孢子嚢が1個ずつ生じる。孢子は異形孢子性で、大孢子葉と小孢子葉は同一の株に生じる。かつては都内でも広範囲に分布していたが、近年、特に区部での生育記録は稀である。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、湧水の減少・枯渇、管理放棄、遷移進行・植生変化、農業汚染。湖沼や湿地の改変や消失、管理放棄に伴う植生遷移の進行、除草剤の使用、富栄養化などが主な減少要因であると考えられる。

■ **特記事項**：近年、ため池のかいぼりや復田等に伴う湿地の攪乱後に、本種の再生が確認される事例が散見される。再生後の生育地の保全はもとより、湿地の継続的な攪乱や除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 57, 60, 181



八王子市 1984年6月14日

イヌスギナ

Equisetum palustre

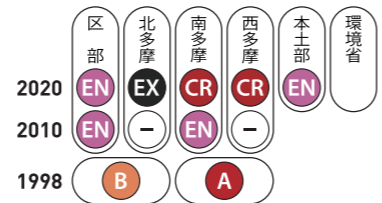
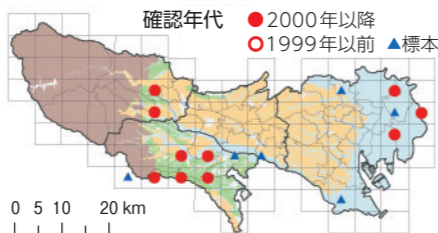
シダ植物
トクサ科

■ **種の特性と生育状況**：近畿地方以東の向陽湿地に生育する夏緑性シダ植物。地下茎は長く這い、休耕田、湿地、ため池や水路の水際草地などに群生する。茎は高さ20～60cmで、主軸に孢子嚢穂が頂生する。スギナと混生する例も多く、特に孢子嚢穂を付けない茎においてはスギナと酷似するが、主軸の葉鞘がより長いこと、下部の枝の最下の節間が主軸の葉鞘よりも短いことなどから判別できる。都内では、北多摩を除く平地～丘陵地にかけて局地的に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、湧水の減少・枯渇、管理放棄、遷移進行・植生変化、農業汚染。湖沼や湿地の改変や消失、管理放棄に伴う植生遷移の進行、除草剤の使用、富栄養化などが主な減少要因であると考えられる。また、本種の自生する湿地環境においては、セイタカアワダチソウやオオバクサ等、外来雑草の勢力拡大や乾燥化による影響も懸念される。

■ **特記事項**：工事に際して自生地の保全をすることや、湿地の定期的な攪乱と水量調整、湿地へ侵入した外来種の駆除、除草剤の使用を控えるなどの配慮を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 41, 181, 196



町田市 2010年6月1日 © 内野秀重

アカハナワラビ

Botrychium nipponicum

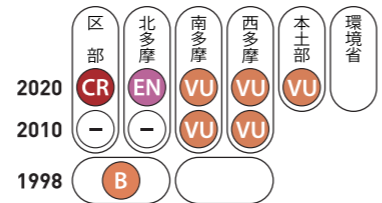
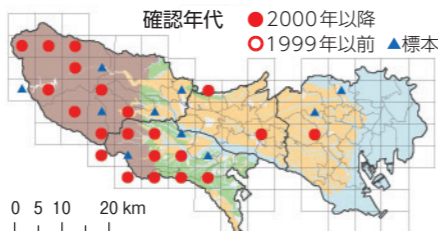
シダ植物
ハナヤスリ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の主に落葉樹林下に生育する冬緑性シダ植物。孢子葉は高さ20～30cmで直立し、冬期には枯れて倒れる。栄養葉は長い柄を持ち、小型のものは三出複葉、大型のものは3回羽状複葉となる。裂片の縁に不規則な鋭鋸歯があり、葉の表裏とも、冬期に著しく紅変する。また、葉脈に沿ってカスリ模様が見られるのも特徴である。都内では、多摩部の丘陵地から低山地にかけて疎らに分布するほか、区部でもわずかに現存が確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。特に冬期は、紅変した植物体が周囲の落ち葉に紛れて見落としたりしやすいため、林床管理作業や通行の際に気付かずダメージを与える恐れがある。

■ **特記事項**：保全にあたっては、個体へのマーキングやシカ保護柵の設置が有効である。南多摩では、従来確認されていなかった地点における新産地の発見が相次いでいる。分布量増加の傾向があるものの、生育環境を極力維持していくことが望ましい。なお、近縁のオオハナワラビも冬期に紅変することがあり、種間雑種群も含めて同定は慎重に行う必要がある。

執筆者 小林健人
文献一覧 57, 134, 181



八王子市 2017年12月29日

ナガホノナツノハナワラビ

Botrychium strictum

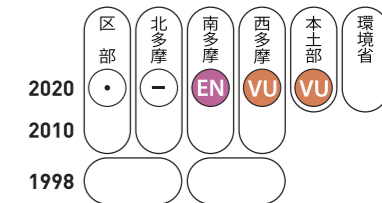
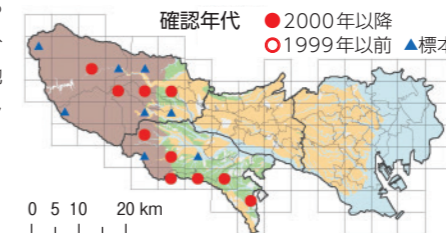
シダ植物
ハナヤスリ科

■ **種の特性と生育状況**：本州から九州の樹林下に生育する夏緑性シダ植物。高さは40～80cmになる。孢子葉は直立し、2回羽状に分岐する。孢子嚢を付けた羽片はほぼ同形同大で全て上向きに付く。栄養葉は3回羽状深裂し、小羽片は無柄、裂片は小羽軸に流れる。羽軸や葉軸などには白毛が疎らに生える。また、発生時期は、近縁のナツノハナワラビよりも1ヶ月ほど遅れる。都内では、南多摩および西多摩の丘陵地から低山地にかけて点的に分布し、比較的、山寄りの地域に多い傾向がある。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。主に西多摩においてはシカ食害の影響が大きいと考えられる。

■ **特記事項**：保全にあたっては、下草刈りなどの林床管理、個体へのマーキング、シカ保護柵の設置が有効である。近年、丘陵地の里山や都市公園等でも新産地が見つかった。分布量増加の傾向があるものの、新たに自生地が発見された際には、生育環境を極力維持していくことが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 4, 181, 243



八王子市 2017年7月23日

ナツノハナワラビ

Botrychium virginianum

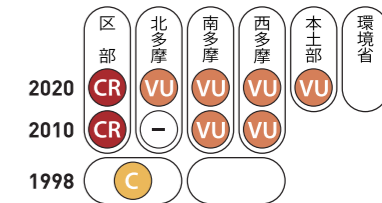
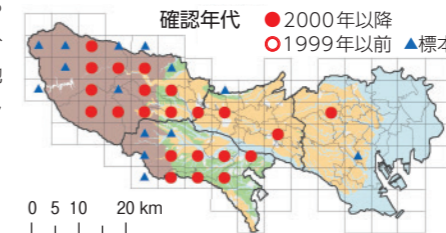
シダ植物
ハナヤスリ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の樹林下に生育する夏緑性シダ植物。高さは25～70cmになる。孢子葉は直立し、3～4回羽状に分岐する。孢子嚢を付けた羽片は卵状三角形となり、円錐花序のように見える。栄養葉は繊細で柔らかく、3～4回羽状に細裂し、下方の小羽片には明確な柄がある。羽軸や葉軸などはほぼ無毛。また、発生時期は、近縁のナガホノナツノハナワラビよりも1ヶ月ほど早い。都内では、多摩部の丘陵地から低山地に広く分布するが、多くはない。また、区部での記録はごく稀である。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、管理放棄、遷移進行・植生変化、シカの食害。主に西多摩においてはシカ食害の影響が大きいと考えられる。

■ **特記事項**：保全にあたっては、下草刈りなどの林床管理、個体へのマーキング、シカ保護柵の設置が有効である。近年、丘陵地の里山や都市公園等でも新産地が見つかった。分布量増加の傾向があるものの、新たに自生地が発見された際には、生育環境を極力維持していくことが望ましい。

執筆者 小林健人
文献一覧 57, 134, 181



町田市 2022年5月5日 © 内野秀重

コヒロハハナヤスリ

Ophioglossum petiolatum

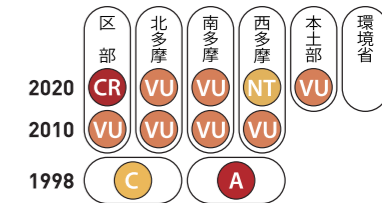
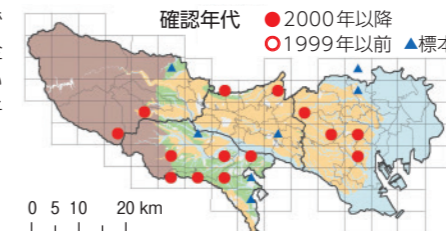
シダ植物
ハナヤスリ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州および南西諸島の林縁、芝草地、墓地、庭園等に生育する夏緑性シダ植物。都市部では、植栽樹やアスファルトの隙間にも生育が見られる。高さは8～25cmで、孢子葉は直立し、頂部にヤスリ状の孢子嚢を付ける。栄養葉は長い楕円形から広卵形で長さ1～6cm、基部は急に狭くなり、短い柄を持つ。粗い網状の葉脈があり、二次脈はほとんど発達しない。都内全域に分布し、南多摩以西では多産する地域もあるが、区部での記録はごく少ない。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、土地造成、人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。特に、宅地開発による自生地の消失や管理放棄による日照環境の変化が生存を脅かす主たる要因となっている。

■ **特記事項**：分布量自体は少なくないが、植物体が小型で目立たないため、多くの自生地で見逃されている可能性が高い。自生地の保全や低草草地の維持管理を行うことが望ましい一方、過度の草刈りによって伸長過程の孢子葉を傷つけないように注意が必要である。

執筆者 小林健人
文献一覧 57, 161, 181



府中市 2003年5月23日

ハマハナヤスリ

Ophioglossum thermale

シダ植物
ハナヤスリ科

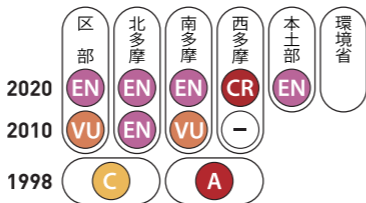
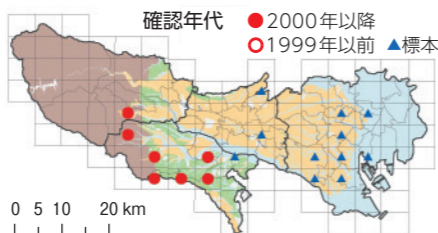
■ **種の特性と生育状況**：全国の海岸の砂地、湿性草地、芝草地、河原等に生育する夏緑性シダ植物。内陸でも、造成地や砂利敷の駐車場等において散発的に発生が認められる。高さは7～20cmで、胞子葉は直立し、頂部にヤスリ状の胞子嚢を付ける。栄養葉は線形から狭卵形、中央より上側で最大幅となり、長さ0.7～3cm。基部はゆるやかに狭くなり、無柄がごく短い柄を持つ。質は厚く、細かい網状の葉脈があり、二次脈はほとんど発達しない。都内では広範囲で記録されているが、コヒロハマハナヤスリと比較して産量はごく少ない。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、土地造成、人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。特に、護岸工事等による自生地の消失や遷移進行による生育環境の変化が生存を脅かす主たる要因となっている。

■ **特記事項**：自生地の保全や低茎草地の維持管理を行うことが望ましい。なお、本種に酷似して栄養葉の最大幅が基部寄りとなる「コハナヤスリ」と呼ばれる型は、従来、本種の変種として扱われてきたが、現在では本種とコヒロハマハナヤスリの種間雑種と推定されている。

執筆者 小林健人

文献一覧 57, 196, 243



あきる野市 2022年7月12日

ヒロハマハナヤスリ

Ophioglossum vulgatum

シダ植物
ハナヤスリ科

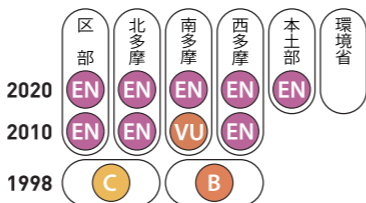
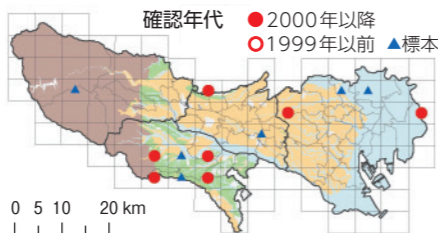
■ **種の特性と生育状況**：全国の樹林下、林縁、路傍、原野等に生育する夏緑性シダ植物。地上部の生育期間が短く、夏には枯れる生態的特性を持つ。高さは10～30cmで、胞子葉は直立し、頂部にヤスリ状の胞子嚢を付ける。栄養葉は広い披針形から広卵形で長さ6～12cm、基部は切形～心形となり胞子葉の柄を抱くものが多い。細かい網状の葉脈があり、二次脈はよく発達する。小型の個体では近縁のコヒロハマハナヤスリと区別が難しく、外見での判断に迷う場合には胞子形態の確認を要する。都内では各地から記録があるものの、現存が確認されている産地は非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、人の踏みつけ、管理放棄、遷移進行・植生変化。特に、谷戸の造成による自生地の消失や管理放棄による日照環境の変化が生存を脅かす主たる要因となっている。

■ **特記事項**：植物体が小型で目立たず、周囲の林床植物に紛れて見逃しやすい。また、発生から枯死までの期間が短いことも、発見をさらに難しくしていると推測される。自生地の保全や下草刈りなどの林床管理を行うことが望ましい。

執筆者 小林健人

文献一覧 82, 224, 265



日野市 2016年4月16日

マツバラン

Psilotum nudum

シダ植物
マツバラン科

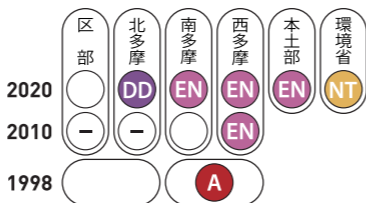
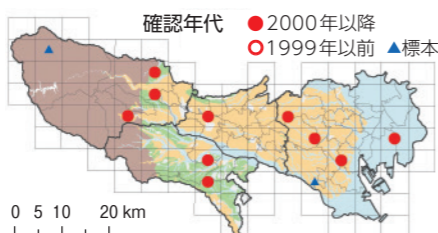
■ **種の特性と生育状況**：宮城県以南に分布する着生または地上性の常緑性シダ植物。樹幹や岩の隙間、樹林下の地上などに生育する。地上茎は二叉分枝を繰り返し、葉は痕跡的な突起状の構造のみを有する。胞子嚢群は3個の胞子嚢が癒合して単体胞子嚢群を形成する。都内での古い記録は極めて少ないが、近年は区部および多摩部の各所から生育が報告されている。特に自然度の高い丘陵地等に生育する個体群については、本来の自生であるかどうかの判断が難しい。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、園芸採取、自然災害。開発や自然災害に伴う岩壁の喪失および崩落のほか、園芸目的の採取などが主な減少要因であると考えられる。

■ **特記事項**：自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。なお、江戸時代より古典園芸植物として多くの園芸品種が栽培されてきたことから、都内における本種の生育記録の多くは、庭先や温室等の栽培品が逸出したものである可能性が高い。

執筆者 小林健人

文献一覧 28, 181, 265



町田市 2021年12月22日

オニゼンマイ

Osmunda claytoniana

シダ植物
ゼンマイ科

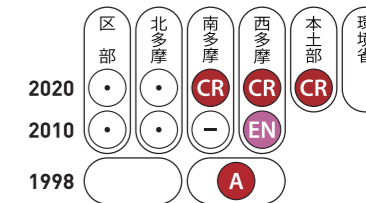
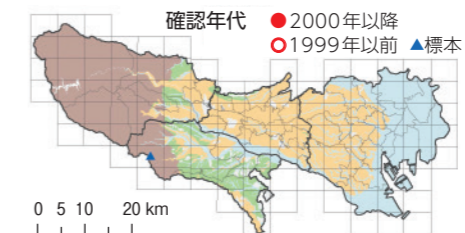
■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部、関東北部、中部）に分布する。夏緑性シダ。根茎は斜上し、葉は見かけ上叢生し、2回羽状深裂。葉は二形性で、栄養葉は狭長楕円形で長さ30～40cm、胞子葉は約1/3ほどに収縮して全面に胞子嚢をつける。南多摩や西多摩の山地の湿潤な林床に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：南多摩・西多摩での少数の記録があるが、90年代で既に生育状況が不明とされており、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 79, 181, 243



山梨県 1993年7月12日

ヤシャゼンマイ

Osmunda lancea

シダ植物
ゼンマイ科

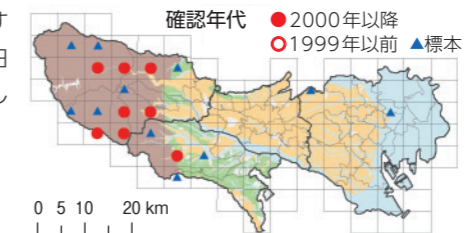
■ **種の特性と生育状況**：北海道（南部）、本州、四国、九州（東部）に自生する夏緑性シダ。根茎は直立または斜上する。葉は二形性で叢生する。栄養葉は2回羽状複葉で長さ20～45cm、幅15～30cm、卵状楕円形、葉質はやや厚く、羽片、小羽片は中軸、羽軸と約50°の角度で交わる。小羽片は狭披針形、長さ3～6cm、先端、基部ともに鋭尖形、左右相称。胞子葉は4月に展開し、小羽片は線形、幅2～4mm、胞子嚢を密生する。山地の渓流沿いの岩上に生育し、都内では南多摩及び西多摩の多摩川水系渓流沿いに生育している。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発。生育環境が渓流沿いの岩上であり、渓谷の観光利用などによる植生の破壊が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■ **特記事項**：集中豪雨などで増水すれば冠水する場所に生育する典型的な渓流沿い植物。日本の渓流環境に適応してゼンマイから分化したと推定される日本固有種。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 132, 243



あきる野市 1985年5月9日

ヤマドリゼンマイ

Osmundastrum cinnamomeum var. *fokiense*

シダ植物
ゼンマイ科

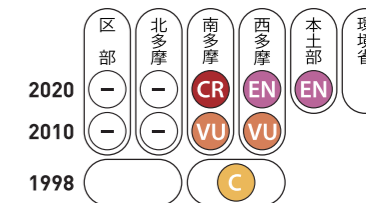
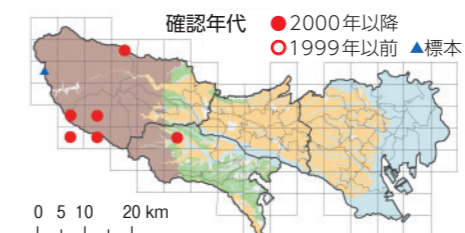
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する夏緑性シダ。根茎は短く這い、葉は密に出て2回羽状深裂。若芽は赤褐色の綿毛に包まれる。葉は二形性で、栄養葉は長さ30～80cm、胞子葉は栄養葉より低く、裏面全体に胞子嚢がつく。胞子散布後、胞子葉は赤褐色となり、やがて夏までに枯れる。南多摩や西多摩の山地の湿原や湿潤な林床にしばしば群生する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：南多摩では湿原の樹林化などにより、ごく稀となっている。西多摩では小規模な群生地が点在するが、ニホンジカの食害による影響が懸念される。

執筆者 御手洗望

文献一覧 181, 243



檜原村 2021年5月14日

アオホラゴケ

Crepidomanes latealatum

シダ植物
コケシノブ科

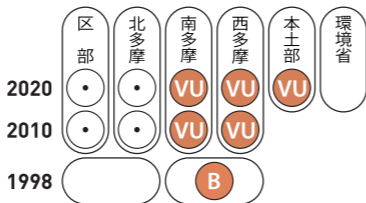
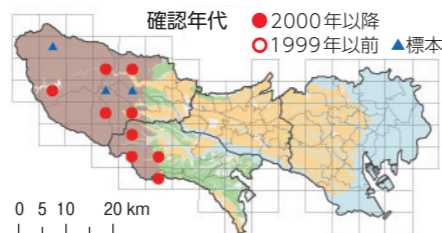
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島に自生する常緑性シダ。根茎は長く這い、黒色の毛を密生する。葉柄は長さ1～2cm、翼がある。葉身は2～3回羽状複葉、卵状長楕円形から三角状楕円形など、普通長さ2～5cm、幅1.5～2.5cm、変異に富む。短い偽脈がある。孢子嚢群は裂片に単生し、包膜は基部鐘形で上半部は唇状となる。山地渓谷の湿った岩上やコケのついた樹幹に生育する。都内では南多摩・西多摩の低山に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、基質・基物の減少および消失。樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 243



八王子市 1992年1月9日

チチブホラゴケ

Crepidomanes schmidtianum

シダ植物
コケシノブ科

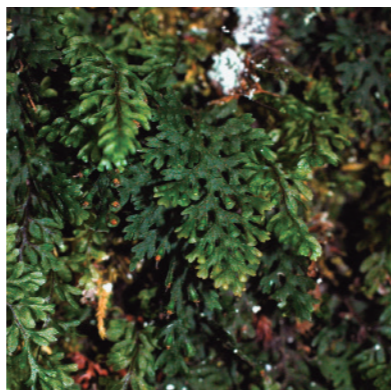
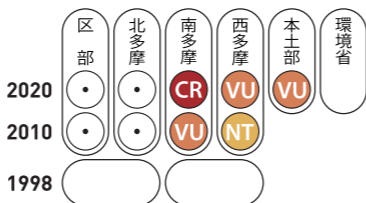
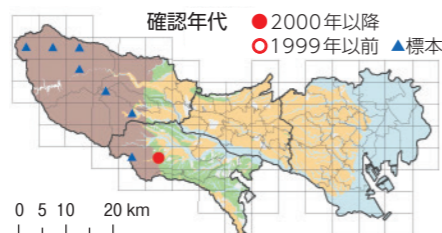
■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部から紀伊半島）、四国、九州に分布する常緑性シダ。根茎は長く這い、褐色の毛を密生する。葉身は2回羽状深裂、長さ2～7cm、裂片は隣接する片と重なり合うことが多い。葉は暗緑色、乾くと褐色になる。孢子嚢群は基部近くの短い羽片に頂生し、包膜はコップ状で唇部は反転する。南多摩や西多摩の山地の陰湿な岩上に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、基質・基物の減少及び消失、局所分布。

■ **特記事項**：樹林内の乾燥化の進行や、大雨により崖崩れが多発することの影響が懸念される。

執筆者 御手洗望

文献一覧 4, 243



埼玉県 2008年7月

オオコケシノブ

Hymenophyllum badium

シダ植物
コケシノブ科

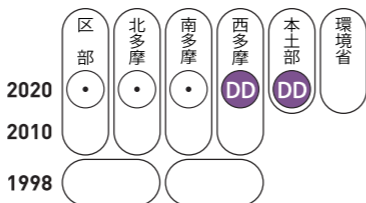
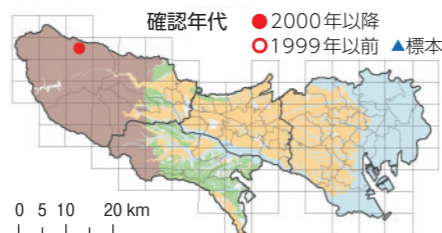
■ **種の特性と生育状況**：本州南部（伊豆半島以西）、四国、九州に分布する常緑性シダ。根茎は長く這い、しばしば群生する。葉身は長さ6～20cm、2～3回羽状複葉で、葉柄に翼がある。孢子嚢群は頂生し、包膜は二弁状で基部近くまで裂ける。陰湿な樹林の岩上や樹幹上に生育する。近年、西多摩の山地で独立配偶体が発見されたが、既知の生育地は極めて限られている。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、局所分布。

■ **特記事項**：配偶体が存続していくことができれば孢子体の発生の可能性がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 37, 55, 318



三重県 2020年8月8日

ミカワコケシノブ

Hymenophyllum mikawanum

シダ植物
コケシノブ科

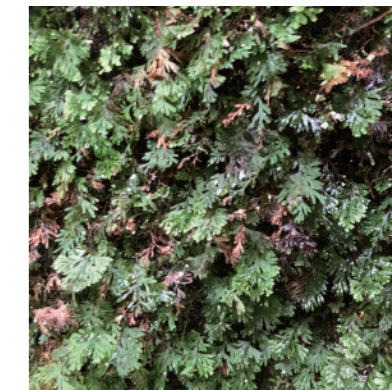
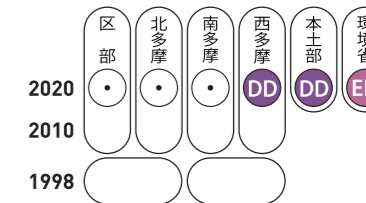
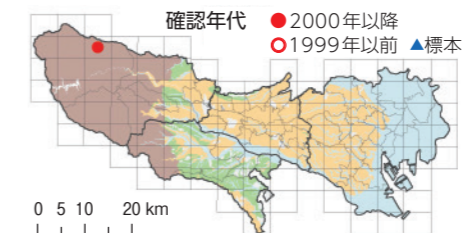
■ **種の特性と生育状況**：本州中部地方に分布する常緑性シダ。ホソバコケシノブに類似するが、頂生する孢子嚢の包膜の片縁に欠刻状の著しい歯牙があることで識別される。陰湿な樹林の岩上に生育する。近年、西多摩の山地で独立配偶体が発見されたが、既知の生育地は極めて限られている。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、局所分布。

■ **特記事項**：配偶体が存続していくことができれば孢子体の発生の可能性がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 37, 55, 182, 318



2020年6月27日

コケシノブ

Hymenophyllum wrightii

シダ植物
コケシノブ科

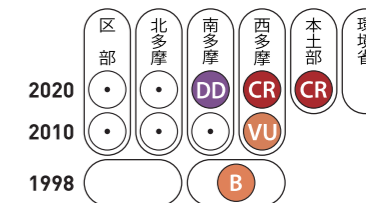
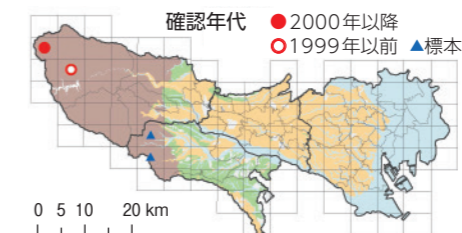
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性シダ。基物にマット状に着生することが多い。葉柄に翼はなく、葉身は2～3回羽状に分岐し、長さ3～5cm。裂片は軸に対して鋭角に30～45°の角度につく。孢子嚢群は裂片に頂生し、包膜は二弁状で基部近くまで裂け三角状卵形。岩上や樹上に着生し、西多摩の高標高の山地にごく稀。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：南多摩では過去の記録があるのみで、現状を把握する必要がある。樹林内の乾燥化の進行や、大雨により崖崩れが多発することの影響が懸念される。

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 243



奥多摩町 2019年5月11日

コハイホラゴケ

Vandenboschia × stenosphon

シダ植物
コケシノブ科

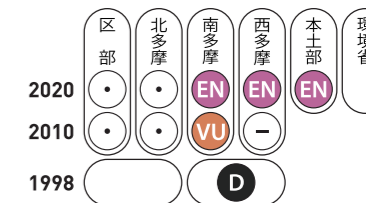
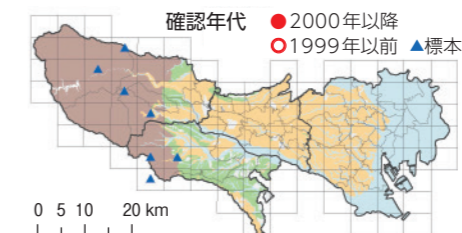
■ **種の特性と生育状況**：ハイホラゴケとヒメハイホラゴケの雑種。北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性シダ。根茎は長く這う。ハイホラゴケより小型。ヒメハイホラゴケと比較して、葉面が一平面に並び、葉は鮮緑色に近く、葉軸の翼は比較的幅広い。陰湿な森林下で、川沿いの岩上や溪流沿いの砂上に生育する。南多摩、西多摩の丘陵地から山地に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：ヒメハイホラゴケは東京都RDB2013版で評価対象とされたが、標本から本土部のヒメハイホラゴケの記録は本種であることが確認された。本種は雑種であるが、ヒメハイホラゴケに替わりに本種を評価することにした。

執筆者 御手洗望

文献一覧 37, 55



富山県 2005年9月23日

コシダ

Dicranopteris linearis

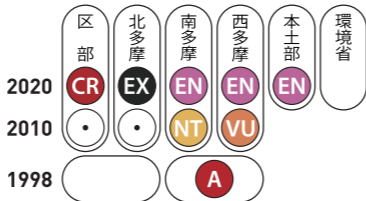
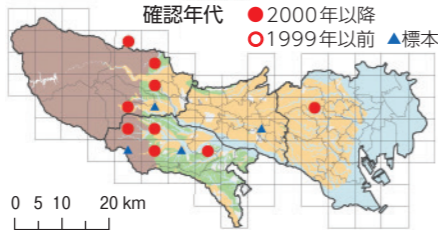
シダ植物
ウラボシ科

■ **種の特性と生育状況**：東北南部以南の本州、四国、九州、南西諸島の暖温帯域から亜熱帯に分布する常緑性シダ。軸は一对の裂片（最下の一对は羽片、それ以外は小羽片）を展開しながら、分枝する。裂片は単羽状深裂。地上部はすべて葉で、数年間伸び続け、生育の良いものは全長2mを超える。区部、北多摩の広域、および西多摩の台地域まで分布する黒ボク土の立地では少なく、主にローム質の立地に分布する。南多摩、西多摩に分布し、区部にも少数が現存する。一方、北多摩では檜山（1965）に深大寺の自生地が上がっているが、近年確認されていない。

■ **生存を脅かす要因**：各種の開発による山林の伐採、土地造成である。また、その保全の際に移植が極めて困難な種と知られる。

■ **特記事項**：移植が困難な種であるが、後述のウラボシ科の移植の要領で行えば、いい結果が出やすい。西日本では真砂土などの立地に群生するが、群生地でも孢子囊群の付いた葉は少なく、主に栄養生殖により繁殖する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 158, 238, 243, 270, 351



八王子市 1999年12月19日

ウラボシ

Diplazium glaucum

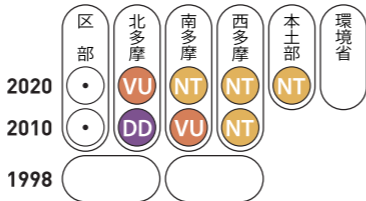
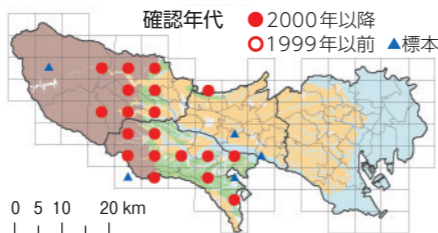
シダ植物
ウラボシ科

■ **種の特性と生育状況**：東北南部以南の本州、四国、九州、南西諸島の暖温帯域から亜熱帯に分布する常緑性シダ。葉は2回羽状深裂で地上部はすべて葉である。葉の先端は未展葉の新芽であり、概ね1年に羽片1対分伸び、全長で2mを超える。区内では、低地、台地から丘陵部の黒ボク土の分布域で少なく、ローム層の生育立地を好むと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：直接の脅威となる要因は各種開発、土地造成、山林の改変であるが、保全の際に移植が極めて困難な種と知られる。

■ **特記事項**：本種の移植の場合、自生地と同じ土質の移植先を選び、移植株は地下茎周囲の土を多めにつけて掘り採る。また、土の付いた地下茎に水をかけながら移植先に運び、短時間で植え付けを行う。このような方法で移植の活着に好結果の出た例がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 158, 352



日の出町 1987年1月3日

デンジソウ

Marsilea quadrifolia

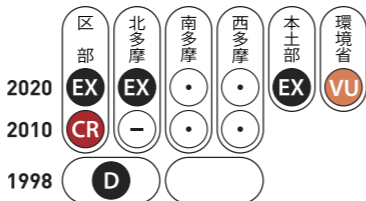
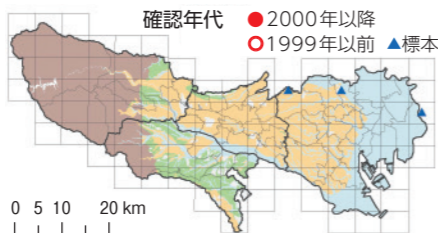
シダ植物
デンジソウ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の水田、池沼、河川・水路などに生育する夏緑性、多年生の水生シダ植物で、生活型は浮葉～抽水性、ときに湿生。根茎は地中をはい、4枚の小葉からなる葉をのばし、夏から秋にかけて葉柄基部に孢子囊果をつける。区部においては北区、葛飾区、江戸川区などに自生地があり、北多摩でも三鷹市などに自生していた記録がある。しかし、数少ない記録や標本から、1900年代に入ってまもなく姿を消したことが推測される。

■ **生存を脅かす要因**：生育する水域の水質汚濁、耕地整理による水田環境の変化、農業の使用、また、開発造成による自生地破壊などが複合的に作用し、絶滅を助長したものと考えられる。

■ **特記事項**：小岩村における1912年の記録以後、赤羽1924.10.27採集者不明、武蔵大泉（練馬区）1942.6.21牧野富太郎などの標本が都立大学牧野標本館に収められている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 157, 181, 290, 294



神奈川県 1997年8月22日

オオアカウキクサ

Azolla japonica

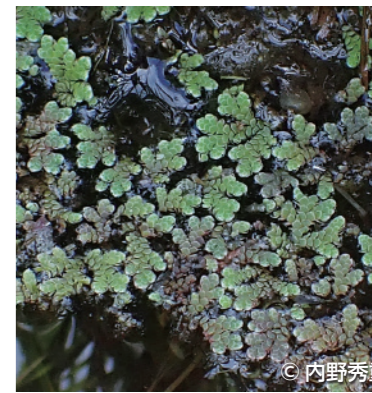
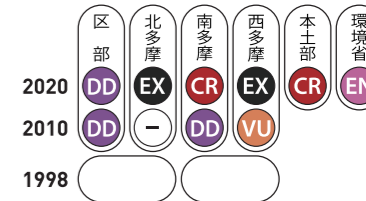
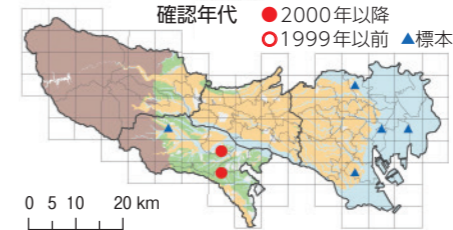
シダ植物
アカウキクサ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の湧水性の水田や用水路などに生育する多年生のシダで浮遊植物。茎は羽状に分岐し鱗片状の葉を密につける。植物体は秋冬に赤変するが夏には緑白色となる。アカウキクサに似るが根毛が早期に脱落する特徴がある。都内全域に産したが、北多摩及び西多摩では消滅、区部や南多摩でも、外来アゾラの進出により現状の確認が困難となり、危機的な状況となっている。

■ **生存を脅かす要因**：水田耕作停止や乾田化、農業使用により激減したうえに、酷似する外来アゾラ類の進出が自生地に壊滅的な被害を与えている。

■ **特記事項**：酷似するアイオオアカウキクサをはじめとする外来アゾラ類との識別が難しいことが、本種保全上の大きなネックとなっている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 181, 289, 290, 294, 322



町田市 2021年7月11日

サンショウモ

Salvinia natans

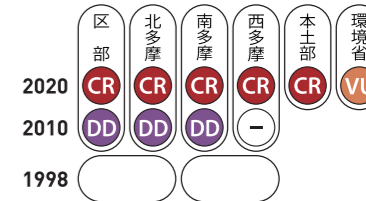
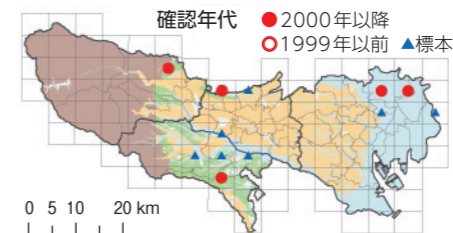
シダ植物
サンショウモ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西の池沼や水田などに生育する一年生の浮遊植物。茎に輪生する葉は3枚あり、2枚が水面に浮かび1枚は根のように細裂して水中に垂れ下がる。秋に沈水葉の基部に大小2形の孢子囊を形成し、これが泥中に沈んで越冬する。区内では、区部（葛飾区、北区、江戸川区など）では散発的な発生が記録されているが現状不明。また、北多摩と西多摩にそれぞれ一か所の自生地が残されているが、南多摩（町田市）も近年の発生確認ができない状況にあり、全体的に危機的な状況にある。

■ **生存を脅かす要因**：農業の使用、耕作地の改良による生育環境の変化に加え、都市化による水田環境の著しい消失が、本種衰退の最大の要因である。

■ **特記事項**：上記の衰退要因に加え、外来生物による捕食、異常な降雨出水等による流亡など、本種の生存を妨げる要因は今日さらに多様化しており、残存する自生環境における積極的な保護対策が急がれる。

執筆者 内野秀重
文献一覧 95, 181, 270, 294, 295, 300



青梅市 2014年8月5日

オオキジノオ

Plagiogyria euphlebia

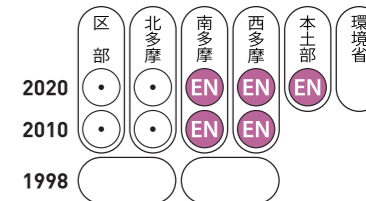
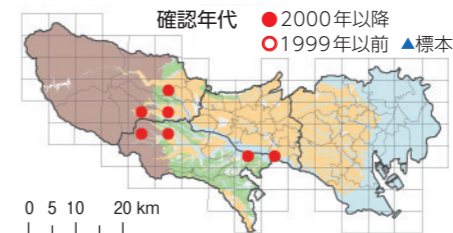
シダ植物
キジノオシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、北陸以南）、四国、九州の暖温帯に分布する中型の常緑性シダ。単羽状全縁の葉身で、羽片は線状楕円形、いくぶん尾状に延びた鋭頭。全縁で線状楕円形の独立した頂羽片を持つ。革質の葉質で、葉柄に鱗片がない。葉軸の断面は三角状楕円形から楕円形で、稜がない。南多摩、西多摩に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：本来、生育地が局限されている種である。生育立地への様々な改変、現状変更が生存を脅かす。山林の改変や管理の放棄、林道管理やその際の改変（不適切な管理）、生育地への踏圧が加わることによる生育立地の乾燥化などが考えられる。また、山地域に分布する個体はシカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：関東地方では、主に関東山地や三浦半島、房総半島など、古東京湾の範囲から外れた場所に分布が知られている。また、確認した南多摩の自生地は、丘陵地の斜面上部で関東ローム質の立地に生育していた。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 354



八王子市 2021年3月11日

キジノオシダ

Plagiogyria japonica

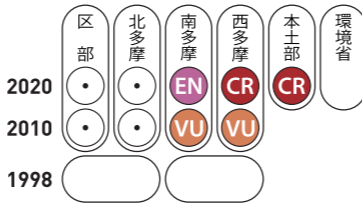
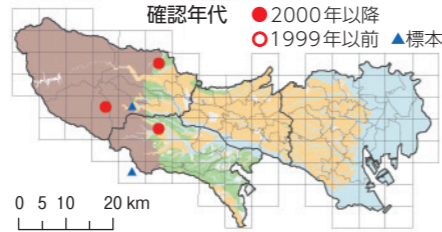
シダ植物
キジノオシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以南）、四国、九州、南西諸島の主に暖温帯に分布する中型の常緑性シダ。単羽状全縁の葉身で、頂羽片の基部は最も上の羽片の基部に流れる。革質の葉で、葉柄には鱗片がない。葉軸の断面は楕円形で、稜がある。南多摩から西多摩に稀産する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の改変。不適切な立地の管理による生育地の乾燥、個体へのダメージが考えられる。山地域に分布する個体は、シカやその他の動物による食害が危惧される。

■ **特記事項**：南多摩では、流れに沿った樹林内に生育し、岩隙、苔むした岩盤上、土壌の薄い立地にも生育していた。近年の探索で、青梅市で規模の大きい自生地が見つかったほか、八王子市でも複数の自生地が確認されている。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 354



青梅市 2022年3月30日

ホラシノブ

Odontosoria chinensis

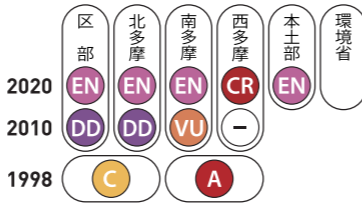
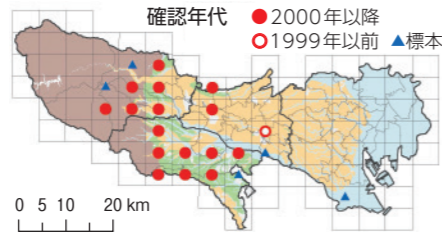
シダ植物
ホングウシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以南）、四国、九州、南西諸島、小笠原諸島の暖温帯から亜熱帯に分布する小型から中型の常緑性シダ。3～4回羽状で葉身は三角状長楕円形。地下茎は短く這い、葉を密につける。西多摩、南多摩を中心に、主に丘陵部の関東ローム質の法面や崖地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：非舗装の道路法面や崖地に生育することが多く、宅地開発などによる土地の造成、道路の改修、法面の舗装、道路法面の管理放棄による高茎草本からの被圧がある。

■ **特記事項**：区部では、大田区池上の古い標本が都立大学牧野標本館にあり、世田谷区野川の崖線には現存するという。北多摩でも、檜山（1965）に調布市神代の記録があり、東大和市などに現存するという。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 158, 212, 213, 270, 366



稲城市 2014年11月5日

コバノイシカグマ

Dennstaedtia scabra

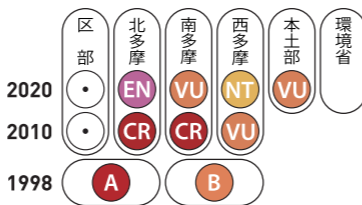
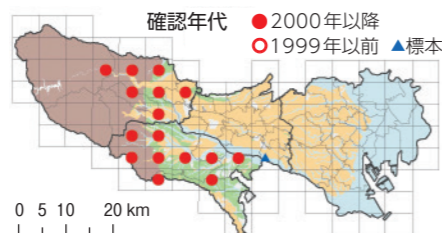
シダ植物
コバノイシカグマ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以西）、四国、九州の暖温帯に分布する常緑性シダ。葉身は3回羽状で紙質、両面毛がありざらつく。葉は主に30cm～1m。毛の量には変異がある。西多摩、南多摩では主にスギ植林に出現し、北多摩は公園などの都市林に残っていると考えられる。2013年版の調査時に比べて、丘陵部で確認地点が増加した。

■ **生存を脅かす要因**：主に、開発などによる山林の伐採、土地造成である。また、生育地のスギ植林での、不適切な管理で個体が傷められる危険もある。山地域に生育する個体は、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：褐色森林土の分布域に多く、黒褐色で腐植質の多い土質を好むようである。生育立地も、表層に腐植質がたまりやすい緩傾斜地に多い。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 120, 135



青梅市 2019年12月21日

フモトカグマ

Microlepia pseudostrigosa

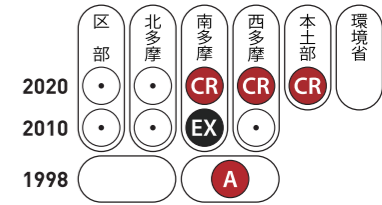
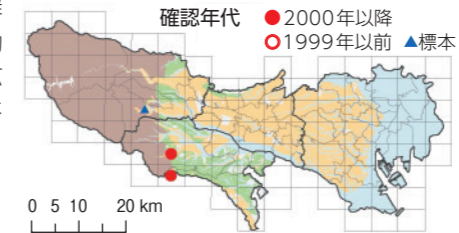
シダ植物
コバノイシカグマ科

■ **種の特性と生育状況**：房総半島から知多半島までの太平洋側の暖温帯域に分布し、特に海岸近くの常緑広葉樹林域に生育する常緑性シダ。東京都本土部では南多摩、西多摩の沢筋近くのスギ植林で散発的に見られる。同じ属のクジャクフモトシダに似るが、小羽片の切れ込みがやや深く、羽片の先がクジャクフモトシダほど長く伸びない。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が少なく、分布域が上記の本州太平洋岸に限られる。また、山林の改変や自生地での不適切な管理も、生存を脅かす要因と言える。確認された自生地は、主にスギ植林なので、スギ林の枝打ち、間伐の過程で、打ち払った枝などの下敷きになり、消滅する危険もある。

■ **特記事項**：本種は中国、ベトナムにも分布するという。しかし、中国産には包膜に毛がなく、日本産は包膜が有毛である。また、中国産は孢子囊群が辺縁に付くが、日本産は孢子囊群が辺縁よりもやや内側に付き、両者に形質的な差異が認められる。このように、本種の広域分布には再検討の余地があり、その分布はより狭いことも考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 346, 349, 366



八王子市 2015年2月22日

フジシダ

Monachosorum maximowiczii

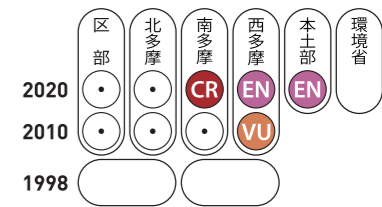
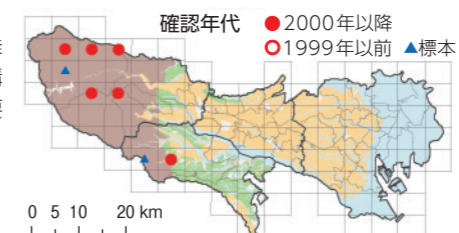
シダ植物
コバノイシカグマ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州の主に冷温帯から暖温帯上部に分布する常緑性のシダ。葉は主に20～40cmと小型。単羽状浅裂で、羽片に鈍い耳垂がある。葉の先端に無性芽が付く、群生することがある。中間温帯林やスギ植林で空中湿度が高く、岩や礫の多い立地の岩隙、岩上などに生育する。西多摩、南多摩の沢沿いの空中湿度が高い立地に生育する。南多摩では、礫が多く苔むした立地に生育していた。

■ **生存を脅かす要因**：一般的には山林の伐採である。また、生育地のスギ植林における枝打ち、間伐の際に、個体を傷める危険もある（不適切な管理による個体数の減少）。山地域に生育することから、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：本種は暖温帯上部から冷温帯に垂直分布域を持ち、九州から関東を貫く中央構造線に沿って分布する襲速紀（ソハヤキ）要素の分布型を示す植物である。

執筆者 宮崎卓 協力者 池田博
文献一覧 117, 168, 173, 297



檜原村 2022年8月10日

ヒメミズワラビ

Ceratopteris gaudichaudii var. *vulgaris*

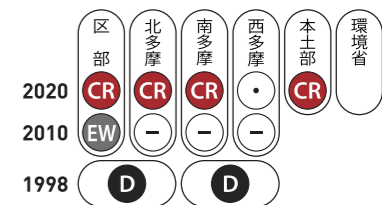
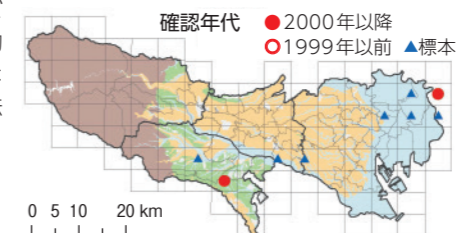
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以南）、四国、九州、南西諸島に分布する水生のシダ。日本では主に一年草、国外の熱帯域では多年草である。葉は主に10～40cm、葉は水気の多い柔らかな草質で黄緑色。2回羽状の円錐状楕円形。生育地は区部（荒川水系）、南多摩（鶴見川水系）、北多摩（多摩川水系）で確認されているが、個体数は非常に少ない。

■ **生存を脅かす要因**：生育立地である水田の転用や放棄（長期の休耕を含む）、水湿地の埋め立て、土地造成である。また、一年草であること、生育立地が水田、水湿地、川べりなど人為、自然の攪乱を受けやすい不安定立地であることから、個体数が非常に変動しやすい。

■ **特記事項**：本種の移植保全には、一年草である点が難点になる。しかし、冬季に温室などで育てれば多年草になり、孢子の採取を目的とした長期の栽培も可能となる。このような個体から孢子を採り移植地に播種する増殖法も今後は検討されてもよいと思う。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 55, 117, 348



町田市 2020年9月24日

ヒメウラジロ

Cheilanthes argentea

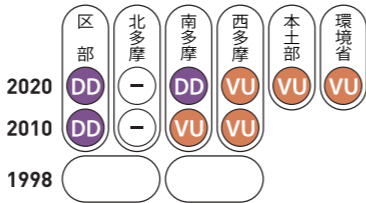
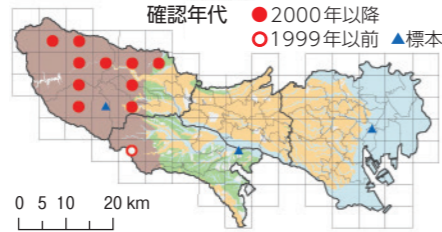
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：分布域は本州、四国、九州、南西諸島の冷温帯域から亜熱帯に及ぶが、関東山地、山陽地方、四国、九州中北部に偏在した分布をしている。小型の常緑性シダで、葉身は卵状五角形。裏面は粉白色。主に、南多摩、西多摩の石灰岩などの露岩地の岩隙、古い石垣や玉石作りの壁面に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：観賞用の乱獲や露岩地を含む山林への改変や土地造成が考えられる。その他に、建物や道路の壁面、石垣に生育していた場合は、道路の改修や建物の改築（生育立地への不適切な管理）により、生育地が消滅してしまうことがある。

■ **特記事項**：道路の改修や建物の改築による個体の消滅は、建物や道路の管理者、所有者への啓発活動により、多くの場合が回避されると考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 168



奥多摩町 1997年6月29日

ミヤマウラジロ

Cheilanthes brandtii

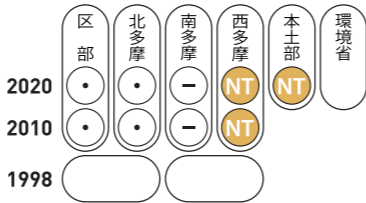
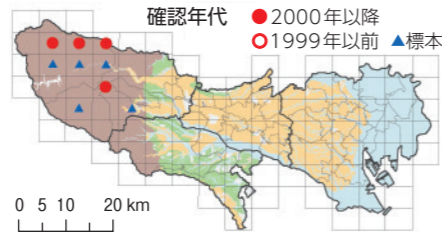
シダ植物
ウラジロ科

■ **種の特性と生育状況**：主に関東山地域（栃木、群馬、埼玉、東京、神奈川、山梨、長野）に分布する夏緑性のシダ。葉は30～50cm、2回羽状浅～深裂。葉表は淡緑色で、葉裏は銀白色。軸は針金状で細い。露岩の岩上、岩隙に生育し、西多摩では主に石灰岩の露頭に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が少ない局所分布の種である。採石事業や不適切な管理（道路縁の露岩などに生えた場合）が本要因である。小型のシダで岩上、岩隙に集まって生育するため、生育立地そのものが天災により流失、崩落することも危惧される。分布がシカの生息域と重なるためにその食害が危惧される。

■ **特記事項**：石灰岩との結びつきが考えられるシダであり、西多摩の石灰岩地では、個体数の多い生育地もある。しかし、このような生育立地が特定の岩石に結びつく植物は、簡単に激減してしまうおそれもある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 99, 117, 173



奥多摩町 2003年5月29日

イワウラジロ

Cheilanthes krameri

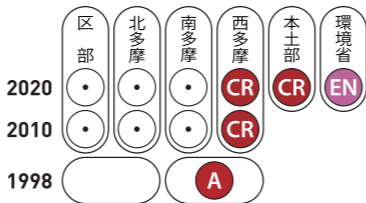
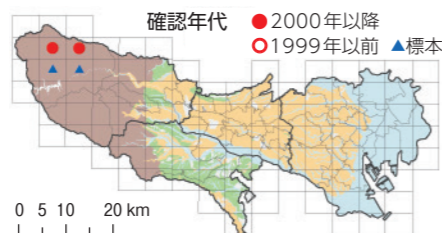
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：関東山地域（群馬、埼玉、東京）に分布する夏緑性のシダ。関東山地の石灰岩地に分布が知られる。葉は10～30cm、矢耳小羽片を持つ2回羽状葉。葉表は暗い深緑色で、葉裏は銀白色。軸は針金状で細い。西多摩の限られた石灰岩地の岩隙に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布の少ない局所分布の種である。岩壁に生育するため、豪雨などの自然災害による崩落で、個体数が激減する可能性もある。好石灰岩植物であり、過去には生育地が石灰岩の採掘により失われた可能性もある。また、シカの食害を受ける危険もある。

■ **特記事項**：本種の分布は生育立地の母材である石灰岩の分布に大きく左右されている。国内では、関東地方の非常に狭い範囲にのみ分布する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 55, 117, 173



奥多摩町 2001年10月5日

シシラン

Haplopteris flexuosa

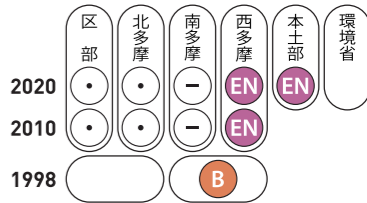
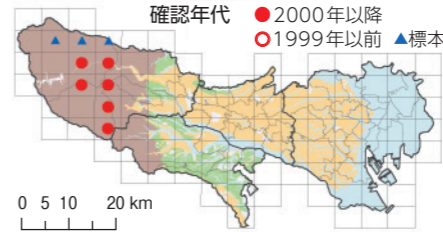
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島の冷温帯から暖温帯、亜熱帯域に分布し、特に湿潤な沢筋や雲霧のかけやすい尾根筋の樹幹、岩上に生育する常緑性の着生シダ。葉身は線形で単葉。幅は概ね5mm以下。長さは良く育ったものでは50cm前後に達する。西多摩で数か所確認されている。その確認地は全て山地域で、垂直的には暖温帯上部にあたる。

■ **生存を脅かす要因**：生育地の樹木の伐採により林内に日光が入ることによる乾燥化、伐採による着生立地そのものの消失である。また、近年の温暖化により、広範囲での乾燥化が進むことも、生育には不適な要因である。

■ **特記事項**：降水量の多い西南日本の太平洋側では、急峻地形なら海岸近くでも、霧の発生頻度が高い常緑林内に本種が出現する。しかし、東京都の低地は平坦で、もともと本種の生育には乾燥しすぎている。そのため、本種の分布が雲霧の出現頻度の高い、山地域に限られるとも考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 120, 168



奥多摩町 1997年6月29日

ナカミシシラン

Haplopteris fudzinoi

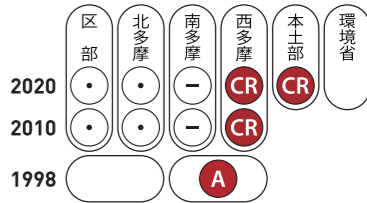
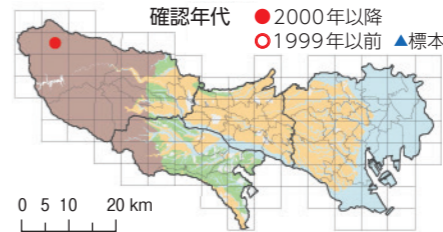
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州の主に冷温帯から暖温帯上部に分布する常緑性のシダ。特に湿潤な沢筋や雲霧のかけやすい尾根筋の樹幹、岩上に生育する。葉身は線形で単葉。幅は概ね5mm以下。シシランに似るが中肋部分が突出し、肉厚の感じを受ける。長さは良く育ったものでは50cm前後に達する。西多摩高所の石灰岩地に稀産する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が非常に少ない。本種の生育地は国立公園内であるため、森林伐採を受けることはないが、一般的には森林伐採とそれによる林内の乾燥、着生する基質の消失が本要因である。また、近年の温暖化により、雲霧の発生する垂直帯が狭くなることも該当する。

■ **特記事項**：生育には、シシランよりもより高い空中湿度を必要とする。全国的にも、シシランが雲霧の発生頻度が比較的低い、沿海地の暖温帯林域まで分布するのに対し、本種は雲霧のかかる頻度がより高い、中間温帯林や山岳地の冷温帯林に生育する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 114, 120, 173



奥多摩町

マツサカシダ

Pteris nipponica

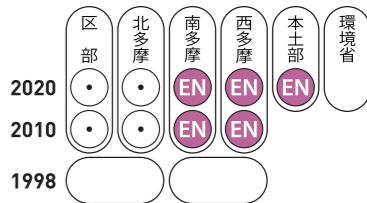
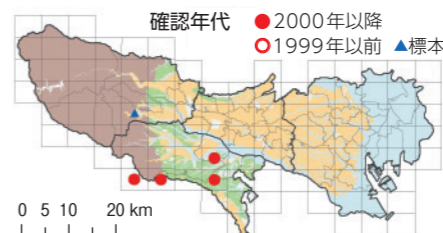
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（宮城県、関東以西）、四国、九州、南西諸島の暖温帯から亜熱帯に分布する中型の常緑性シダ。オオバノイノモトソウに似ているが、オオバノイノモトソウに比べて、側羽片、頂羽片ともに先端が詰まってくる。また、葉縁の鋸歯もオオバノイノモトソウに比べて粗い。葉面に白斑があるが、白斑は不明瞭なものもある。東京都では、南多摩のスギ林床に単発的に生じることがあり、西多摩にも記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：自生地である山林の改変が、主な要因である。スギ植林に生育する場合は、管理道の建設や林内への重機の乗り入れなどの不適切な管理（＝本種の生育に不適切）により、個体自体がダメージを受ける可能性もある。また、山地に分布する個体はシカなどの動物の食害も危惧される。さらに、非常に少ないため、数年に一度の低温や豪雨による、個体数の激減も危惧される。

■ **特記事項**：かつて、本種はオオバノイノモトソウの変種 *P. cretica* var. *albolineata* にあてられていた。現在、*P. cretica* var. *albolineata* は観賞植物として流通しているが、もし逸出すれば本種と誤認するおそれもある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 55, 117, 189



町田市 2022年2月3日 © 内野秀重

アマクサシダ

Pteris semipinnata

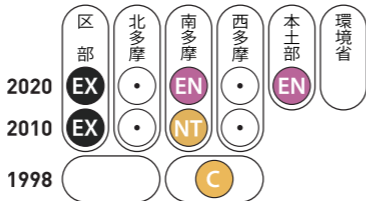
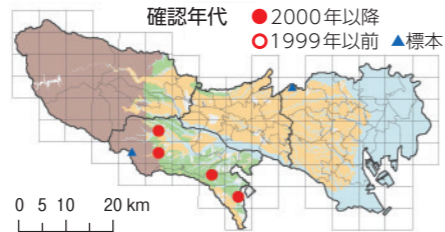
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以南）、四国、九州、南西諸島の暖温帯から亜熱帯に分布する小〜中型の常緑性シダ。葉身は矢耳小羽片があるため2回羽状全縁である。単羽状全裂の頂羽片を持つ。葉質は光沢のある薄い革質。南多摩の丘陵地から低山地に分布し、スギ植林内や斜面中上部のやや明るい林内に生育する

■ **生存を脅かす要因**：開発とそれによる土地造成、森林伐採を含む山林の改変。スギ植林に生育する場合は、管理道の建設や林内への重機の乗り入れなどの不適切な管理（本種の生育に不適切）である。

■ **特記事項**：関東では、主に房総半島、銚子付近、湘南地域などに分布し、その分布には温度要因が強く働いていると考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 119, 158, 243



八王子市 2021年7月16日

オオバノアマクサシダ

Pteris terminalis var. *fauriei*

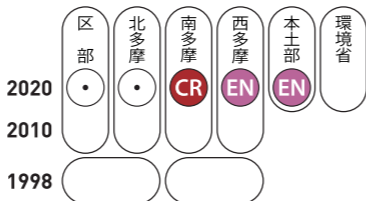
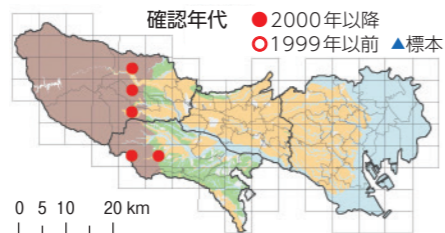
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以南）、四国、九州の暖温帯に分布する中〜大型の常緑性シダ。本変種は、オオバノハチジョウシダの種の中の2倍体、3倍体の無配生殖型、それに羽片の背側のみに小羽片を持つ型をまとめたものである。南多摩、西多摩では、主に沢筋のスギ植林に生育するが、時には谷戸の水路の傍にも生育する。自生地での観察では、群生することは少ない。

■ **生存を脅かす要因**：開発とそれに伴う土地造成、森林伐採を含む山林の改変。スギ植林に生育することが多いことから、植林の管理放棄による林内の荒廃や、本種の生育に不適切な樹林の管理が考えられる。また、主に山地域に分布することから、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：本変種には、羽片の背側のみに側小裂片を持つ型（従来オオバノアマクサシダとされた型）と羽片の両側に側小裂片を持つ型が存在する。後者は基準変種オオバノハチジョウシダに似るが、頂小裂片がどの側小裂片よりも長いことが、基準変種との識別点となる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 55, 231



あきる野市 2019年1月26日

オオバノハチジョウシダ

Pteris terminalis var. *terminalis*

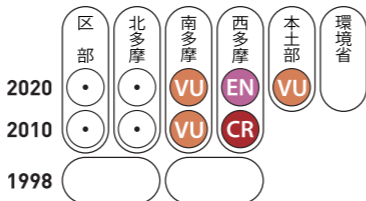
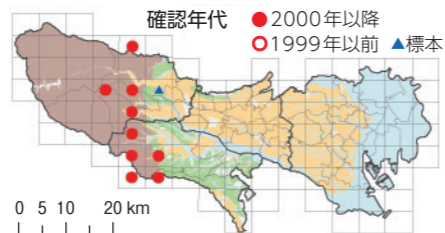
シダ植物
イノモトソウ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（秋田、宮城以南）、四国、九州の主に暖温帯域に分布する大型の常緑性シダ。「以前オオバノハチジョウシダにまとめていた種」の2倍体有性生殖型である。南多摩や西多摩の湿った沢筋、土壌の安定した斜面下部のスギ植林地などに生育する。高尾山の6号路沿いの沢には1mを超える葉を展開した本種の群生が見られる。

■ **生存を脅かす要因**：開発とそれに伴う土地造成、森林伐採を含む山林の改変。スギ植林に生育することが多いことから、植林の管理放棄による林内の荒廃や、本種の生育に不適切な樹林の管理が考えられる。また、主に山地に分布することから、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：本変種は、オオバノアマクサシダの羽片の両側に小裂片を持つ型に似るが、本変種の頂小裂片が側小裂片よりも短いことに対し、オオバノアマクサシダは頂小裂片がどの側小裂片よりも長い。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 55



あきる野市 2019年3月27日

ウスヒメワラビ

Acystopteris japonica

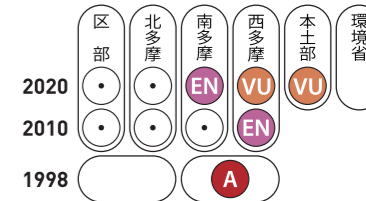
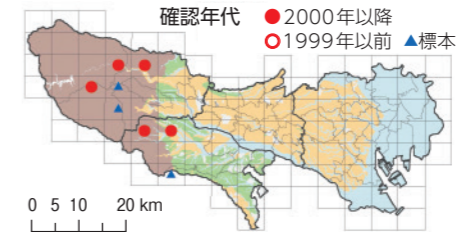
シダ植物
ナヨシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以南）、四国、九州に分布する夏緑性シダ。根茎は短く這う。葉柄や中軸は紫褐色で光沢があり、まばらに鱗片がつく。葉身は3回羽状複生、葉質は軟らかく薄い草質で、全体に白色多細胞の軟毛がある。西多摩の山地や南多摩の低山地の陰湿地に生育する。岩上や岩壁下の岩屑の堆積物にしばしば群生する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、道路建設、温暖化や異常気象災害。

■ **特記事項**：林道沿いの岩壁にも生育することから道路建設等では留意する必要がある。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243



青梅市 2020年1月17日

ヤマヒメワラビ

Cystopteris sudetica

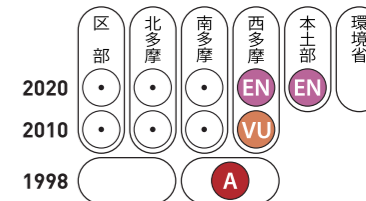
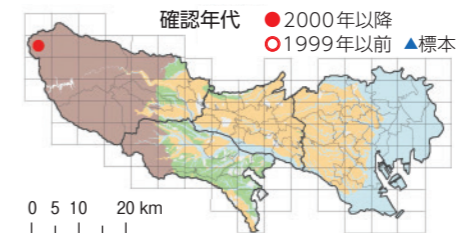
シダ植物
ナヨシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（福島南部、埼玉、中部）に分布する夏緑性シダ。根茎は長く這い、下部に黒褐色の鱗片をまばらにつける。葉身は長さ10〜20cm。羽片、小羽片には短い柄があり、裂片の縁に微鋸歯がある。包膜には小腺毛がある。西多摩の山地上部の腐植土が厚い林床にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害、局所分布。

■ **特記事項**：西多摩の亜高山帯にごく少数の生育記録があるが、ニホンジカの食害による影響が懸念される。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 181



埼玉県 2008年7月

ウサギシダ

Gymnocarpium dryopteris

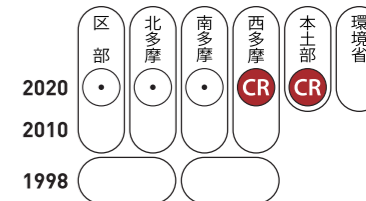
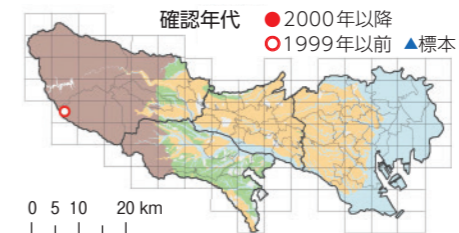
シダ植物
ナヨシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（岐阜県以東）に分布する夏緑性シダ。根茎は長く這う。葉身は長さ15〜22cm、3回羽状複生で3出葉状に見える。西多摩の山地の林床にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布。

■ **特記事項**：西多摩では過去に記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 37, 152



山梨県 2013年9月7日

エビラシダ

Gymnocarpium oyamense

シダ植物
ナヨシダ科

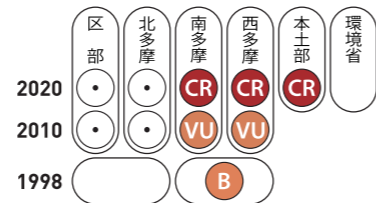
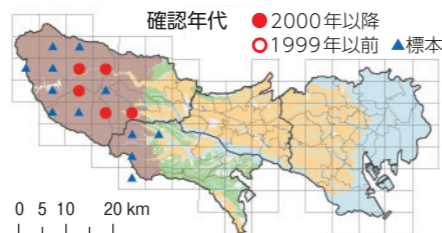
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東から近畿）、四国に分布する夏緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は細く、長さ12～25cm。葉身は葉柄に約120°の角度でつく。葉身は三角状卵形、鋭頭、単羽状深裂、長さ10～20cm。山地の溪流の陰湿な林床、岩上、岩壁に生育する。南多摩では西部山地の植林地の林床や溪流沿いの岩上にごく少数生育する。西多摩では山地の溪流沿いの斜面地や岩上に少数生育する。

■ **生存を脅かす要因**：温暖化や異常気象災害、基質・基物の減少及び消失。

■ **特記事項**：南多摩ではごく稀で、消失した生育地もあり、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 243



奥多摩町 2019年6月5日

イワウサギシダ

Gymnocarpium robertianum

シダ植物
ナヨシダ科

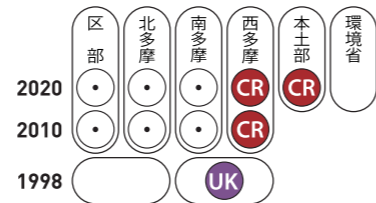
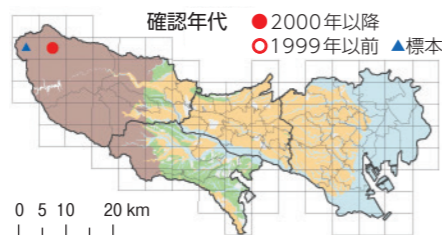
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（奈良県以東）、四国に自生する夏緑性シダ。根茎は長く這う。鱗片は淡赤褐色、膜質。葉柄は長さ5～20cm、細くて毛い。全面に無柄の腺毛がある。葉身は三角状長卵形、鋭尖頭、大型のものでは長さ30cmになる。最下羽片は最大であり、有柄でやや不斉の三角状長楕円形となる。第2羽片も有柄となる。葉質は草質、淡緑色、孢子囊群は裂片の辺縁近くにつき、ほぼ円形。蛇紋岩地帯や石灰岩地の山地の樹林内や岩地に生育する。都内では西多摩の石灰岩地に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現在の生育地の周辺が採石現場となっており、危機的な状況である。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 205



奥多摩町 2019年9月1日

ヒメイワトラノオ

Asplenium capillipes

シダ植物
チャセンシダ科

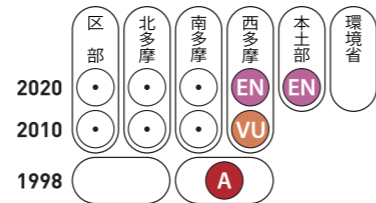
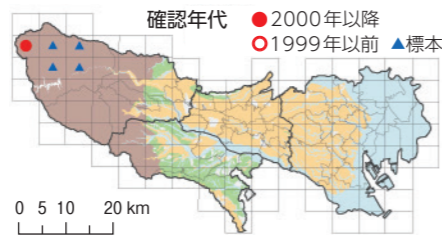
■ **種の特性と生育状況**：北海道（釧路・日高）、本州（秋田県以南）、四国、九州（熊本）に自生する常緑性シダ。イワトラノオに似るが、葉は開出して地に接し、小型で長さ3～10cm、葉柄と葉身はほぼ同長。裂片は幅広い。中軸に無性芽が出る。栄養葉と孢子葉の差はほとんどない。山地の樹林内の湿った石灰岩上に稀に生育する。都内では西多摩の石灰岩地に稀に生育する。他の母岩でも見られることがある。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化や石灰採掘などによる生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 132



奥多摩町 2020年6月3日

トキワトラノオ

Asplenium pekinense

シダ植物
チャセンシダ科

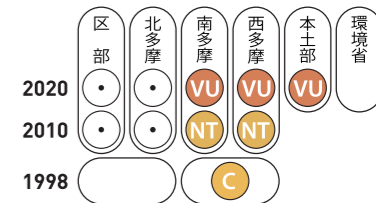
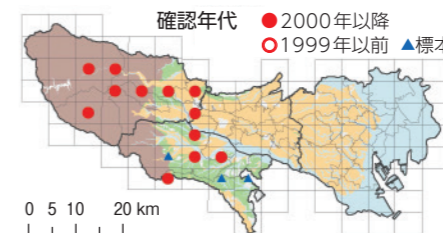
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東西部以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性のシダ。葉身は広披針形、鋭頭、長さ10～20cm、葉面は光沢のある深緑色で、葉質はやや厚い。形態が似たコバノヒノキシダと混生し、しばしば雑種を生ずることがある。路傍の岩上や石垣などに着生する。南多摩や西多摩の丘陵から山地にかけて分布し、市街地でも見られる。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成、道路建設、微小生育・生息環境の減少。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 8, 243



羽村市 2007年10月23日

オクタマシダ

Asplenium pseudowilfordii

シダ植物
チャセンシダ科

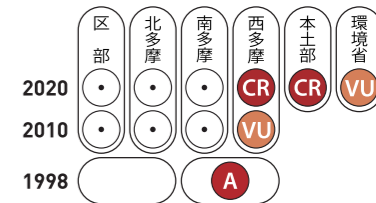
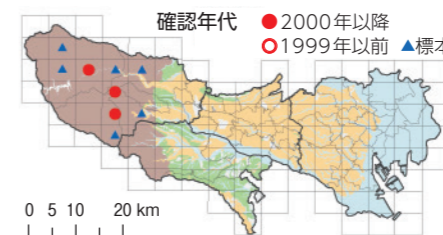
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島以西）、四国に自生する常緑性シダ。根茎は短く葉を叢生する。葉身は2～3回羽状複生で、アオガネシダにやや似るが、切れ込みは浅く、広披針形から狭い五角形、鋭尖頭で、葉身の幅はほぼ平行的で基部は細くならない。葉質はやや厚く、孢子囊群はやや長く、5mmに達する。山地の陰湿な岩上や樹幹に着生する。都内では西多摩の低山の岩壁に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、シカの食害、基質・基物の減少および消失、局所分布。現在確認されている生育地は渓谷沿いの岸壁が多く、自生地の崩落や生育地の環境変化が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。また一部シカの食害、人為的な採取によるものも見られる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 132



奥多摩町 2020年3月31日

クモノスシダ

Asplenium ruprechtii

シダ植物
チャセンシダ科

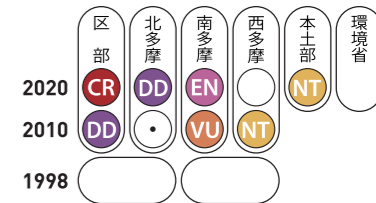
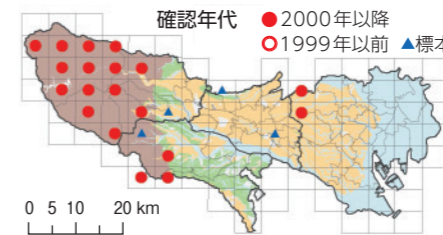
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性のシダ。葉は長さ2～20cm、切れ込みがない単葉で、全縁かやや波状、先端はつる状に伸び、先端近くに芽を出す。主に丘陵から山地の岩上や石垣に着生する。西多摩では石灰岩地を中心に広くみられるが、区部・北多摩・南多摩では稀である。

■ **生存を脅かす要因**：土地造成、道路建設、微小生育・生息環境の減少。

■ **特記事項**：市街地においては、庭石や石垣に付随して移入されたものとの区別が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 168, 181, 243



奥多摩町 2019年10月7日

イチョウシダ

Asplenium ruta-muraria

シダ植物
チャセンシダ科

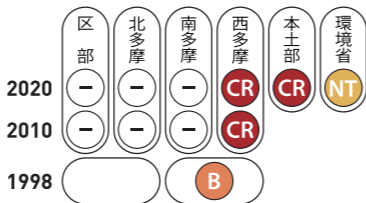
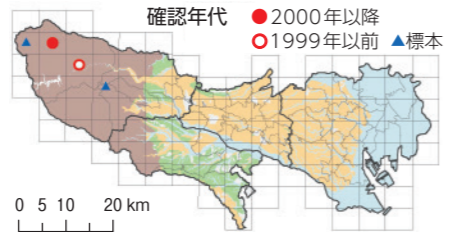
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の石灰岩地に点々と自生する常緑性シダ。葉は2回羽状分岐し、長さ2～7cm、幅1～3.5cm、裂片は菱形または倒卵形で、ほぼ左右相称、基部はくさび形で、イチョウの葉形に似ている。葉質は厚く、やや硬い。孢子嚢群は長さ1～3mm、数個が裂片中央に集まる傾向がある。林中またはやや裸出した石灰岩の岩陰に生育する。都内では奥多摩の山地の石灰岩地に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：石灰採掘、採取、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境が石灰岩地などの特殊な立地にあり、自生地の崩落や山林の改変による生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 205



奥多摩町 1989年8月

コタニワタリ

Asplenium scolopendrium

シダ植物
チャセンシダ科

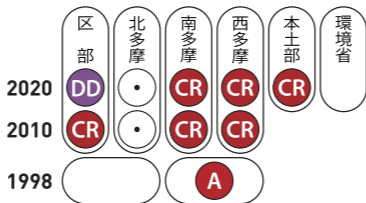
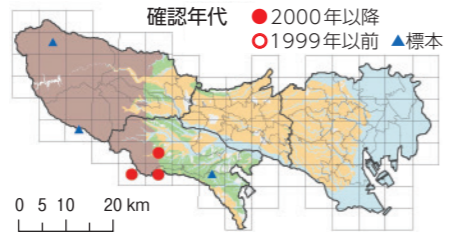
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性のシダ。根茎は短く、葉を叢生する。葉身は長さ12～50cm、切れ込みのない単葉で、披針形、先端は鋭頭で基部は心形で両側が耳状となる。丘陵から山地の陰湿な樹林内に生育する。区部では陰湿な石垣に、南多摩・西多摩では陰湿な林床にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、土地造成、採取。園芸目的の採取の対象となり、生存を脅かしている。

■ **特記事項**：南多摩では丘陵地の自生個体は消滅し、山地にわずかに現存するのみである。西多摩では近年の確実な生育情報がなく、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 170, 196, 243



八王子市 1978年7月2日

アオガネシダ

Asplenium wilfordii

シダ植物
チャセンシダ科

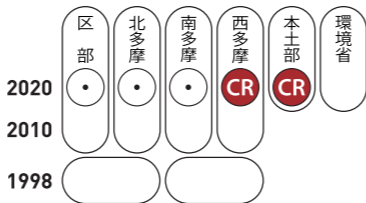
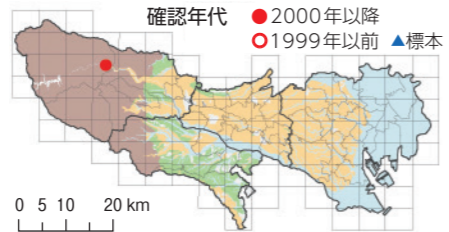
■ **種の特性と生育状況**：本州（伊豆諸島・関東地方以西）、四国、九州、琉球の暖地に自生する常緑性シダ。根茎は短く、葉を叢生する。葉柄は長さ10～25cm。基部に密に鱗片がある。葉身は広披針形から狭楕円形、2～4回羽状複生で長さ10～35cm、幅5～7cm。羽片には柄があり8～10対。裂片はくさび型。葉質はかたい。孢子嚢群は線形から長楕円形で長さ1～3mm。暖地林内の岩上や樹幹に着生する。都内本土部では、西多摩に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：基質・基物の減少および消失。現在確認されている生育地が渓谷沿いの岸壁であり、自生地の崩落や生育地の環境変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：埼玉県では近年の確認がないようで、本地域は分布の北限に近い。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 136



青梅市 2020年3月31日

クルマシダ

Asplenium wrightii

シダ植物
チャセンシダ科

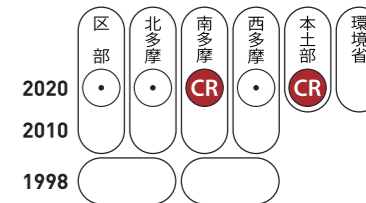
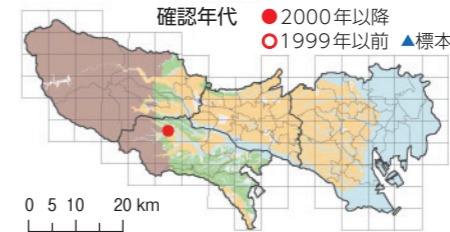
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州、南西諸島（沖縄本島以北）に分布する常緑性シダ。伊豆半島以西の太平洋側に分布するとされていたが、近年関東地方で確認例が報告されるようになった。根茎は短く、ほぼ直立。葉はやや厚く、濃緑色で光沢がある。葉身は長さ30～80cm、単羽状で、羽片は15～20対。南多摩では八王子市で発見され、丘陵の樹林内に少数が生育する。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 37, 243



八王子市 2015年12月1日

トキワシダ

Asplenium yoshinagae

シダ植物
チャセンシダ科

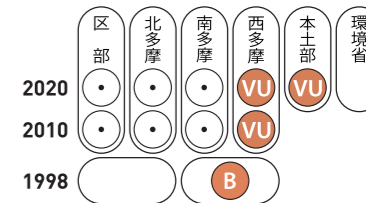
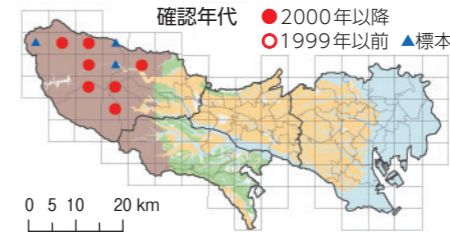
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・東海・紀伊半島）、四国、九州に自生する常緑性のシダ。根茎は短く、黒褐色の鱗片が密生する。葉柄は長さ15cm前後。葉身は披針形、鋭頭、1回羽状、長さ約20cm、幅5cm。羽片は12～25対、短柄があり、ゆがんだ菱形で、鋭頭。基部前側はやや耳形、後ろ側はくさび形で羽状に浅裂から深裂し鈍鋸歯がある。中軸上に無性芽がつくことがある。葉質は厚く、深緑色。孢子嚢群は中肋に沿って2列に長く斜上し、長さ3～7mm。山地の樹林内の陰湿なコケむした岩上などに生育する。都内では西多摩の湿潤な岩壁に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、基質・基物の減少および消失。自生地の崩落や樹林内の乾燥化による生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 55, 209



檜原村 2020年3月16日

イワヤシダ

Diplazopsis cavalieriana

シダ植物
イワヤシダ科

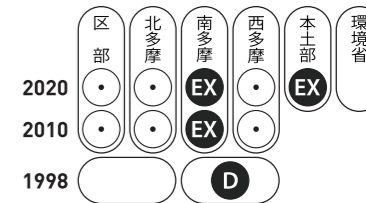
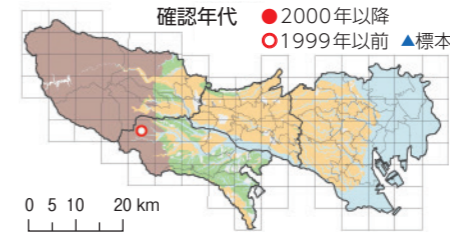
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する夏緑性シダ。根茎は直立または斜上、葉を叢生する。葉身は長さ30～70cm、単羽状複生で、頂羽片は側羽片と同形同大。山地の陰湿な樹林内に生育する。南多摩では過去の記録があるのみで、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：局所分布。

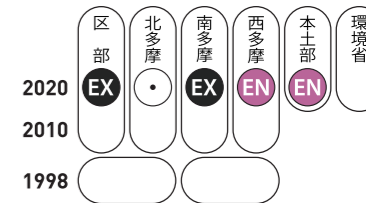
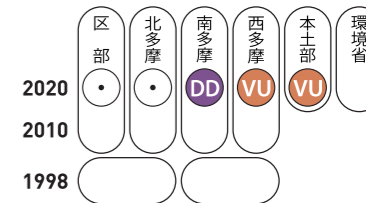
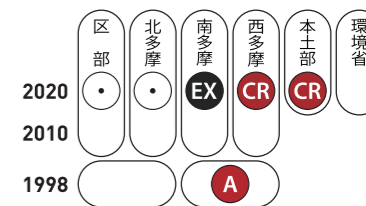
■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望

文献一覧 243



愛媛県 2009年11月



イブキシダ

Thelypteris esquirolii

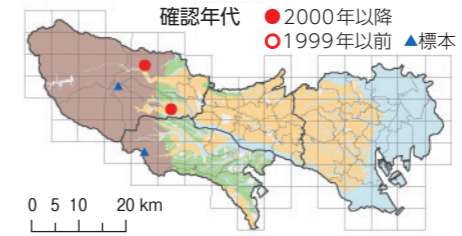
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性のシダ。葉身は長さ70～85cm、2回羽状複葉で、下部の羽片の数対は徐々に短くなる。河川沿いの岩上、石垣などの日当たりのよい所に生育する。西多摩では渓谷沿いにごく稀に生育する。南多摩では過去の記録があるが、近年の情報がなく絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：河川開発、自然災害。

■ **特記事項**：産地が局限され、生育地での河川改修の際には留意が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 37, 243



イワハリガネワラビ

Thelypteris musashiensis

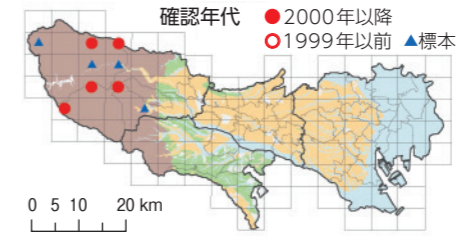
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する夏緑性のシダ。葉身は2回羽状で、最下羽片は下を向き基部に向かって徐々に狭くなる。ハリガネワラビやその品種のアオハリガネワラビによく似ており、これらと雑種を形成する。そのため、岩上に特異的に生育すること、胞子は刺状周皮をもつことが識別点となる。西多摩では山地の岩上、渓谷に限定して生育する。

■ **生存を脅かす要因**：道路建設、人の踏みつけ、自然災害。

■ **特記事項**：

執筆者 御手洗望
文献一覧 37, 230, 243



メニッコウシダ

Thelypteris nipponica var. *borealis*

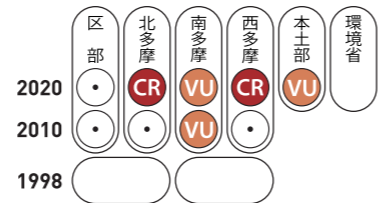
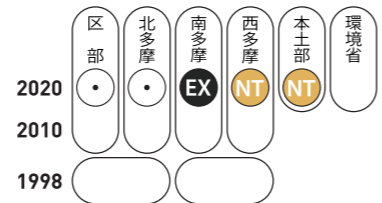
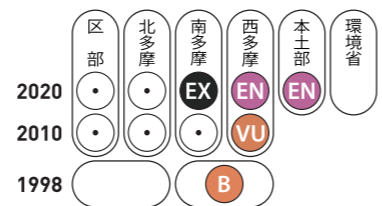
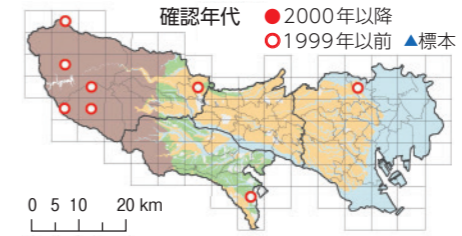
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）に分布する夏緑性シダ。根茎はやや短く這う。葉柄は15cmを超え、葉身は40cmに達する。1回羽状複葉で、下部羽片は徐々に短くなる。都内本土部では「ニッコウシダ」(*T. nipponica*)として採集記録があるが、メニッコウシダ var. *borealis* に該当する。やや明るく湿った草地に生育する。区部と南多摩、西多摩では過去に記録があるのみで、近年は確認されていない。区部と南多摩では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、草地開発、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：区部・南多摩・西多摩での少数の記録があるのみで、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 37, 170, 181



タチヒメワラビ

Phegopteris bukoensis

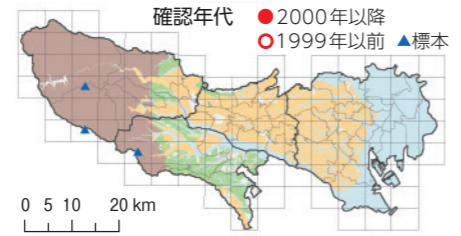
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（中部以北）、四国、九州（熊本）に分布する夏緑性シダ。根茎は長く這い、葉をまばらに出す。葉身は長楕円状披針形で鋭頭、下部羽片は短くなり、長さ40～70cm。2回羽状全裂。羽片の先は尾状となる。西多摩・南多摩の山地の腐植土の厚い樹林内や草原にごく稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：遷移進行・植生変化、シカの食害、局所分布。

■ **特記事項**：過去に西多摩・南多摩での少数の記録があるのみで、近年の確認がない。現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 170, 243



ミヤマワラビ

Phegopteris connectilis

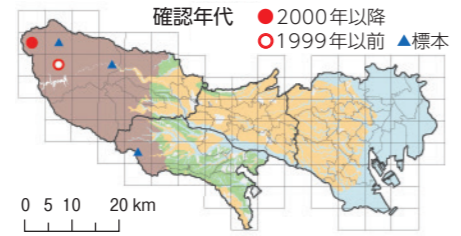
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する夏緑性シダ。根茎は長く這う。葉柄は長く、葉身と同長から2倍程度。葉身は10～15cm、単羽状複生。最下羽片が長く、羽片は葉軸に沿着する。西多摩の山地上部の腐植土が厚い林床に生育する。南多摩では過去に記録があるが、絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：南多摩の現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望
文献一覧 37, 170, 181, 243



コハシゴシダ

Thelypteris angustifrons

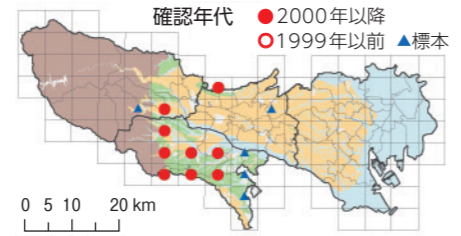
シダ植物 ヒメシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（新潟、石川、関東南部以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性シダ。ハシゴシダの小型品とよく似ているが、最下前側の裂片は遊離し、他の裂片より大きい。孢子嚢群は馬蹄形から半月形でやや長い。多摩部の乾いた林床、林縁、路傍、石垣などにごく稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。樹林の管理放棄による日照不足や山林の改変などが本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：南多摩では近年やや増加の兆候も見られる。

執筆者 御手洗望
文献一覧 243



トガクシデンダ

Woodsia glabella

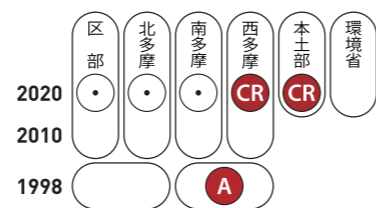
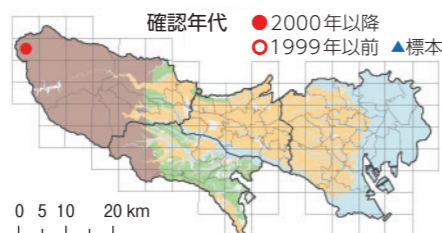
シダ植物
イワデンドラ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州（群馬、埼玉、東京、山梨、長野、静岡）、四国（徳島）の主に亜高山帯に分布する夏緑性の小型のシダ。葉は単羽状で長さ10cmほど、下部の羽片は縮小する。西多摩の亜高山帯の岩隙に生育する。

■生存を脅かす要因：もともと分布の少ない、局所分布のシダである。岩上、岩隙に生える小型のシダであるため、天災により生育立地そのものが流失、崩落することも危惧される。また、近年の温暖化により、その分布範囲が縮小される可能性がある。動物の食害については現在のところ不明。

■特記事項：自生地は頻りに調査を行うことの難しい亜高山帯であり、今後さらに生育地の詳細な状況、動物による食害の有無、雲霧による分布への影響などの現況把握が望まれる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 119, 173



奥多摩町 2018年9月6日

コガネシダ

Woodsia macrochlaena

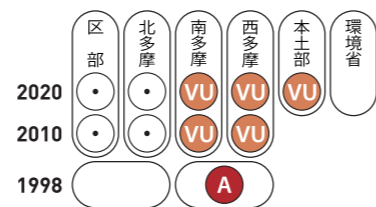
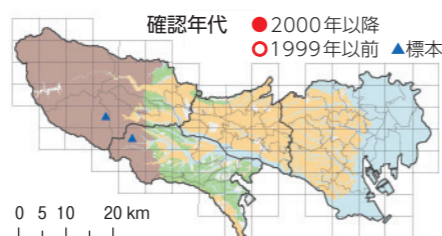
シダ植物
イワデンドラ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の主に冷温帯から暖温帯上部に分布する夏緑性の小型シダ。葉は概ね15cm以下、長楕円形で、単羽状浅裂。葉表は淡黄緑色で、葉質は薄い紙質。主に、岩隙に生育する。都内では西多摩と南多摩の山地から記録があるが、近年確認されておらず、現状調査が必要である。なお、南多摩に隣接する神奈川県津久井湖畔には現存地が確認されている。

■生存を脅かす要因：山林の伐採である。また、生育する露岩が路肩にある場合、露岩の撤去や露岩へのコンクリート吹付、過度の草むしりなど不適切な管理を受けることもある。近年の温暖化（乾燥化）に伴う猛暑や少雨も本要因に該当する。

■特記事項：一見乾燥した、何気ない道沿いに生えているが、生育地の立地をよく見ると川に面した斜面の下部、渓谷沿いの道路の路肩であることが多い。このような立地は、夏季（降雨季）には渓谷の飛沫の影響などで、一定の空中湿度を保つことができると考えられる。

執筆者 宮崎卓 文献一覧 117, 173



檜原村 2018年10月18日

オサシダ

Blechnum amabile

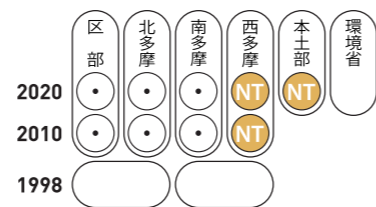
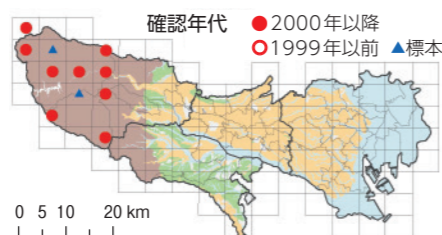
シダ植物
シシガシラ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の主に亜高山帯、冷温帯から暖温帯上部に分布する常緑性のシダ。単羽状の葉を繊織りの箴（おさ）に見立てたことが和名の由来。葉は主に30～40cmで、栄養葉と孢子葉が別に出る。同属のシシガシラに似ているが、根茎は匍匐する。都内では西多摩の山地に生育に限られる。

■生存を脅かす要因：深山に分布するが、林道整備や送電設備の工事などに際しては、十分に留意する必要がある。また、自然災害などにより生育立地の露岩地自体が消失する可能性がある。近年の温暖化により分布下限が上昇する可能性もある。垂直分布的にシカの生息域と重なるため、その食害も危惧される。

■特記事項：伊豆半島や房総半島などでは、露岩地や礫の多い急峻立地において、海に近い暖温帯域に本種が生育している。一方、東京都本土部では、冷温帯、亜高山帯域に分布が限られ、暖温帯域での分布は知られていない。

執筆者 宮崎卓 文献一覧 120, 173



奥多摩町 2020年9月10日

シシガシラ

Blechnum niponicum

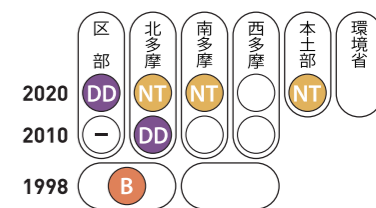
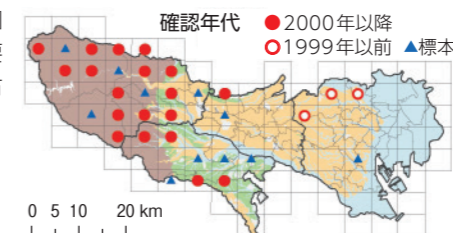
シダ植物
シシガシラ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から暖温帯に分布する中型の常緑性シダ。葉には孢子葉と栄養葉の二形性がある。栄養葉は単羽状全縁で地に伏して放射状に広がる。東京都では北多摩、南多摩の丘陵部では関東ロームの立地、南多摩の山地域では褐色森林土の立地に生育する。区部は成増、石神井の記録で現状は未確認。西多摩では多いところもあり、絶滅危惧種から外れている。

■生存を脅かす要因：開発とそれに伴う土地造成、森林伐採を含む山林の改変である。また、山地域に分布する個体はシカなどの動物の食害も危惧される。

■特記事項：本種は北海道東部や山梨県から長野県東部、鹿児島県西部、そして関東平野などを除けば、全国的に非常に密に分布している。関東平野、北海道東部などにほとんど分布しないことに関しては、その土地それぞれの要因が考えられる。また、関東平野での非分布要因は不明であるが、その非分布範囲がほぼ古東京湾の範囲に対応している。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 70, 120, 243, 270, 354



八王子市 2015年5月16日

コモチシダ

Woodwardia orientalis

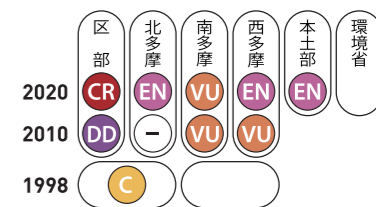
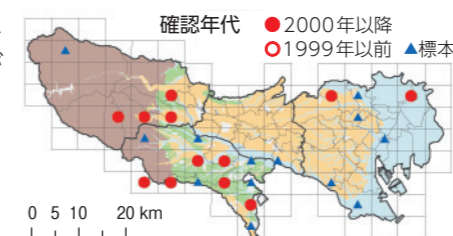
シダ植物
シシガシラ科

■種の特性と生育状況：本州（東北部以南）、四国、九州の暖温帯域に分布する大型の常緑性シダ。葉は単羽状中～深裂で、光沢のない黄緑色。葉はやや厚い革質で、表面に小さな無性芽を付ける。崖地、人為的な法面など、垂直な立地に生育する。多摩地域では、主に斜面上部に堆積した、関東ロームの崖地、法面に生育する。

■生存を脅かす要因：主に丘陵部の宅地開発、土地造成である。また、主な生育立地が路肩の法面や崖地であるため、これらの立地での管理放棄、改修、補強工事による改変なども、本種の衰退に影響を与えている。

■特記事項：関東ロームの立地を好むシダ（コシダ、ウラジロなど）の中では、比較的移植先の土壌を選ばない。また、移植中にわずかに根茎が乾燥しただけで、活着率が著しく下がるコシダやウラジロに比べて、移植はかなり容易と言える。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 120, 322



八王子市 2021年7月26日

テバコワラビ

Athyrium atkinsonii

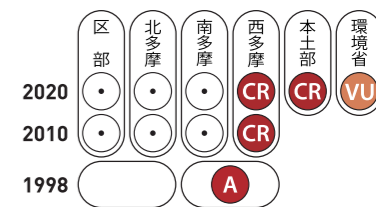
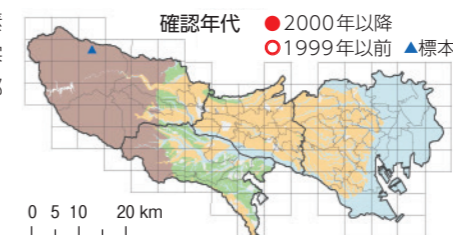
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州の主に標高1000m以上の冷温帯に分布する。落葉樹林の林内、林縁に生育する大型の夏緑性シダ。葉身は三角状広楕円形、3回羽状浅～深裂、薄緑色で草質。地下茎は這う。一般的に、冷温帯の礫の多い落葉樹林の林床、林縁に生育する。西多摩の限られた山地域に記録があるが、近年は確認できておらず、現状確認が必要である。

■生存を脅かす要因：もともとの分布が少ない。容易に大規模開発の出来ない山地域に分布するが、林道整備や送電設備の工事などに際しては、十分に留意する必要がある。また、シカによる食害が危惧される。

■特記事項：本種のように西南日本の山地を中心に中央構造線に沿って分布する植物を、襲撃紀要素の植物という。一般的に、襲撃紀要素の植物は西南日本に分布が偏在するが、耐寒性は強く、垂直的には冷温帯から暖温帯上部に分布する。

執筆者 宮崎卓 協力者 池田博
文献一覧 121, 173, 297



高知県 2008年9月

カラクサイヌワラビ

Athyrium clivicola

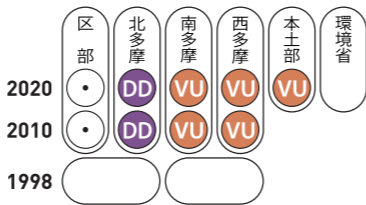
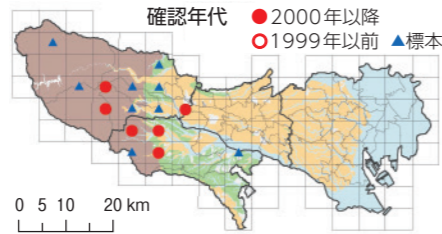
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：北海道（南部）、本州、四国、九州の主に冷温帯から暖温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は三角状楕円形、2回羽状である。ヒロハイヌワラビに似るが、ヒロハイヌワラビよりも小羽片の切れ込みが深く、羽軸裏面が無毛である。南多摩、西多摩でスギ植林などに出現するが、群生することがなく、生育地の個体数は概ねどこも少ない。

■生存を脅かす要因：一般に、開発などによる山林の伐採、土地造成。北多摩に関しては、都市化による崖線林の消失や湧水の枯渇が該当する。南多摩、西多摩に関しては、シカなどの動物による食害も危惧される。

■特記事項：緩傾斜のスギ植林林床や沢筋に生育する。ヒロハイヌワラビよりも湿潤立地を好むと考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 121, 243



町田市 2022年5月5日 © 内野秀重

イッポンワラビ

Athyrium crenuloserrulatum

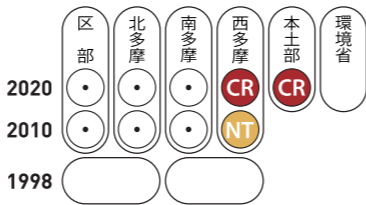
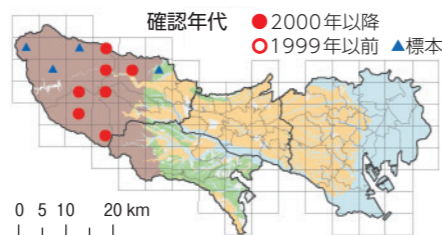
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州（福井以北、鳥取）の主に亜寒帯から冷温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は三角状楕円形、3回羽状。葉面は薄い緑色で、草質。根茎は這い、葉を隔生する。西多摩の主に冷温帯域の落葉樹林の林床に生育し、暖温帯域ではスギ植林や渓谷林に出現する。

■生存を脅かす要因：山地では、林道整備や送電設備の工事などに際しては、十分に留意する必要がある。スギ植林に生育する個体は、植林の管理、伐採などの作業の際に傷められる危険がある。また、山菜として利用される植物だけに、草食動物による食害も危惧される。

■特記事項：本種とシケチシダの雑種ハコネシケチシダは南多摩の暖温帯域でも沢筋で見られ、本種の孢子自体は低標高域にも散布されていると思われる。このため、低標高地でもスギ植林内や湧水地の周囲など、夏の暑さが緩和される立地には、本種の生育する可能性がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 121, 146



あきる野市 2021年6月1日 © 御手洗望

タカオシケチシダ

Athyrium decurrentialatum f. *platyphyllum*

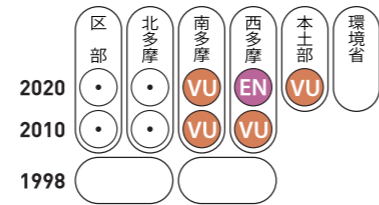
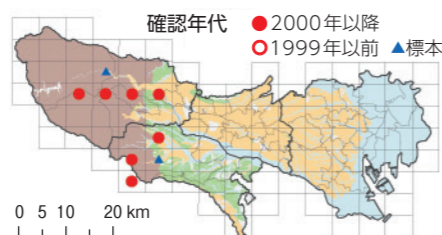
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の主に暖温帯に分布する夏緑性シダ。シケチシダの品種であり、母種シケチシダとの形態的な違いは葉の裏面羽軸、小羽軸上に毛を持つことである。南多摩、西多摩では、主に山地域で沢筋のスギ植林林床などに生育し、母種シケチシダと混生する。

■生存を脅かす要因：開発による山林の伐採、土地造成、スギ植林の管理放棄による林内の荒廃、スギ植林の管理・整備により個体を傷めることである。また、シカなどの動物による食害も危惧される。

■特記事項：本品種は古生層、中生層のような古い地層の所に多く生じ、しばしば大群落が見られると指摘されている。また、シケチシダには葉上に密に短毛を持つものがあり、老成するに従い毛が消失することが観察されている。こうした個体群のなかで老成しても無毛とならないものを品種タカオシケチシダとして考えるのが妥当であるかもしれない。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 111, 189, 231, 243, 267



青梅市 2021年12月9日 © 内野秀重

サトメシダ

Athyrium deltooidifrons

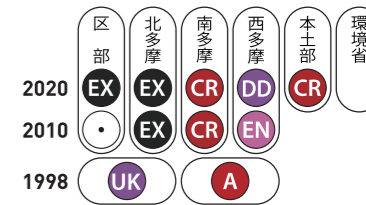
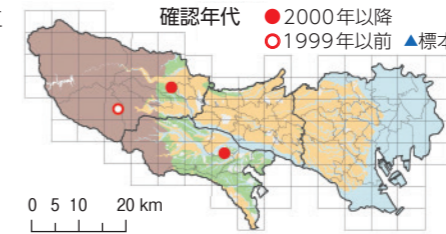
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から暖温帯に分布する中型の夏緑性シダ。葉身は三角状広楕円形、2回羽状浅～深裂。切れ込みの浅い葉はヤマイヌワラビに似るが、本種には小羽片に柄がある。葉面は鮮黄緑色で、柔らかな草質。東京都では、南多摩の山地（山裾）や丘陵部に分布し、冷たい水の湧き出る湿地に少数個体が現存する。

■生存を脅かす要因：丘陵地の宅地開発などによる山林の伐採、土地の造成、湿地の埋め立て。また、都市化に伴う崖線の開発、湧水の枯渇、里山の管理放棄や生育立地への改変を伴う不適切な管理が本種の生存を脅かす主な要因である。

■特記事項：現存地においても、山裾の生育地では、自然攪乱（土砂による埋没など）が生じることも危惧され、現存個体も非常に不安定な立地条件に置かれている。また、絶滅した区部、北多摩では、檜山（1949、1965）の記述から、野川沿いの崖線林に生育していたと推測される。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 121, 135, 268, 270



八王子市 2020年6月12日 © 内野秀重

ミヤコイヌワラビ

Athyrium imbricatum

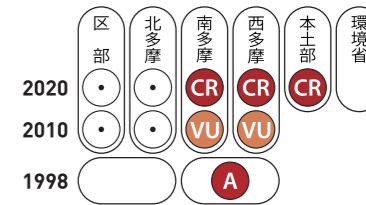
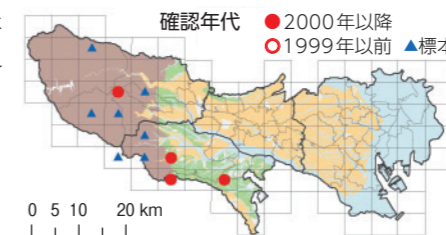
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州の暖温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は楕円形～長楕円形、3回羽状。葉面はみずみずしい鮮緑色で、草質。軸、葉柄が赤紫色を帯びる。根茎は塊状。南多摩の丘陵地に稀産しているが、西多摩での近年の現状は不明となっており、確認が必要である。湿った沢筋や渓谷林など、流れのそばに生育する。

■生存を脅かす要因：開発などによる山林の伐採、土地造成、生育地である植林の管理放棄による林内の荒廃。一方、植林の管理、伐採の工事の際に個体を傷める危険もある。また、シカなどの動物による食害も危惧される。

■特記事項：南多摩では八王子市の2か所で現存が確認されている。渓谷など流れのそばに生育する暖地性シダのため、東京都本土部では低標高の山地域から丘陵部に分布が限定される。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 121, 135



あきる野市 2001年9月23日

ホソバイヌワラビ

Athyrium iseanum var. *iseanum*

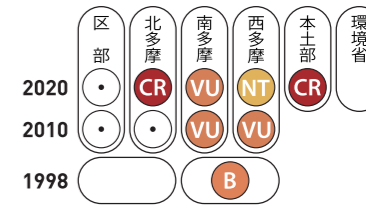
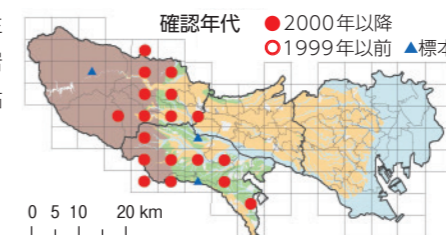
シダ植物
メシダ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は長楕円形、3回羽状。葉面は薄黄緑色で、やや硬い草質。羽軸、小羽軸表面に刺状の毛がある。生育の良い葉では、葉身上部の軸に無性芽を付けることがある。南多摩から西多摩の低山地に分布し、沢筋の岩や礫の多い湿った場所に生育する。

■生存を脅かす要因：宅地開発などによる山林の伐採、土地造成、生育地のスギ植林の管理放棄による荒廃、小規模な改変を伴う不適切な管理（林道設置など）、シカなどの動物による食害が本要因である。

■特記事項：礫の多い褐色森林土の立地に多いが、根は礫の間ではなく、湿った粘土質の土壌の層に這わせている。同様に沢筋の岩隙に生える場合も、掘り取って根茎を確かめると岩隙の粘土質の泥の中に根を這わせていた。粘土質の褐色森林土を好むようである。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 121, 158, 243



日の出町 2016年8月5日 © 内野秀重

イワイヌワラビ

Athyrium nikkoense

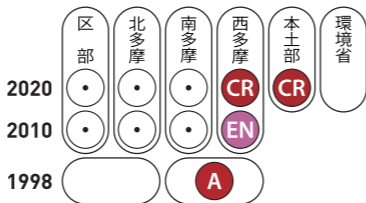
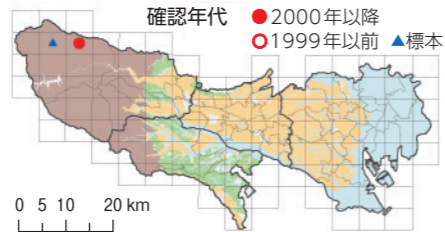
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（近畿以東）、四国、九州の主に亜寒帯から冷温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は30～40cmで小型、楕円形で、単羽状浅～深裂する。葉は鮮緑色、草質。ヘビノゴザの小型品に似るが、孢子嚢群は概ね羽片の中肋に1列に並び、西多摩の暖温帯上部から冷温帯に分布し、湿潤な林内の岩隙、岩上に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布が非常に少ないことである。また、個体が少ないため自然災害により、生育立地（巨石、岩盤）そのものの崩落や流出だけで、生存が脅かされる可能性もある。高標高域に分布するが、シカの生息域と重なるため、その食害が危惧される。

■ **特記事項**：西多摩では、主に冷温帯に生育するシダであるが、埼玉県では暖温帯域の渓谷でも分布が知られる。小型のシダなので、夏の暑さが緩和される立地が確保できれば、暖温帯域に生育することもありえる。

執筆 宮崎卓
文献一覧 56, 231, 313



北海道 2012年9月

タニヌワラビ

Athyrium otophorum

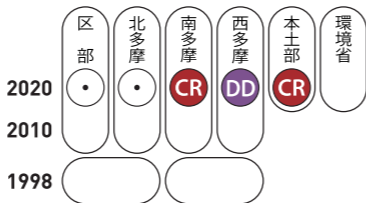
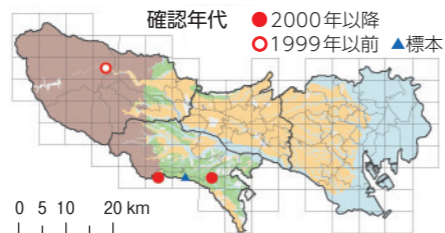
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北部以南）、四国、九州の暖温帯に分布する常緑性シダ。葉身は三角状楕円形、2回羽状浅～深裂。葉は硬い紙質。軸、葉柄は硬く、紫色を帯びる。南多摩では丘陵地のスギ植林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：確認されている南多摩の個体に関しては、丘陵地への開発による山林伐採、土地造成。また、生育地のスギ植林へのなんらかの攪乱、管理の放棄なども本種の生存を脅かすおそれがある。

■ **特記事項**：情報不足の西多摩の記録は高橋（1936）によるものである。当時の古里附バス停（現在の青梅市古里付バス停）から南側の多摩川を渡った付近でマタタビ、クサコアカソ、ジャンニンジンなどとともリストアップされている。標本は未確認。

執筆 宮崎卓
文献一覧 109, 121, 187, 243



八王子市 2021年11月7日

タカネサトメシダ

Athyrium pinetorum

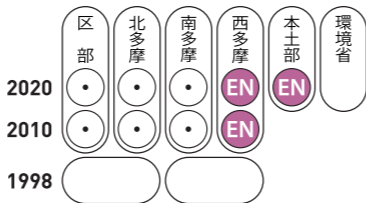
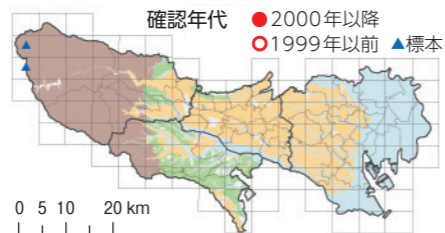
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北）、四国（四国山地）の亜高山帯から冷温帯上部に分布する夏緑性シダ。ヤマイヌワラビに似て、小羽片に柄がない。一方でサトメシダと同様に包膜の辺縁には鋸歯がある。一般にサトメシダよりも小型といわれる。サトメシダの様に湿地生ではなく、適湿土壌の林床生である。西多摩の亜高山帯に記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：分布域が亜高山帯に限られる局所分布の種である。温暖化により、亜高山帯の下限が上昇し、分布域の狭くなるのが危惧される。また、シカの食害を受けていると考えられる。

■ **特記事項**：鈴木（1984）によれば、「亜高山帯で普通」となっているが、近年の調査では見つかっていない。本種はヤマイヌワラビに似ており、食害を受けた小さな葉ではヤマイヌワラビとの区別が困難である。このため、近年ではほとんどの個体がシカの食害を受け、矮小化してしまい、本種の典型品が確認されていない可能性がある。

執筆 宮崎卓
文献一覧 56, 121, 168, 181, 231



神奈川県 2007年9月20日

カラフトミヤマシダ

Athyrium spinulosum

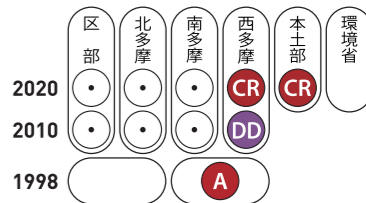
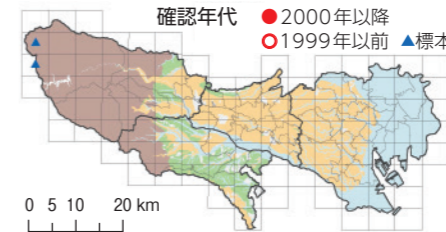
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（群馬、埼玉、東京、山梨、長野）の亜高山帯に分布する夏緑性のシダ。3回羽状で広三角形の葉身を持つ。葉の大きさは1m 足らずの中型のシダ。根茎は長く這い、葉をまばらに付ける。西多摩の亜高山帯に記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：分布域が亜高山帯に限られる局所分布の種である。温暖化により、亜高山帯の下限が上昇し、分布域の狭くなるのが危惧される。シカの食害を受けていると考えられる。

■ **特記事項**：1980年代の時点で生育地が限られ、稀であった。現状は確認されていない。タカネサトメシダと同様に、シカの食害により矮小化して、認識されやすいサイズの個体が残っていない可能性もある。

執筆 宮崎卓
文献一覧 121, 168, 231



長野県 1998年6月20日

セイタカシケシダ

Debaria dimorphophylla

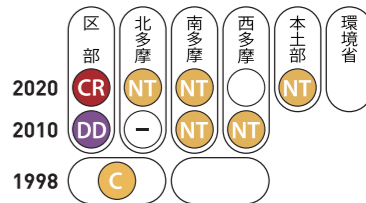
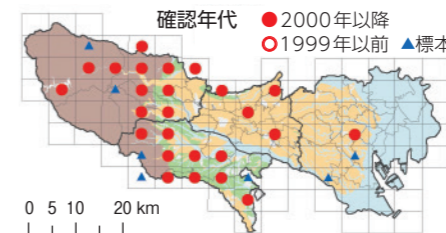
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、北陸以南）、四国、九州の暖温帯域に分布する中型の夏緑性シダ。三角状楕円形、単羽状浅裂～中裂の葉身で、葉質は草質。地下茎は匍匐し、葉をやや隔生する。葉の形は多型で近縁種との区別が難しい個体もあるが、葉裏面の葉肉上に毛を持つことにより、近縁種（雑種は除く）と区別ができる。区部、北多摩地域では主に崖線林の湧水地に、南多摩ではスギ植林に生育し、土壌の深い緩傾斜地を好む。

■ **生存を脅かす要因**：開発とそれに伴う土地造成、森林伐採を含む山林の改変。管理された里山に生育する個体では、人為管理の放棄によるアズマネザサの繁茂。スギ植林に生育する個体に関しては、間伐、枝打ちした材の放置による下敷きなど不適切な管理。また、南多摩の山地に生育する個体に対しては、シカなどの動物による食害も大きな要因となっている。

■ **特記事項**：留意事項として、同じ絶滅危惧種のフモトシケシダとの間に雑種セイタカフモトシケシダが知られ、多摩地域には自生する。

執筆 宮崎卓
文献一覧 121, 122, 243



町田市 2021年10月21日

ムクゲシケシダ

Debaria kiusiana

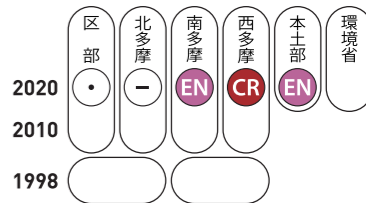
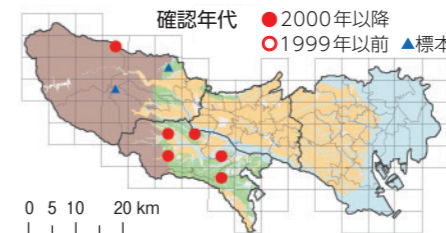
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の暖温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は三角状楕円形、単羽状浅裂～中裂。セイタカシケシダに似る。セイタカシケシダと同様に葉裏面の葉肉上には粉毛がある。軸、葉柄、羽軸には白っぽい、むく毛状の鱗片が顕著である。南多摩、西多摩に分布し、やや山地域に偏在する。スギ植林の林床や沢筋のやや明るい林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採、生育地の植林における不適切な管理（個体を傷める管理作業）、樹林そのものの管理放棄による林内の荒廃である。また、シカなどによる動物の食害も危惧される。

■ **特記事項**：シケシダ類（*Athyriopsis* 節）には展葉時の軸、葉柄、羽軸に、むく毛状の白っぽい鱗片の顕著なものが他にもある。しかし、本種以外はこのむく毛状の鱗片は早落性である。なお、本種は小仏地域（八王子市、旧相模湖町、旧藤野町）の神奈川県側では比較的多い。都内八王子市での確認例は、この神奈川県側から繋がる、小仏地域の大きな個体群の一部とも考えられる。

執筆 宮崎卓
文献一覧 99, 121, 243



八王子市 2014年5月2日

ヘラシダ

Deparia lancea

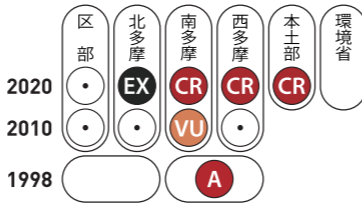
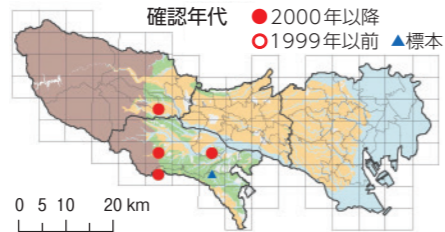
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島の暖温帯から亜熱帯に分布する小型の常緑性シダ。葉身は線状楕円形の単葉。葉面は暗緑色で、葉質は厚ぼったい革質。胞子嚢群は中肋に対して斜上に付き、線形。根茎は這い、黒褐色の鱗片を付ける。南多摩、西多摩に分布し、ローム質の壁面、斜面を好むほか、沢筋の湿った岩隙にも生育する。

■ **生存を脅かす要因**：開発による山林の伐採、土地造成。北多摩に関しては、特に都市化による樹林の減少である。ローム質の崖地、壁面、斜面立地を好むため、崖地、斜面の改修など（本種にとっての不適切な管理）により、生存を脅かされることがある。

■ **特記事項**：北多摩（絶滅）の過去の記録は府中市である。2020年、府中市の民家庭先のブロックの隙間に本種を確認したが、その後消滅した。この個体が付近の未知の自生地から飛来した、自生個体の胞子に由来した可能性も否定できない。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 243, 270



八王子市 2005年2月25日

フモトシケシダ

Deparia pseudoconilii var. *pseudoconilii*

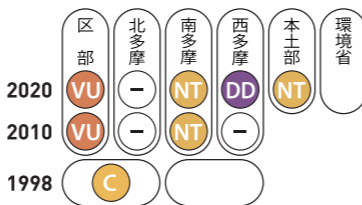
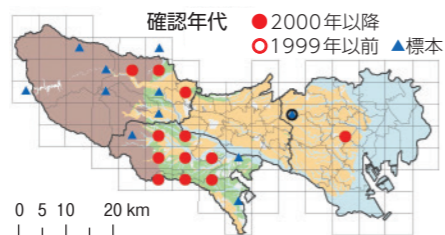
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯に分布する夏緑性シダ。草質、長三角形で、単羽状の小型から中型の葉を隔生する。胞子嚢群は長楕円形で、包膜に毛がある。多摩地域の丘陵部の林縁、明るい林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主に丘陵部に分布するため、開発に伴う土地造成、山林の伐採が主な要因である。また、里山に生育するものは、本種を傷める不適切な樹林の管理、管理放棄による林内でのアズマネザサの繁茂が本要因に該当する。また、山地に生育するものは、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：西多摩地域では「情報不足種」である。本種は礫の多い立地ではあまり見られないため、礫質の土壌が分布する西多摩では、もともと少ない可能性もある。留意事項として、同じ絶滅危惧種セイタカシケシダとの雑種セイタカフモトシケシダが南多摩地域にも自生する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 78, 122, 231, 312



稲城市 2006年5月25日

コヒロハシケシダ

Deparia pseudoconilii var. *subdeltoifrons*

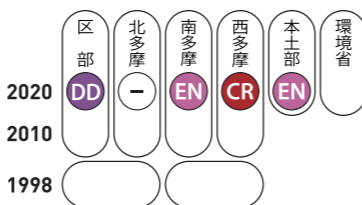
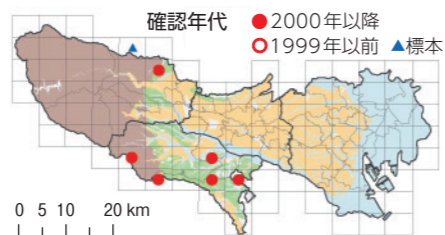
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：フモトシケシダの基準変種 var. *pseudoconilii* (狭義フモトシケシダ) に対する種内の変種である。近年では狭義フモトシケシダと本変種との、倍数性の違いも推測されている。関東地方と中部地方の一部に分布する夏緑性シダ。狭義フモトシケシダに対して、羽片が中～深裂し、裂片と裂片の間があく。そして、裸葉において三角形の傾向が強くなる。南多摩、西多摩では台地、丘陵部の土壌の深い立地に生育し、谷戸奥などに出現する。

■ **生存を脅かす要因**：丘陵部に分布する個体に対しては開発に伴う土地造成、山林の伐採が脅威となる。本種を傷める不適切な樹林の管理や、樹林の管理放棄等も該当する。

■ **特記事項**：不安定な形質の葉身の形により、基準変種から分けられているため、なかなか認識されにくい分類群である。また、シケシダ類の雑種にも似たものがあり、今後より詳細な分布の明らかになることが望まれる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 78, 231



町田市 2021年9月1日

ハクモウイノデ

Deparia pycnosora var. *albosquamata*

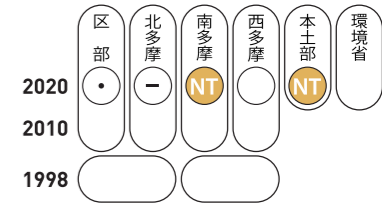
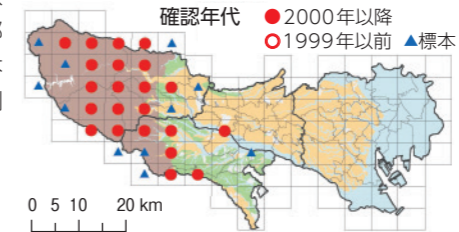
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から暖温帯に分布する夏緑性シダ。従来のミヤマシケシダ *D. pycnosora* を3変種に区分したうちの1変種。基準変種の狭義ミヤマシケシダ var. *pycnosora* に比べて軸、葉柄、羽軸に白っぽい毛のような鱗片が密に付く。南多摩では山地の沢筋など、湿潤な立地に生育する。西多摩ではランク外。

■ **生存を脅かす要因**：開発などによる山林の伐採、土地造成。山林の維持管理の放棄によるアズマネザサなどによる被圧、不適切な樹林の管理により個体を傷めることである。また、山地に分布する個体は、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：主に冷温帯に分布するシダであり、南多摩では、特に山地に偏った分布をしている。実際、八王子市、町田市、それに相模原市緑区を歩いていると、本種が関東山地の山裾部分で急に目に付くようになる。このため、本種の分布の偏りには温度要因以外の要因（例えば地史）も考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 243



八王子市 2022年7月19日

ウスゲミヤマシケシダ

Deparia pycnosora var. *mucilagina*

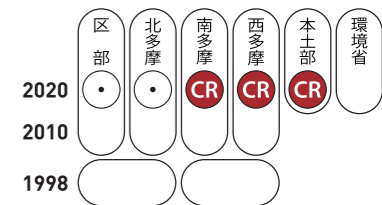
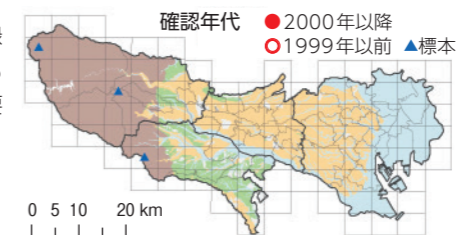
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州の主に亜寒帯から冷温帯に分布する夏緑性シダ。狭義ミヤマシケシダやハクモウイノデとは同種内の変種関係。ハクモウイノデに比べて軸、葉柄、羽軸に白っぽい毛のような鱗片が少ない。一方、狭義ミヤマシケシダにくらべ、羽片が込み合っており、軸がやや太く感じる。葉柄基部に「ぬめり」を感じる程度の粘液がある。南多摩では低山地から記録があるが、西多摩では雲取山、鷹ノ巣山など高所からの記録がある。ハクモウイノデ同様に沢筋など、湿潤な立地に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩の山地域の場合は治水、治山の工事、送電施設の建設などの工事による山林の改変。南多摩では樹林の伐採、山林の維持管理の放棄。また、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：南多摩、西多摩の山地に標本記録があるが、分類群の見直しを経ていることもあり、実態が明らかでなく、確認調査が必要である。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 366



山梨県 2017年7月2日

ミドリワラビ

Deparia viridifrons

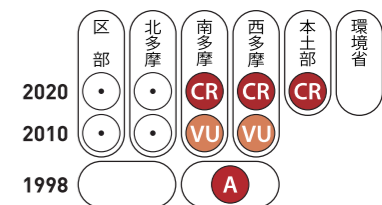
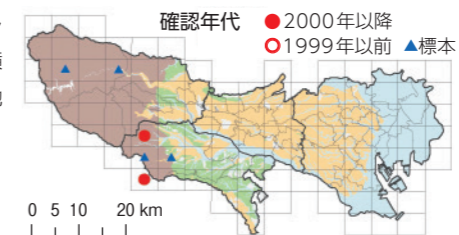
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯に分布する大型の夏緑性シダ。2回羽状浅～深裂で、広卵状三角形、草質の葉身を持ち、短く匍匐する地下茎に葉を密につける。東京都では、南多摩の斜面下部の湿潤な緩斜面、土壌の安定したスギ植林に見られる。また、西多摩にも記録はあるが、近年確認されていない。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採、スギ植林の管理放棄や不適切な管理が主要な要因である。また、山地域に分布するため、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：都立大学牧野標本館の2011年八王子市恩方の標本は大型で、葉の切れ込みが浅い。このため、オオヒメワラビとの雑種の可能性も検討した。しかし、裂片の側脈が分枝し、胞子の形がよく揃っているため本種と同定した。なお、八王子市恩方は甲斐猿橋、土佐横倉山とともに、戦前から知られた本種の産地である。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 38, 115, 121, 181, 366



神奈川県 2005年6月

ヒカゲワラビ

Diplazium chinense

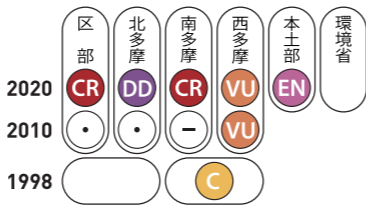
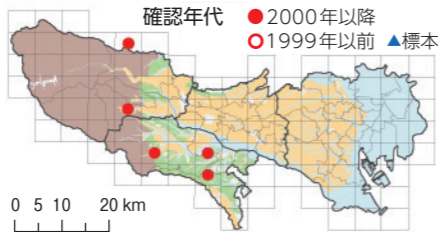
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以南）、四国、九州、南西諸島の暖温帯、亜熱帯域に分布する夏緑性シダ。葉は1～1.5mに達する大型のシダ。葉身は三角状広楕円形で、2回羽状中裂～3回羽状浅裂。薄い暗緑色で、葉質は草質。葉裏の胞子嚢群は線形。東京都では、主に南多摩から西多摩に分布し、沢筋のやや明るい林内などに生育する。区部や北多摩では、石垣、植え込みなど人為環境下に出現することがある。

■ **生存を脅かす要因**：開発などによる山林の伐採。また、スギ植林の整備（不適切な管理）、伐採により個体群がダメージを受けることも本要因に該当する。主に山地に分布するため、シカなどの動物の食害も危惧される。

■ **特記事項**：東京都本土部のノコギリシダ属のほかの種に比べて、明るく乾いた立地に生育し、西南日本では、竹林や明るい林縁にも出現する。この生態的性質により、区部、北多摩では人為環境下に出現していると考えられる。区部、北多摩の個体に関しては今後の経過観察をもとに、絶滅危惧種としての扱いが検討されるべきであろう。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 243, 302



八王子市 2015年7月12日 © 内野秀重

シロヤマシダ

Diplazium hachijoense

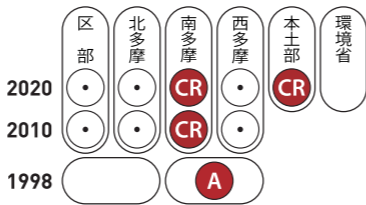
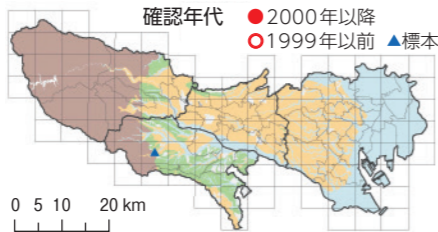
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（北陸、関東以南）、四国、九州、南西諸島の暖温帯、亜熱帯域に分布する大型の常緑性シダ。葉身は三角状広楕円形で、2回羽状浅裂。暗緑色で、葉質はやや柔らかい草質。葉裏の胞子嚢群は線形。東京都では、おそらく沢筋のスギ植林に生育していたと推測される（南多摩に隣接する相模原市緑区の生育地での観察より）。

■ **生存を脅かす要因**：開発などの山林の伐採、スギ植林の整備（不適切な管理）、伐採が考えられる。また、東京都本土部は分布域の北限に近く、もともと分布が少ない。このため、数十年に一度の低温や豪雨により個体群が直接ダメージを受ける可能性もある。

■ **特記事項**：1966年、1974年に高尾山からの報告はあるが、近年確認されていない。ただし、南高尾地域（八王子市、旧城山町）の神奈川

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 181, 247



神奈川県 2014年12月26日

ミヤマノコギリシダ

Diplazium mettenianum

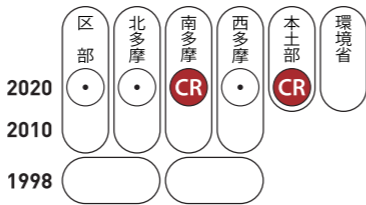
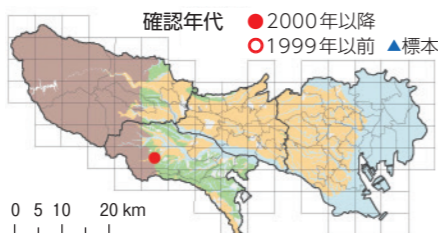
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（北陸、関東以南）、四国、九州、南西諸島の暖温帯、亜熱帯域に分布する中型～やや大型の常緑性シダ。葉は概ね0.5～1mで、葉身は三角状楕円形、単羽状浅裂する。葉は暗い緑色で、葉質はやや薄い草質。葉裏の胞子嚢群は線形。常緑広葉樹林やスギ植林などに生育し、南多摩ではある程度管理のされた緑地内に生育している。

■ **生存を脅かす要因**：東京都本土部では、近年確認された種であり、そもそもの生育地が少ない。現在確認されている個体に関しては、数十年に一度の低温や豪雨により直接ダメージを受ける危険性も考えられる。

■ **特記事項**：西南日本では水系のない海岸沿いの樹林内にも出現し、比較的乾燥に強い。また、土質は褐色森林土を好む。このため、褐色森林土の分布する関東山地の麓を中心に、今後分布が拡大する可能性もある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 113, 189, 243



八王子市 2015年9月15日 © 内野秀重

オニヒカゲワラビ

Diplazium nipponicum

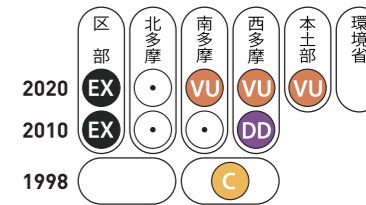
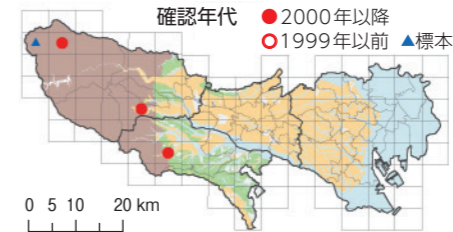
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯域に分布する大型の夏緑性シダ。大きな葉は2mを超える。葉身は三角状広楕円形で、2回羽状浅～中裂。暗い緑色で、葉質はやや厚い草質。葉裏の胞子嚢群は線形。南多摩や西多摩のスギ植林や夏緑広葉樹林の沢筋、谷底部に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主に開発による山林の伐採、土地造成である。また、スギ植林の整備など人為攪乱（不適切な管理）、管理放棄も本要因になり得る。主に山地に分布するため、シカなど動物の食害も脅威となり得る。

■ **特記事項**：1990年代に神奈川県側の多摩川崖線で確認されており、かつては区部でも、この様な崖線に自生していたと推測される。また、都立大学牧野標本館には、1958～1973年の日原天祖山の複数点の標本があり、今回の調査でも、その現存が確認された。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 78, 110, 118, 243, 366



八王子市 2007年10月3日 © 内野秀重

ノコギリシダ

Diplazium wichurae var. *wichurae*

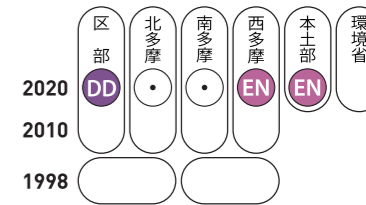
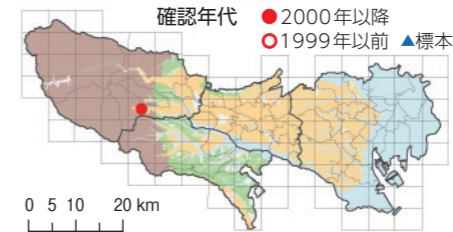
シダ植物
メシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島の暖温帯、亜熱帯域に分布する中型の常緑性シダ。葉身は三角状狭楕円形で、単羽状浅裂。羽片には耳垂がある。明るい緑色で、葉質は革質。葉裏の胞子嚢群は線形。関東（主に千葉、神奈川）では、一般的に沢筋の樹林内で、沢の流れのそばの地上、岩激に生育する。東京都では、西多摩の丘陵帯上部に自生地がある。

■ **生存を脅かす要因**：現在、確認されている生育地は管理された緑地内であるが、一般的には山林の伐採、管理放棄、不適切な管理が本要因に該当する。また、数十年に一度の低温や豪雨も本要因となり得る。

■ **特記事項**：海老原他（2019）によれば、1981年に千代田区千代田で撮られた標本が国立科学博物館にあるということである。しかし、「都市部、かつ隔離分布であることから、自生であることに疑問が残る」と海老原他（2019）もコメントしている。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 4, 57, 118



あきる野市 2020年2月27日 © 内野秀重

キンモウワラビ

Hypodematium crenatum subsp. *fauriei*

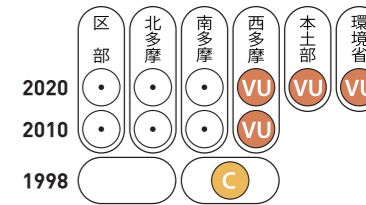
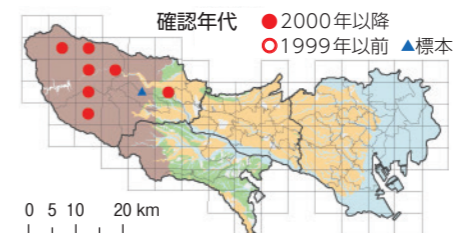
シダ植物
キンモウワラビ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東・中部地方）、四国（高知県）、九州（福岡県・熊本県・宮崎県）に自生する夏緑性シダ。根莖は太く這い、密に褐色で光沢ある鱗片がある。葉柄は長さ50cmに達し、わら色、平滑で無毛。葉身は3～4回羽状複生、五角形から三角状長楕円形、長さ50cm、基部の幅は40cmに達する。葉質は薄い紙質で、鮮緑色。植物体にはとがった毛がある。胞子嚢群は裂片のやや中肋近くにつき、包膜は円腎形から馬蹄形で密に毛がある。山地の石灰岩上に生育する。西多摩の石灰岩地の岩壁に生育する。稀に石垣などにも着生する。

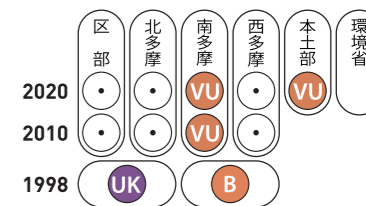
■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少および消失。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化や石灰採掘などによる生育地の破壊が本種の生存を脅かす主要因であると考えられる。岩場のレジャー利用（クライミング）による排除も見られる。

■ **特記事項**：日本固有亜種。

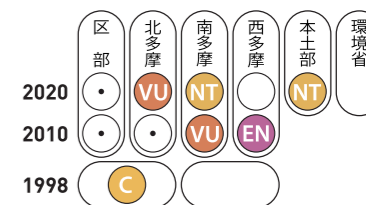
執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 56



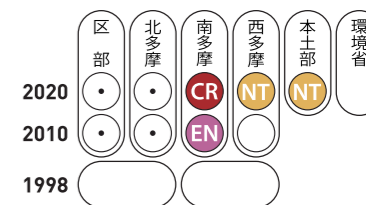
奥多摩町 2018年6月9日 © 田畑伊織



八王子市 2020年1月27日



青梅市 2022年6月16日



八王子市 1983年7月3日

ホソバカナワラビ

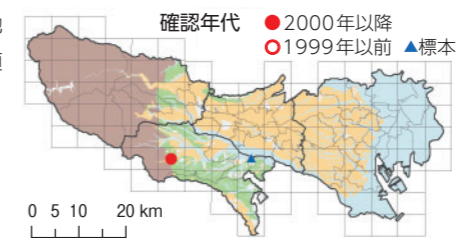
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州、南西諸島の暖温帯、亜熱帯域に分布する中型の常緑性シダ。葉身は2～3回羽状浅裂。最下羽片に矢耳小羽片があり、頂羽片が明瞭な五角形。葉面は金属的な光沢のある暗緑色で、堅い革質。根茎は長く這い、林床に広がる。南多摩の低山地に一か所自生が知られる。

■生存を脅かす要因：東京都本土は分布北限に近く、生育地が非常に限られている。また、生育地である山林の伐採が本要因に該当する。

■特記事項：東京都の分布だけを見ると八王子市の山地域に隔離分布しているが、近隣の神奈川県と続けて見れば、厚木市、相模原市緑区、そして八王子市と関東山地の南端を山裾に沿って分布している。この様な、関東山地の南端を山裾に沿って分布している暖地性植物には、他にオオアリドオシヤイズセンリョウ（東京都本土は非分布）がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 99, 118, 243



ナンゴクナライシダ

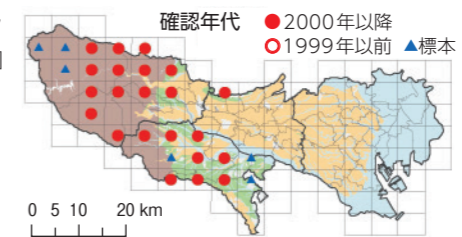
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：本州、四国、九州の冷温帯から暖温帯にかけて分布する夏緑性シダ。葉身は4回羽状浅～深裂。矢耳小羽片があり、葉身は五角形。葉面は光沢のない黄緑色で、薄い紙質。根茎は短く這う。ホソバナライシダに比べ裂片が鈍頭で、小羽片は四角を帯び、小羽片の中脈上には毛が密に存在する。また、葉柄基部がいくぶん赤味を帯びる。冷温帯のある西多摩ではランク外。北多摩、南多摩ではスギ植林、落葉樹二次林などの林床に生育する。

■生存を脅かす要因：開発による山林の伐採、土地造成、スギ植林の管理放棄、生育立地への不適切な管理などである。また、山地域の個体はシカなどの動物による食害も危惧される。

■特記事項：夏緑性ではあるが、丘陵地、台地域に生育するものは春先まで緑の葉が残る。留意事項として、同じ絶滅危惧種のホソバナライシダとの間に雑種タカヤマナライシダが知られ、多摩地域には自生する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 56, 243



シノブカグマ

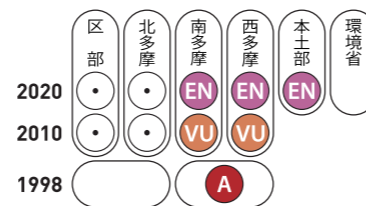
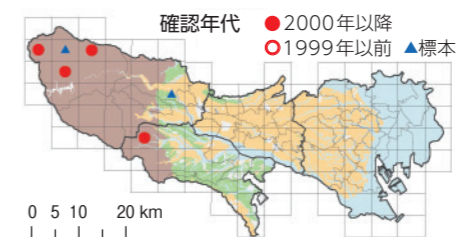
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州の主に亜寒帯から冷温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は三角状楕円形、3回羽状浅～深裂。葉面は薄い黄緑色で、堅い紙質。葉柄、中軸、羽軸には黒褐色の鱗片が目立つ。西多摩では、冷温帯、亜高山帯の落葉樹林、針葉樹林の林床に比較的好く見られる。南多摩では、暖温帯域のスギ植林内などに散発的に出現する。

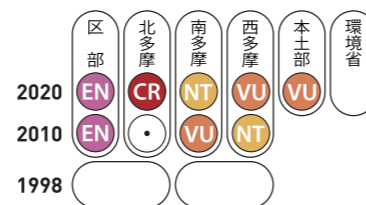
■生存を脅かす要因：南多摩では夏季の暑さを避けられるスギ植林などに生育し、近年の温暖化、スギ植林の伐採や不適切な管理が本要因になる。また、個体数が比較的多い西多摩の高標高域では、シカの生息域と重なるため、その食害が危惧される。

■特記事項：南多摩の暖温帯域では、分布が非常に少ないことからわかるように、本種の分布には温度要因が強く働き、生態的に冷温帯、亜寒帯に適した種である。

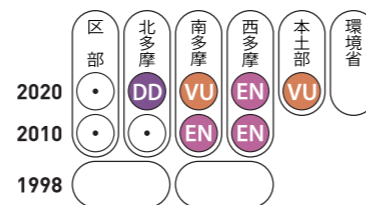
執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 168



町田市 2021年2月5日



八王子市 2014年7月1日



町田市 2020年3月13日

オオカナワラビ

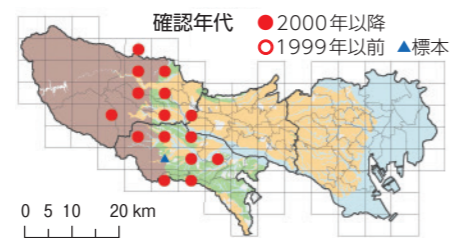
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州の暖温帯域に分布する中型の常緑性シダ。葉身は頂羽片が明瞭で、五角形。葉身は2～3回羽状。最下羽片に矢耳小羽片がある。葉面は光沢のある深い緑色で、堅い紙質。根茎は長く這う。南多摩から西多摩の丘陵部から山地まで、主に谷底部、斜面下部のスギ植林に生育する。

■生存を脅かす要因：開発による山林の伐採や土地造成。スギ植林に生育の場合はスギ林の間伐、枝打ちによる枝や材の下敷きなど本種の生育に不適切な管理。また、シカなどの動物による食害が該当する。

■特記事項：前回のレッドリストではカナワラビの和名であげられている。数年間に渡るモニタリング調査などの場合、過去の調査リストとの照合の際には、留意を要する。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 243



ホソバナライシダ

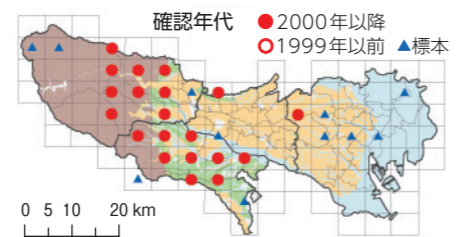
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から暖温帯に分布する夏緑性シダ。葉身は4回羽状で矢耳小羽片があり、五角形。薄緑色で、薄い紙質。根茎は短く這う。ナンゴクナライシダに比べ、裂片が鋭頭で、葉面の毛は小羽片の主脈にまばらである。西多摩、南多摩の山地では沢筋など落葉樹林などの湿潤な林床、丘陵部ではスギ植林の林床に生育する。区部では人為的な環境下に出現し、北多摩でも現存の情報がある。

■生存を脅かす要因：主に、開発に伴う山林の伐採、土地造成である。また、スギ植林の管理放棄や林道整備など本種に不適切な管理も本要因に該当する。山地ではシカなど動物の食害も危惧される。

■特記事項：夏緑性ではあるが、丘陵地、台地域に生育するものは翌春まで緑の葉が残る。区部では、1980年に千代田区で自生が確認されており、練馬区では人為環境ながら現存する。北多摩では、記述から飯泉（1961）の「ナライシダ」が本種と考えられるが、確認地点が埼玉県側の可能性もある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 25, 56, 57, 238, 243



オニカナワラビ

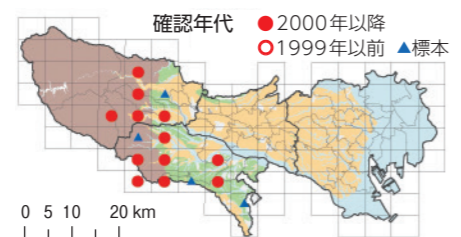
シダ植物 オシダ科

■種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州の暖温帯域に分布する常緑性シダ。葉身は五角状長楕円形で、明瞭な頂羽片はない。葉身は2～3回羽状。最下羽片に矢耳小羽片がある。葉面は光沢のある暗い緑色で、堅い革質。根茎は短く這う。南多摩、西多摩の落葉樹二次林やスギ植林に分布する。丘陵部では土壌の深い立地にも生育するが、山地では、主に礫質が多く土壌の薄い立地や谷沿いの岩隙に生育する。

■生存を脅かす要因：開発による森林伐採、土地造成、それに生育立地への小規模改変を加える不適切な管理である。動物の食害を受けており、ウサギと思われる動物の食害を確認したことがある。

■特記事項：頂羽片の有無がハカタシダとの区別点になるが、羽片の少ない小型の個体や状態の悪い個体では、ハカタシダとの区別の難しいものもある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 243, 312



ミドリカナワラビ

Arachniodes nipponica

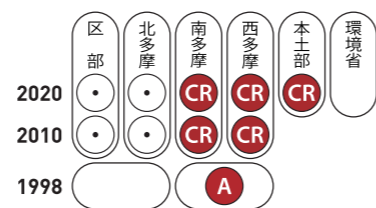
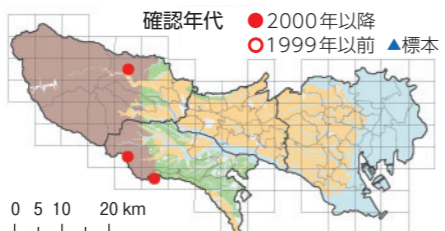
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東以西）、四国、九州の主に暖温帯上部に分布する常緑性シダ。葉身は五角状楕円形、3回羽状、明瞭な頂羽片はない。葉面は弱い光沢のある深緑色で、葉質は柔らかい紙質。葉柄はややピンク色を帯びる。根茎は匍匐し、葉を隔生する。南多摩から西多摩の湿潤な沢筋のスギ植林などの林床に生育する。

■ **生存を脅かす要因**: 山林の伐採や山林の不適切な管理。また、一般的には近年の温暖化により、山地での雲霧の発生頻度が低下したことも本要因に該当する。シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**: 主に西南日本に分布するシダである。しかし、その垂直分布の中心は、雲霧の発生頻度が高い暖温帯上部である。東京都本土部ではスギ植林での確認が多いが、本種にとってスギ植林は、夏季の乾燥、酷暑をさける避難所（レフュージア）的な立地と考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 243



青梅市 2020年1月24日 © 内野秀重

メヤブソテツ

Cyrtomium caryotideum

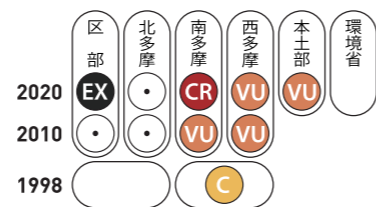
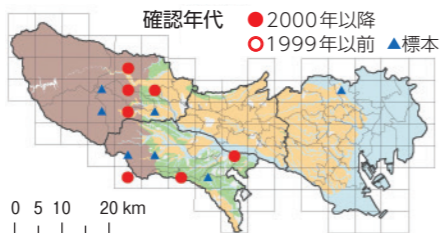
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東以西）、四国、九州の暖温帯域に分布する中型の常緑性シダ。葉身は長楕円形で、単羽状で羽片は主に6〜7対以下。羽片には鋭い耳垂があり、辺縁には顕著な細かい鋸歯がある。葉面は明るい黄緑色で、葉質は紙質。葉裏の孢子嚢群は円形。石灰岩地を好むことが知られているが、石灰岩以外の露頭にも生育する。西多摩では主に石灰岩地に分布し、南多摩では丘陵部にも分布するが（非常に稀）、主に高尾山周辺のスギ植林などに出現する。

■ **生存を脅かす要因**: 生育地である山林の伐採、生育する樹林の小規模な人為攪乱（不適切な管理）や、露岩地に生育するため石灰岩などの採石事業である。また、分布が山地域に偏るため、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**: 石灰岩の立地だけでなく、場所によっては、安山岩、玄武岩類の立地に生育していることもある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 28, 38, 117, 243, 364



あきる野市 2019年3月27日 © 内野秀重

ミヤコヤブソテツ

Cyrtomium yamamotoi

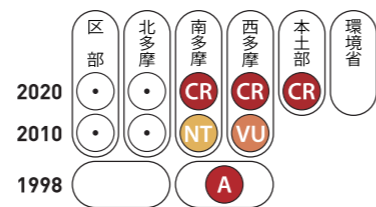
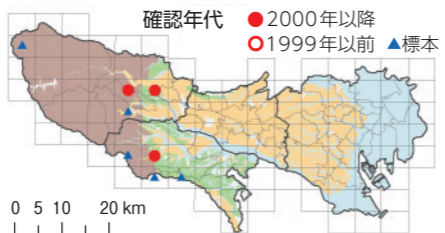
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東以西）、四国、九州の暖温帯域に分布する中型の常緑性シダ。葉身は長楕円形で、単羽状全縁。羽片は主に10対以上。羽片は鎌型で、羽片腹側の耳垂は顕著ではない。葉面は淡緑色で、厚い紙質。葉裏の孢子嚢群は円形で中心が黒くなる。谷沿いの緩斜面地に他のヤブソテツ類と混生することが多い。

■ **生存を脅かす要因**: 生育地である山林の伐採、スギ植林など生育地の不適切な管理。それに、シカなどの動物による食害もあげられる。

■ **特記事項**: 地史、地質が共通する小仏地域（八王子市、旧相模湖町、旧藤野町）の神奈川県側では、比較的本種が多い。この地域では、津久井湖の河岸段丘地（約5200万年前から3200万年前に海溝で複雑に変形した地層）に本種が見られる。都内八王子市の高尾周辺（約1億年前から6500万年前に海溝で複雑に変形した地層）での確認個体は、この神奈川県側からの連続した、大きな個体群の一部とも考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 99, 118, 243, 364



八王子市 2015年11月11日

イワヘゴ

Dryopteris atrata

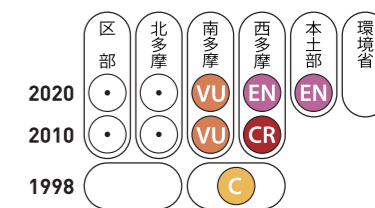
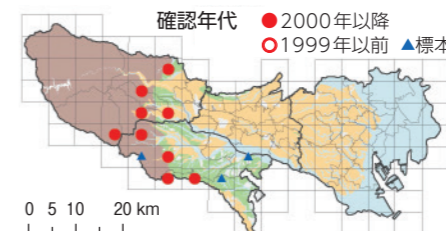
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州、四国、九州にかけて分布する常緑性シダで、中国大陸にも産する。葉身は40cmを超え単羽状、葉柄基部には黒褐色の鱗片が密生、葉柄上部にかけて次第に疎になる。太平洋側地域を中心に、空中湿度が高いスギ林下で見られる。都内では南多摩地域を中心に分布が多い。

■ **生存を脅かす要因**: イワヘゴ類全体に共通して乾燥に弱いため、空中湿度の低下を招くような環境変化、特に森林伐採は直ちに生育を脅かすと考えられる。また、シカ食害を受けやすいので、早い段階で防護柵を設ける必要がある。

■ **特記事項**: 少なくとも日本産の個体は、九州に分布する希少種のツツイワヘゴ *D. tsutsuiana* と、徳島県及び鹿児島県に隔離分布する希少種のキリシマイワヘゴ *D. hangchowensis* の雑種起源のシダである可能性がある。また、酷似し、やや羽片が外側につくキヨスミオオクジャク *D. namegatgae* とは遺伝子構成上区別が困難である。

執筆者 堀清鷹
文献一覧 243, 337



八王子市 2007年7月31日 © 内野秀重

ハチジョウベニシダ

Dryopteris caudipinna

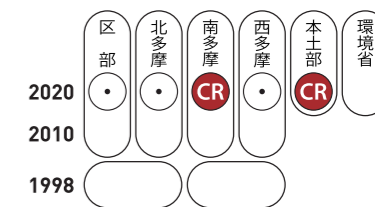
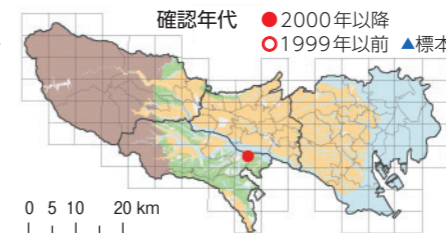
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（関東地方以西）、四国、九州に分布する常緑性シダで、日本固有種である。日本産ベニシダ類の大半は三倍体無配生殖型であるが、本種は珍しい二倍体有性生殖型であり、1孢子嚢あたりの孢子数が有性生殖型で64個である。形態的にはベニシダに類似するが、羽片、小羽片が細長くなる傾向が強く、葉質はしばしば薄く繊細である。東京都島嶼部においては普通に分布するが本土部では珍しく、古寺境内の林内で20個体程度の小群落が見つまっているだけである。

■ **生存を脅かす要因**: 本種の生育地は竹林にあり、竹の間伐・管理放棄により、容易に群落が消滅する恐れがある。一方、竹を皆伐してしまうと乾燥化し生育状況が悪化してしまう恐れがあるので、現状維持が推奨される。

■ **特記事項**: 本種とマルバベニシダの交雑によって生じたと考えられるベニシダとは外見的な識別が難しく、自生地が見逃されている可能性が高く、都内全般における実態調査が必要である。なお、本種同定のための1孢子嚢あたりの孢子数計測は、6〜7月が最適である。

執筆者 堀清鷹
文献一覧 285, 338



稲城市 2016年6月19日

サイゴクベニシダ

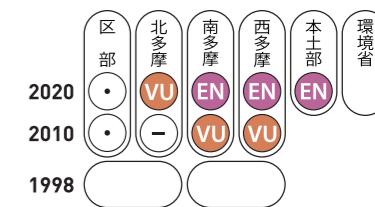
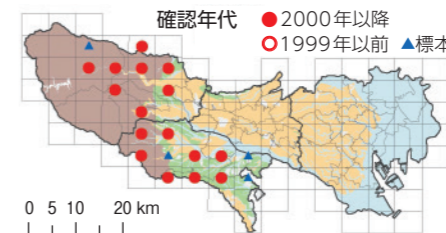
Dryopteris championii

シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**: 本州（東北地方以南）、四国、九州に分布する常緑性シダ。葉身は長さ30〜40cmの2回羽状複葉で広三角形。葉柄には褐色の鱗片が圧着して密生し、葉の向軸側は光沢のある濃緑色である。中国固有のアラゲベニシダ *D. tsoongii* とマルバベニシダの雑種起源のシダであり、前者の遺伝子を2つ、後者の遺伝子を1つもつ。中軸の密な褐色の鱗片はアラゲベニシダに由来する。孢子嚢群はアラゲベニシダが辺縁寄り、マルバベニシダが中肋寄りなのに対し、本種は中間生である。国内では東海〜西日本を中心によく見られ、その他の分布は散発的である。都内では丘陵地〜低山部の水はけのよい林内・林縁に散生する。

■ **生存を脅かす要因**: 本種は水はけが良く乾燥気味の環境を好み、多少の環境変動には耐性があると考えられる。しかし、分布拡大能力は低く、土地造成による生育基盤の改変、園芸目的の採集行為などにより、個体や群落の著しい衰退が懸念される。

執筆者 堀清鷹
文献一覧 243, 338, 347



八王子市 2010年6月19日 © 内野秀重

イヌイワヘゴ

Dryopteris cycadina

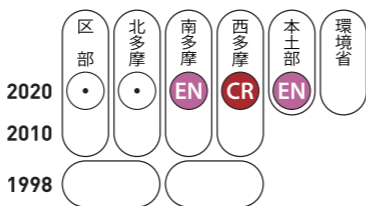
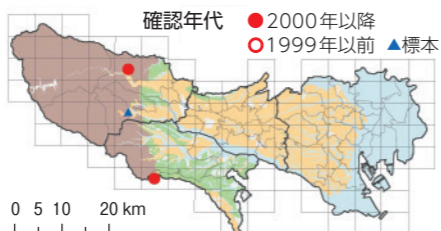
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本種は日本（関東以西）から中国、東南アジアまで幅広く分布するが、その実体については分からない点が多い。外見上は葉の向軸側が白っぽく無光沢で平坦なことから、葉柄基部の鱗片が明るい褐色の傾向が強くなる点で酷似するイワヘゴと区別される。太平洋側地域を中心に、空中湿度が高いスギ林下で見られる。都内では南多摩と西多摩の丘陵地や渓谷の温暖潤湿な環境で見つかった。

■ **生存を脅かす要因**：イワヘゴ類全体に共通して乾燥に弱いため、空中湿度の低下を招くような環境変化、特に森林伐採は直ちに生育を脅かすと考えられる。また、シカ食害を受けやすいので、早い段階で保護対象の群落を選定し、防護柵を設ける必要がある。

■ **特記事項**：最近の研究では、少なくとも日本産に関して、イワヘゴと遺伝的に区別できることが明らかとなっている。本種はイワヘゴと異なり、ツクシオオクジャク *D.handeliana* の遺伝子をもたない。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 56, 337



八王子市 2013年12月26日

ナチクジャク

Dryopteris decipiens

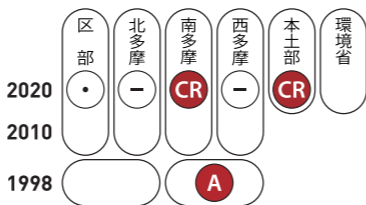
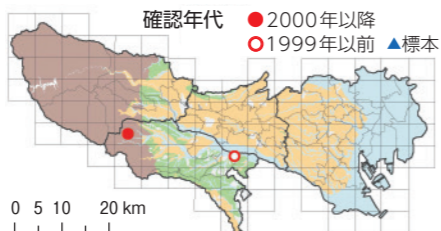
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（千葉県以西）、四国、九州に分布する常緑性シダ。本種は単羽状であり、ベニシダ類の中でも特徴的な形態をしている。国内では温暖な林内で、チャート質の乾いた岩場や硬い地盤の斜面等にやや稀産する。都内では本種の生育に適した環境が少なく、元々個体群が定着しにくい。都内では1992年に南多摩の丘陵部において採集された後、2019年には南多摩の山地谷筋の岸壁において生育が確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：本種は水はけが良く乾燥気味の環境を好む傾向にあるが、直射日光は好まないため、森林伐採は存続に影響を与えると考えられる。一方で、植生が疎な環境に多いので、管理放棄による遷移も本種の存続に影響を及ぼす可能性がある。

■ **特記事項**：2回羽状複葉のマルバベニシダと外部形態は完全に連続し、中間型をイヌナチクジャクと呼ぶこともある。なお、ナチクジャク・イヌナチクジャク・マルバベニシダの3種は遺伝子構成上では区別できず、雑種関係も明確ではない。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 13, 311, 338



八王子市 2019年1月7日

オオクジャクシダ

Dryopteris dickinsii

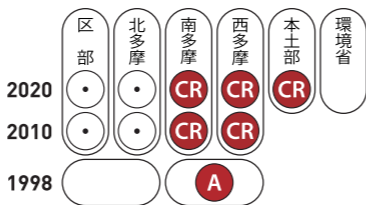
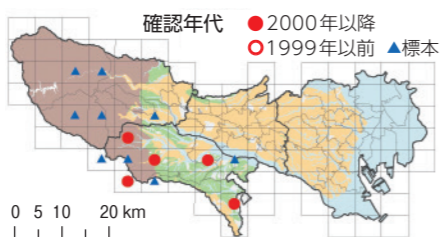
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本種は日本から中国を主な分布域とし、ツクシオオクジャク *D.handeliana* と未知種の雑種起源の常緑性シダである。日本産イワヘゴ類の中でも特徴は分かりやすく、葉身はやや小型で長さ30～40cmの単羽状であり、孢子嚢群が辺縁寄りに付き、明るい黄緑色の羽片の向軸側には明瞭に窪んだ葉脈がみられる。太平洋側地域を中心に、空中湿度が高いスギ林下で見られるが、比較的標高が高いか、もしくは低地でも冷涼な場所に多い傾向がある。都内では南多摩から西多摩の山地沢沿いの植林地や丘陵谷戸などで稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：空中湿度の低下を招くような環境変化、特に森林伐採は直ちに生育を脅かすと考えられる。また、シカ食害を受けやすいので、早い段階で保護対象の群落を選定し、防護柵を設ける必要がある。

■ **特記事項**：羽片の切れ込みが深い個体は時々オクマワラビとの雑種であるハコネオオクジャクと誤認されることがある。切れ込みの程度には変異があるので注意深い同定が必要である。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 243, 337



日の出町 2003年8月26日

マルバベニシダ

Dryopteris fuscipes

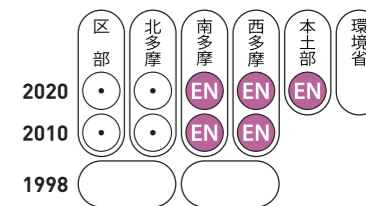
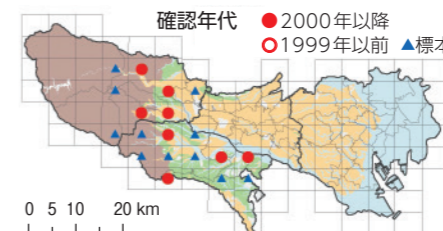
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する常緑性シダ。本種の特徴は、葉身が長さ30cm程度の2回羽状複葉で、羽片の向軸側がくすんだ光沢をもち、孢子嚢群が明瞭に軸に寄ること、葉柄基部の鱗片が赤褐色であることである。国内では温暖な林内で、水はけのよい土質の道沿いや斜面下部にやや普通に見られる。都内では南多摩や西多摩の丘陵から低山にかけての乾燥した樹林下などに点在するが、個体群の発達はほとんど見られない。

■ **生存を脅かす要因**：本種は水はけが良く乾燥気味の環境を好む傾向にあるが、直射日光は好まないため、森林伐採は存続に影響を与えると考えられる。また、災害による斜面の崩落も本種の存続に影響を及ぼす。

■ **特記事項**：区部や北多摩においても未確認の分布情報があり、実態を確認する必要がある。マルバベニシダは時々小羽片の先端が丸くならず尖ることがあるため、乾燥標本では時折ベニシダと混同される。本種は包膜が赤色にならないので、孢子嚢群が新鮮な初夏～夏の時期に確実な同定を行う必要がある。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 338



あきる野市 2019年11月13日

サクライカグマ

Dryopteris gymnophylla

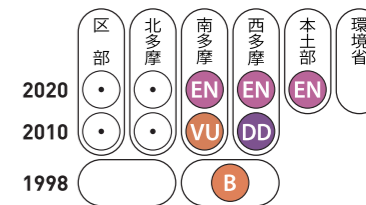
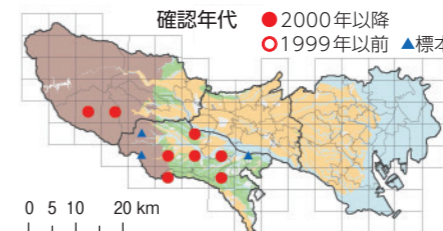
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、九州（大分）に分布する常緑性シダ。その分布は群馬から神奈川までの関東山地の山裾、丘陵地に集中しており、関東以外では非常に稀なシダである。地下茎は短く横走りする。葉は大きなもので50cm以上になり、葉身は正三角形。2～3回羽状になり、最下羽片は3回羽状。最下羽片には長い柄がある。土壌の薄い礫質土の立地や岩隙に生える。

■ **生存を脅かす要因**：宅地開発による山林伐採、土地造成。また、生育地が路肩の切通し面の場合、吹付などの不適切な管理や草刈りなどの管理の放棄も本要因になる。山地域に分布する個体は、シカなどの動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：小仏地域（八王子市、旧相模湖町、旧藤野町）の神奈川側では、山道の崖や切通し面にはよく見られる。南多摩の確認個体は、この神奈川側から連続した、大きな個体群の一部とも考えられる。

執筆者 宮崎卓 文献一覧 99, 117, 135



八王子市 1994年1月9日

ギフベニシダ

Dryopteris kinkiensis

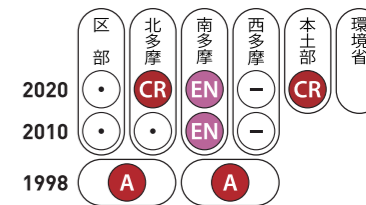
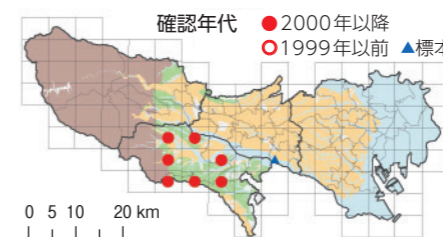
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する常緑性シダ。本種は形態変異の多いベニシダ類の中でも比較的分かりやすい特徴をもつ。葉身は細長く、長さ20～30cmの2回羽状複葉で、褐色の鱗片が葉柄から葉軸に粘着気味につく。また、ベニシダ類で唯一4倍体有性生殖型なので、1孢子嚢あたりの孢子数は64個である。人家周辺の古い石垣や路傍にやや稀に小群落を形成し、林内などその他の自然環境でも、散発的に1～数個体が見つかるため、本種の確認にあたっては注意深く探す必要がある。この傾向は東京都内でも同様であり、区部を除いた北多摩から南多摩にかけての集落や里山環境に散生する。今後も石垣や路傍に注目して探索すれば、新たな生育地が見つかる可能性がある。

■ **生存を脅かす要因**：石垣など人工的な生育環境は、建造物の改築や道路工事、除草により容易に消滅する恐れがあるので、本種の存続基盤は常に不安定と言わざるを得ない。

■ **特記事項**：本種の保全にあたっては、地域住民の理解を得ることが重要であると考えられる。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 243, 338



八王子市 2015年6月30日

リュウトウイタチシダ

Dryopteris kobayashii

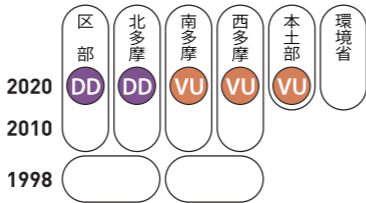
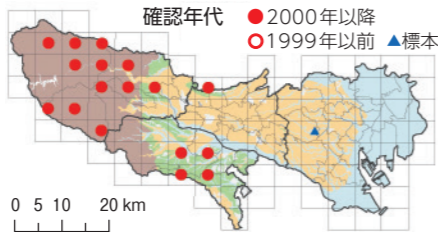
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：本州以西に分布する常緑性シダで、関東地方から東海地方にかけて分布の中心がある。芽出しは白緑色で赤くならない。葉身は長さ20～30cmの長三角形であり、葉質は薄く繊細で、羽片は弓なりに斜上し、葉の向軸側は光沢のない青みがかった黄緑色である。性質はあまり強くなく、都内では南多摩と西多摩の里山林や林道沿いの斜面の直射日光が当たりにくい涼しい場所に生育する。

生存を脅かす要因：本種の生育地は急斜面や道沿いが中心であるため、法面工事や除草、斜面崩落によって生育地が脅かされるおそれがある。

特記事項：近年まで、本種は西日本に分布の中心があるヒメイタチシダ *D. sacrosancta* と同種にされてきた。両種はモトイタチシダ *D. protobissetiana*、ミサキカグマ *D. chinensis* の遺伝子をもつ点で共通するが、ナンカイイタチシダ *D. varia* ではなくイワイタチシダ *D. saxifraga* の遺伝子をもつ点で異なる。西日本地域では、ヒメイタチシダの中に葉身が細長くなる型があるが、芽出しは赤みを帯びるため区別できる。

執筆者 堀清麿
文献一覧 243, 335



八王子市 (植栽) 2022年7月16日

ワカナシダ

Dryopteris kuratae

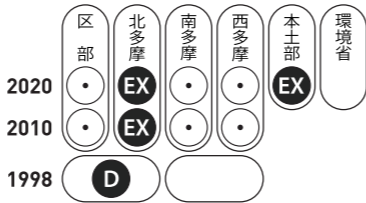
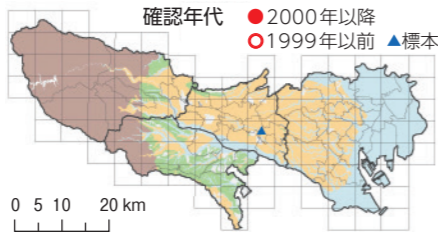
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：本州（関東以西）、四国、九州に分布する常緑性シダ。日本産イワゴシダの中でも特徴は分かりやすく、葉身は長さ30～40cmの単羽状で、羽片の切れ込みがギザギザと三角形になる傾向が強く、葉柄基部の鱗片は明るい褐色である。太平洋側地域を中心に、空中湿度が高く、さらに水流が近くにある場所のスギ林下で多く見られるが、本種の生育環境として山間部よりは平地に目立つ傾向がある。都内では北多摩の平地の湧水地から記録されているが、絶滅したものと考えられる。

生存を脅かす要因：イワゴシダ類全体に共通した特徴として乾燥に弱いため、都市化による森林伐採により生育環境が失われたものと推測される。

特記事項：本種は日本から中国を主な分布域とし、徳島県と鹿児島県に隔離分布する希少種のキリシマイワゴシダ *D. hangchowensis* と、オオクジャクシダと共通の未知種の雑種起源であることが明らかとなっている。

執筆者 堀清麿
文献一覧 68, 181, 337



群馬県 2004年5月

エンシュウベニシダ

Dryopteris medioxima

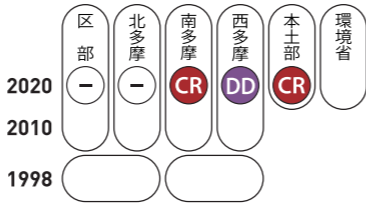
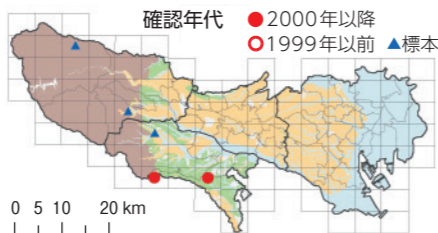
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：本州（関東地方）以西、四国、九州に分布する常緑性シダ。褐色の鱗片がやや密につき孢子囊群が中肋寄りであることから、一見本種はサイゴクベニシダとマルバベニシダの中間的な形態をしていると思われるが、中国産の個体群も含めれば、連続した形態変異の中の一型と見なせる。群落は作らず、西多摩から南多摩の丘陵地から低山の植林地周辺の谷筋林下に1～数個体が点々と見られる。

生存を脅かす要因：各種開発による森林伐採、土地造成が本種の生存を脅かす大きな要因となるほか、園芸目的による採集行為も、分布拡大能力の低い本種の維持に大きな影響を与える。

特記事項：本種はサイゴクベニシダ *D. championii* と同様、中国固有のアラゲベニシダ *D. tsoongii* とマルバベニシダ *D. fuscipes* の雑種起源で無配生殖種である。アラゲベニシダの遺伝子を1つ、マルバベニシダの遺伝子を2つもつ。

執筆者 堀清麿
文献一覧 243, 338



八王子市 2015年11月12日

ミヤマベニシダ

Dryopteris monticola

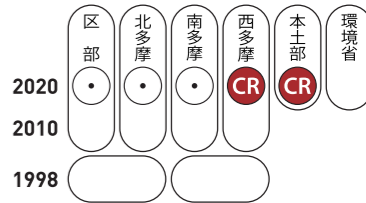
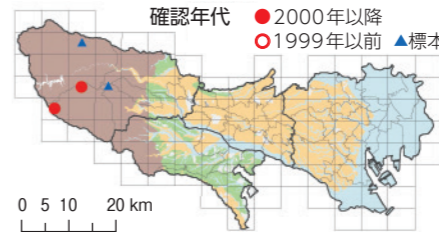
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から冷温帯に分布する夏緑性のシダで、落葉樹林下に生育する。葉身は楕円形、単羽状浅～深裂でオクマワラビに似るが、オクマワラビよりも葉質は薄い。また、オクマワラビの根茎が塊状であるのに対し、本種の根茎は短く横走りする。西多摩の冷温帯域で確認されているが少ない。

生存を脅かす要因：冷温帯から亜高山帯に分布するシダであり、近年の温暖化により、分布下限の上昇が危惧される。また、生育地に影響を及ぼす不適切な立地の管理（改変を伴う林道などの保守、管理作業）、シカによる食害などが本要因である。

特記事項：東北地方では比較的普通のシダであるため、関東地方で分布量が少なくなるのは温度的要因によると考えられる。神奈川県では、多摩丘陵での生育が確認されているが（生育地はおそらくスギ植林）、都内では、こうした低標高域での分布は確認されていない。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 99, 119, 168, 181



檜原村 2020年10月22日

トウゴクシダ

Dryopteris nipponensis

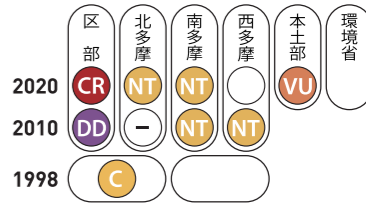
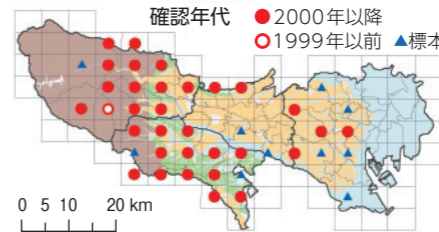
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：本州、四国、九州、琉球列島に分布する常緑性シダ。本種はタカサゴシダ *D. formosana* とハチジョウベニシダ *D. caudipinna* の雑種起源のシダであり、形態変異は連続する。葉身は幅広い三角形であり、裂片の縁には鋭利な鋸歯をもち、最下小羽片第1羽片はやや切れ込む。また、羽軸裏には先端が黒褐色の袋状鱗片が密につく。全国的に、林内の日陰にややふつうに見られるが、あまり大きな群落は作らず、都内では区部から低山にかけての半陰地に散生する。

生存を脅かす要因：本種は直射日光に弱いので森林伐採は本種の存続基盤を脅かす要因となる。分布拡大能力も低いので、土地造成など大幅な生育基盤を改変する、園芸目的で株ごと採集するなどの行為も群落の維持に影響を与える。

特記事項：本種と類似するキノクニベニシダ *D. kinokuniensis* は、葉面が平坦で鋸歯が鈍頭である。また、オオベニシダ *D. hondoensis* は葉柄から羽片基部にかけて、基部が平坦な赤褐色の鱗片をややまばらに付ける点で異なる。

執筆者 堀清麿
文献一覧 57, 338



町田市 2016年11月20日

ミヤマクマワラビ

Dryopteris polylepis

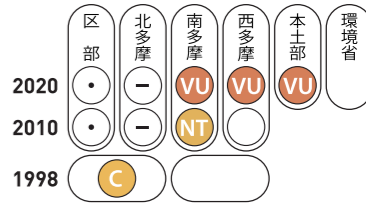
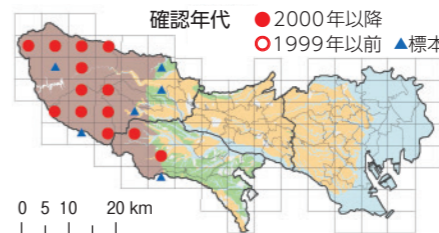
シダ植物
オシダ科

種の特性と生育状況：本州（主に太平洋側）、四国、九州の冷温帯～暖温帯上部に分布する。一般に夏緑性であるが、丘陵部などでは地に伏した葉が翌春まで残る。単羽状長楕円形～狭楕円形の葉を輪生する。近縁のオシダに似るが葉面は薄緑色で、光沢はない。軸、葉柄の鱗片は黒褐色である。また、羽片裂片の側脈は分枝しない。西多摩では、主に冷温帯夏緑樹林の林床に生育し、南多摩では主に北向き斜面のスギ植林地内に生育する。

生存を脅かす要因：南多摩では山林伐採や各種開発とそれによる土地造成。西多摩では、シカなどの動物による食害が要因となっている。特に、西多摩では、最近10年間の動物の食害による減少が著しい。

特記事項：本種の全国分布は近縁種のオシダよりも南下している。一方でオシダに比べて、東京都本土部の丘陵部以下では少ない。このことには、関東平野の丘陵部まで広く分布する黒ボク土が、本種の生育に適さない可能性も考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 119, 168



檜原村 2022年8月23日

ヒメイタチシダ

Dryopteris sacrosancta

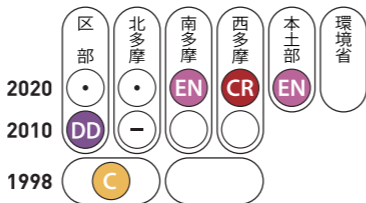
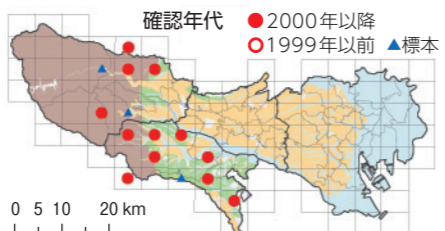
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州以西に分布する常緑性シダ。芽出しは白緑色のタイプと、黄色で赤みを帯びるタイプがある。葉身は長さ20～40cmの五角形に近い幅広の三角形で、葉質はリョウトウイタチシダより厚め、羽片は真っすぐ直線的に伸び出すことが多い。葉の向軸側はやや光沢があり鮮黄緑色である。都内では南多摩と西多摩の丘陵地から山地にかけての林道沿い斜面等に散生し、多くの生育地は個体数が少ないが、30個体を超える規模の群落も確認されている。

■ **生存を脅かす要因**：本種の性質はリョウトウイタチシダよりは直射日光に耐え、強健であるが、生育地は急斜面や道沿いであることが多いため、法面工事や除草、斜面崩落によって生育地が脅かされるおそれがある。

■ **特記事項**：本種は近年まで、関東～東海地方に分布の中心があるリョウトウイタチシダと同種と扱われてきた。両種はモトイタチシダ、ミサキカグマの遺伝子をもつ点で共通するが、イワイタチシダではなくナンカイイタチシダの遺伝子をもつ点で異なる。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 243, 335



八王子市 2014年3月28日

ナガバノイタチシダ

Dryopteris sparsa

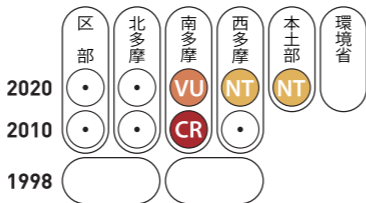
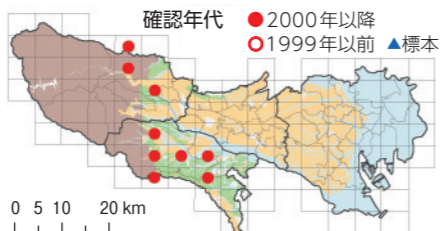
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に分布する常緑性シダ。膜質で褐色の鱗片を葉柄基部につけるが、葉柄中～上部には皆無である。最下小羽片第1羽片は長く伸びる。葉身は長さ20～40cmで、上下の羽片の間隔が空きやすい。葉の向軸側はやや暗い黄緑色である。太平洋側の温暖な地域ではふつうに見られるが、近年になって、より緯度の高い場所から新産地が発見されてきている。都内では南多摩と西多摩の丘陵地から低山にかけて生育し、湿潤な渓谷に限らず里山の雑木林でも見つかっていることから、今後も生育地情報を注視する必要がある。

■ **生存を脅かす要因**：温暖湿潤な環境があれば強健な種であるが、直射日光には弱いの森林伐採は本種の存続基盤を脅かす要因となる。

■ **特記事項**：本種は異質倍数性を有するシダであるが、その起源は未解明である。「イタチシダ」と名がつくが、ミヤマイタチシダ *D. sabaei* に近縁な別の系統の種である。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 243, 336



八王子市 2007年8月27日

イワオオイタチシダ

Dryopteris subhikonensis

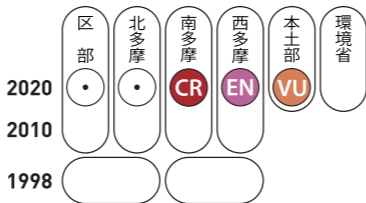
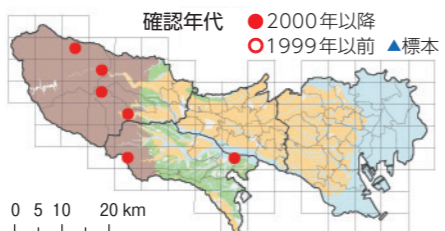
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：オオイタチシダ *D. immixta* に酷似する常緑性シダ。オオイタチシダはナンカイイタチシダ *D. varia* とモトイタチシダ *D. protobissetiana* の遺伝子をもつが、本種はこれに加えてイワイタチシダ *D. saxifraga* の遺伝子をもつのが和名の由来である。分布はオオイタチシダに比べ内陸部や日本海側に偏る傾向がある。葉身は長さ20～40cmの五角形に近い幅広の三角形～長三角形であり、葉質はオオイタチシダより薄めで、葉の向軸側は光沢の少ない暗緑色、小羽片の裂片先端の鋸歯は低く全縁に近くなり、包膜は全縁で毛状突起はない。性質は弱く、群落もあまりつづらない。都内では西多摩地域の沢沿いのやや標高が高く暗い岩場に点在するほか、南多摩の丘陵地でもわずかにみられる。

■ **生存を脅かす要因**：本種の生育地は急斜面や道沿いが中心であるため、法面工事や除草、斜面崩落によって生育地が脅かされるおそれがある。

■ **特記事項**：包膜の毛状突起の有無は、実体顕微鏡下で数十個の孢子囊群を確認して判断する必要がある。

執筆者 堀清鷹 文献一覧 335



稲城市 2019年11月23日

タニヘゴ

Dryopteris tokyoensis

シダ植物
オシダ科

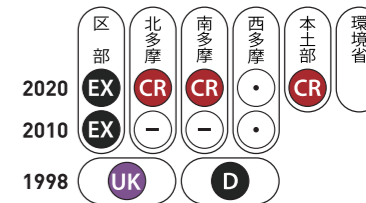
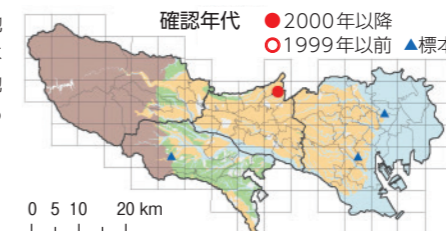
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の亜寒帯から暖温帯まで広く分布する湿地性植物である。寒冷地に多く、暖温帯では冷たい水の湧き出す湿地、貧栄養の湿地に生育する。塊状の地下茎から、長楕円形～狭楕円形、単羽状浅～中裂の葉を放射状に展開する。葉身下部の羽片は、葉身中部に比べ徐々に短くなる。都内では、元々は丘陵部の山裾の湿地、台地の崖線部の湧水地などに生育していたようである。

■ **生存を脅かす要因**：一般的に、丘陵地の開発による土地造成、湿地の埋め立て、開発に伴う湧水地の消失、湧水の枯渇、里山の管理放棄による谷戸の荒廃である。また、北多摩の個体群に関しては、調整池内に生育しており、数十年に一度の大きな洪水がおこった場合、個体群そのものが流出する危険がある。

■ **特記事項**：区部では、1970年代までの生存が文献で確認できる。南多摩では山裾の湿地に生育との情報もあるが、標本を伴う記録は1960年代までしかない。北多摩では、調整池内のヤナギの低木林に10個体以上が生育するが、生育面積としては非常に狭い。

執筆者 宮崎卓

文献一覧 57, 116, 117, 243, 270



清瀬市 2016年7月26日

ホソイノデ

Polystichum braunii

シダ植物
オシダ科

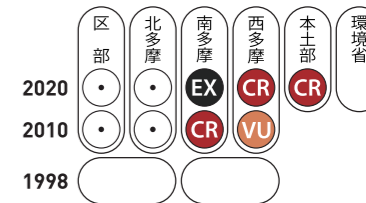
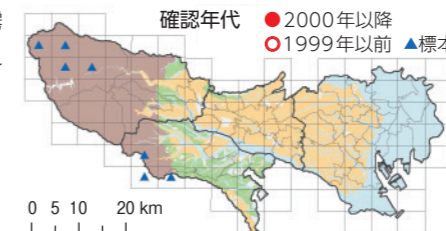
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部以北、鳥取、山口）の主に亜寒帯から冷温帯域に分布する夏緑性シダ。葉は光沢があり、紙質で深緑色。葉身は長楕円形、2回羽状で、下部の羽片は縮小する。孢子囊群は中肋より。西多摩では、主に冷温帯の渓谷に分布し、南多摩では暖温帯上部で記録がある。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布の少ない局所分布の種である。生育地が国立公園内で大規模な改変の可能性は少ないが、改変を伴う山林管理の場合は、保全に留意する必要がある。近年の温暖化により、垂直分布の下限が上昇する可能性がある。また、シカの食害が危惧される。

■ **特記事項**：南多摩では、もう40年以上確認されていない。もし、南多摩に現存しているなら、夏の暑さを遮られる立地、湿潤な渓谷や雲霧のかかりやすい斜面林に生育すると考えられる。

執筆者 宮崎卓

文献一覧 117, 243



山梨県 1989年6月5日

アスカイノデ

Polystichum fibrillosopaleaceum

シダ植物
オシダ科

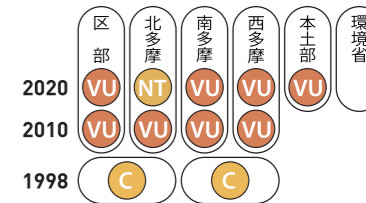
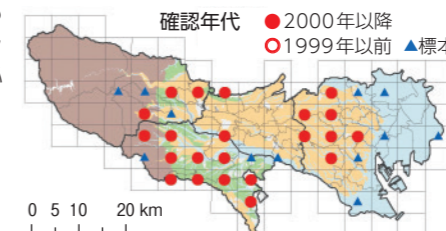
■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部から紀伊半島の太平洋岸）、伊豆諸島に分布する日本固有の常緑性シダ。葉身は革質で光沢があり、2回羽状長楕円形である。軸、葉柄に線形～糸状で全縁の鱗片が密に付く。根茎は塊状。区部から西多摩までの台地、丘陵部に分布し、その分布は概ね古東京湾の範囲に一致する。社寺林などの常緑樹林、スギ植林に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：分布の中心である古東京湾の範囲が、人間活動の場と重なるため、都市化、宅地化が本種の生存を脅かす最も大きな要因である。また、山林伐採や生育地のスギ植林での不適切な管理も本要因に該当する。

■ **特記事項**：過去にイノデの変種と扱われており、田川（1954）でも「葉柄下部の鱗片はほとんど全縁」と現在の本種とは異なる形質で、定義されていた（本種は鱗片が全縁）。古い標本の中には、イノデの1型を本種にあてたものもあり、証拠標本をとまなわいフローラリストからの本種の引用は、慎重を期する必要がある。

執筆者 宮崎卓

文献一覧 69, 112, 118, 188, 189, 342, 354



町田市 2020年10月20日

チャボイノデ

Polystichum igaense

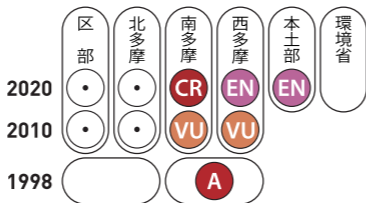
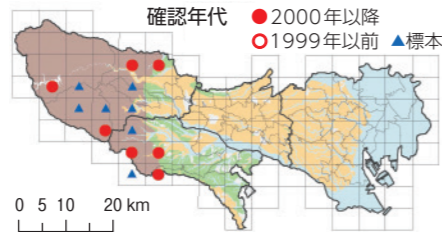
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以南）、四国、九州の主に暖温帯域に分布する常緑性シダ。イノデ類の中では小型で、葉は概ね長さ50cm以下。イノデモドキに似るが、イノデモドキの胞子囊群が裂片から、胞子囊1個分内側に付くことに対し、本種では辺縁ギリギリに付く点が異なる。南多摩から西多摩の山地に分布し、主にスギ植林などに生育する。

■ **生存を脅かす要因**：主な要因は山林の伐採、生育地である植林の管理の際に個体が傷められることである。また、山地域に分布するため、シカなど動物の食害を受けることも危惧される。

■ **特記事項**：イノデモドキの小型品と紛らわしい。疑問な個体は胞子囊群の位置を確認した方がよい。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 28, 118



青梅市 2021年12月28日

アイアスカイノデ

Polystichum longifrons

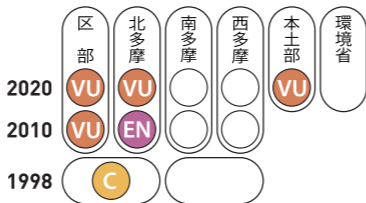
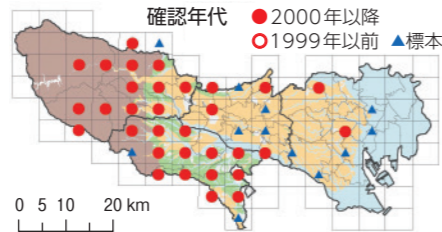
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（東北南部以南）、四国、九州の暖温帯域に分布する日本固有の常緑性シダ。葉は光沢のある革質で、放射状に展開する。葉身は長楕円形、2回羽状で、軸、葉柄に狭披針形～線形で全縁の鱗片が付く。一般に、常緑樹林やスギ植林の林床に生育する。絶滅危惧種対象の区部、北多摩では都市の残存緑地内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：宅地化、都市化による山林伐採、土地造成で生育立地の樹林が消失したこと。残存樹林においても、地下水の枯渇などによる樹林内の乾燥化が本要因としてあげられる。

■ **特記事項**：関東地方では比較的良好に見られる地域もある。しかし、全国的には西日本で非常に少なく、複数の県で絶滅危惧I類に選ばれている。局所分布というほどではないが、それに近い分布の偏りを持つ種である。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 356, 360, 367, 369, 370



八王子市 2021年3月4日

オオキヨズミシダ

Polystichum mayebarae

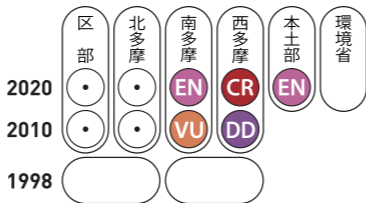
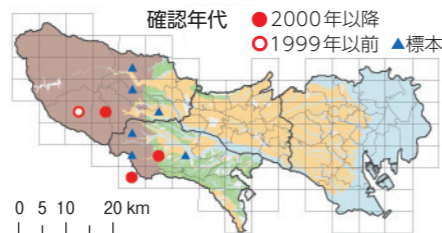
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（福島南部以南）、四国、九州の暖温帯域に分布する常緑性シダ。葉は光沢の弱い硬い革質。オニイノデに比べ深く切れ込み、小羽片は浅裂する。小羽片の基部は羽軸に流れず、小羽片の柄は不明瞭。軸、葉柄の鱗片は暗褐色～黒色。南多摩から西多摩の山地に分布し、土壌の薄い礫質の立地や岩隙に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採。露岩地に生育するため、採石事業が脅威になることがある。

■ **特記事項**：東京都本土部で観察する限りは、ヒメカナワラビよりも湿潤立地まで見られる。若い葉では鱗片が明るく、若い葉を付けた大株では、オニイノデと紛らわしい個体もある。なお、オニイノデの方も越年葉では鱗片が黒っぽくなる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 173



八王子市 2014年3月23日

トヨグチイノデ

Polystichum ohmurae

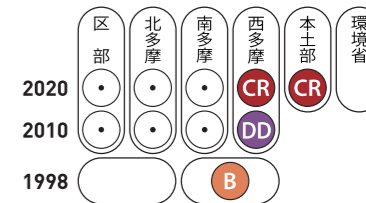
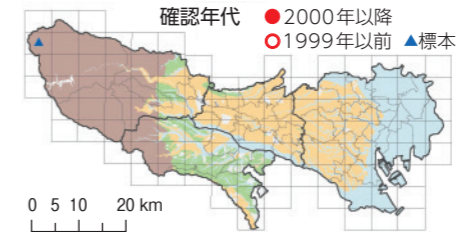
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方、中部地方の亜高山帯に分布する夏緑性シダ。ホソイノデに似るがホソイノデに比べて、葉身下部の羽片の縮小が弱く、胞子囊群が辺縁に付く。都内では西多摩の亜高山帯樹林下に少数が生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともとの分布が少ない局所分布の種である。また、分布域が亜高山帯に限られる。このため、わずかな環境の悪化（乾燥化、温暖化）にも影響を受ける。さらに、シカの活動が亜高山帯まで認められており、その食害が危惧される。

■ **特記事項**：日本固有種であり、胞子が風散布するシダ植物としては分布域が狭い。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 117, 173



長野県 2008年9月

サカゲイノデ

Polystichum retrosopaleaceum

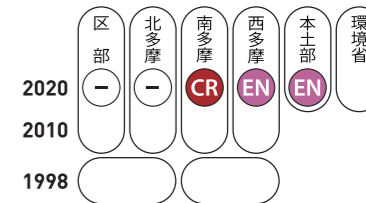
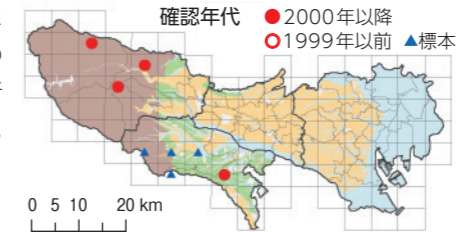
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州（大分県）の主に亜寒帯から冷温帯域に分布する夏緑性シダ。葉は光沢のない紙質で、淡緑色。葉身は長楕円形、2回羽状である。軸の鱗片は裏面で下向きに圧着する。西多摩では主に落葉樹林の沢筋などに生育するが、南多摩の低地ではスギ植林に出現することが多い。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採や樹林の不適切な管理が該当する。冷温帯のシダであり、南多摩など低地の個体は近年の温暖化が脅威になる可能性がある。また、主に山地に分布するため、動物の食害も危惧される。

■ **特記事項**：低地では、本種は主にスギ植林に出現する。一般に、スギ植林では同サイズのスギが林冠を作り、林内の温度、湿度が一定に保たれる。このため、低地に分布する場合の本種にとって、スギ植林は生育立地や避難所（レフュージア）の役割を果たしていると言える。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118



奥多摩町 2019年5月25日

オニイノデ

Polystichum rigens

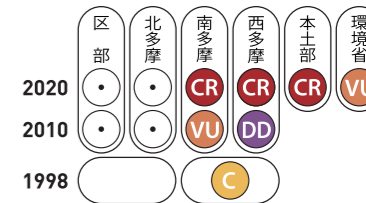
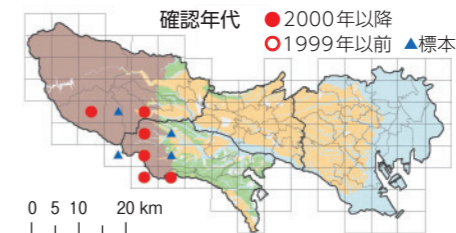
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、東海、近畿、山陽に散在）、四国（高知県）の暖温帯域に分布する常緑性シダ。葉は光沢のある硬い革質で、葉身は長楕円形、2回羽状。オオキヨズミシダやヒメカナワラビに似るが、小羽片の基部は羽軸に流れる。軸、葉柄の鱗片は明褐色だが、展葉後の時間がたつと暗色を帯びる。岩隙や土壌の薄い立地で見かけ、湿潤な渓谷沿いに生育する。東京都本土部では、露岩が見られ、礫質土壌の分布する南多摩から西多摩の低山に分布が偏在する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採。露岩地に生育するため、採石事業が脅威になることがある。

■ **特記事項**：南多摩、西多摩では、ある程度の個体数が見られるが、全国的な分布量は非常に限られている。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 4, 56, 117



あきる野市 2019年2月10日

シムライノデ

Polystichum shimurae

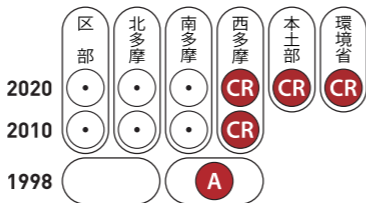
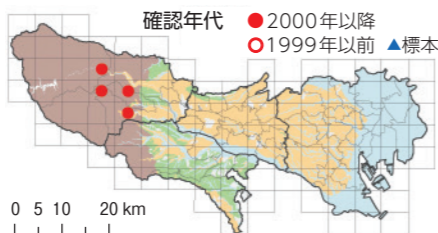
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：東京、神奈川（現存未確認）、静岡に分布する常緑性シダ。カタイノデに似るが、葉にカタイノデほどの金属的な光沢はなく、葉質も革質とはいえカタイノデよりも柔らかい。また、葉柄の鱗片も中心の色が濃くなる程度で、カタイノデのように真っ黒にはならない。包膜の辺縁に鋸歯が出る。西多摩では低山の沢筋に沿ったスギ植林の林床に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布の少ない局所分布の種である。知られている生育地はスギ植林であり、植林の皆伐、皆伐後の転用、植林の管理において個体を傷めるような不適切な管理、アズマネザサなどの繁茂による林床の鬱閉が本要因である。また、シカやその他の動物による食害も危惧される。

■ **特記事項**：国内では上記1都2県に分布する。中国では浙江省に記録があるが、正確な産地が不明（exact locality unknown）とのことである。かなり分布の局限されたシダである。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 99, 118, 350



あきる野市 2020年11月13日

ヒメカナワラビ(キヨズミシダ)

Polystichum tsus-simense

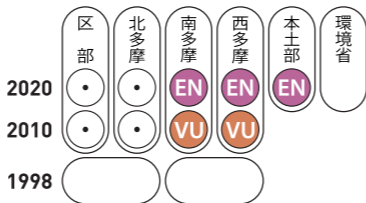
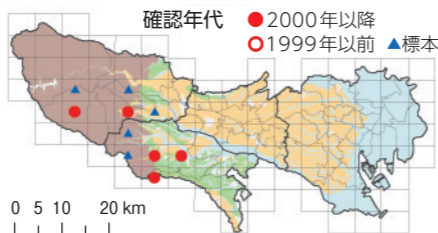
シダ植物
オシダ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（福島南部以南）、四国、九州の暖温帯域に分布する常緑性シダ。葉は光沢のない硬い革質。オニノデやオオキヨズミシダに比べ深く切れ込み、小羽片は中〜全裂する。小羽片基部にははっきりした柄を持つ。軸、葉柄の鱗片は暗褐色〜黒色。南多摩から西多摩の山地に分布し、土壌の薄い礫質の立地や岩隙に生育する。比較的乾いた岩隙にも生育する。

■ **生存を脅かす要因**：山林の伐採。露岩地に生育するため、採石事業が脅威になることがある。

■ **特記事項**：オニノデやオオキヨズミシダのように流れのそばの岩隙など、湿潤立地では見かけない。これら2種よりも乾性立地を好む傾向がある。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 118, 173



あきる野市 2018年10月15日

シノブ

Davallia mariesii

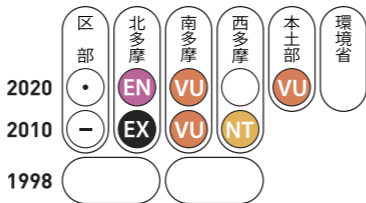
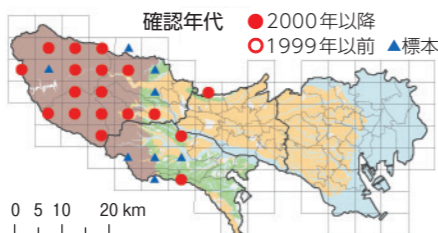
シダ植物
シノブ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州の冷温帯域から亜熱帯に分布する夏緑性の着生シダ。葉はやわらかな紙質で、淡黄緑色。葉は3回羽葉で、20〜30cmの長さ。空中湿度の高い林内の苔むした樹幹や岩壁に根茎を這わせる。南多摩では丘陵から山地に散生する。北多摩では、1961年以前に小金井で記録があり、近年多摩湖周辺でも確認されたようである。

■ **生存を脅かす要因**：生育立地である苔むした古木や岩壁の伐採や撤去、栽培目的の乱獲が本種の生存を脅かす主要な要因である。また、近年の温暖化により霧の発生頻度が低下して、分布範囲が狭められる可能性がある。

■ **特記事項**：ランク外に判定される西多摩では、渓谷の朝日があたりにくい斜面地で、本種を見ることが多い。これらの斜面地では、朝霧の発生も確認している。朝霧のかかる頻度などが、本種の一般的な分布に関係していると考えられる。

執筆者 宮崎卓
文献一覧 25, 119, 213, 231, 270



町田市 2021年7月11日

アオネカズラ

Goniophlebium niponicum

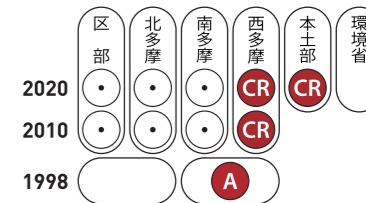
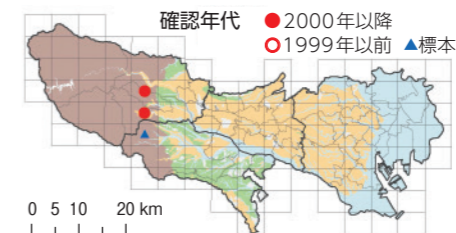
シダ植物
ウラボシ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州に自生する冬緑性シダ。根茎は長く這い、径4〜5mm、肉質、白緑色で、鱗片をまばらにつける。葉柄はわら色、無毛で、長さ7〜15cm。葉身は広披針形から卵状長楕円形、長さ15〜20cm、羽状に深裂する。側裂片は15〜25対あり、水平に開出する。葉質は厚く、柔らかい草質で、表面にはまばらに、裏面にはやや密に短い開出毛がある。孢子嚢群は中肋近くにつき、大きい。暖地の樹幹や岩上に着生する。都内では、西多摩の林内の岩壁に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 56, 132



あきる野市 2019年2月25日

ミョウギシダ

Goniophlebium someyae

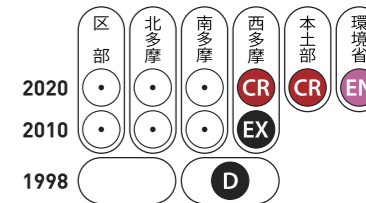
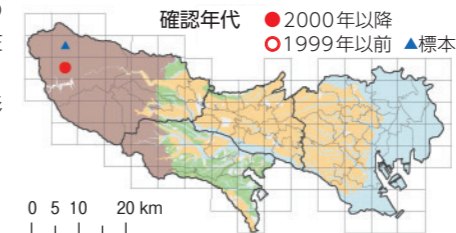
シダ植物
ウラボシ科

■ **種の特性と生育状況**：本州（群馬・埼玉・東京・静岡）、四国（徳島・高知）に局所的に自生する夏緑性シダ。根茎は長く横走り、径3〜4mm、葉柄基部とともに黒褐色の鱗片が密生する。葉柄は長さ10cm前後。葉身は狭卵形から卵形、長さ10〜30cm、幅7〜12cm、羽状深裂する。側裂片は7〜15対、開出し、多少鎌状に曲がり、辺縁には不規則で深い鈍鋸歯がある。葉質は薄い草質。孢子嚢群は中肋と辺縁の中間につく。低山地の岩上に生育する。都内では西多摩に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、基質・基物の減少および消失、採取、局所分布。生育環境の変化や林道工事などによる生息地の破壊、園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：都内では標本で確認されているのみであったが、2018年に再発見された。現在確認されている生育地が比較的人の手が入った場所であり、今後の生育地の改変による影響が懸念される。

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 56, 132, 181



奥多摩町 2020年7月7日

ホテイシダ

Lepisorus annuifrons

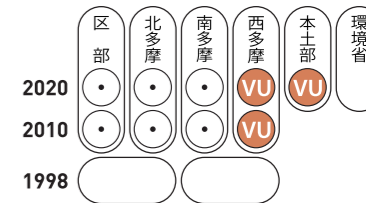
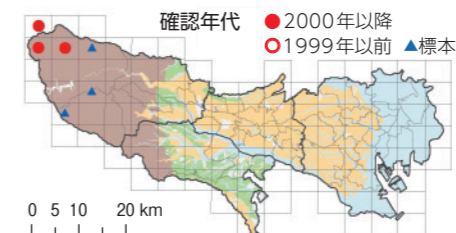
シダ植物
ウラボシ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に自生する夏緑性シダ。根茎は長く這い、やや密に鱗片をつける。葉柄は長さ3〜5cm、葉身は下部が広い披針形、基部はくさび形、上部は尾状鋭尖頭、長さ8〜25cm、幅2〜4cm、葉質は紙質、葉縁は波状。孢子嚢群は円形で径約2mm、中肋寄りにつく。傘形の鱗片がある。冷温帯から暖温帯上部の樹林内でやや明るい岩上、樹幹に生育する。都内では西多摩の山中に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織
文献一覧 37, 56, 132



奥多摩町 2018年6月7日

サジラン

Loxogramme duclouxii

シダ植物
ウラボシ科

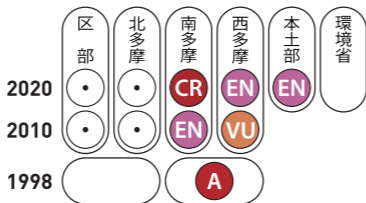
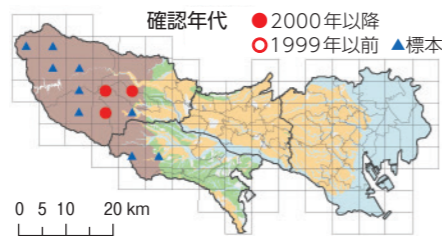
■種の特性と生育状況:本州(福島以南)、四国、九州に自生する常緑性シダ。根茎は長く這い、やや密に鱗片をつける。葉柄は短く、下部は光沢ある紫褐色から黒褐色。葉身は倒披針形、中央よりやや上が最も広く、鋭尖頭、長さ15~40cm。中肋は上面に隆起し、裏面は扁平。群生して下垂する。葉質は厚い革質、暗緑色で無毛。孢子嚢群は葉身の上半分について斜上する。山地の樹林内の岩上や樹幹に着生する。都内では南多摩で近年の確認がなく、西多摩の山地に点在する。

■生存を脅かす要因:森林伐採、基質・基物の減少及び消失。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項:

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56, 219, 243



奥多摩町 2022年3月21日

ヒメサジラン

Loxogramme grammitoides

シダ植物
ウラボシ科

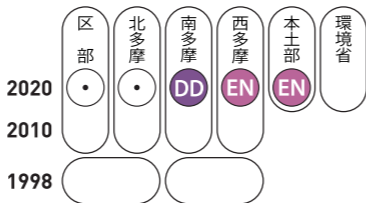
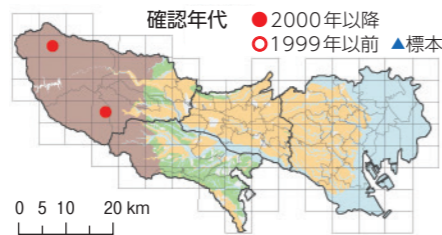
■種の特性と生育状況:北海道から九州に自生する常緑性シダ。根茎は長く横走り、鱗片をつける。葉柄はほとんどないといつていいほど短い。葉身は倒卵形、先端に近いところで幅が最大となり鋭頭から鈍頭、全縁で長さ2~12cm。孢子嚢群は葉の上半分の中肋近くにつき、斜上する。山中の陰湿な場所の岩上にコケ植物に埋もれるように生える。都内では奥多摩の沢沿いの苔むした岩上に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因:森林伐採、基質・基物の減少および消失、局所分布。沢の出水や土砂崩れ、また林道工事などによる生育環境の変化および生育地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項:

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56, 61



奥多摩町 2019年9月1日

イワヤナギシダ

Loxogramme salicifolia

シダ植物
ウラボシ科

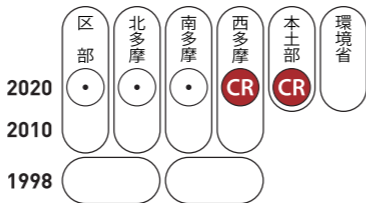
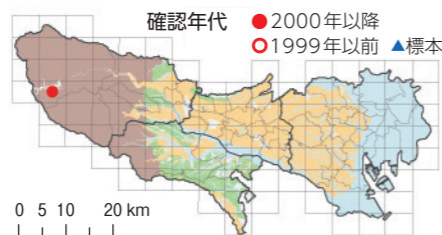
■種の特性と生育状況:本州(千葉県以西の太平洋側)、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性のシダ。葉身は長さ15~40cm、切れ込みがない単葉で全縁、狭倒披針形で革質、孢子嚢群はやや平行的に斜上してつく。サジランによく似ていて、生育環境も類似している。葉柄の色、孢子嚢群がつく角度を識別点とする。岩上や樹幹に着生する。西多摩の山地にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因:森林伐採、河川開発、道路建設。

■特記事項:サジランと誤認されている可能性があり、過去のサジランの記録を精査する必要がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 37



奥多摩町 2021年8月11日

オオクボシダ

Micropolypodium okuboi

シダ植物
ウラボシ科

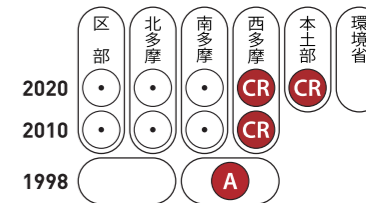
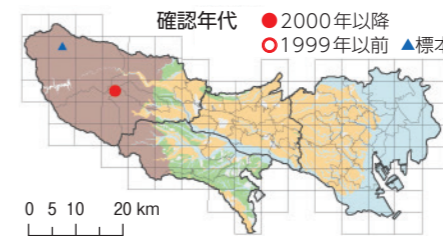
■種の特性と生育状況:本州(秋田県以南・近畿地方以東)、四国、九州に自生する常緑性シダ。葉を叢生する。葉柄基部には褐色で膜質の鱗片がある。枯れた葉が残ることが多い。葉身は、狭披針形、鋭尖頭で、長さ15cm以下のものが多く、羽状に深裂する。側裂片は長楕円形、鈍頭、全縁、長さ3~6mm、両面に赤褐色の開出毛がある。孢子嚢群は楕円形で、羽片の基部近くに1個ずつ並ぶ。山地の岩上や樹幹に着生する。都内では奥多摩の山地に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因:森林伐採、採取、基質・基物の減少及び消失、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や園芸目的の採取が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項:比較的利用の多い登山道脇の生育地点もあり、生育地の環境変化に注意を要する

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56, 132



青梅市 2020年4月8日

クリハラシダ

Neolepisorus ensatus

シダ植物
ウラボシ科

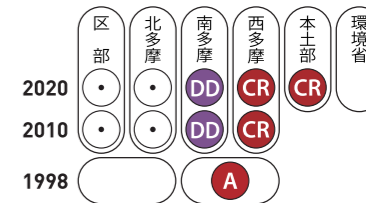
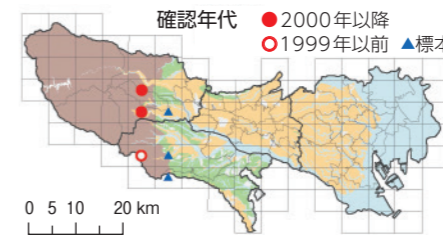
■種の特性と生育状況:本州(関東以西)、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性のシダ。葉身は長さ25~40cm、単葉、広披針形ではほぼ全縁、紙質から薄い革質。葉脈は複雑な網状となる。丘陵から山地の陰湿な林内、岩上などにしばしば群生する。西多摩では丘陵にごく稀に生育する。南多摩では過去の記録があるが、近年の情報がなく生育状況は不明である。

■生存を脅かす要因:森林伐採、道路建設。

■特記事項:栽培の対象となるシダであり、集落周辺などでは自生品か逸出品かの判断を慎重に行う必要がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 181, 230, 243



八王子市 1990年12月18日

カラクサシダ

Pleurosoriopsis makinoi

シダ植物
ウラボシ科

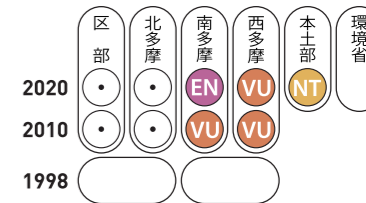
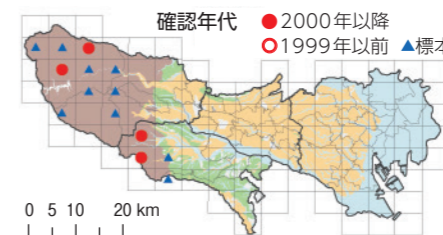
■種の特性と生育状況:北海道、本州、四国、九州に自生する冬緑性シダ。晩夏に芽を出し、翌年夏に葉が枯れる。根茎はコケの間を這い、径約1mm、赤褐色の毛を密生する。葉柄は葉身とほぼ同長。葉身は卵状長楕円形、長さ1.5~7cm、幅1~2cm、羽片は両面に褐色で多細胞の毛を密生する。孢子嚢群は裂片の裏面一面に広がる。深山の岩上、溪流沿いの岩上、樹幹などにコケ類と共に着生する。都内では南多摩や西多摩の山地の溪流沿いに分布する。

■生存を脅かす要因:森林伐採、基質・基物の減少及び消失。樹林内の乾燥化や山林の改変などによる生育環境の変化、沢の出水や土砂崩れ、また林道工事などによる生育適地の消失が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■特記事項:

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56



八王子市 2019年1月2日

オシャグジデンド

Polypodium fauriei

シダ植物
ウラボシ科

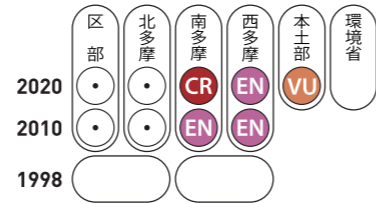
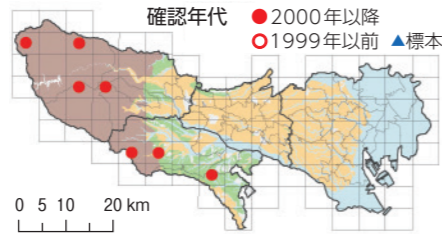
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に自生する冬緑性シダ。夏に落葉する。根茎は這う。先端や葉柄基部に淡褐色の鱗片が密生する。葉柄は長さ3～6cmと短い。葉身は狭卵形から広披針形、長さ5～20cm、幅3～8cm、羽状深裂し、乾燥すると表面に巻き上がる。乾燥標本ではゼンマイ巻きとなる。葉質は草質から薄い紙質、上面無毛、下面にまばらに毛がある。孢子嚢群は辺縁と中肋の間か、やや中肋寄りにつく。深山の樹幹や岩上に着生する。都内では西多摩・南多摩の山地に分布する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採。山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56



奥多摩町 2019年4月25日

エゾデンド

Polypodium sibiricum

シダ植物
ウラボシ科

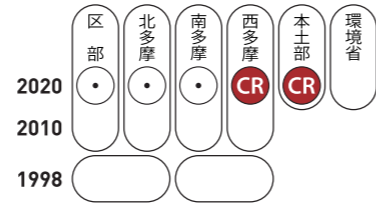
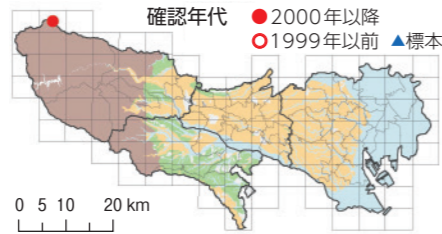
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以東）に自生する常緑性シダ。根茎は横走り、広披針形で中央部が暗褐色、周辺部は淡褐色の鱗片がある。葉柄は長さ5～12cmでわら色。葉身は長楕円状披針形で長さ7～20cm、幅2～4cmで羽状深裂する。無毛。やや小さな鋸歯がある。孢子嚢群は裂片の中肋よりもやや辺縁寄りにつく。乾燥標本にしても巻かない。山地林内の樹幹や岩上に着生する。都内では、西多摩の山地の岩上に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、基質・基物の減少および消失、局所分布。生育環境の変化や林道工事などによる生息地の破壊が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：現在確認されている都内の生育地が比較的人の手が入った場所であり、今後の生育地の改変による影響が懸念される。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56, 61



奥多摩町 2018年10月22日

イワオモダカ

Pyrrosia hastata

シダ植物
ウラボシ科

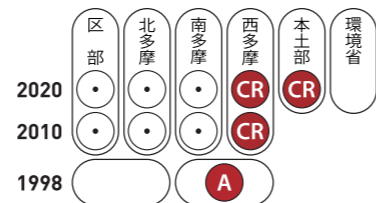
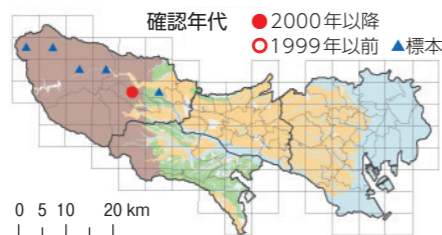
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する常緑性のシダ。根茎は短く這い、多数の葉を叢生する。葉身は長さ25～40cm、ほこ形に3～5裂し、基部は心形から広いくさび形となり、葉裏は灰褐色から赤褐色の星状毛が密生する。山地樹林内の岩崖地や樹幹に着生する。西多摩では石灰岩地に稀に生育するほか、栽培品あるいは逸出品が人家周辺の石垣などにみられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰等採掘、道路建設、採取。園芸目的の採取の対象となり、生存を脅かしている。

■ **特記事項**：栽培の対象となるシダであり、集落周辺などでは自生品か逸出品かの判断を慎重に行う必要がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 168, 181, 230



青梅市 2019年12月21日

ヒトツバ

Pyrrosia lingua

シダ植物
ウラボシ科

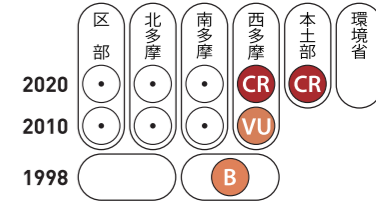
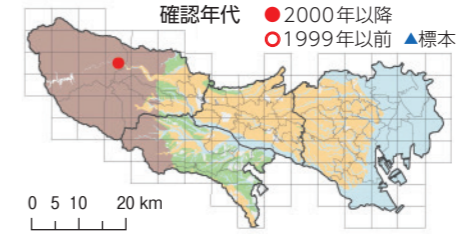
■ **種の特性と生育状況**：本州（茨城以西）、四国、九州、南西諸島に分布する常緑性のシダ。葉身は長さ30～40cm、広披針形、全縁で、葉質は革質、裏面は灰褐色の星状毛を密生する。孢子嚢群は裏面一面を覆う。暖地の乾燥した岩上や樹幹に着生する。西多摩の山地の渓流岩上にごく稀に生育する

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、道路建設。

■ **特記事項**：栽培の対象となるシダであり、集落周辺などでは自生品か逸出品かの判断を慎重に行う必要がある。

執筆者 御手洗望

文献一覧 168, 181, 230



青梅市 2022年9月11日

ミヤマウラボシ

Selliguea veitchii

シダ植物
ウラボシ科

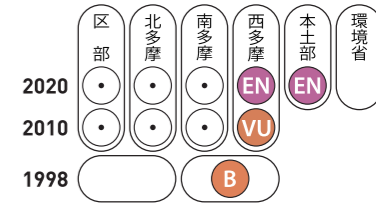
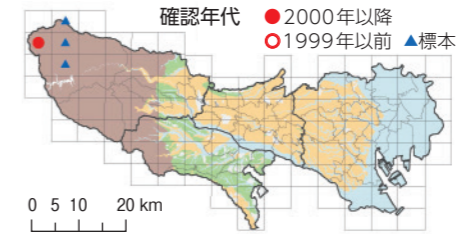
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国（関東・中部地方以外では稀）に自生する夏緑性シダ。根茎は細く這い、淡褐色の鱗片が密生する。葉柄は細く、基部は帯褐色。葉身は羽状に深裂または全裂し、長さ4～25cm、三角状卵形、基部は切形、側裂片は1～5対、開出し鈍頭、辺縁に低い鋸歯がある。葉質は薄い紙質。孢子嚢群は葉の上半から下に向けてつき、中肋に近く並び、円形。山地深部の樹林内の岩場に生育する。都内では西多摩の高所に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、基質・基物の減少及び消失。岩壁、岩上、岩隙などの特殊な立地にあり、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 37, 56



奥多摩町 2022年7月25日

キレハオオクボシダ

Tomophyllum sakaguchianum

シダ植物
ウラボシ科

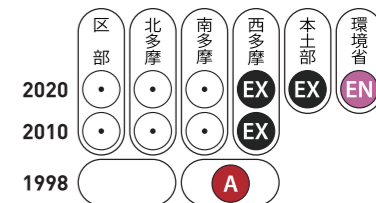
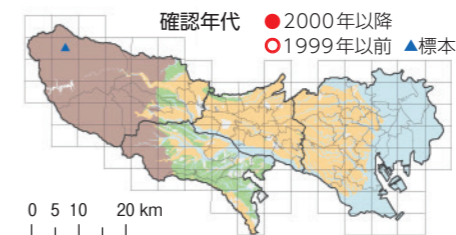
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東から近畿）、九州に分布する常緑性のシダ。根茎は短く、長さ4～8cmの葉を数枚叢生する。葉柄は短く、白色の軟毛が密生する。葉身は線状披針形、羽状全裂する。山地深部の森林内の樹幹や岩上に、蘚苔類に混じって生育する。西多摩の山地で過去に記録があるが、近年の情報がなく絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、河川開発、自然災害。

■ **特記事項**：西多摩では近年の確実な生育情報がなく、現状の把握が必要である。

執筆者 御手洗望

文献一覧 173, 230



埼玉県 2008年7月

シラビソ

Abies veitchii

裸子植物
マツ科

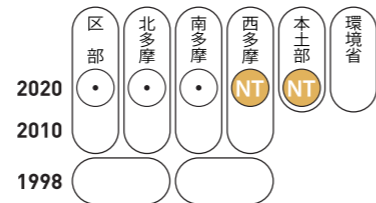
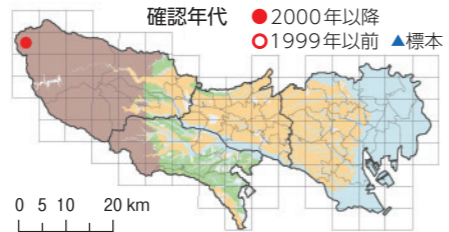
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島県～中部地方・紀伊半島）、四国に分布する常緑高木。高さ25mほどになる。樹皮は灰白色で平滑、横長のヤニ袋が散在する。葉は長さ1.5～2.5cmの先端が凹んだ線形で、裏面には2本の白い気孔帯がある。球果は4～6cm、径1.5～2.5cmの円柱形で若い時は暗青紫色を帯びる。亜高山帯に生育し、都内では西多摩の標高1800m以上の北斜面に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、シカの食害。シカにより、成木では樹皮が剥がされてしまい樹勢が弱ってしまうことに加え、幼木では頂芽が食べられてしまい、更新が妨げられていることも、本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 329



奥多摩町 2022年7月23日

イラモミ

Picea alcoquiana

裸子植物
マツ科

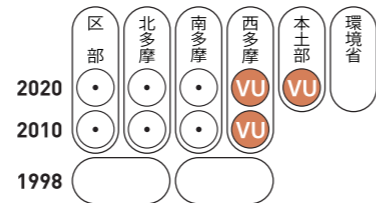
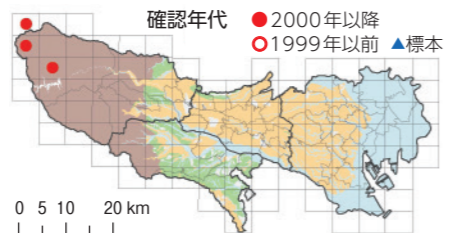
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島南部から岐阜東部）に分布する常緑高木。幹は直立し、高さ約30m、径1mほどになる。樹皮は灰褐色で不ぞろいに亀裂し、厚い鱗片ではがれる。針葉は長さ6～15mm、横断面は菱形。球果は、円柱形で長さ5～12cm、径約3cm、種鱗は菱状倒卵形で長さ2cm、先端部は薄く、細かな切れ込みが多く外側に反ることが多い。山地帯上部から亜高山帯に生育し、都内では西多摩の高標高地の尾根部や山頂周辺に多い。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、過剰利用、遷移進行・植生変化、シカの食害。山林の改変（ササ枯れ、登山道のオーバーユースによる乾燥化も含む）などによる生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。シラネマツハダ var. *reflexa* の型（イラモミの球果の鱗片が外側に反り返る変種）も見られる。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 81, 168, 329



奥多摩町 2009年11月26日

トウヒ

Picea jezoensis var. *hondoensis*

裸子植物
マツ科

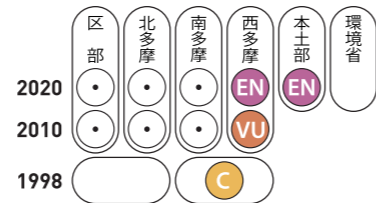
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東、中部、紀伊半島）に分布する常緑高木。幹は直立し高さ30m、径1mほどになる。樹皮は暗赤褐色で、薄い小型鱗片になってはがれる。針葉は断面が扁平で長さ7～10mm。球果は円筒形で、長さ3～6cm、径2～3cm、種鱗は倒卵形で長さ1cm、先端部は薄く不規則な切れ込みがあり、波曲する。亜高山帯に生育し、本州中部では最も高いところに分布するトウヒ類。都内でも西多摩の亜高山帯を中心に高標高地に点在する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、過剰利用、遷移進行・植生変化、シカの食害。山林の改変（ササ枯れ、登山道のオーバーユースによる乾燥化も含む）などによる生育環境の変化やシカの食害が本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 81, 168, 329



奥多摩町 2011年6月9日

ハリモミ

Picea torano

裸子植物
マツ科

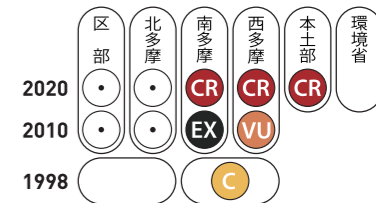
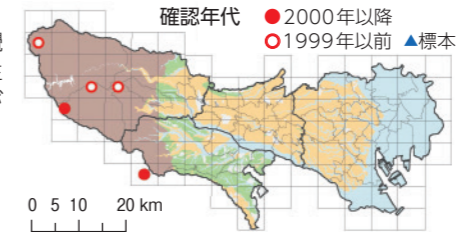
■ **種の特性と生育状況**：本州（福島以西）、四国、九州に分布する常緑高木。幹は直立し高さ約30m、径約1mになる。樹皮は灰褐色から灰黒色、浅く裂け、不ぞろいの鱗片になってはがれる。針葉は長さ15～20mm、やや湾曲し、先端は鋭くとがり、触れると痛い。トウヒ属の中では最も強剛で、ハリモミの名もこれによる。横断面は四角形。球果は卵状長楕円形で長さ7～12cm、径約4.5cm、種鱗は円状倒卵形で長さ2.5cm、先端部が若干波打つ。国内のトウヒ属の中で最も垂直分布が低い。西多摩では山地帯上部の岩がちな尾根部に稀に単木的に生育し、南多摩ではほぼ絶滅状態。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、過剰利用、遷移進行・植生変化、地球環境の変化に伴う温暖化や異常気象災害（台風・集中豪雨による環境変化）。山林の改変などによる生育環境の変化、大型台風や集中豪雨による生息環境荒廃などが本種の生存を脅かす主要な要因であると考えられる。

■ **特記事項**：日本固有種。尾根筋・岩塊地や攪乱によって生じた陽地で更新するため、自生地を含む森林全体の保全対策を講じることが望ましい。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 81, 168, 242, 243, 329



三頭山 2022年8月10日

ヒメコマツ

Pinus parviflora

裸子植物
マツ科

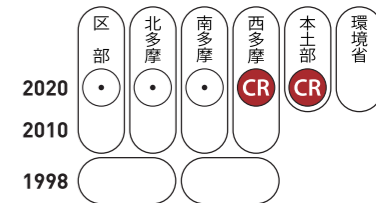
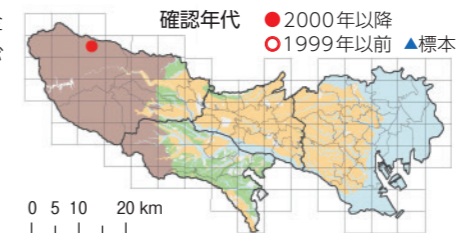
■ **種の特性と生育状況**：北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する常緑高木。高さ30m、直径1mほどになる。樹皮は暗灰色で浅く割れ、薄い鱗片状に剥がれる。葉は5葉性で長さ3～6cm。断面は三角形。球果は長さ5～8cm、直径4cmほどの卵形で種鱗は厚く先端は丸い。種子は長さ1cmほどの楕円形で種子本体より短い翼がある。山地帯から亜高山帯の岩がちな場所に生育する。都内では西多摩の山地帯の岩場に極めて稀に生育している。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、地球環境の変化に伴う温暖化や異常気象災害（台風・集中豪雨による環境変化）、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生息地が山地の岩場であるため、温暖化や異常気象災害による生息地の破壊・消失、環境荒廃など。

■ **特記事項**：日本固有種。隣接県や関東山地全体では比較的に見られる。都内では生育適地が少ないことや、植林のため伐採されてしまったことが少ない原因であると思われる。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 33, 168, 173



奥多摩町 2018年11月26日

ミヤマビャクシン

Juniperus chinensis var. *sargentii*

裸子植物
ヒノキ科

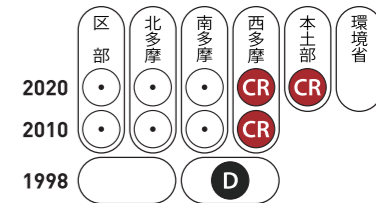
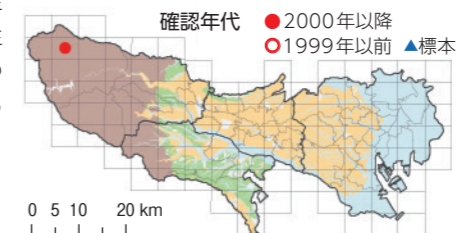
■ **種の特性と生育状況**：全国的に分布する常緑低木。主幹は横に伏し、著しく屈曲し、枝は斜上する。成木では鱗片葉をつけるものが多いが、若いうちは針状葉を混生する。球果はビャクシン（イブキ）に似て肉質液果状で球形、紫黒色で粉白を帯び、径6～8mm。高山や海岸の岩場に生育する。都内では西多摩の山地の石灰岩壁に極めて稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：石灰等採掘、採取、地球環境の変化に伴う温暖化や異常気象災害（台風・集中豪雨による環境変化）、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生息地が山地の岩場であるため、採石による生息地の破壊・消失、大型台風や集中豪雨による生息環境荒廃など。また盆栽用としての園芸採取の危険性もある。

■ **特記事項**：かつて都内の天祖山立岩にも自生があったが、石灰岩採掘のため絶滅した。生育環境が特殊な立地にあるため、現在残るわずかな自生地を周辺環境と一体的に保全することが望ましい。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 168, 173, 206



山梨県 2018年8月23日

ネズミサシ

Juniperus rigida

裸子植物
ヒノキ科

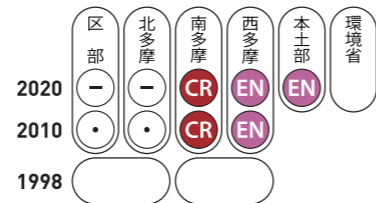
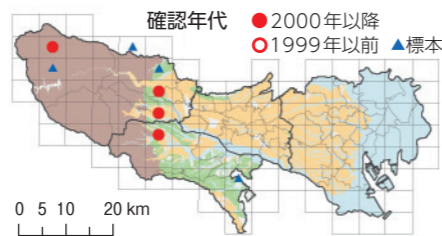
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する常緑低木または高木。大きいもので高さ約10mになる。葉は針状で3輪生し、長さ10～25mm。先端は硬くとがり、表面に深い白色気孔帯がある。雌雄別株。球果は翌年の秋に熟し、黒紫色で粉白を帯びた肉質液果状で球形、径8～10mm。丘陵地や山地の砂地や尾根などやせ地に生育する。都内では南多摩・西多摩の丘陵地において稀に生育するほか、奥多摩の山地の尾根部では石灰岩地に大木が見られる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、遷移進行・植生変化、温暖化や異常気象災害、基質・基物の減少および消失。生育環境は石灰岩地などの特殊な立地にあり、石灰採掘や自生地の崩落、山林の改変などによる生育環境の変化が本種の生存を脅かす主要な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 329



奥多摩町 2019年9月1日

クロベ

Thuja standishii

裸子植物
ヒノキ科

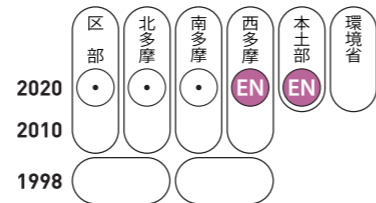
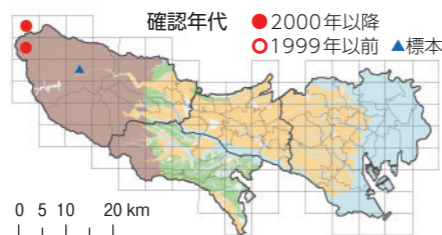
■ **種の特性と生育状況**：本州（秋田県～中部）、四国に分布する常緑高木。高さ30m、直径1mほどになる。樹皮は赤褐色で滑らか、縦に薄く裂けて剥がれる。葉は長さ2～4mmの鱗片状で先は尖らず、十字対生する。葉裏の気孔線はあまり目立たない。球果は枝先に上向きにつき、黄褐色で1cmほど。果鱗は広楕円形もしくは楔形で6～8枚ある。山地帯上部から亜高山帯の尾根筋に生育。都内でも西多摩の山地帯上部から亜高山帯に稀に生育し、石灰岩地に比較的よく見られる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、石灰採掘、基質・基物の減少及び消失、局所分布。生息地が山地の岩場であるため、採石による生息地の破壊・消失、大型台風や集中豪雨による生息環境荒廃など。

■ **特記事項**：日本固有種。隣接県においても石灰岩地によく見られるが、地形的な要因が影響していると思われる。

執筆者 田畑伊織

文献一覧 33, 168, 205, 329



奥多摩町 2019年5月26日

イチイ

Taxus cuspidata

裸子植物
イチイ科

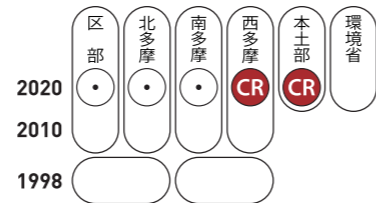
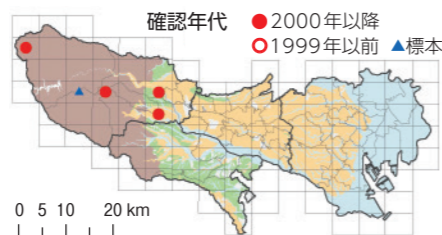
■ **種の特性と生育状況**：全国的に分布する常緑高木。高さ20m、直径1mほどになる。樹皮は赤褐色で縦に浅く裂けて剥がれる。葉は長さ20mm、幅2mmの扁平な線形で、先が尖るが柔らかく握っても痛くない。枝の左右に羽状につく。雌雄異株で、種子は5mmほど、秋には赤い肉質の仮種皮に覆われ目立つ。本州以南では山地に生育する。都内では西多摩の亜高山帯を中心に稀に見られる。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、シカの食害、局所分布。山林の改変などによる生育環境の変化や、すでに一部シカによる樹皮剥ぎが見られており、ササの消失による森林環境の変化も合わせて、本種の生存を脅かす主要な要因と考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 田畑伊織

文献一覧 33, 168, 329



奥多摩町 2021年4月20日

ジュンサイ

Brasenia schreberi

被子植物
ジュンサイ科

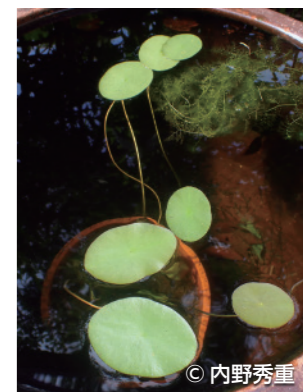
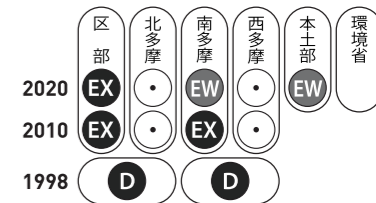
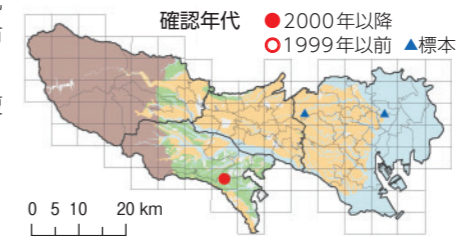
■ **種の特性と生育状況**：全国の湖沼やため池に生育する多年生の浮葉植物。貧栄養から中栄養の水域を好み、地下茎は泥中を匍匐、楕円形の浮葉のほか、水中葉を伸ばす。6～8月、暗赤色で花径2cm、雌しべ先熟の風媒花を午前中のみ2日間開く。種子は長命で散発的に発芽するほか、水中茎の先端が分離して殖芽の役割を果たす。区部及び南多摩それぞれ1地点に生育が知られていたが、いずれも消滅または衰退した。

■ **生存を脅かす要因**：産地が局限されていることに加え、湧水量の減少や高水温化を伴う生育水域の富栄養化が消滅の直接要因になったものと推測される。埋土種子は長く生存するが、再発生個体は外来種アメリカザリガニ等の影響を受けやすい。

■ **特記事項**：練馬区三宝寺池では1959年の記録以降、確実な生育の証拠はない。八王子市別所長池では1960年前後に消滅したが、2020年のかいぼり後、埋土種子から個体が復活し、保護育成が試行されている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 95, 254, 270, 304, 315



八王子市 2021年8月28日

オニバス

Euryale ferox

被子植物
スイレン科

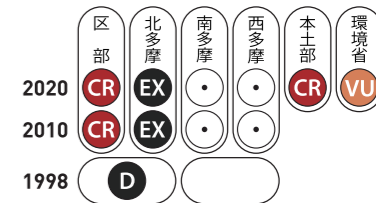
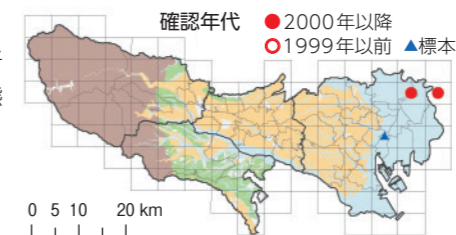
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州における照葉樹林帯の湖沼やため池、河川に生育する一年生の浮葉植物。全草に刺があり、浮葉の直径は0.3～2m。7～9月、水面上に鮮やかな紅紫色を開くほか、多くの閉鎖花をつける。都内では従来、北区赤羽や葛飾区を中心とした葛西地区に分布が限られていたが、今日では著しく衰退し、限られた水域に産するだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：葛西地域においては、養殖魚害草として取り除かれたり、種子が食用となることで年々採りつくされたりして減少したとの記録がある。水域の埋め立てや高度成長期の水質汚濁なども減少への大きな要因となったと推測される。アメリカザリガニ等の外来種による影響も大きい。

■ **特記事項**：開放花はほとんど結実せず、種子生産の大半は閉鎖花による。種子は休眠状態で数十年間生存可能と推定されている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 71, 84, 270, 294



葛飾区 2020年8月31日

コウホネ

Nuphar japonica

被子植物
スイレン科

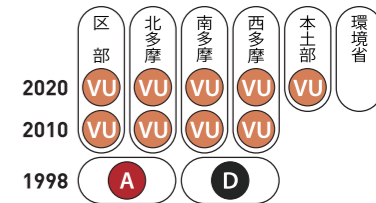
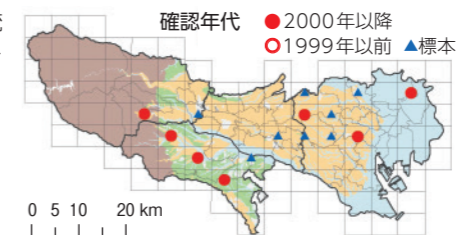
■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や河川に生える多年生の抽水植物。水深の違いや水流の有無などにより、抽水葉だけでなく沈水葉や浮葉を出す。6～10月に水面上に黄色花を咲かせ、果実は水中で熟して種子を散布する。良好な自生地は練馬区や葛飾区などの一部に限られ、ほとんどの場所で都市化が進行し、公園の池沼等に残存するのみとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：開発による池沼埋め立て、水質汚濁などが本種の生育環境を狭めてきた。また、外来スイレンの導入など、競合植物の存在も衰退に影響を与えている。

■ **特記事項**：本種は漢方としての利用や鑑賞用に植栽されることもあり、真の自生品かどうかを確認できない場合も多い。近年、コウホネ属植物の研究が進み、国内での種分化の実態が解明されつつあることから、今後、都内産系統の自然分布実態が明らかになることが期待される。

執筆者 内野秀重

文献一覧 17, 84, 215, 243, 290, 315



八王子市 2019年6月12日

ヒツジグサ

Nymphaea tetragona

被子植物
スイレン科

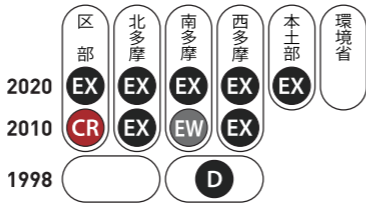
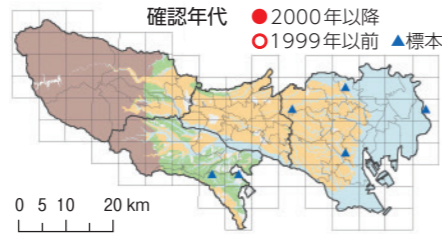
■ **種の特性と生育状況**：全国の湖沼やため池に生育する浮葉植物。貧栄養、弱酸性を好む多年草で浮葉は深く切れ込む。夏から秋、花径3~7cmの白色花を開き、花後、水中で結実する。区部及び北多摩では石神井、井の頭、善福寺川、大宮八幡、荒川沿岸等の産地があったが1940年代の井の頭池の生育記録以降、絶滅したものと推測される。南多摩では多摩市岩ノ入池、八王子別所長池に産したが、1960~70年代にかけて絶滅した。

■ **生存を脅かす要因**：池沼の埋め立てにより自生地が失われたほか、都市化による湧水の減少、水質悪化、外来生物の侵入が絶滅へと拍車をかけた。

■ **特記事項**：本種は未の刻（午後2時）に開花シタ方に閉じるとされるが、一定ではなく、これを2~3日くり返す。種子は10年間発芽力があるとされる。

執筆者 内野秀重

文献一覧 12, 215, 223, 254, 270, 315



練馬区 1933年 8月 6日

チョウセンゴミシ

Schisandra chinensis

被子植物
マツブサ科

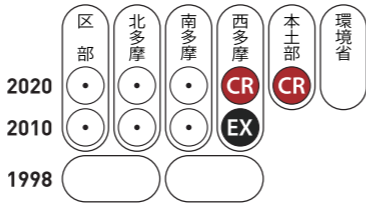
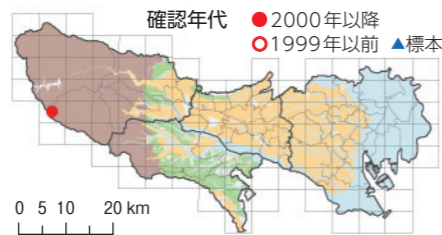
■ **種の特性と生育状況**：本州中北部から北海道の山地林縁などに生育する雌雄異花のつる性木本。葉は互生、倒卵形~楕円形で表面無毛、葉脈は陥入し、葉縁には波状鋸歯がある。5~7月、花被片6~9枚、花径1cmの黄白色花を下垂して咲かせる。果実は球形で9~10月に赤熟する。区内では檜原村の山域から記録があるが、2011年にシカ柵内で確認されて後、現状が不明となっている。

■ **生存を脅かす要因**：西多摩の山地高所に産地が限られていたが、山林の植生遷移、薬草としての利用による人の採取圧、シカの食害など、生存を脅かす条件が重なり、消滅した可能性がある。

■ **特記事項**：果実は「五味子」として日本薬局方に生薬として収録され、鎮咳去痰作用、強壮作用などに処方される。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 137



長野県 1984年 5月 31日

ハンゲショウ

Saururus chinensis

被子植物
ドクダミ科

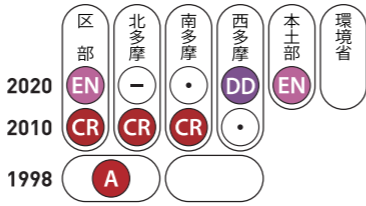
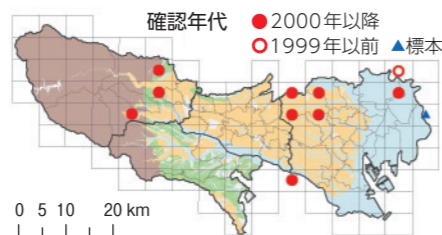
■ **種の特性と生育状況**：本州以西、暖温帯の沿岸部に近い低湿地に生育する多年草で淡水だけでなく塩性湿地にも適応して生育する。全体に臭気があり、地下茎が横走して群生する。6~7月の開花時、穂状花序の下部の葉は白色を呈する。区部沿岸低地と、内陸部の一部に自生していると考えられるが、区内各所に植栽されていることから、自然分布の実態がつかめない状況となっている。北多摩や南多摩における古い分布記録は見当たらない。

■ **生存を脅かす要因**：産地が限られていたうえに、池沼や海岸、湿地の開発により自生地が狭められてきた。近年は湿地の乾燥化による生育環境の悪化が懸念される。

■ **特記事項**：本種の分布は、古い時代の東京湾内陸への海進との関係が示唆されることから、自然分布かどうかの判断はこの点にも注意したい。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 293, 294, 315



練馬区 2021年 6月 30日

ウマノスズクサ

Aristolochia debilis

被子植物
ウマノスズクサ科

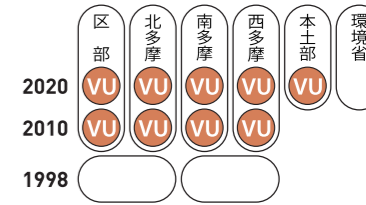
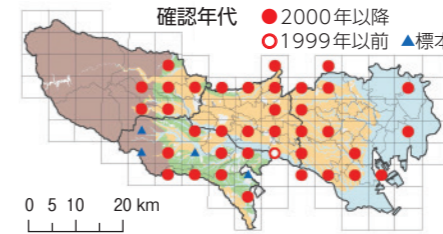
■ **種の特性と生育状況**：本州以西に分布するつる性多年草。路傍や耕作地周辺、堤防草地等に生育する。植物体は無毛で多く枝分かれし、葉は三角状狭卵形で葉先は鈍頭。6~9月にラッパ状の花をつけるが結実はさわめて稀。向陽地を好み、定期的な草刈りが行われる半自然的な環境下に生育する植物である。西多摩の丘陵帯以下の草地から台地部及び区部の耕作地や河川沿いの緑地などに分布しているが、河川中流部の堤防草地以外は生育に適した環境が次第に減少している。

■ **生存を脅かす要因**：都市化による耕作地減少や耕地整理による生育環境の消失に加え、除草剤の多用、草地の管理放棄等が減少に拍車をかけている。

■ **特記事項**：チョウ類のジャコウアゲハはウマノスズクサを食草としており、本種の保全はその生息に大きく影響する。

執筆者 内野秀重

文献一覧 17, 49, 151, 292, 325



八王子市 2022年 6月 26日

オオバウマノスズクサ

Aristolochia kaempferi

被子植物
ウマノスズクサ科

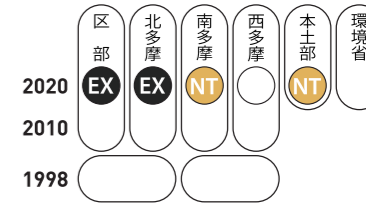
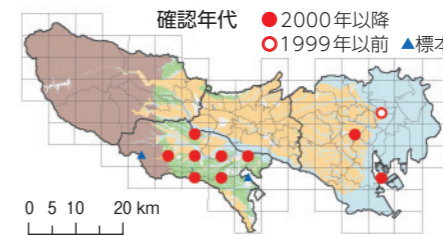
■ **種の特性と生育状況**：関東・中部・近畿・中国地方の太平洋側、及び四国・九州に分布するつる性木本で日本固有種。主に山地林縁等に生育する。葉は多型でしばしば3裂し、基部は耳状となる。3~4月、葉腋にラッパ状、黄緑色の花を1~2個つける。区部では、現在、確かな自然分布の実態が得られないが、かつては北区中里に産したことが記録されている（武江産物志）。北多摩では小金井の古い記録があるが絶滅。南多摩や西多摩ではまだ諸処に自生地が残るが局所的であり、衰退した産地もある。

■ **生存を脅かす要因**：産地が局限されているほか、樹林の開発、遷移の進行による樹林の荒廃、それに伴う林縁の荒れなどが減少要因となっている。

■ **特記事項**：葉裏葉脈上の毛が伏す点で、形態の酷似するタンザワウマノスズクサと区別されるが、両者の雑種も見出されており、同定には注意を要する。

執筆者 内野秀重

文献一覧 17, 168, 203, 225, 239, 270



八王子市 2018年 4月 15日

ランヨウアオイ

Asarum blumei

被子植物
ウマノスズクサ科

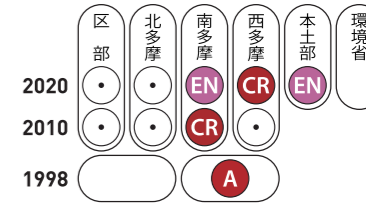
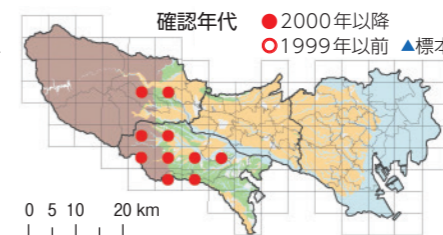
■ **種の特性と生育状況**：関東地方の南西部と山梨県南部、静岡県東部に分布する多年草で日本固有種。常緑・落葉の混交林などの林下に生育する。葉身は卵状三角形で薄く、基部は耳状に張り出す。開花は4~5月、萼筒は丸みのある筒形で上部はややくびれ、内壁の隆起は低い。区内における分布は南多摩の一部、小仏山地東縁から多摩・恩方丘陵にかけて知られていたが、近年、西多摩の草花丘陵の一部の樹林下にも分布していることが明らかとなった。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採による生育環境の悪化のほか、分布域が狭い植物であることから、園芸採取を目的とした盗掘が大きな衰退要因となっている。

■ **特記事項**：タマノカンアオイと同様にフォッサマグナ要素の植物であり、分布に地史との関連性が高いことから、自然樹林下への植栽等、人為的な攪乱につながる行為は避ける必要がある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 186, 243, 262, 276, 322



八王子市 1998年 4月 29日

ウスバサイシン

Asarum sieboldii

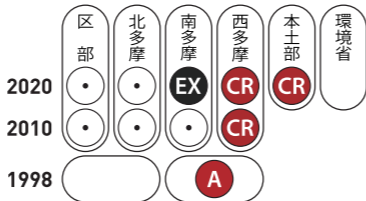
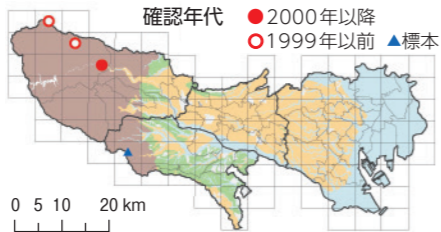
被子植物
ウマノスズクサ科

■種の特性と生育状況：本州中部から中国地方にかけての山地樹林下に生える多年草。茎の先に1〜2枚の葉をつけ、質薄く落葉性で卵心形。花期は3〜4月、萼筒は筒形で、内側は暗紫色、縦に隆起したひだがある。根茎と根は漢方で細辛と呼ばれ、鎮痛、去痰などに用いられる。都内では西多摩の標高1000m以上の山地に現存し、埼玉県との県境尾根をなす西谷山、及び川苔山の山域に自生するが、牧野富太郎採集の高尾山産の標本が都立大学牧野標本館に収蔵されており、かつては南多摩にも産したことがわかる。

■生存を脅かす要因：遷移や気候変動による森林荒廃などの影響が懸念される。また、葉草としての採取圧やシカによる食害などの影響も考えられる。

■特記事項：人為的な乱獲や動物による食害などの影響については不明な点が多く、分布範囲も含めて、さらなる現状調査が望まれる。

執筆者 内野秀重
文献一覧 168, 210



山梨県 2022年4月26日

タマノカンアオイ

Asarum tamaense

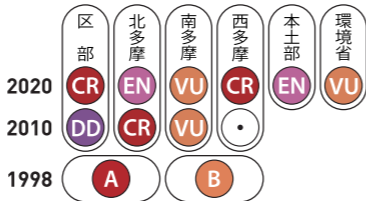
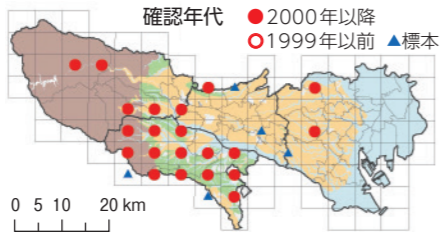
被子植物
ウマノスズクサ科

■種の特性と生育状況：東京、神奈川、埼玉の3県のみで自生する常緑多年草で日本固有の植物。落葉〜常緑樹林下の半日陰に生育する。葉は厚くやや光沢があり、卵円形で暗緑色。花期は4〜5月、花径3〜4cmで暗紫褐色の萼片は3裂し、強く波打つ。都内では、ほぼ多摩・加住・狭山丘陵に分布は限られるが区部台地の一部にも分布する。開発等の抑制により大規模な自生地消滅は抑制されたが、全体的には個体数減の傾向にある。

■生存を脅かす要因：里山林の放置と植生遷移、都市化による林床の乾燥などが及ぼす生育環境の悪化が懸念される。地域によっては、愛好家や園芸目的による採取も脅威である。

■特記事項：地史との関連性が強い植物であり、栽培対象とされることもあるが、自然環境下への人為的な植栽は分布攪乱につながるため避ける必要がある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 16, 243, 271, 290, 294



多摩市 1981年4月21日

シロモジ

Lindera triloba

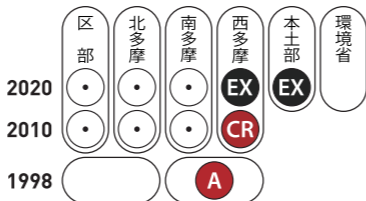
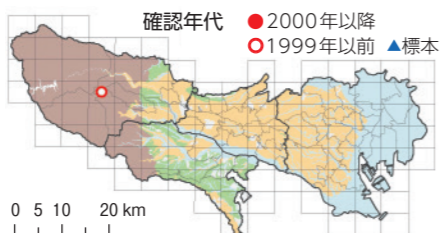
被子植物
クスノキ科

■種の特性と生育状況：本州中部以西、四国、九州に分布する雌雄異株の落葉低木。幹は叢生し樹皮は灰褐色。クロモジに似るが、葉は3〜5中裂する。4月、葉の展開前に3〜5個の花序に黄色い花を開く。西多摩は檜原村の山域から記録があるが、現在は消滅している。西多摩以外からも生育報告があるが、いずれも学習林や社寺、園地などからの報告であり、自生品は見られない。

■生存を脅かす要因：分布東限に近く、自生地及び個体数も局限されていたため、植生遷移による生育条件の変化等により、絶滅に至ったものと推測される。

■特記事項：果実から採られたシロモジ油はかつて灯火用に利用された。

執筆者 内野秀重
文献一覧 152



長野県 2019年5月26日

カゴノキ

Litsea coreana

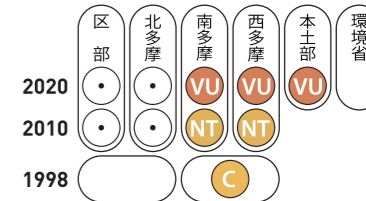
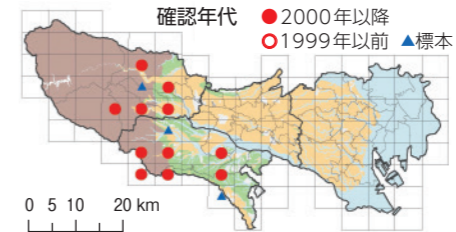
被子植物
クスノキ科

■種の特性と生育状況：関東以西に分布する雌雄異株の常緑高木で照葉樹林を代表する樹木の一つ。樹皮は最初平滑で、後に鹿の子状にはげ落ちる。8〜9月頃に葉腋に淡黄色の花をつけ、液果は翌年の秋に熟す。都内では、西多摩の一部から南多摩にかけての暖温帯林などに点在する。高尾山の南斜面を中心とした山中に多く見られるほか、丘陵部の寺社や祠を取り巻く樹林内などに散在していることが多く、人為的な植栽関与が示唆される生育地もある。

■生存を脅かす要因：気象災害等による森林荒廃、また、社寺周辺などでは防災的な見地から剪定や除伐対象となる懸念がある。若木においては樹皮の特徴が現れず、森林管理上見落とされやすい。

■特記事項：八王子市裏高尾町には樹齢300〜400年と推定され、東京都指定の天然記念物に指定された小仏のカゴノキが現存する。

執筆者 内野秀重
文献一覧 125, 242, 256, 287



町田市 2016年4月15日

ショウブ

Acorus calamus

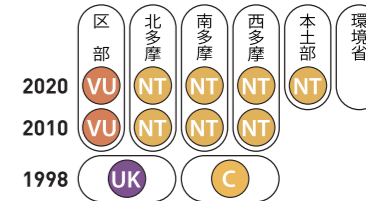
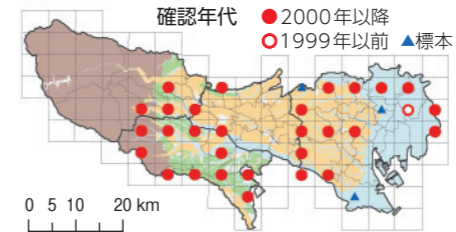
被子植物
ショウブ科

■種の特性と生育状況：本州以西の水辺や湿地に生育する抽水性の多年草。根茎を伸ばして群生し、植物体は高さ50〜100cmで芳香を有する。葉は光沢があって剣状、中央脈は隆起する。5〜6月、葉の間から棒状の肉穂花序を伸ばす。日本産のものは3倍体で果実は熟さないとされる。都内、台地部では河川湿地や池沼の周囲、丘陵部では谷戸湿地等に自生地が点在するが、区部においては、自生地はきわめて限定的である。

■生存を脅かす要因：湿地の開発、また、管理放棄による湿地の遷移進行や乾燥化により、生育環境が悪化している事例も見られる。

■特記事項：端午の節句行事に用いられることから植栽される場合もあり、自然分布かどうかの判別に注意を要するが多い。

執筆者 内野秀重
文献一覧 17, 28, 151, 264, 322



西東京市 2004年5月11日

マイヅルテンナンショウ

Arisaema heterophyllum

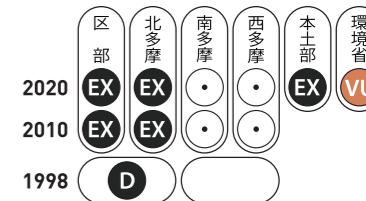
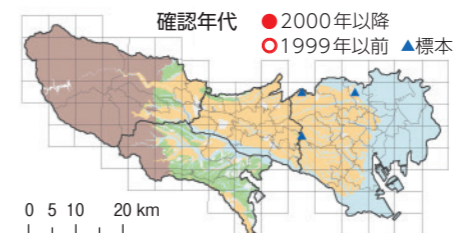
被子植物
サトイモ科

■種の特性と生育状況：本州以西の原野、河川敷の湿った草地などに稀に自生する多年草。高さ60〜120cm、葉は1個で鳥足状。花期は5〜6月、ひも状の付属体有する仏炎苞は葉の上部に突き出す。区部、荒川河岸の低湿地帯である浮間、そして武蔵野台地の旧神田上水水源である井の頭池畔やその周辺などに自生していたが、いずれの産地も湿地の開発整備により絶滅した。

■生存を脅かす要因：区部の自生地は、荒川の直線化工事を契機にそれに伴う都市整備で失われた。また、武蔵野台地においても、都市開発により湿性な草地が失われ絶滅した。

■特記事項：奥山春季は1934年に浮間ヶ原にて本種を採集。一方、武蔵野植物記(檜山1953)では、井の頭周辺に自生する状況が過去形で記述されており、当時すでに絶滅かそれに近い状態であったことが推測される。

執筆者 内野秀重
文献一覧 77, 102, 208, 269



茨城県 2002年5月30日

ユモトマムシグサ

Arisaema nikoense

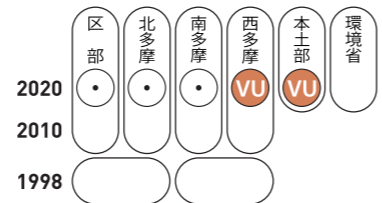
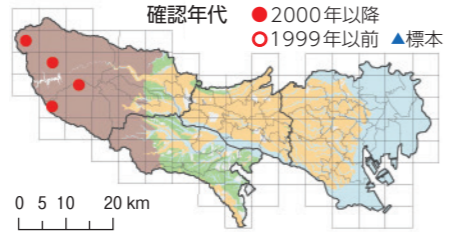
被子植物
サトイモ科

■ **種の特性と生育状況**：本州中部から東北地方の冷温帯山地林床に生育する多年草。高さ15～50cm。葉は通常2個で偽茎と葉柄はほぼ同長、小葉は5～7枚で葉軸は発達せず、不規則な鋸歯があり先端はとがる。花期は6月、花序は葉より高い位置につき、通常緑色で口辺部が狭く開出する仏炎苞をつける。付属体は淡色で太い棒状。都内では雲取山をはじめ、西多摩の山地高所のみに点在し、個体数は少ない。

■ **生存を脅かす要因**：都域での分布が局所的で個体数も限られており、獣害、また植生遷移や気象災害などによる植生の劣化でさらに希少となる可能性がある。

■ **特記事項**：日本固有種。仏炎苞が黒褐色な亜種にクボタテンナンショウがあるが、都域での分布は明らかでない。

執筆者 内野秀重
文献一覧 168, 319



奥多摩町 2018年5月16日

ミクニテンナンショウ

Arisaema planilaminum

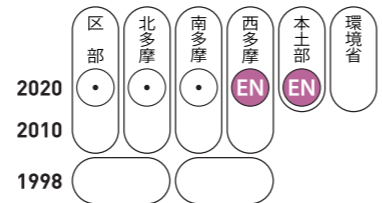
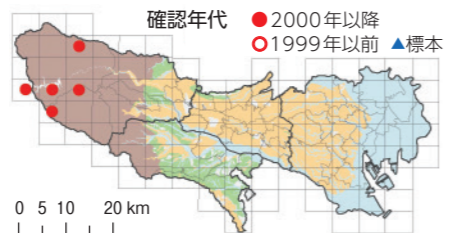
被子植物
サトイモ科

■ **種の特性と生育状況**：関東及び中部地方に分布する多年草。主に冷温帯の山地林下に生える。葉は2個で鳥足状に分裂、小葉は7～15枚で細鋸歯がある。5～7月に開花し、仏炎苞は緑色で白糸が目立たず、腋部の中央は淡色、基部は耳状の口部に移行して開出する。花序付属体は棒状。都内では御前山をはじめ、西多摩の山地高所に点在していると考えられるが分布実態については不明な点が多い。

■ **生存を脅かす要因**：都域での分布は比較的狭小であり、植生の劣化や獣害などにより衰退することが考えられる。

■ **特記事項**：本種は偽雌雄異株で、小型の個体は雄花、大型の個体は雌花をつける。日本の固有植物である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 319



奥多摩町 2019年6月5日

ヒンジモ

Lemna trisulca

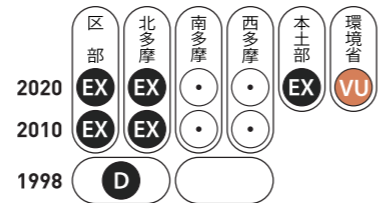
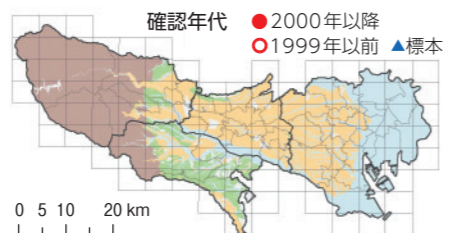
被子植物
サトイモ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の湖沼や河川、水路等に生育する沈水性の浮遊植物。葉状体は半透明で卵状楕円形、基部はときに矢じり形、根は1本。互いに連なり水中で絡み合って群生する。花期は夏だが開花は非常にまれであり、日本での観察例はないという。都内では武蔵野台地を中心に、湧水性の池沼や水路等に産したものと推測されるが、「調布、小金井の水田に稀」という檜山(1965)による北多摩の記録以外、具体的な産地は明らかでなく、以後、発生の報告が得られない。

■ **生存を脅かす要因**：湧水枯渇や水質汚濁により、全国的にもきわめて稀な水草となっている。温暖化に伴う気候変動について、有意に影響を受けやすい植物であるという近年の研究報告がある。

■ **特記事項**：ヒンジモは、アクアリウムプランツとして市場にも流通しており、これらの野外出品品には注意する必要がある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 223, 270, 339



栃木県 2022年9月22日

ヒメザゼンソウ

Symplocarpus nipponicus

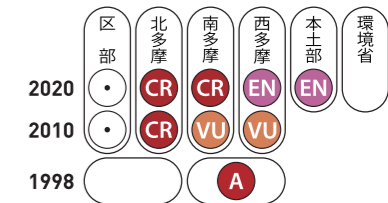
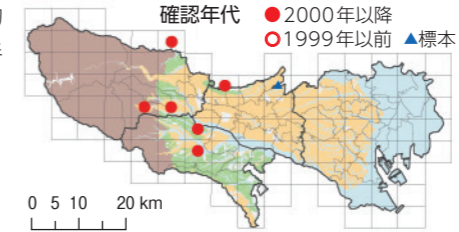
被子植物
サトイモ科

■ **種の特性と生育状況**：北海道と本州の湿った林縁に生育する多年草。関東南部、太平洋側での分布はきわめて稀である。葉は早春に出て、6～7月の開花期には枯れる。仏炎苞は長さ5cm前後で果実は翌春に熟す。都内の自生地はいずれも湿性な北斜面の林縁で、西多摩及び南多摩の丘陵地、北多摩の段丘崖にわずかな生育地が知られているにすぎない。近年再発見された地域もあるが、目立たない植物であり、自生地であることが周知されずに生育環境が悪化する事例も見られる。

■ **生存を脅かす要因**：道路拡幅や宅地開発等により生育地が破壊されやすい。里山林の管理放棄や地下水位枯渇等による生育環境悪化も懸念される。

■ **特記事項**：日の出町では自生地が天然記念物指定を受けており、他の自生地でも同様の手厚い保全対策が検討されて良い。

執筆者 内野秀重
文献一覧 105, 243, 254, 308



八王子市 1990年6月11日

チャボゼキショウ

Tofieldia coccinea var. *gracilis*

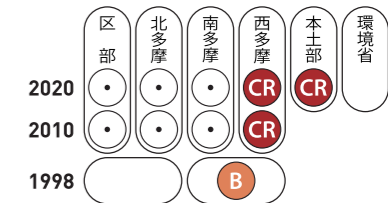
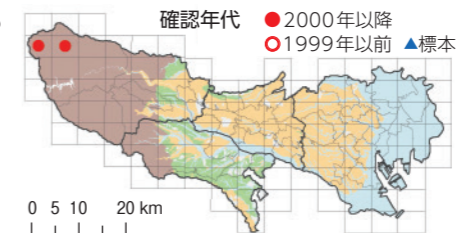
被子植物
チシマゼキショウ科

■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西、四国、九州の高山に分布する多年草。冷温帯の湿った岩場に生育し、石灰岩地に多い。草丈10～20cm、根出葉は線形鎌状で不揃い、葉縁には微細鋸歯がある。5～6月に開花し、花柄は花被片より長く斜上、花被片は長さ2.5～3.5mmで白色、葯は紫色。さく果も上向する。都内では西多摩、日原の山域だけに見られ、個体数も少ない。

■ **生存を脅かす要因**：個体数が少なく、園芸目的の盗掘が懸念されるほか、野生動物による害害、岩場の崩落などによる自生地の荒廃も影響が大きい。

■ **特記事項**：チシマゼキショウ属植物は地域毎の種分化が著しく、東京産のものは変種チャボゼキショウに該当すると見るのが、もっとも適切である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 62, 99, 168



2021年5月23日

ヘラオモダカ

Alisma canaliculatum

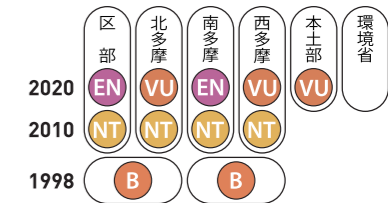
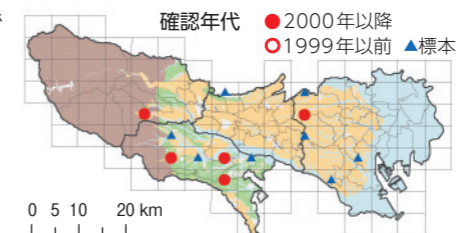
被子植物
オモダカ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼や湿地、水田などに生える湿生～抽水性の多年草。草丈等に個体変異が激しいが、葉はへら形で葉柄と葉身の区別が不明瞭であること、花茎の枝が常に3本、花弁の長さ3mmと小さい点などが特徴である。7～9月、通直の花茎に輪生状の枝を出し3弁の白色花を開く。都内では本土部全体から記録があるが、自生地は多様な水辺環境のある緑地や公園、水田などに限られ、見る機会は減っている。

■ **生存を脅かす要因**：湧水湿地の消滅などのほか、水田面積の減少や農業使用による自生地環境の悪化により、自生地、個体数ともに減少傾向が続いている。

■ **特記事項**：サジオモダカ属植物は開花時間がそれぞれ異なり、本種は午前中11時頃より開花し、夕方4時頃に閉じる点も重要な特性である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 288, 290, 294



あきる野市 1992年8月23日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	CR	CR	CR	NT
2010	CR	CR	CR	DD	
1998	A		A		



八王子市 2021年8月24日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	CR	DD	CR	CR
2010	DD	DD	DD	DD	
1998	UK		A		



青梅市 2021年8月30日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	-	-	EX	VU
2010	EX	DD	EX	EX	
1998	D				



高知県 2003年10月3日

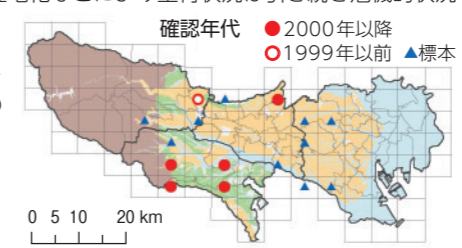
アギナシ *Sagittaria aginashi* 被子植物 オモダカ科

■種の特性と生育状況：全国の水湿地に生える多年生の抽水植物。オモダカに酷似するが、葉身側裂片の先端が球状であること、夏以降に株元に小球芽が形成される特性がある。オモダカと異なり耕作水田内に生えることはほとんどなく、より自然度の高い湧水湿地、池沼などに生育する。7～8月に開花し、花序上部に雄性花、下部に雌性花をつける。区部ではかつて練馬区や北区に産したが絶滅。それ以外の地域でも自生地は少なく、丘陵部の谷戸に細々と残存するだけとなっている。

■生存を脅かす要因：本来、自生地が限定されるうえに、谷戸湿地の埋め立てによる生育地の消滅、管理放棄による湧水湿地の遷移進行・陸地化などにより生育状況は引き続き危機的状況にある。

■特記事項：自生地ではヨシやカササゲなどと同居していることが多く、これにより過度の水温上昇が回避されていると推測される。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 48, 102, 293, 316



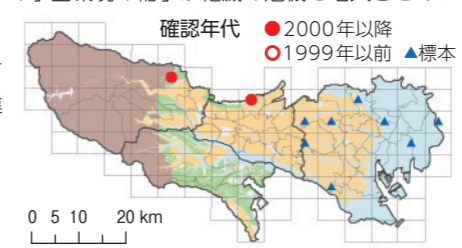
ウリカワ *Sagittaria pygmaea* 被子植物 オモダカ科

■種の特性と生育状況：全国の水田や浅い池沼などに生育する抽水性または湿生の多年草。7～9月頃、線形の葉の間から花茎を伸ばし、まず雌花が開花、次に雄花期へと移行する。秋にとさか状の突起を有する種子をつくるとともに、走出枝をのび先端に塊茎をつくって越冬する。区部では練馬区や北区、江戸川区等に記録があるが消滅、南多摩では確実な生育記録が見当たらない。現在は、北多摩や西多摩のごく一部の水田環境に残存するだけの危機的な状況である。

■生存を脅かす要因：難防除性の水田雑草として認知されているため、除草剤による徹底的な駆除が行われて早くから激減したうえに、近年の水田環境の縮小が絶滅の危機を増大させている。

■特記事項：同所的に生育することの多いコナギやオモダカの幼苗期の葉も線形のため間違いやすい。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 49, 102, 270, 280



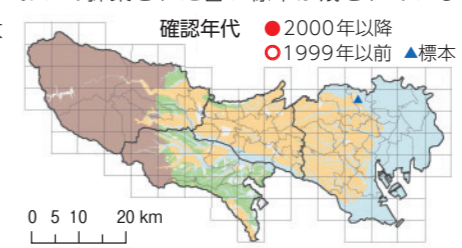
スブタ *Blyxa echinosperma* 被子植物 トチカガミ科

■種の特性と生育状況：本州以南の水田や浅い池などに生育する沈水性の一年草。茎は根茎状で伸長せず、多数の葉が根生する。開花は7～10月で、白色3枚の花弁を有するが、開花はしばしば不完全で自家受粉を行う。種子は紡錘形で突起や尾状突起を持つ。区内では葛飾区水元の記録や板橋区から採集された標本が存在するが、それ以外の確実な分布記録は見当たらない。

■生存を脅かす要因：環境変化に弱く、農業の使用や水質汚濁の進行により衰退し、圃場整備や水田そのものの減少が絶滅に拍車をかけたものと推測される。

■特記事項：都立大学牧野標本館には区部において採集された古い標本が残されている(MAK196544板橋区志村1890.10牧野富太郎)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 223, 294



区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	CR	CR	DD	CR
2010	EX	DD	DD	DD	
1998	D				



町田市 2013年7月28日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	DD	DD	CR	DD	CR
2010	DD	DD	VU	DD	
1998			A		



八王子市 2007年8月4日

区部	北多摩	南多摩	西多摩	本土部	環境省
2020	EX	EX	.	.	EX
2010	EX	.	.	.	
1998	D				



台東区 1888年8月12日

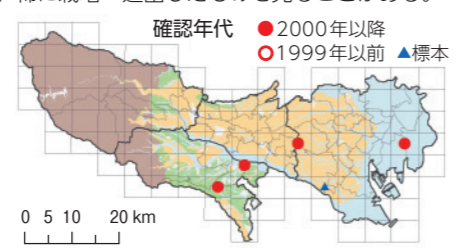
サジオモダカ *Alisma plantago-aquatica* var. *orientale* 被子植物 オモダカ科

■種の特性と生育状況：北日本を中心に、全国の池沼や河川、水路などに生える湿生～抽水性の多年草。根茎は太く、葉は著しいさじ形を示す。7～9月、1m前後の花茎に輪生状に花序を展開し、白色～淡紅色の小花を咲かせる。区内では、区部での記録があるが未確認、西多摩では記録のみで自生地の確認ができず、南多摩の丘陵地にわずかな生育地があるだけとなっているが、近年、北多摩の池でも埋土種子個体により復活している。

■生存を脅かす要因：池沼や河川改修などによる湿地環境の消滅、水質汚濁や農業の使用により自生地の多くが失われたものと推測される。

■特記事項：本種は薬用植物としても栽培され、稀に栽培・逸出したものを見ることがある。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 32, 177, 288, 290



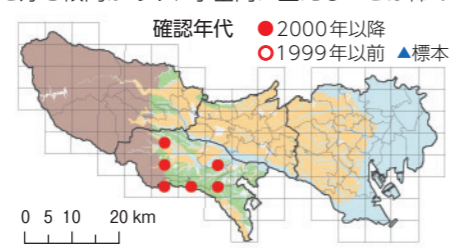
トウゴクヘラオモダカ *Alisma rariflorum* 被子植物 オモダカ科

■種の特性と生育状況：東日本の池沼や湿地に生える抽水～湿生の多年草。開花期は7～9月、ヘラオモダカに似るが最下の花序枝が通常2本となり、午後から花を開き、花弁がより大きい特徴がある。東京の主要な自生地は南多摩の丘陵地であるが、北多摩、西多摩にも一部記録がある。分類学的に近似種と混同されていたこともあり、都内全体の分布情報が少なく、再調査により分布実態を明らかにする必要がある。

■生存を脅かす要因：谷戸や湧水湿地の埋め立て、管理放棄により生育地の消滅が相次ぐほか、湿地の遷移進行などによりほとんどの自生地で生育条件が悪化している。

■特記事項：ヘラオモダカと比べて冷たい水域を好む傾向があり、水田内に生えることは稀である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 40, 288, 289, 290



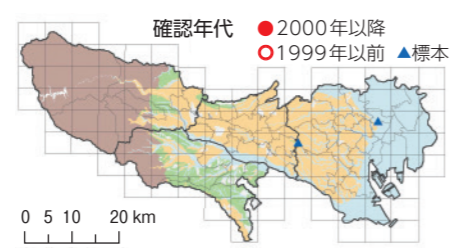
マルバオモダカ *Caldesia parnassifolia* 被子植物 オモダカ科

■種の特性と生育状況：全国の湖沼や水路などに生える浮葉～抽水性の多年草。葉は卵心形から円心形、水深に応じて浮葉や抽水葉を出す。開花は8～9月頃で花茎に輪生して総状花序を咲かせ、花後、花序の一部に越冬器官の殖芽ができる。全国的にも減少が著しく、東京都では1900年代前半には絶滅していたものと推測される。牧野富太郎は1888年に台東区で、また1914年には井の頭池で採集しており、北多摩の武蔵野台地にも分布していたことは明らかである。

■生存を脅かす要因：本来、自生地がごく限られていたうえに、池沼水域の埋め立て、水質汚濁により絶滅したものと考えられる。

■特記事項：都立大学牧野標本館収蔵標本：MAK176089三鷹市井の頭1914.9.13、MA176088台東区1888.8.12(いずれも採集者は牧野富太郎)。

執筆者 内野秀重
文献一覧 270, 366



ヤナギスブタ

Blyxa japonica

被子植物
トチカガミ科

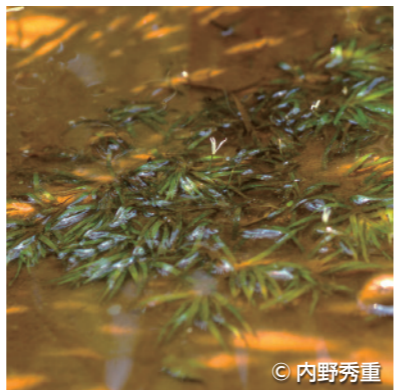
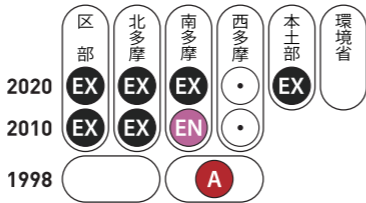
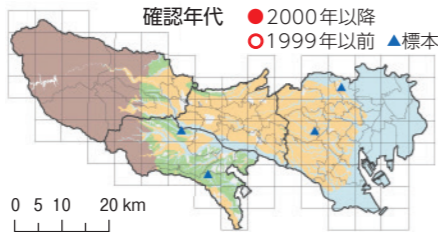
■ **種の特性と生育状況**：本州以南の水田や水路などの浅水域に生育する沈水性の一年草。スブタに酷似し、開花習性等も同様だが、本種は茎が伸長し、紡錘形の種子の両端に突起がない点で見分けられる。板橋区志村、善福寺川や石神井川の上流部、国分寺市などの標本や記録があるがいずれも絶滅。また、南多摩では八王子市の加住地区北開戸の池にかつて産した記録があるほか、1990年代の後半まで貧栄養な谷戸田に見られたが、その後消滅している。

■ **生存を脅かす要因**：スブタ同様、農業使用、湧水量の減少と水質汚濁の進行などで生育環境が悪化したうえに、開発や管理放棄による水田の消失が絶滅をもたらした。

■ **特記事項**：消失年代が最も遅かった町田市の谷戸田では、生育地のシードバンクからの復活の可能性はある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 44, 177, 195, 289, 294, 331



町田市 1997年8月23日

クロモ

Hydrilla verticillata

被子植物
トチカガミ科

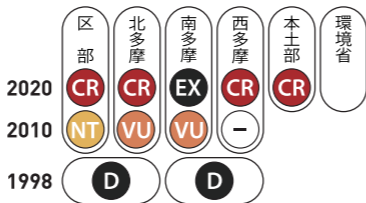
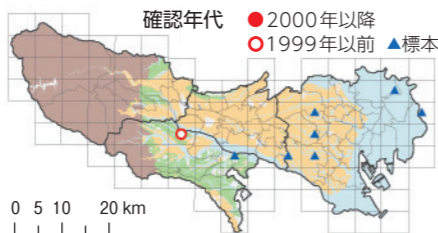
■ **種の特性と生育状況**：全国の池や用水路などに生育する多年生の沈水植物。各節には3~8枚の葉が輪生し、8~10月に水面で開花する。雌雄異株と同株の系統があるという。都内分布の中心は区部低地であり、利根川水系の水辺に現存している。北多摩や南多摩、西多摩ではもともと自生環境は少ないうえに、早い段階で消滅かそれに近い状態に至ったと思われる。南多摩では、1967年に八王子市栗須（現小宮町）で採集された記録が残されている。

■ **生存を脅かす要因**：開発に伴う池や水路の埋め立てなどが生育地を狭め、さらに、オオカナダモやコカナダモなどの外来種がクロモの生育環境を奪ったものと推測される

■ **特記事項**：上記に加え、アメリカザリガニ進出による水草の摂食・切断による影響も生存を脅かす要因として無視できない。

執筆者 内野秀重

文献一覧 79, 177, 249, 280, 290, 291, 294



鹿児島県 2012年8月15日

トチカガミ

Hydrocharis dubia

被子植物
トチカガミ科

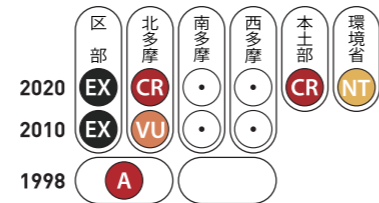
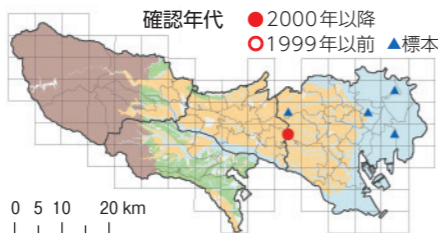
■ **種の特性と生育状況**：本州以南の低地の池沼、水路に生育する多年生の浮遊植物。葉は円形で裏に浮_を持ち、8~10月に水面に花茎を伸ばし、雌雄異花をつける。水中茎の先は殖芽となり水底に沈んで越冬する。やや富栄養化した水域を好む植物で、都内では、区部の江戸川区や台東区、葛飾区、また、北多摩の井の頭池などに自生していた。現在、いずれもほぼ消滅に近い状態にあり、実態は不明な部分が多い。

■ **生存を脅かす要因**：開発による池沼の埋め立てによる自生地の消滅、水質悪化、農業の使用等のほか、外来生物による植物体の摂食・切断などで、ほとんどの自生地で絶滅かそれに近い状態にある。

■ **特記事項**：ピオトープなどへ新たに植栽導入されることも多く、自生品かどうかの判断には注意を要する

執筆者 内野秀重

文献一覧 79, 223, 270, 294, 295



八王子市 2021年9月11日

サガミトリゲモ(ヒロハトリゲモ)

Najas chinensis

被子植物
トチカガミ科

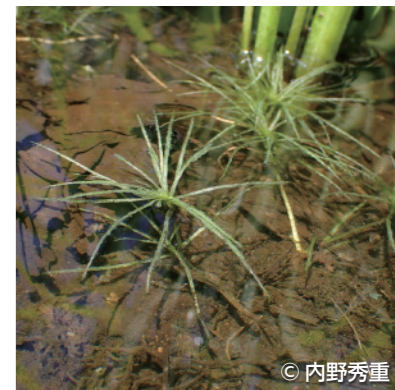
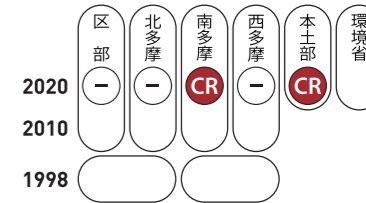
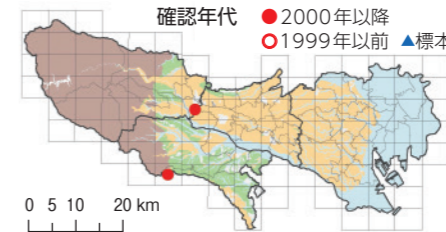
■ **種の特性と生育状況**：本州以南の水田やため池に生育する一年生の沈水植物。葉は線形で鋸歯を持つが、トリゲモ類では最も葉の幅が広い。開花は7~9月で、葉腋に雄花と雌花を別々につける。種子表面は四~六角形の網目模様がある。都内では2013年に町田市西部で記録され、2015年には八王子市北部の休耕田で継続的に発生するようになったが、それ以外に分布の広がりを見ない。

■ **生存を脅かす要因**：主要な生育環境である水田の開発や乾田化、また除草剤の使用により、致命的な影響を受けやすい。

■ **特記事項**：本来、水田植物として身近なものとされるが、トリゲモ類の都内における正確な種類の把握が行われておらず、再検討が必要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 243



八王子市 2022年7月17日

イトトリゲモ

Najas gracillima

被子植物
トチカガミ科

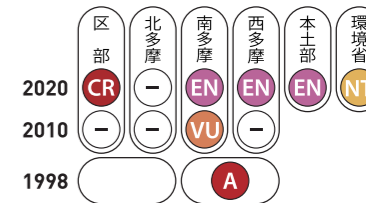
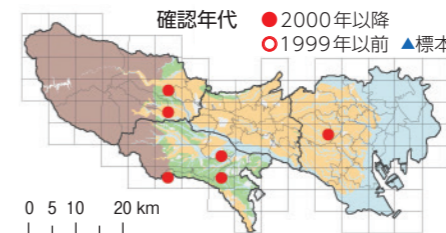
■ **種の特性と生育状況**：全国に分布し、水田や浅水域に生育する一年生の沈水植物。トリゲモ類ではもっとも繊細で茎は折れやすく、3~5輪生の葉を持つ。6~9月に開花し、葉腋に2個の種子をつける。南多摩や西多摩の水田地帯に残存しているが、湧水性、または農業使用の少ない水田にしか見ることはできない。区部においては杉並区における記録があるが、実態は不明の状況にある。

■ **生存を脅かす要因**：水田耕作の放棄により生育地が失われるほか、除草剤の使用は本種に致命的な影響を与える。

■ **特記事項**：種子表面に縦長の網目模様がある点で、よく似たホッスモと区別される。

執筆者 内野秀重

文献一覧 44, 161, 243



八王子市 2022年9月11日

ホッスモ

Najas graminea

被子植物
トチカガミ科

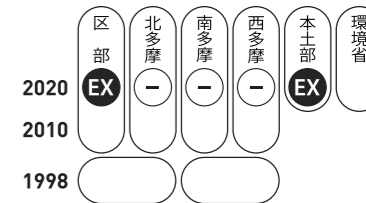
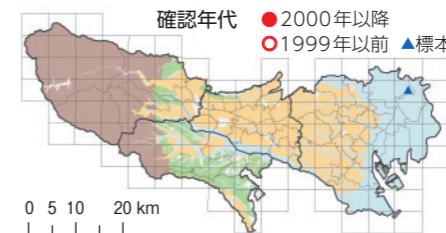
■ **種の特性と生育状況**：全国の山間地の水田や貧栄養な水田に生育する一年生の沈水植物。繊細な植物で葉は3輪生状、イトトリゲモに似るが葉の付け根にある葉鞘の先が突出する特徴がある。7~9月に開花し、果実は通常葉腋に1個つくが2個の場合もある。種子の網目模様は四角形で細かい。都内では、1970年代に区部、葛飾区水元から記録報告されたもので、その後の発生を見ない。

■ **生存を脅かす要因**：開発による水田の消滅、耕地整理等による乾田化、水質悪化、農業使用など、複合的な要因が消滅の要因となったと考えられる。

■ **特記事項**：トリゲモ類の都内分布状況は正確に把握されておらず、再調査の必要性がある。

執筆者 内野秀重

文献一覧 294



山梨県 2017年9月4日

イバラモ

Najas marina

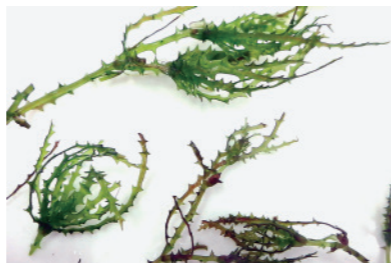
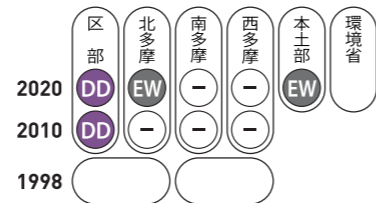
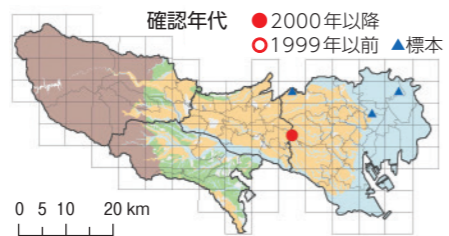
被子植物
トチカガミ科

■ **種の特性と生育状況**：全国のため池や池沼などに生育する雌雄異株の一年生沈水植物。茎は水底を匍匐して根を下ろす。葉は通常棘状の大きな鋸歯を有するが、鋸歯の形状は非常に変化に富む。区部においては1940年代前後に採集された葛飾区、練馬区などの標本があるが現状は不明。近年、かいぼりにより井の頭公園の水域で再発見されている。

■ **生存を脅かす要因**：池沼の開発や水質汚濁、またアメリカザリガニなどの外来生物の侵入拡大により、衰退したものと推測される。

■ **特記事項**：汽水環境によく適応した種と言われる。

執筆者 内野秀重
文献一覧 235, 295



三鷹市 2016年6月26日

トリゲモ

Najas minor

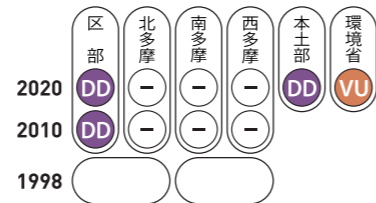
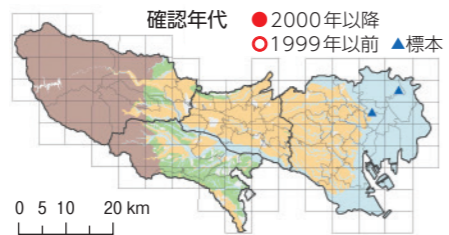
被子植物
トチカガミ科

■ **種の特性と生育状況**：湖沼やため池に生育する一年生の沈水植物。世界に広く分布し日本では主に関東以西に記録されているが、全国的にも著しく減少しており、我が国のトリゲモ類でもっとも希少な植物となっている。東京都での記録は江戸川区、足立区〔武州〕千住や北区田端などに限られ、国立科学博物館には70年以上前の標本が収められている (TNS278998S, OKUYAMA)。

■ **生存を脅かす要因**：生育地が限られているうえに、池沼の開発や改修、水質の富栄養化、外来水草の繁茂等により現状不明の状態となっている。

■ **特記事項**：本種同定には細心の注意を要し、種子表面に横長の網目模様があることでヒロハトリゲモと、また、雄花葯室が1つであることでオオトリゲモと区別される点に留意したい。

執筆者 内野秀重
文献一覧 270, 294



山梨県 2017年9月6日

ミスオオバコ

Ottelia alismoides

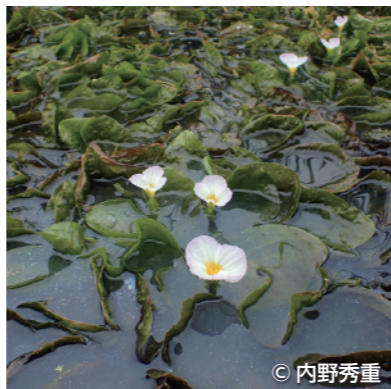
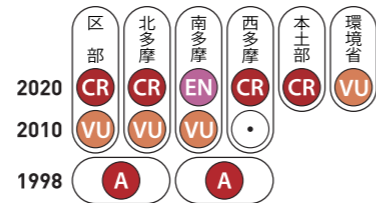
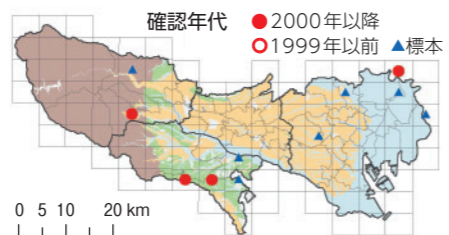
被子植物
トチカガミ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の水田やため池、用水路などに生育する一年生の沈水植物。茎は短く葉は主に広卵形、葉柄には突起を持つ。8～10月に白～淡紅色の花を水面に咲かせ、果実には顕著なひだがある。かつては都内各所の水辺に生育していたが、現在では、丘陵部の谷戸田など、農業使用の少ない耕作水田中に見られるだけとなっており、区部においては現状不明に近い。

■ **生存を脅かす要因**：谷戸田等の管理放棄により、植生の遷移が進むと本種の生育は不可能となる。また、生育する水田での農業の使用は致命的である。

■ **特記事項**：植物体の大きさは水深等の生育環境により変異が大きく、かつてはオオミスオオバコ等が区別されていたが、現在は区別しない。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 195, 288, 294, 315



町田市 2021年9月1日

コウガイモ

Vallisneria denseserrulata

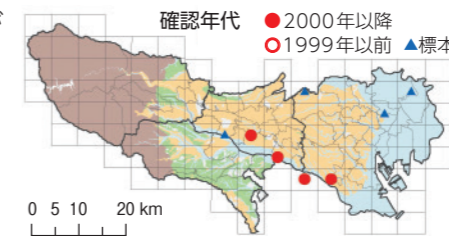
被子植物
トチカガミ科

■ **種の特性と生育状況**：本州、及び九州の低地の河川、水路に生育する雌雄異株の多年生沈水植物。葉は線形で60cmに達する。8～10月、雄株の雄花は水中にでき、雌花は水面上で開花する。都内では、かつては区部荒川水系に広く産したが、近年は衰退し、現在では多摩川中流から下流にかけての本川及び支流用水等に見られるだけとなっている。

■ **生存を脅かす要因**：河川や用水路の改修工事により引き起こされた個体群の破壊が絶滅につながりやすい。水質汚濁、外来水草との競合、河川清掃時の不適切な扱いなども衰退の要因となっている。

■ **特記事項**：セキショウモに酷似するが、コウガイモでは走出枝に微細な突起がありざらつくこと、雄しべは2本、走出枝の先端に殖芽が形成される点などが異なる。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 102, 249, 280, 294, 295



セキショウモ

Vallisneria natans

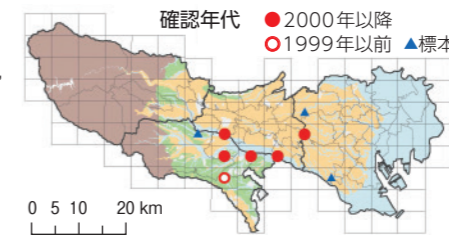
被子植物
トチカガミ科

■ **種の特性と生育状況**：本州と九州の池沼、河川、用水路などに生育する多年生の沈水植物。葉は線形で80cmに達する。8～10月、雌花は細い花茎を伸ばして水面で開花し、放散された雄花により受粉する。かつては区部から西多摩までの水域に分布していたが、現在は多摩川中流及びその支川・用水の一部などに分布が限られる。なお、神田川水源池の井の頭池では、近年、かいぼりによる埋土種子からの発生が報告されている。

■ **生存を脅かす要因**：河川や用水路の改修による個体群の破壊が消滅につながるものと推測される。水質汚濁や外来水草の侵入、河川清掃時における不適切な扱いなどの影響も少なくない。

■ **特記事項**：走出枝は平滑で雄しべは1本、走出枝の先に特別な殖芽はつくらない。

執筆者 内野秀重
文献一覧 249, 270, 280, 288, 290, 291, 294



エビモ

Potamogeton crispus

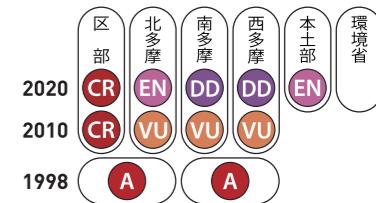
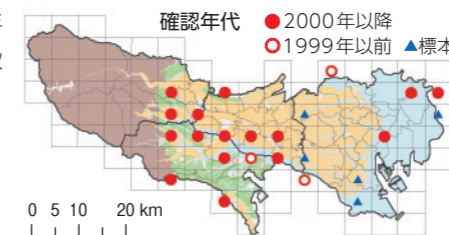
被子植物
ヒルムシロ科

■ **種の特性と生育状況**：全国の池沼、河川、用水路などに群生する多年生の沈水植物。葉は広線形で無柄、葉縁は波打つ。5～9月、穂状の花序を水中に伸ばして開花するが、流水域では結実は稀という。比較的水質汚濁に強い植物とされるが、他の在来水草類と同様に、用水路の発達した北多摩南部の一部のエリアを除き、生育場所は限定的で衰退傾向に歯止めがかからない。

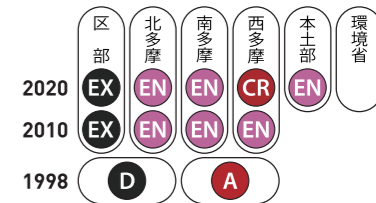
■ **生存を脅かす要因**：土地区画整理や河川改修による生育環境の破壊が最大の衰退要因である。さらに、コカナダモ等外来水草によるニッチの占有、湧水の枯渇、水田耕作の停止、不適切な河川清掃などが挙げられる。

■ **特記事項**：流水域では殖芽を形成しつつ通年生育、一方、止水域では夏に殖芽で休眠し秋から春に生長するという2つの生育型を持つ。

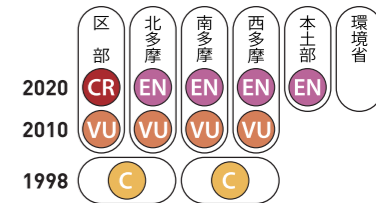
執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 243, 270, 280, 290, 294



国立市 2021年7月28日



日野市 2018年11月27日



八王子市 1986年10月8日

コバノヒルムシロ

Potamogeton cristatus

被子植物
ヒルムシロ科

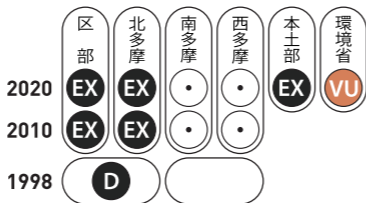
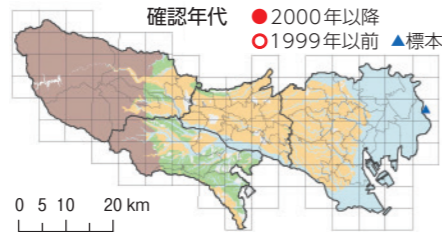
■種の特性と生育状況：宮城県以西の池沼や河川水路に生育するさわめて稀な多年生の浮葉植物。水中茎はよく分枝し、沈水葉は線形、浮き葉は長楕円形。果実の嘴部が長く、とさか状の突起を有することが特徴だが、その他の点ではホソバミズヒキモと酷似し、区別は難しい。現在、都内ではまったく見ることのできない植物であるが、北区、江戸川区、練馬区などでの記録があり、都立大学牧野標本館には牧野富太郎が江戸川区で採集した標本が残されている(MAK226942江戸川区1890.6.8)。

■生存を脅かす要因：水辺の埋め立てや改修工事、水質汚濁や富栄養化などにより消滅したものと推測される。

■特記事項：全国的にもきわめて希産であり、減少も著しい。

執筆 内野秀重

文献一覧 102, 270, 289, 294, 295



江戸川区 1890年6月8日

ヒルムシロ

Potamogeton distinctus

被子植物
ヒルムシロ科

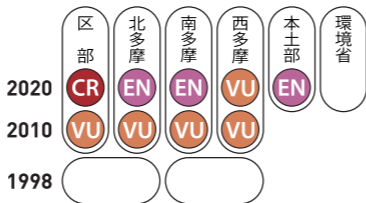
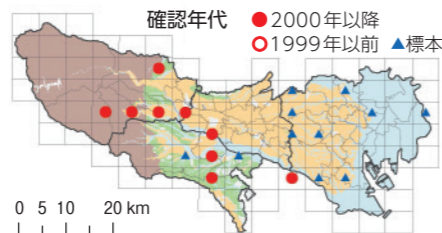
■種の特性と生育状況：全国のため池、用水路、水田に生育する多年生の浮葉植物。楕円形の浮葉は生育環境により著しく変化し深水域では水中葉を出す。5～10月、水面に穂状花序を伸ばして開花し、冬季は地下茎の一部に萌芽を形成して越冬する。都内では本土部全域に分布しているが、農業使用の少ない水田やため池、用水路のある流域に限定され、環境悪化や水田耕作の停止により自生地はさらに減少傾向にある。

■生存を脅かす要因：水質悪化とアメリカザリガニの進出、水田耕作の停止や除草剤の使用などが主な衰退要因である。水稻栽培の強草草のイメージが強く、農業者の理解が得られにくいことも本種保全のネックとなっている。

■特記事項：浮葉が水面に並ぶ姿は在来水草による景観形成資源としてきわめて優れており、保全を兼ねた活用が望まれる。

執筆 内野秀重

文献一覧 2, 243, 289, 290, 291, 293



八王子市 2020年6月29日

フトヒルムシロ

Potamogeton fryeri

被子植物
ヒルムシロ科

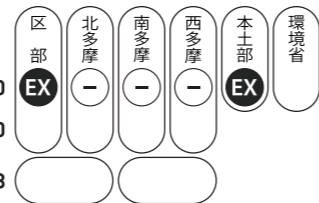
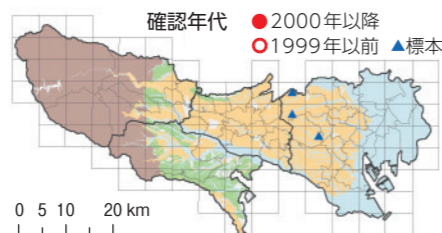
■種の特性と生育状況：全国の貧栄養から腐食栄養型の池沼や水路など、酸性の水域に生育する多年生の沈水植物。浮葉は長楕円形から広楕円形で葉の縁はやや波打ち、葉身基部はくびれて円形または心形。沈水葉は無柄で線形から狭長楕円形、倒披針形と変化する。花期は4～8月で、開花のピークが春となる点も本種の特徴である。区部練馬区石神井に産した記録と標本(都立大学牧野標本館 MAK356610練馬区石神井1933.6.2 榎山庫三)が残されている。

■生存を脅かす要因：本来、自生地が限定されるうえ、池沼の改修整備や水質汚濁、農業の使用等により消滅したものと考えられる。

■特記事項：オヒルムシロと酷似するが、同定には本種の沈水葉は茎の上部ほど幅広くなる点に注意したい。

執筆 内野秀重

文献一覧 270



練馬区 1935年7月16日

センニンモ

Potamogeton maackianus

被子植物
ヒルムシロ科

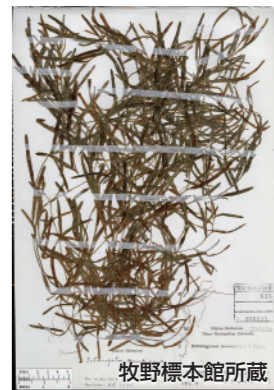
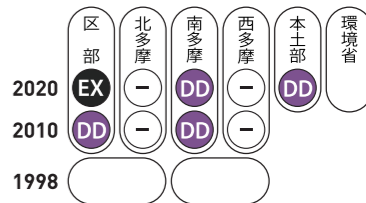
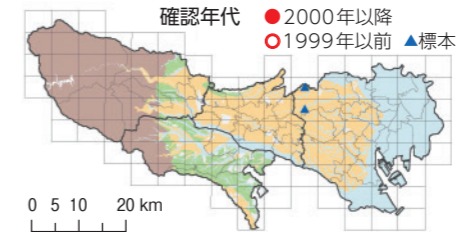
■種の特性と生育状況：全国の湖沼やため池、河川、水路などに生育する常緑多年生の沈水植物。沈水植物の中でもっとも深水域まで生育し、長さは1mに達する。葉は無柄で基部は托葉と合着。葉身は線形で縁に鋸歯があり、先は凸端となる。6～8月、花茎1～5cm、花穂4～10mmで花をまばらにつける。果実は、長さ3～4mmで柱頭部分は嘴状に突き出す。都内では区部、葛飾区の小合溜に産したことが知られているが、絶滅した。南多摩にも産した記録があるが実態は不明である。

■生存を脅かす要因：本来、自生地が限定されるうえ、池沼の改修整備や水質汚濁、農業の使用等により消滅したものと考えられる。

■特記事項：

執筆 内野秀重

文献一覧 102, 208, 270, 294



練馬区 1933年7月

オヒルムシロ

Potamogeton natans

被子植物
ヒルムシロ科

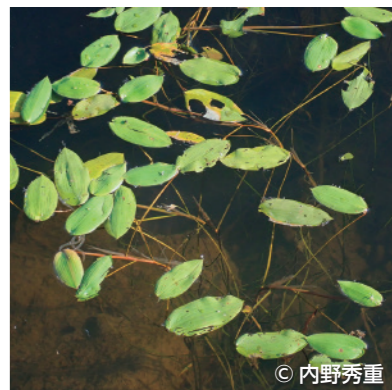
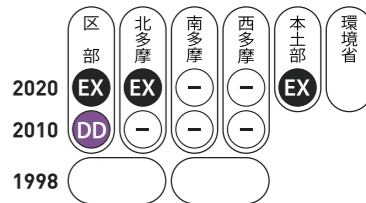
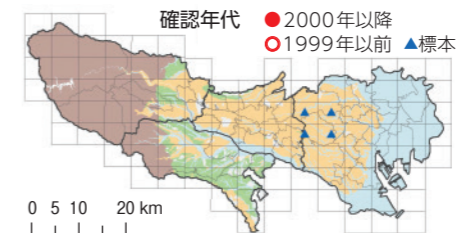
■種の特性と生育状況：北日本を中心に、全国の湧水性の河川や池に希産する多年生沈水植物。浮葉は広楕円形で葉身基部はやや心形、沈水葉は針状であることなどからヒルムシロと区別される。開花は5～7月。都内では石神井、大宮八幡、井の頭などの記録や標本が残されているほか、府中市内段丘崖下の水田内に生育していた報告もあるが、いずれの生育地でも絶滅している。

■生存を脅かす要因：本来、自生地が限定されるうえ、池沼の改修整備や水質汚濁、農業の使用等により消滅したものと考えられる。

■特記事項：練馬区石神井三宝寺池では1968年に生育が記録されている。

執筆 内野秀重

文献一覧 177, 270, 280, 293



長野県 2019年8月6日

ホソバミズヒキモ(ミズヒキモ)

Potamogeton octandrus

被子植物
ヒルムシロ科

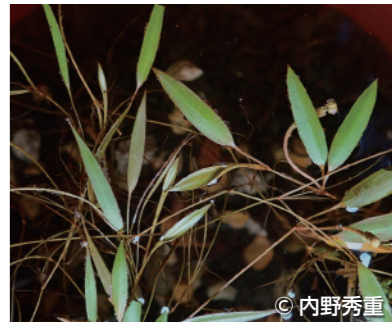
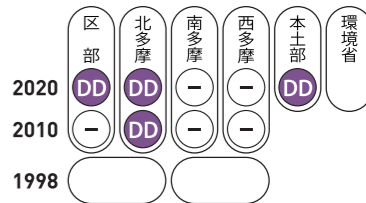
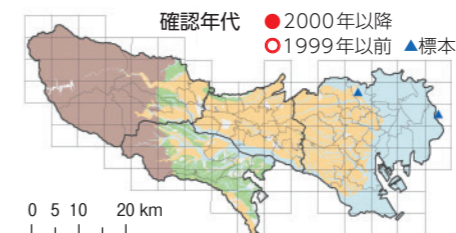
■種の特性と生育状況：全国のため池や河川、水路などに生育する小型の沈水または浮葉植物。沈水葉は線形で浮葉は長楕円形。コバノヒルムシロと酷似するが、果実に嘴状の突起はない。流水中では沈水葉だけで生育することがあるという(角野2014)。区部及び北多摩における記録があるが、少なくとも区部では絶滅しているものと考えてよく、北多摩では現状確認が必要である。

■生存を脅かす要因：河川改修、池沼や水路湿地の埋め立て、農業や肥料等による水質汚濁を原因として高度成長時代の初期にほぼ消滅に近い状態に至ったと推測される。

■特記事項：東京都江戸川区がタイプ標本産地である(MAK064098牧野富太郎1890.7.7 武蔵伊予田村沼中)。

執筆 内野秀重

文献一覧 95, 223, 270, 289, 294, 366



青森県 2019年8月27日

ヤナギモ

Potamogeton oxyphyllus

被子植物
ヒルムシロ科

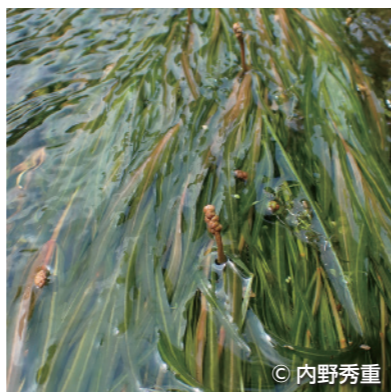
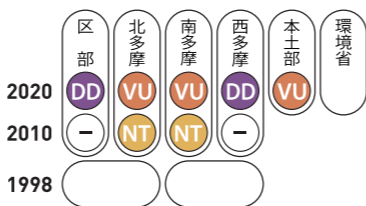
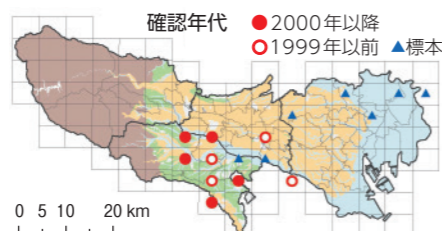
■ **種の特性と生育状況**：全国の河川、水路などの流水域に生育する常緑多年生の沈水植物。葉は線形で幅2mm前後、全縁で5脈を持つ。5～9月、水面に花茎をのぼして開花・結実する。都内では、かつてはエビモとともに普通な水草で、河川中流～下流部の流水域に広く見られたが、現在安定して生育する水域は少ない。多摩部では国立市や八王子市と日野市の多摩川水系の本支流や用水路に点在、また、町田市の鶴見川・恩田川水系にも個体群が残存する。区部における近年の実態はつかめていない。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修や水辺の整備、さらに、異常な出水などにより個体群が失われることや、外来生物の食害などの可能性もある。なお、水質汚濁には比較的強い植物とされている。

■ **特記事項**：形態の似たアイノコイトモと誤同定される場合が多く、本種分布把握の混乱を招いている。同定の際、ヤナギモは葉脈が5本あり、結実する点に注意したい。

執筆者 内野秀重

文献一覧 249, 280, 288, 289, 291, 294



町田市 2021年8月26日

ツツイトモ

Potamogeton pusillus

被子植物
ヒルムシロ科

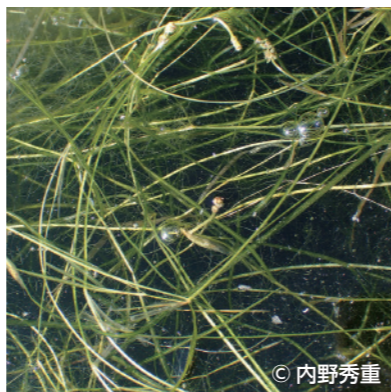
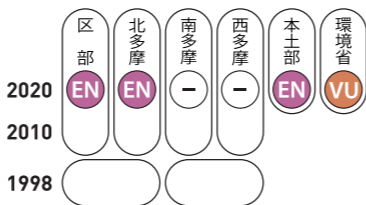
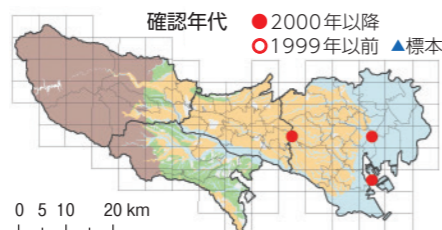
■ **種の特性と生育状況**：全国の淡水域から汽水域にかけての流水・止水域に生育する多年生の沈水植物。地下茎から水中茎を伸ばし分枝する。葉は互生し狭線形で長さ2～5cm、幅1mm内外、イトモに似るが、托葉の両側が合着して筒状になる。区部では、皇居外苑の外堀に2003年以降発生が記録されているほか、江東区海の森公園からも生育の報告がある。また、北多摩では、三鷹市の井の頭公園内で、かいばり後の2014年に発生し、以後定着している。

■ **生存を脅かす要因**：池沼の開発や埋め立て、富栄養化などによる水質の悪化、外来水草の繁茂等が生育環境悪化の要因である。

■ **特記事項**：組織が柔らかいツツイトモは、水草類中でも特にアメリカザリガニの被害を受けやすいことが明らかにされている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 32, 103, 191, 365



三鷹市 2020年6月10日

ヒロハノエビモ

Potamogeton perfoliatus

被子植物
ヒルムシロ科

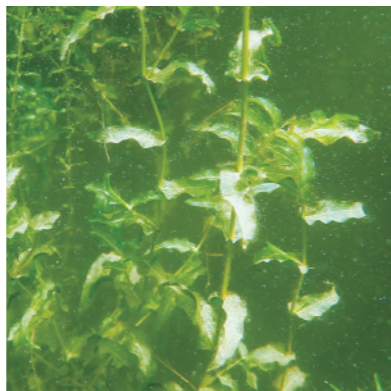
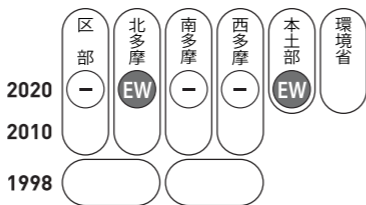
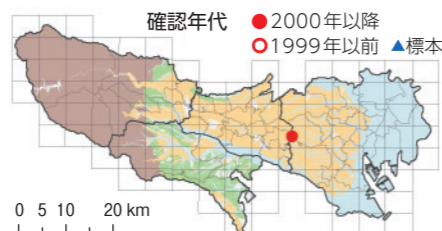
■ **種の特性と生育状況**：池沼や河川に生育し、北日本の湖沼では比較的普通に見られるが西日本では極めて稀な多年生の沈水植物。水位変動のある池にはあまり生育しない。花期は6～9月。葉は無柄で葉身基部が茎を半周以上抱くこと、秋に地下茎の先端が肥大して殖芽ができることがエビモと異なる特徴である。都内では2014年2月、三鷹市の井の頭池でかいばり後に発生が確認された。

■ **生存を脅かす要因**：都内での生育地は当初よりきわめて稀であったが、生育地の池沼の埋め立てや水質汚濁により、消滅したものと推測される。

■ **特記事項**：都内にはこれまで記録はないと思われていたが、区部、白子川流域で採集された標本が都立大学牧野標本館 (MAK227096 練馬区大泉町1942.6.21 牧野富太郎) に収められている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 234



三鷹市 2021年7月21日

イトモ

Potamogeton berchtoldii

被子植物
ヒルムシロ科

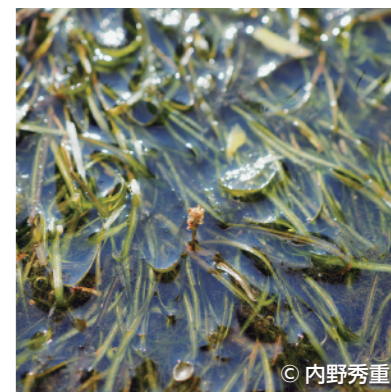
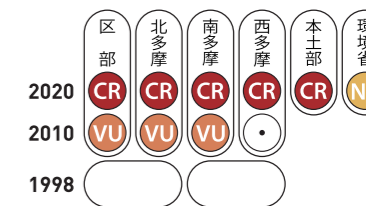
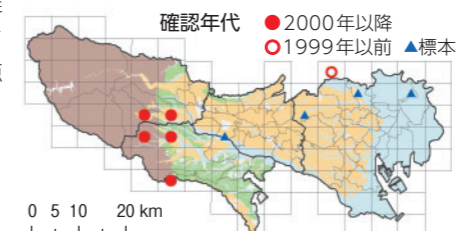
■ **種の特性と生育状況**：全国の湧水池や流れの緩やかな水路などに生育する多年生の沈水植物。葉は線形で幅1mm前後、托葉は筒状にならずに重なり合う。6～8月、水面状に花穂を伸ばし、やがて2～2.5mmの充実した果実をつける。アイノコイトモがやや富栄養化した流れのある水域に生育するのと比較して、イトモは貧栄養気味の冷たい水域を好む傾向が強い。都内全域に記録があるが現存する産地は少なく、散発的である。安定した生育地は西多摩及び南多摩にごくわずかである。

■ **生存を脅かす要因**：本来、自生地が限られているうえに、池沼の改修整備や水質悪化により自生地が消滅したり、生育の適さない環境に変わってしまったものと推測される。

■ **特記事項**：よく似たアイノコイトモは推定雑種と考えられており、果実は成熟しないまま終わるが、イトモは充実した果実をつける点に注目することが重要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 177, 243, 270, 289, 294, 295



町田市 2021年6月9日

ササバモ

Potamogeton wrightii

被子植物
ヒルムシロ科

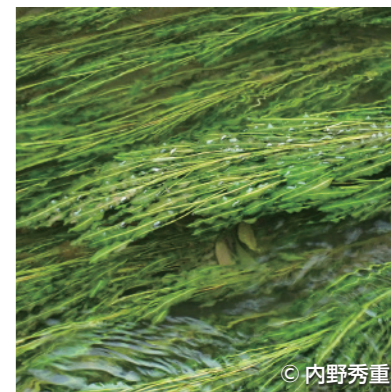
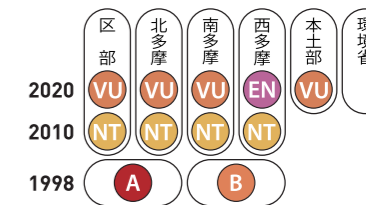
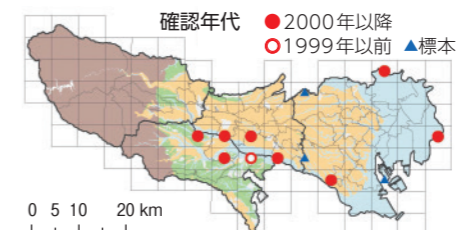
■ **種の特性と生育状況**：全国の河川、水路などに生育する多年生の沈水～浮遊植物。全長は3mに達し、葉は沈水形、浮葉形、陸生型など、環境変化に合わせて可変性を有する。花期は6～9月。都内では、河川中流～下流部の流水域に散見され、区部では足立区の利根川水系の支川や江東区の旧江戸川など、多摩部では、浅川・多摩川水系の本川や支流、用水などから生育が報告されている。

■ **生存を脅かす要因**：河川改修や水辺の整備、さらに、異常な出水などにより個体群が失われるほか、外来生物による被害、過剰な水路清掃などが衰退要因である。

■ **特記事項**：水質汚濁には比較的強い植物とされている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 243, 249, 289, 290, 291, 294



日野市 2019年7月3日

カワツルモ

Ruppia maritima

被子植物
カワツルモ科

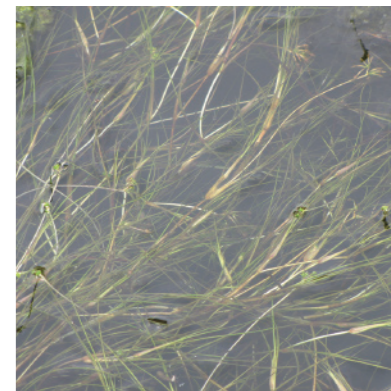
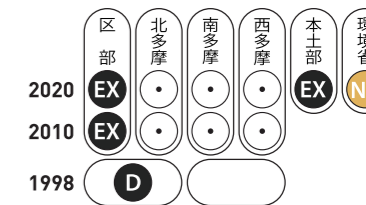
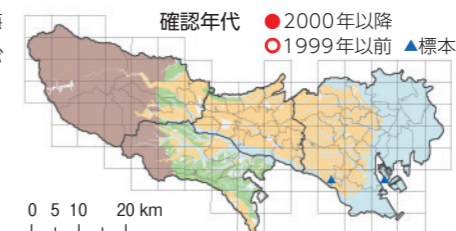
■ **種の特性と生育状況**：海岸近くの湖沼や塩性湿地に生育する多年生の沈水植物。葉は糸状で基部は鞘状となって茎を抱く。春から秋にかけて葉腋から伸びた花茎の先に花をつける。都内では、区部の葛西地区に記録が残るほか、国立科学博物館には世田谷区等からも標本が残されているが、現在は絶滅している。良好な汽水域を生育環境とするが、こうした環境の大半が失われた高度成長時代に激減したものと推測される。国内全域でも減少傾向が著しく、2016年時点で確認された自生集団は28に過ぎないという。

■ **生存を脅かす要因**：湾岸地域の埋め立て、河口部の河川改修、水質汚濁などによって、自生地が消滅したものと考えられる。

■ **特記事項**：世界中に分布し、小笠原などの海洋島にも産することから、繁殖には渡り鳥が関与していることが示唆されている。

執筆者 内野秀重

文献一覧 34, 50, 270, 294



福岡県

ニガカシュウ

Dioscorea bulbifera

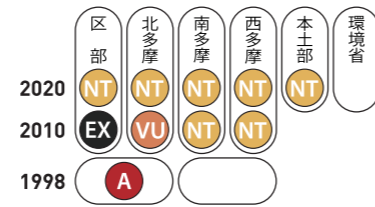
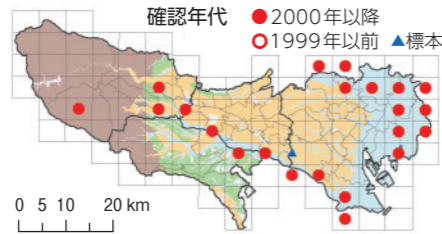
被子植物
ヤマノイモ科

■種の特性と生育状況：関東以西に分布する雌雄異株のつる性多年草。葉は円形で細脈発達、葉柄基部はひれ状で茎の基部を抱く。葉腋にむかごをつける。8～9月に開花し、花序は雌雄ともに下垂、雌花の花被片は緑白色で紫色を帯びる。都内全域に記録があるが、主要な生育地は区部低地及び河川中下流域の河川敷草地に限られる。

■生存を脅かす要因：河川開発による河畔林や原野の埋め立て、改変により自生地が失われてきたが、残された自生地では、アレチウリなどの帰化植物により、ニッチが奪われるなどして生育環境が悪化している。

■特記事項：

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 270, 280, 289



日野市 2022年9月9日

ホンゴウソウ

Sciaphila nana

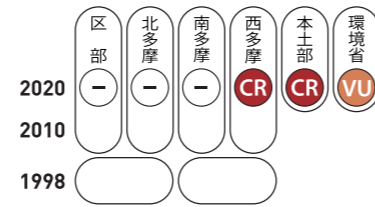
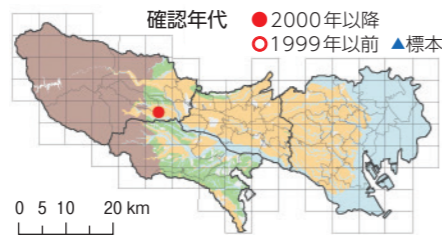
被子植物
ホンゴウソウ科

■種の特性と生育状況：関東地方以西の照葉樹林帯に分布する多年生の菌従属栄養植物。腐食層の蓄積した薄暗い樹林下に生える。草丈は最大で約10cm、茎は細く葉は鱗片状。7～10月、紫紅色の総状花序を形成し、茎上部には6裂する花被片を持つ雄花が、また下部には球状の雌花をつける。和名は三重県北部の発見地名にちなむ。2007年に西多摩の丘陵地で発見され、現在まで、新たな生育地は見つかっていない。

■生存を脅かす要因：土地開発をはじめ、生育する樹林地の伐採や林床の改変によって生育環境が悪化することが予想される。光環境と厚いリターの存在が生育に深く関わっているものと考えられる。

■特記事項：現在のところ、栃木県、千葉県のプロダに準じた分布東限域となっている。

執筆者 内野秀重
文献一覧 240



あきる野市 2020年8月19日

アズマシライトソウ

Chionographis hisauchiana

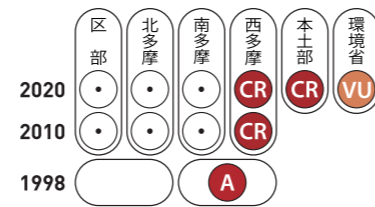
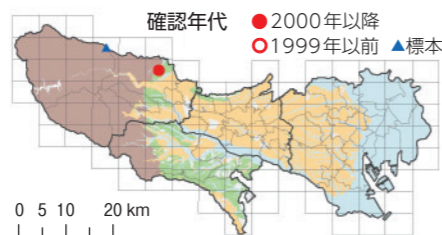
被子植物
シュロソウ科

■種の特性と生育状況：関東地方の低山林床に生育する多年草。5月、ロゼット状の根生葉から花茎を伸ばし、穂状花序に白色花をつける。埼玉県の名栗谷で最初に発見された後、西多摩北東部にも産することが明らかになった。分布域は極めて局限され、佐藤達夫氏によって見出された都内最初の発見地は土地造成によって消滅したが、幸いにもわずかに自生地が残存していた。しかし、個体数が少ない状態が続いており、生育地の手厚い保護が望まれる。

■生存を脅かす要因：園芸目的の採取圧が高いこと、また、里山の手入れ不足等による樹林環境の変化が著しく、相変わらず危機的な状況にある。

■特記事項：日本固有植物である。

執筆者 内野秀重
文献一覧 74, 147, 227, 291



青梅市 1998年5月20日

ツクシショウジョウバカマ

Heloniopsis breviscapa

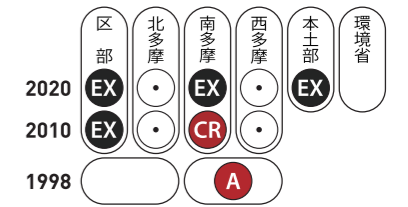
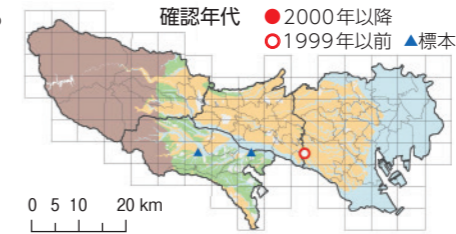
被子植物
シュロソウ科

■種の特性と生育状況：関東地方南部、及び四国、中国、九州に分布する多年草で日本固有種。丘陵～山地帯の林内の湿った斜面や崖に生える。葉は倒披針状で束生し、縁は細かく波打つ。3～4月、花茎を伸ばし3～5個の白色～淡紅色花をつける。都内では多摩市桜ヶ丘の多摩丘陵北岸斜面に産したが、1990年代以降現状が確認できず、絶滅したのと考えられる。世田谷区上北沢の記録もあるが詳細は不明（檜山1965）。

■生存を脅かす要因：希産種として採集圧が高まったこと、植生遷移が進み、斜面防災工事等が行われたことなどの複合要因で絶滅した。

■特記事項：本種は当初シロバナショウジョウバカマと記載されたが、形態及びDNA塩基配列の解析によりツクシショウジョウバカマであることが明らかとなっている（布施2012）。

執筆者 内野秀重
文献一覧 11, 12, 270, 277, 287, 299



多摩川 1981年4月7日

クルマバツクバネソウ

Paris verticillata

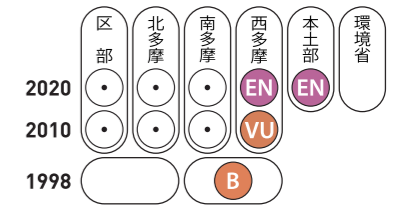
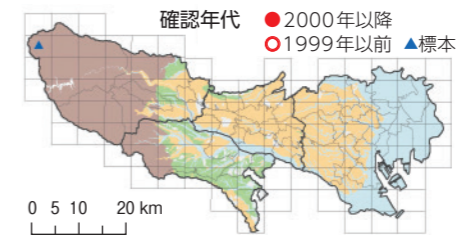
被子植物
シュロソウ科

■種の特性と生育状況：全国の冷温帯の落葉広葉樹林下に生育する多年草。葉は6～8枚輪生し長楕円形。6～7月、茎頂に花茎を伸ばし黄緑色の花を1個単生する。外花被片4個は緑色で披針形、内花被片4個は糸状。果実は黒紫色に熟す。都内では西多摩の山地高所に分布が限られ、従来、希産な植物である。

■生存を脅かす要因：もともと分布域が限定されている。植生の荒廃、園芸目的の採取圧、動物による食害など、複数の減少要因が考えられる。

■特記事項：よく似たツクバネソウと混同される場合があり、注意を要する。

執筆者 内野秀重
文献一覧 100, 168, 292



1989年6月5日

ミヤマエンレイソウ

Trillium tschonokii

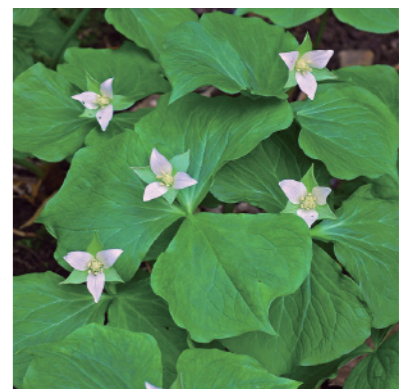
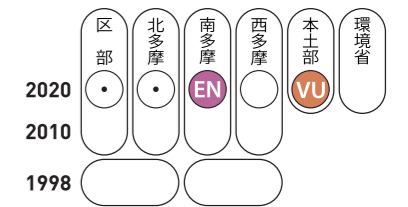
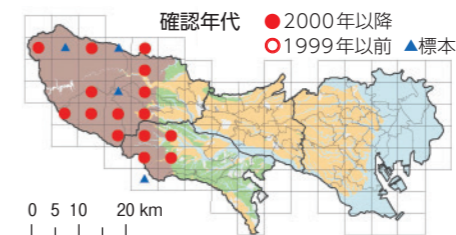
被子植物
シュロソウ科

■種の特性と生育状況：全国の照葉樹林帯上部から冷温帯の樹林下に生育する多年草。茎に鮮緑色の葉を3輪生し、4～5月、その中央に1個の花を頂生する。外花被片は緑色で内花被片よりやや短い。内花被片は白色花弁状で先がとがり、葯は花糸と同長。西多摩の山地ではやや普通に分布するが、南多摩の丘陵地から低山では産地が限られ、個体数も減少している。シロバナエンレイソウの別名もよく使用される。

■生存を脅かす要因：山林の管理停止や気象災害、また獣害など、複合的要因で生育環境の荒廃が進んでいるほか、園芸目的の採取も懸念される。

■特記事項：エンレイソウと同所的に生えている場合も多い。

執筆者 内野秀重
文献一覧 28, 168, 243, 247, 287, 292



八王子市 2008年4月11日

シュロソウ

Veratrum maackii

被子植物
シュロソウ科

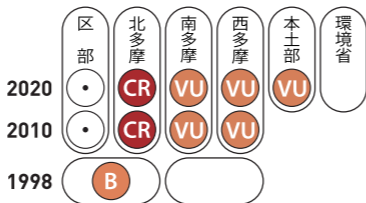
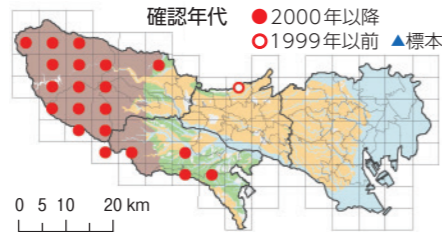
■ **種の特性と生育状況**：全国の落葉樹林下に生育する多年草。葉は広線形～長楕円形で基部にシュロ状の繊維が残る。関東地方以西では、葉幅が狭く、花梗の長いホンバシュロソウが分布するが、東京は移行部分で両者が混在し連続的である。7～8月、円錐状の花序を展開し、紫褐色の花を多数つける。花被片は6個で雄花と両性花が混在する。北多摩及び南多摩の丘陵地や段丘崖の林縁、西多摩山地の林床に分布するが局所的な分布を示す。

■ **生存を脅かす要因**：植生遷移の進行や管理放棄に起因する林床の荒廃が主要な減少要因である。近年は、イノシシ、シカ等による獣害の影響も懸念される。

■ **特記事項**：多摩部ではカタクリ等、春植物と同所性の強い植物である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 145, 168, 185, 243, 287, 300



八王子市 1991年8月10日

オオチゴユリ

Disporum viridescens

被子植物
イヌサフラン科

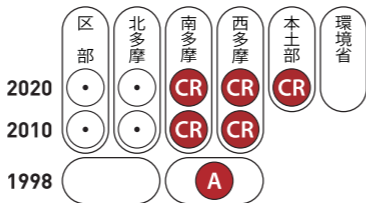
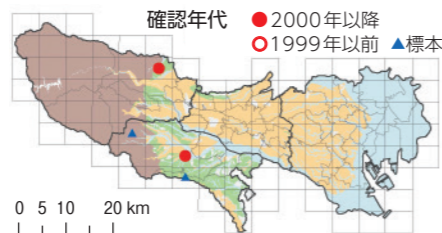
■ **種の特性と生育状況**：本州中部以北と北海道に分布する多年草。疎林下や林縁草地に生育する。チゴユリに似るが高さ40～70cmに達し、上部で分枝する。葉身の縁や主脈上に著しい半月形の細突起がある。5～6月、枝先に1～2個の緑白色の花をつける。花被片は6個で披針形、花柱の離生部分は長い。南多摩や西多摩の丘陵地から山地にかけてわずかな自生地が知られていたが、実態が不明となり、危機的な状況にある。

■ **生存を脅かす要因**：本来希産な植物であったが、各種開発でいくつかの自生地が失われた。植生遷移や管理放棄も生育環境の悪化に拍車をかけている。

■ **特記事項**：エダウチゴユリと混同されることがあり、本種の生育実態には不明な点が多い。

執筆者 内野秀重

文献一覧 152, 260, 288



八王子市 2002年5月3日

マルバサンキライ

Smilax stans

被子植物
サルトリイバラ科

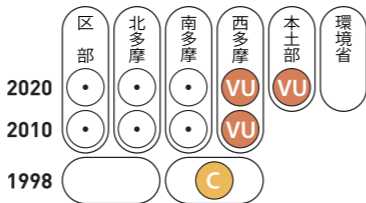
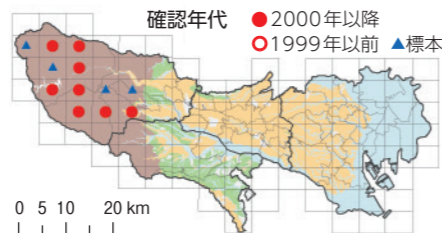
■ **種の特性と生育状況**：本州以西の山中に生える、つる性で雌雄異株の落葉小低木。茎はつるにならず直立、稜があるが刺はない。葉は卵形で、下面は白色を帯びる。5～6月、葉腋から花茎を出し、淡黄緑色花を散形花序に少数つける。果実は液果で黒色に熟す。西多摩の石灰岩地に偏在しており、個体数も限られた状態となっている。近年、北多摩の一部からも分布報告あり、生育実態については不明な点が多い。

■ **生存を脅かす要因**：減少要因については不明な点が多いが、シカ食害をはじめ、森林植生の遷移や何らかの理由による荒廃などが考えられる。

■ **特記事項**：

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 49, 152, 166, 168



奥多摩町 2019年6月5日

アマナ

Amana edulis

被子植物
ユリ科

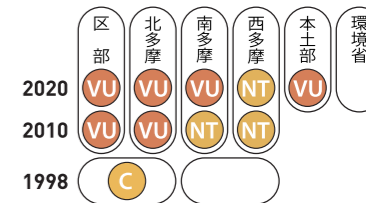
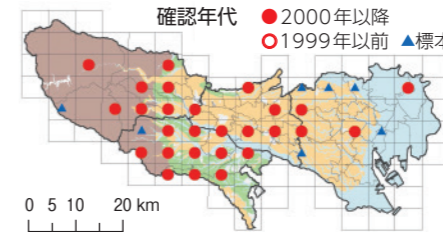
■ **種の特性と生育状況**：福島県以南に分布する多年草。川岸や谷戸の湿った草地や畑地、疎林下などに群生する。3～4月、白緑色の2枚の葉の間から花茎を伸ばして開花し、種子散布後、初夏には地上部は枯れて休眠する。西多摩では山麓に、北多摩や南多摩では川岸の草地や谷戸斜面、段丘崖などに自生地が存在する。区部では、江戸時代に道灌山（荒川区）の記録があり、広範囲に分布していたと推測されるが、現在でも皇居をはじめ、都市公園や堤防草地などに残存する。

■ **生存を脅かす要因**：自生地である草地の開発、路傍や法面の舗装化、除草剤の使用、草地管理の放棄など、生存に影響を与える要因は多岐にわたる。

■ **特記事項**：本種は種子繁殖のほか、鱗茎は地中で旺盛に紐状体を伸ばし、娘鱗茎を増やして栄養繁殖も行う。

執筆者 内野秀重

文献一覧 151, 168, 179, 183, 193, 291



八王子市 1990年4月1日

ヒロハノアマナ

Amana erythronioides

被子植物
ユリ科

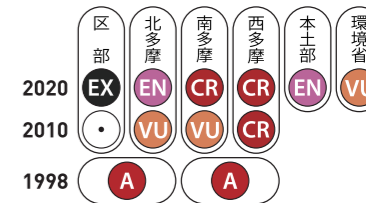
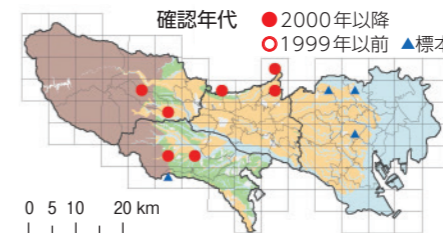
■ **種の特性と生育状況**：関東地方以西、四国にかけての湿り気のある原野や落葉樹林下に生育する多年草。アマナに似ており、混生することもあるが、葉は暗緑色で中央に太い白色線が入る。3月に開花し、花茎には3個の苞がある。都内での分布は極めて稀で、北多摩の段丘崖の落葉樹林内に安定した群生地が保全されているほか、西多摩や南多摩の丘陵地で、河川沿いの北斜面下などにわずかに点在する。

■ **生存を脅かす要因**：自生地が局限されており、園芸目的による盗掘の影響が大きい。春植物であるため、樹林荒廃による光条件の悪化、林床環境の乾燥化などでも衰退を招きやすい。

■ **特記事項**：牧野富太郎は1899年に板橋区で本種を採集しており、かつては区部にも分布していたことが明らかとなった（都立大学牧野標本館 MAK136976）。

執筆者 内野秀重

文献一覧 4, 105, 252, 262, 270



清瀬市 2017年3月23日

ツバメオモト

Clintonia udensis

被子植物
ユリ科

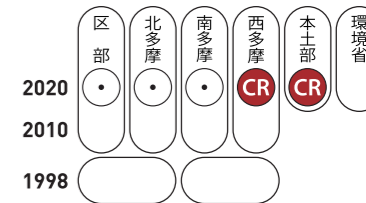
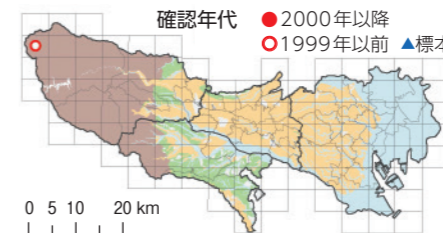
■ **種の特性と生育状況**：本州（奈良県以北）の亜高山帯樹林下に生育する多年草。葉は観葉植物のオモトに似て大きく倒卵状楕円形、数枚を根生する。5～7月、花茎先端の総状花序に白色花をつけ、花後の液果は瑠璃色となる。西多摩の深山、芋ノ木ドッケや雲取山などの都県境域に自生が見られたが、本来個体数が少なく、増加したシカ食害により壊滅的な状態となっている。

■ **生存を脅かす要因**：もともと分布域が局限されており、シカ食害の影響が致命的である。山野草栽培を目的とした採取圧も懸念される。

■ **特記事項**：

執筆者 内野秀重

文献一覧 168, 324



岩手県 2012年6月02日

カタクリ

Erythronium japonicum

被子植物
ユリ科

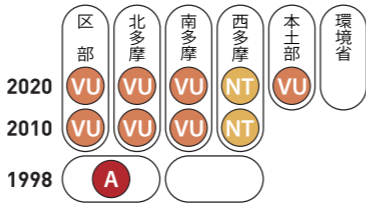
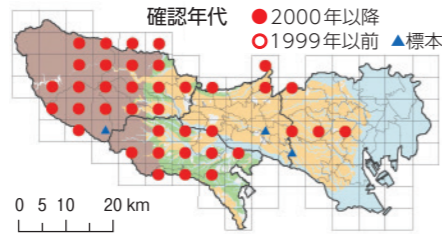
■種の特性と生育状況：全国の落葉広葉樹林下に生育する多年草。早春に芽吹き、3～4月に開花した後、6月初旬には種子を散布して地上での活動を終え、鱗茎で翌年まで休眠する。西多摩では山地尾根筋にも生育するが、山麓から丘陵地にかけては北斜面の落葉樹林下に分布が限られ、台地部や区部の湿潤な段丘沖積地にも若干の自生地が残されている。

■生存を脅かす要因：宅地開発や都市整備、また、盗掘により自生地が消滅したり荒廃したりする事例は近年減少したが、自生地を取り巻く樹林の分断化や地下水位の低下による生育環境の悪化が懸念される

■特記事項：自生地保全は、開花期の十分な光環境確保と、休眠期に地下鱗茎が高温や乾燥にさらされない環境条件に配慮することが重要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 123, 175, 239, 251, 273, 292



八王子市 1996年4月5日

カイコバイモ

Fritillaria kaiensis

被子植物
ユリ科

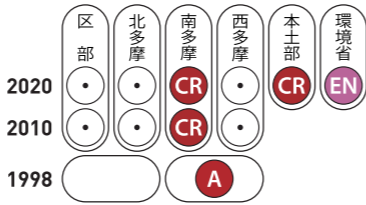
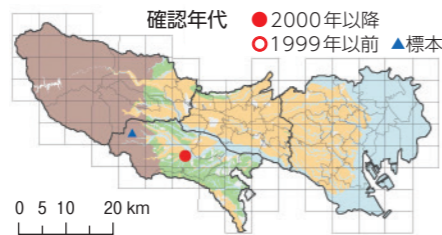
■種の特性と生育状況：1965年に山梨県で林弥栄が、また同年、畔上能力が東京都八王子市近郊で発見した希産な多年草。その後、静岡県でも生育が確認されている。植物体は高さ10cm程度。アワコバイモに似るが、花被片は皿形、葯は白色。3月、落葉樹の疎林下で同所的に生育するカタクリより少し早く開花する。自生地の担保性は高いが生育環境には光条件等の確保等、心配な要因が多い。本種の貴重性を鑑み、生活史を考慮した適切な個体群の管理が望まれる。

■生存を脅かす要因：鑑賞を目的とした踏み荒らし、また園芸目的の盗掘などの影響が少ない。自生地周辺への不適切な園芸植物の導入もその影響が懸念される。

■特記事項：日本固有の植物の一種である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 11, 77, 243, 262



八王子市 1990年3月11日

ヒメアマナ

Gagea japonica

被子植物
ユリ科

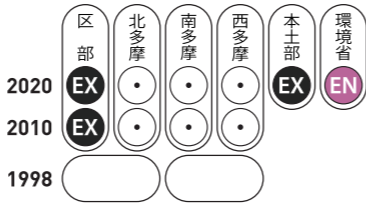
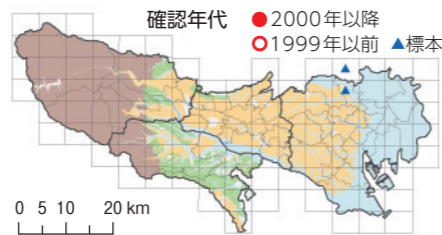
■種の特性と生育状況：本州及び北海道の河川氾濫原など、低地の湿った場所に生える多年生の春植物。鱗茎を持ち、根出葉は1枚で幅2mm。3～4月、キバナノアマナに似て、小形の黄色花3～4個を散形状につける。区部では板橋区志村や北区浮間などに産したが絶滅。都立大牧野標本館には西多摩や南多摩産の標本が残されているが、区部以外の分布については不明な点が多く、詳細な検討を行う必要がある。

■生存を脅かす要因：湿地開発を中心とした各種開発により、本種の生育環境である氾濫原野や低湿地が失われ、消滅した。

■特記事項：西多摩や南多摩ではキバナノアマナと混同されている可能性があり、実態の再調査が必要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 270



キバナノアマナ

Gagea nakaiana

被子植物
ユリ科

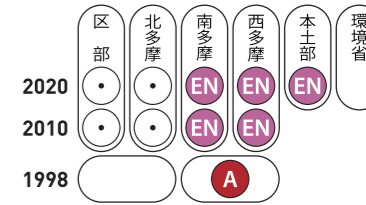
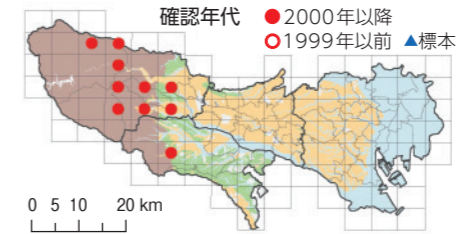
■種の特性と生育状況：北海道から本州中部、四国、九州の山麓の林縁等に生育する多年生の春植物。植物体は粉白色を帯びる。地下に鱗茎を持ち、幅5～7mm、線形で厚みのある根生葉を伸ばす。3～4月、花茎の先端に4～10個の黄色花を散形状に咲かせる。南多摩や西多摩の丘陵地から低山にかけて分布し、渓谷沿いの林縁、段丘崖などに自生地があるが、局所的で生育条件の悪化した自生地も少なくない。

■生存を脅かす要因：林縁の植生遷移や管理放棄による生育条件の悪化、野生動物による植生荒廃、また園芸目的の採取圧が高いなど、複合的要因によって減少している。

■特記事項：

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 168, 243, 286



八王子市 1988年4月5日

コオニユリ

Lilium leichtlinii f. *pseudotigrinum*

被子植物
ユリ科

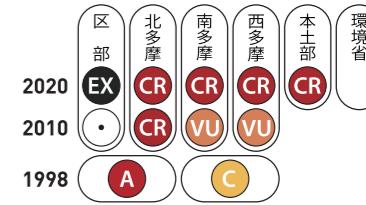
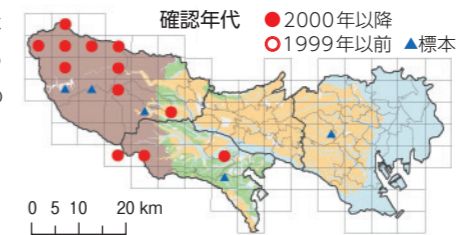
■種の特性と生育状況：本州～九州に分布する多年草。丘陵帯の湿地や山地草原に生える。鱗茎は小さく地下に匍匐枝を伸ばす。葉は線状披針形で光沢があり、オオニユリに似るが葉腋に珠芽はつけない。7～9月、茎頂に橙赤色の花を点頭し、花被片内面に暗紫色の斑点を散りばめる。都内の丘陵地では湧水環境の湿性草地にごくわずかな自生地があるにすぎない。また、山地でも、岩場などに生育する狭葉型のホソバコオニユリとともに生育地は点在する程度となっている。

■生存を脅かす要因：都市部では各種開発により生育に適した湿性草地が失われた。また、残された自生地では森林荒廃、湿地の乾燥化や樹林化、シカ食害などにより、自生地は局限まで減少している。

■特記事項：区部の善福寺川流域で採集された標本が都立大学牧野標本館に残されている(MAK139160杉並区成宗1914.7.25Sentaro Naito)。

執筆者 内野秀重

文献一覧 168, 243, 263, 270, 290, 320



奥多摩町 1999年8月23日

クルマユリ

Lilium medeoloides

被子植物
ユリ科

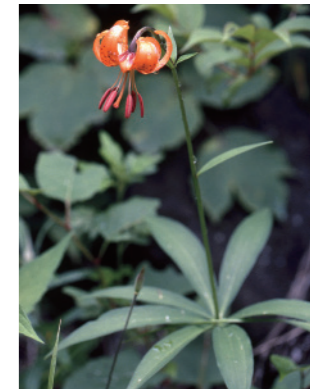
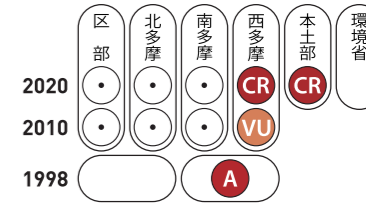
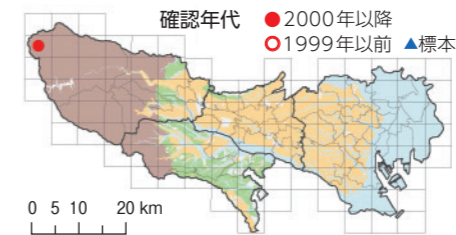
■種の特性と生育状況：北海道～近畿地方、四国に分布する多年草で、亜高山帯の草原に生える。鱗茎から茎を伸ばし、茎中部に披針形の葉を1～3段に輪生する。7月下旬～8月、茎頂から花柄を伸ばし、橙赤色の花を数個、下方に向けて咲かせる。花被片は濃色の斑点があり、強く反曲する。西多摩では奥多摩の雲取山の山域に自生地があり、最近では2016年に東京都レンジャーにより確認されているが、個体群の衰退が懸念される。

■生存を脅かす要因：もともと自生地が限られているうえに、植生の遷移進行、また、シカ食害の影響を受けているものと推測される。

■特記事項：

執筆者 内野秀重

文献一覧 26, 168, 257, 292, 324



山梨県 1989年7月27日

ヤマジノホトギス

Tricyrtis affinis

被子植物
ユリ科

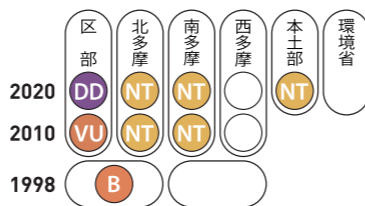
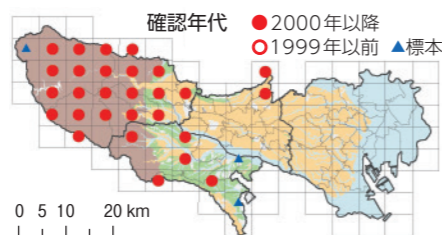
■種の特性と生育状況：北海道～九州の樹林下や草原に生える多年草。茎には下向きの毛があり、葉は卵状長楕円形。8～9月、葉腋に1～2個の花をつける。花被片は平開し反り返らない。都内では北多摩の台地部から丘陵地に局所的、西多摩の山地に広く分布しているが、丘陵帯以下の衰退は著しい。区部や南多摩の分布については不明な点が多く、過去の記録や標本の再調査が必要である。

■生存を脅かす要因：森林や草地開発、里山の管理放棄や植生遷移、また、特に山地部ではシカ等による食害の影響が懸念される。

■特記事項：日本固有種。ヤマホトギスと誤認しやすいが、同定には、ヤマジノホトギスには茎に下向きの毛があり、花序は総状花序で散房状にはならない点に着目することが重要である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 280, 287, 290, 291



青梅市 2021年9月16日

ホトギス

Tricyrtis hirta

被子植物
ユリ科

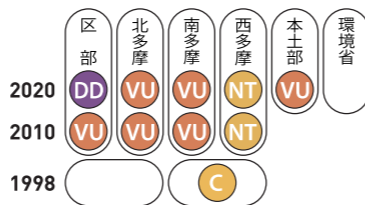
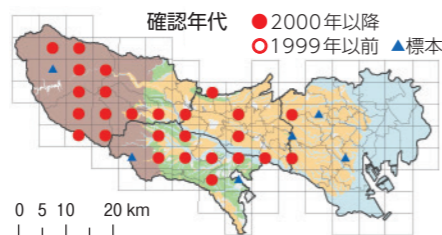
■種の特性と生育状況：北海道、及び関東～九州の山野に生育する多年草。茎は斜上または壁面から下垂し、褐色で上向する毛が多い。葉は長楕円状披針形。開花は8～9月、花は各葉腋に1～3個つけ紅紫色の斑点をもつ。都内では、台地部丘陵から丘陵帯に本来局所的、また西多摩の山地壁面や渓崖地などに広く分布しているが、いずれのエリアでも減少傾向にあり、台地部では近年の生育が確認できていない。

■生存を脅かす要因：低標高地では森林開発、里山の管理放棄に伴う植生遷移が、また、山地部では森林荒廃やシカ等による食害の影響が大きい。

■特記事項：日本固有種。台湾ホトギスに由来する園芸種と似ており、これらの逸出による遺伝的攪乱が懸念される。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 49, 243, 287, 290, 291



八王子市 1993年10月10日

タマガワホトギス

Tricyrtis latifolia

被子植物
ユリ科

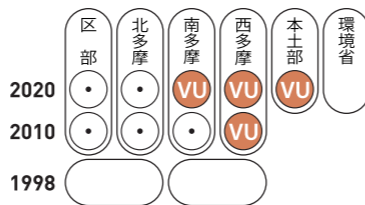
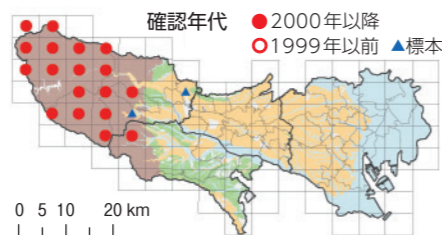
■種の特性と生育状況：北海道～九州に分布する多年草。冷温帯の湿潤な林縁や暖温帯上部の渓谷河岸などに生育する。根茎から走出枝を横に出し、地上茎は斜上する。葉は互生し広楕円形で、心形の基部は茎を抱く。7～9月、上部の葉腋と茎頂に散房花序に花をつける。花被片は黄色で内面に紫褐色の斑点がある。南多摩の一部と西多摩の沢筋や渓谷河岸に自生地が点在するが、個体数や産地が限られている。

■生存を脅かす要因：自生地である河岸の崩壊や林縁植生の遷移などのほか、鑑賞価値が高いことから園芸目的の採取により個体数を減じている地域も見られる。

■特記事項：日本固有種である。

執筆者 内野秀重

文献一覧 28, 168, 243



青梅市 1993年8月23日

マメツタラン

Bulbophyllum drymoglossum

被子植物
ラン科

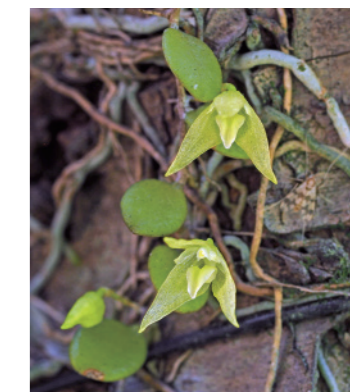
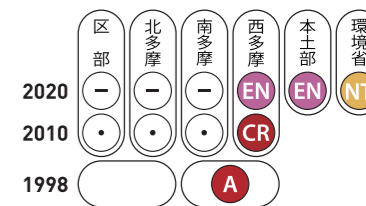
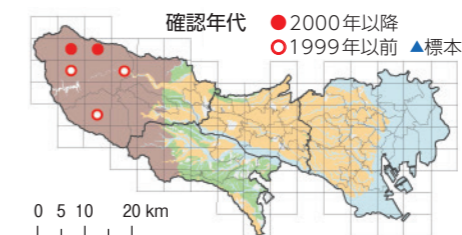
■種の特性と生育状況：本州（福島県以南）、四国、九州、南西諸島に分布する多年草で、山地の樹幹や岩上に着生する。根茎を細長く匍匐させ、シダのマメツタに似た長さ1cmほどの倒卵形の葉をつける。花期は5～6月、葉の基部から花茎を出し、淡黄色の花を1個つける。都内では、西多摩山地部の石灰岩地の樹幹や岩上に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、石灰採掘、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 152, 168



神奈川県 2021年5月2日

ムギラン

Bulbophyllum inconspicuum

被子植物
ラン科

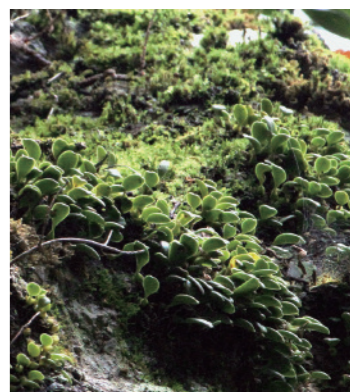
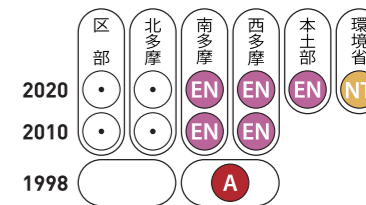
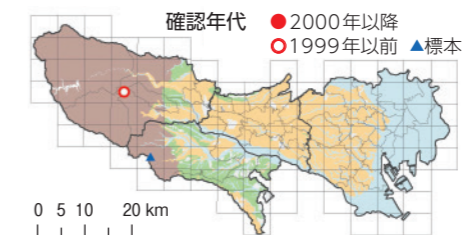
■種の特性と生育状況：本州（宮城県以南）、四国、九州に分布する多年草で、山地の常緑樹林の樹幹や岩上で湿度の高い所に着生する。根茎は匍匐し、卵形の偽球茎をまばらにつけ、先端に1～3cmの楕円形で肉質の葉を1葉つける。花期は6～7月、偽球茎の基部から花茎を出し、黄白色の花を1個つける。都内では、南多摩・西多摩の山地部の常緑樹の樹幹や岩上に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 76, 219, 243, 247



青梅市 2010年5月12日

エビネ

Calanthe discolor

被子植物
ラン科

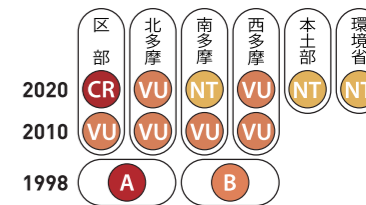
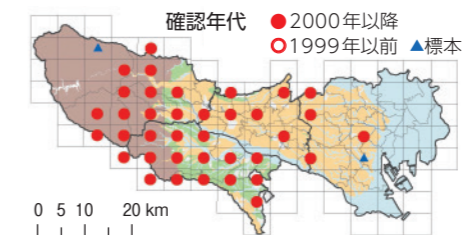
■種の特性と生育状況：北海道（西南部）、本州、四国、九州、南西諸島に分布する多年草で、暖温帯の樹林下に生育する。地下に連なった偽球茎がある。葉は長さ15～40cmで縦じわのある長楕円形。花期は4～5月で、高さ20～40cmの花茎に8～15花をつける。側花弁と萼片は狭卵形。唇弁は扇形で3深裂し、中裂片に3条の隆起線がある。花被片が紫褐色で唇弁が淡紅紫色のもの、花被片が淡緑色で唇弁が白色のものなど変化に富む。都内では、区部から多摩地域にかけて、台地・丘陵・山地までの常緑または落葉樹林内、竹林などに生育する。

■生存を脅かす要因：各種開発、森林伐採、観光開発等、市街地開発、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 168, 243, 270



八王子市 2010年5月20日

キンセイラン

Calanthe nipponica

被子植物
ラン科

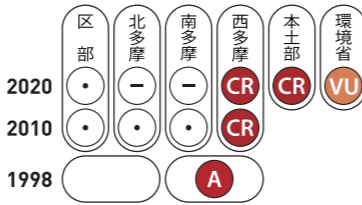
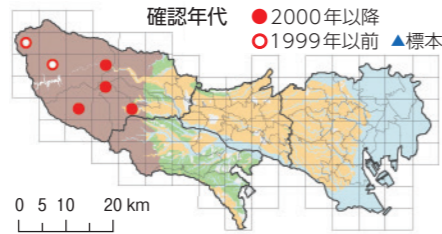
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の樹林下に生育する。地下に連なった偽球茎がある。葉は3～5枚つき、広披針形で長さ15～30cm、幅2～3.5cm。花期は6～7月で、高さ30～50cmの花茎に淡黄緑色の花を5～12個つける。唇弁は3裂し、距は短く、側花弁と萼片は披針形。都内では多摩西部の山地の落葉樹林や植林内に極めて稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 24, 168



山梨県 1992年7月20日

ナツエビネ

Calanthe puberula var. *rreflexa*

被子植物
ラン科

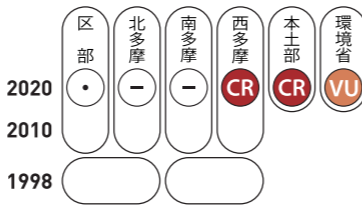
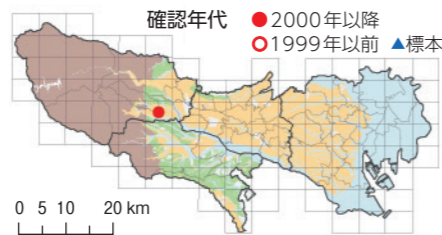
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯のやや湿り気のある樹林下に生育する。偽球茎は球状。葉は長さ10～30cmの長楕円形で、3～5個が束生。花期は7～8月で、高さ20～40cmの花茎に10～20花を総状につける。萼片、側花弁は淡紫色で、萼片は狭卵形で反り返り、側花弁は線形で横に広がる。唇弁はやや濃色で、3裂し下垂する。都内では、西多摩の山地樹林内での生育記録があるが現状不明。また、近年、南多摩と西多摩の丘陵地においても確認されており、今後の動向が注目される。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 244



日の出町 2016年8月5日

ホテイラン

Calypto bulbosa var. *speciosa*

被子植物
ラン科

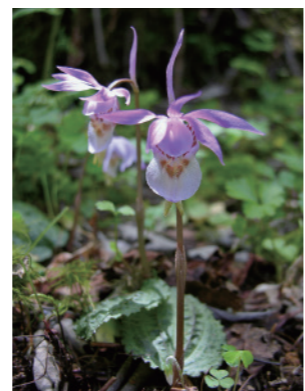
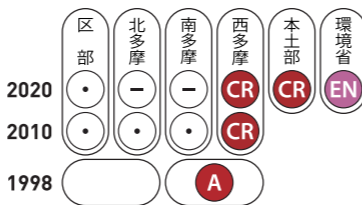
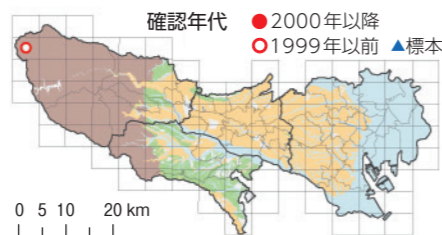
■ **種の特性と生育状況**：本州（中部）に分布する多年草で、亜高山帯の針葉樹林下に生育する。球茎は2～3節ある狭卵形。葉は1.5～3cmの葉柄があり、葉身は長さ2.5～5cmの卵状楕円形で縦じわが目立ち、裏面は赤紫色。花期は5～6月で、球茎から出た高さ6～15cmの花茎の先端に淡紅色の1花をつける。萼片と側花弁は線状披針形で開出。唇弁は袋状で下垂し、白色で内面に淡褐色の斑点がある。都内では、西多摩の亜高山帯針葉樹林下に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 168, 292



長野県 2004年5月26日

ギンラン

Cephalanthera erecta

被子植物
ラン科

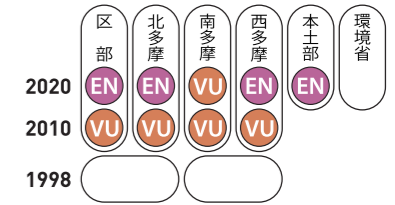
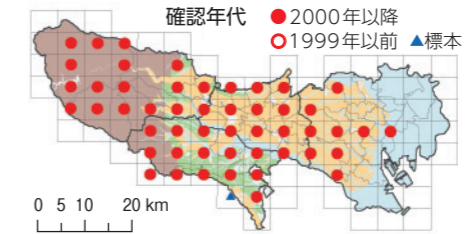
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯にかけての樹林内や林縁に生育する。花茎は直立し、高さ10～30cm。葉は3～6個互生し、長さ3～8cmの長楕円形。花期は4～5月で、白色の花を1～15個つける。花は平開せず、唇弁の基部に短い距をつける。都内では、区部から多摩地域までの常緑または落葉樹林内や林縁にかけて生育し、とくに丘陵地の雑木林に多く見られる。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、森林伐採、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 17, 168, 243, 270



立川市 2013年5月2日

ユウシュンラン

Cephalanthera erecta var. *subaphylla*

被子植物
ラン科

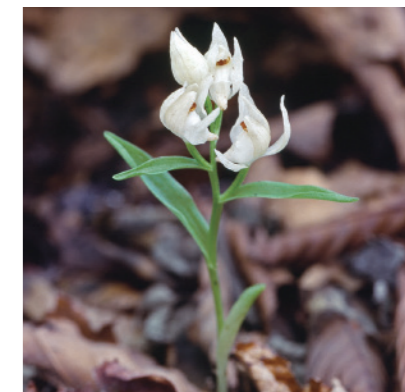
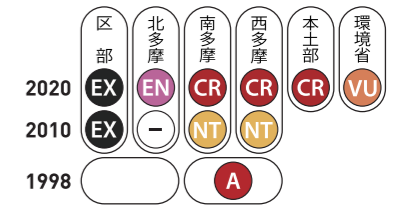
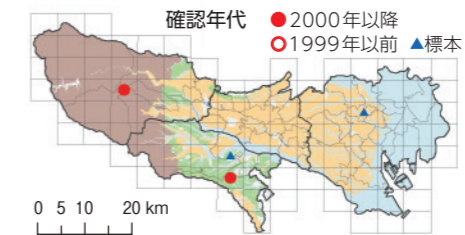
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯～亜寒帯の落葉樹林下に生育する。葉が退化して小さく、上部1～2個を除き鞘状。ギンランに似ているが、葉とともに花も形態が異なる。花期は4～5月、高さ6～15cmの花茎の頂に花を2～5個つける。花は白色で上向きに半開、唇弁には褐色の筋があり、距が突き出る。都内では、多摩地域の丘陵から山地にかけての落葉樹林内などに稀に生育するが、区部では絶滅したと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、森林伐採、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 153, 243, 247



八王子市 2013年5月2日

キンラン

Cephalanthera falcata

被子植物
ラン科

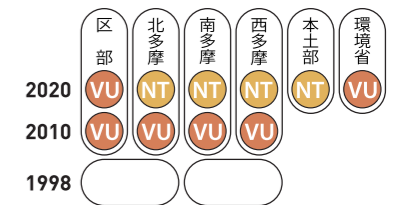
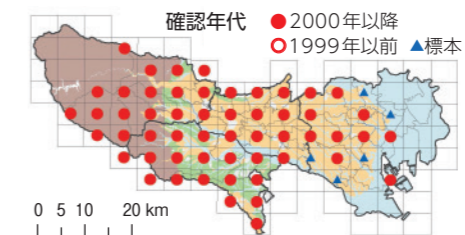
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯の落葉樹林内や林縁に生育する。茎は直立し、高さ30～70cm。葉は5～8個互生し、長さ8～15cm、幅2～4cmの広披針形。花期は4～5月で、黄色の花を上向きに3～12個つける。唇弁は中心に褐色の隆起線があり、距が突き出る。都内では、区部から多摩地域まで、台地から丘陵、山地の常緑または落葉樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：各種開発、森林伐採、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆 新井二郎

文献一覧 17, 168, 243, 270



八王子市 2021年4月22日

ササバギンラン

Cephalanthera longibracteata

被子植物
ラン科

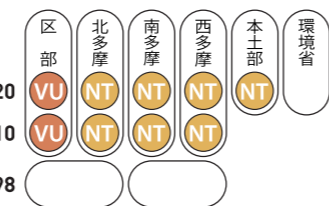
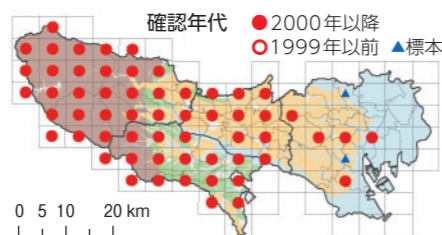
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯にかけての樹林内や林縁に生育する。花茎は直立し、高さ30～50cm。葉は6～8個互生し、長さ7～15cmの狭長楕円形でギンランより大柄。苞葉は線形で下部の1～2個は特に長い。花期は4～6月で、白色の平開しない花をつけ、唇弁基部に短い距をつける。都内では、区部から多摩地域まで、台地から丘陵地、山地の常緑または落葉樹林内に生育する。

■生存を脅かす要因：各種開発、森林伐採、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 168, 243, 270



立川市 2009年5月1日

ヒメノヤガラ

Chamaegastrodia sikokiana

被子植物
ラン科

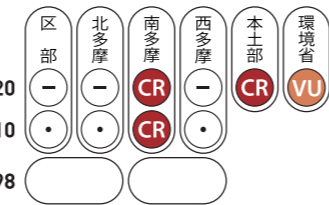
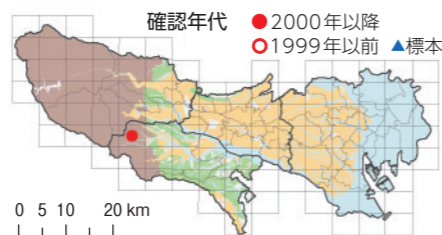
■種の特性と生育状況：本州（岩手県以南）、四国、九州、屋久島に分布し、普通葉を形成しない菌従属栄養植物で、暖温帯のやや明るい林内に生育する。地上茎は直立し高さ5～20cmの橙色で、鱗片葉を互生する。花期は7～8月で、橙色の花を5～10個つける。萼片と側花弁は長さ3～4mm、筒状になり先がわずかに開く。唇弁は花の上側につく。都内では南多摩西部の山地の落葉樹林下で確認されたが、現状確認が必要である。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化、動物による食害などが衰退要因である。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 243



神奈川県 2018年6月29日

コアツモリソウ

Cypripedium debile

被子植物
ラン科

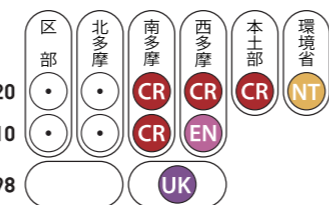
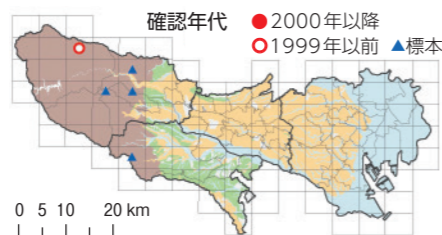
■種の特性と生育状況：北海道（西南部）、本州（中部以北）、四国、九州（熊本県）に分布する多年草で、冷温帯の山地樹林下に生育する。茎は高さ10～20cm。葉は3～5cmの光沢のある円心形で、茎頂に2枚を対生につける。花期は5～6月で、花は葉の間から出る花茎の先につき、垂れ下がる。萼片と側花弁は披針形で、側萼片は合着し、いずれも淡黄緑色。唇弁は袋状、1cmほどで暗紅紫色の縞模様がある。都内では、南多摩と西多摩の山地の樹林内に生育するが、南多摩のものは現状不明となっている。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 27, 168, 243, 246, 247



山梨県 2010年6月17日

クマガイソウ

Cypripedium japonicum

被子植物
ラン科

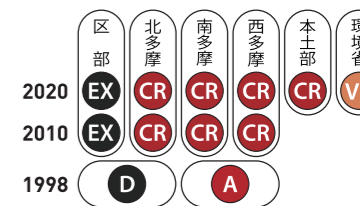
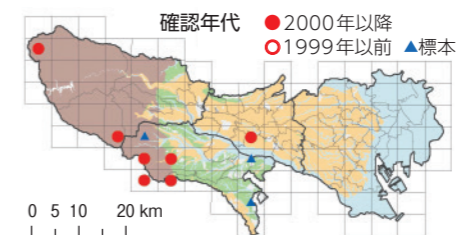
■種の特性と生育状況：北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の樹林内に生育する。茎は有毛で高さ20～40cm。葉は茎頂に2枚対生状につき、扇形で径10～20cm、放射状に多数の脈がある。花期は4～5月で、茎頂に1個、径10cmほどの大型の花を横向きにつける。萼片と側花弁は淡黄緑色、唇弁は袋状で紅紫色の脈が目立つ。都内では、多摩地域の台地から丘陵地、山地の植林や竹林などを主とした樹林下に生育する。区部においては絶滅した。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 243, 247, 270, 292



八王子市 2008年5月4日

アツモリソウ

Cypripedium macranthos var. *speciosum*

被子植物
ラン科

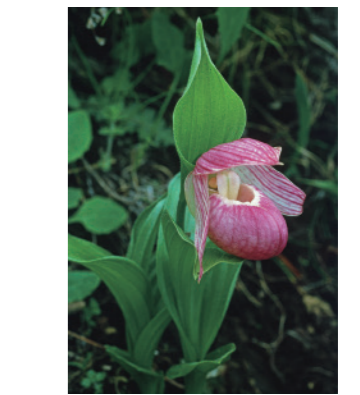
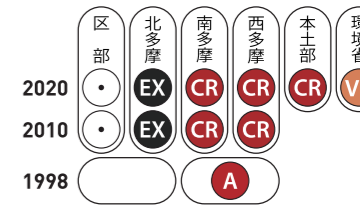
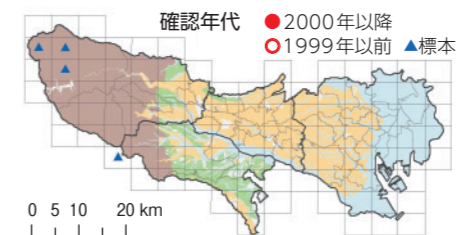
■種の特性と生育状況：北海道、本州（近畿地方以北）に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の草原に生育する。茎は高さ20～40cmで葉とともに有毛。葉は長楕円形で3～5枚互生し、基部は短い鞘となる。花期は5～7月で、茎頂に径3～5cmの淡紅紫色～紅紫色の花を横向きにつけ、唇弁が袋状で目立つ。都内では、南多摩や西多摩の山地の草原に稀に生育していたが、近年生育情報が得られず、現状確認が必要である。北多摩では絶滅。

■生存を脅かす要因：草地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 168, 243



奥多摩町 1978年6月18日

ツチアケビ

Cyrtosia septentrionalis

被子植物
ラン科

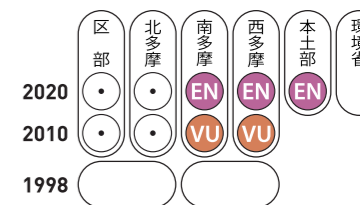
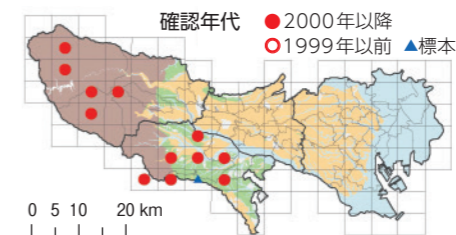
■種の特性と生育状況：北海道（南部）、本州、四国、九州の暖温帯から冷温帯にかけての樹林下や林縁に生育する菌従属栄養植物。根茎は太く横に這い、地上茎は直立して高さ50～100cm。まばらに分枝し、複総状花序を立てる。花期は6～7月で、多数の黄褐色で半開の花をつける。果実は肉質赤褐色で長さ6～10cm、バナナ状となって下垂する。都内では、南多摩および西多摩の台地、丘陵地、山地の樹林内や林縁などに生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

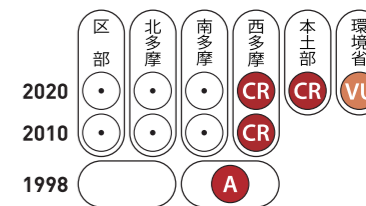
■特記事項：

執筆者 新井二郎

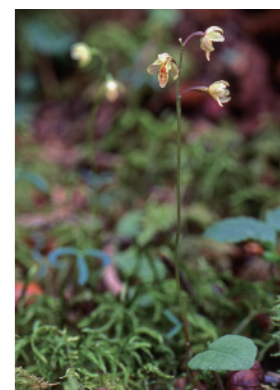
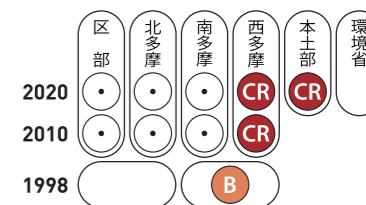
文献一覧 168, 243



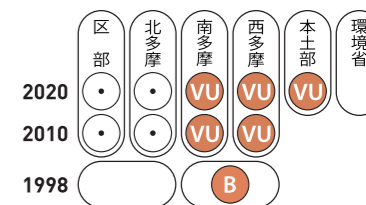
八王子市 2019年6月18日



奥多摩町 1982年7月18日



奥多摩町 1992年8月7日



八王子市 2012年7月6日

ハコネラン *Ephippianthus sawadanus*

被子植物 ラン科

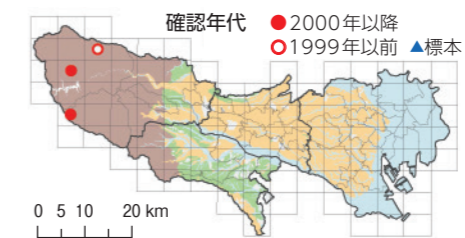
■種の特性と生育状況：本州（埼玉県～静岡県、奈良県）に分布する多年草で、冷温帯の落葉樹林内に生育する。根茎は細く匍匐し、先端に1葉と花茎がある。葉は長楕円形で長さ1.5～3cm。花茎は直立し、高さ10～20cm。花期は7～8月で、淡黄緑色の小さな花をまばらに2～7個つける。コイチヨウランに似るが、唇弁の両側に鋸歯がある。都内では、西多摩の山地のブナ帯の樹林内に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：日本固有種である。

執筆 新井二郎

文献一覧 168



コイチヨウラン *Ephippianthus schmidtii*

被子植物 ラン科

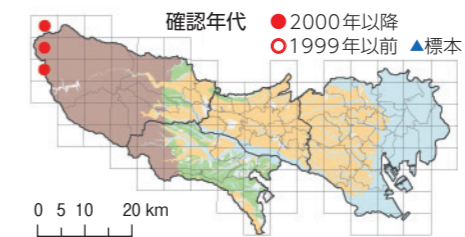
■種の特性と生育状況：北海道、本州（東北～山陰）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の主に針葉樹林下に生育する。根茎は細く匍匐し、先端に1葉と花茎がある。葉は長さ1.5～3cmの長楕円形で柄がある。花茎は高さ10～20cm。花期は6～7月で、茎上部に淡黄緑色の小さな花を3～6個つける。唇弁には紅紫色の斑紋がある。都内では、西多摩の山地深部のブナ林内に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 168



エソスズラン *Epipactis papillosa*

被子植物 ラン科

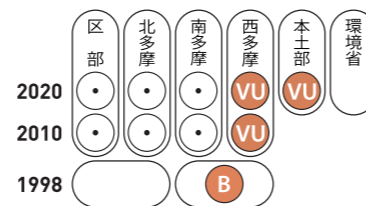
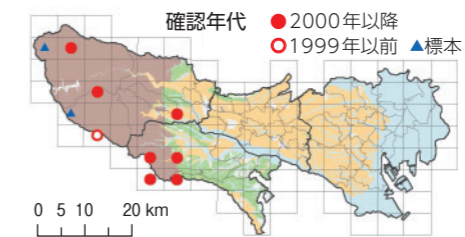
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯にかけての樹林内や林縁に生育する。茎は高さ30～60cm。葉は5～7個つき、卵状楕円形で先が尖り、長さ7～12cm。花期は6～8月で、総状花序に緑色の花を20～30個つける。唇弁の先端部は卵形で、後部は内側に巻き、内面は褐色。都内では、南多摩・西多摩の山地の林内に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

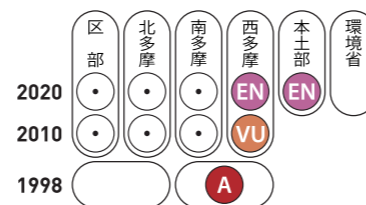
■特記事項：

執筆 新井二郎

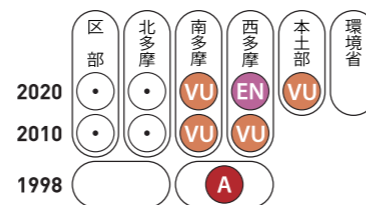
文献一覧 24, 152, 168, 243



山梨県 2016年6月16日



山梨県 1992年6月25日



八王子市 2010年5月22日

アオチドリ *Dactylorhiza viridis*

被子植物 ラン科

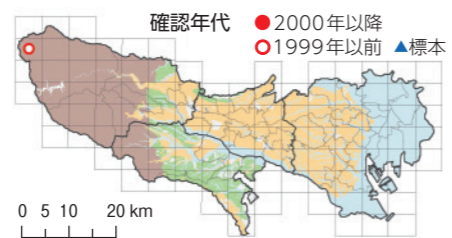
■種の特性と生育状況：北海道、本州（中部以北）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯にかけての樹林内や林縁に生育する。茎は高さ直立し、高さ20～50cm。葉は長楕円形で長さ4～10cm。花期は5～7月で、茎頂に径1～2cmの淡緑色～紫褐色の花を多数つける。唇弁は帯紅紫色で長さ1cm、先端は3浅裂し、距は太く短い。都内では、西多摩の山地のブナ林や亜高山帯のやや湿った所に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 26



イチヨウラン *Dactylostalix ringens*

被子植物 ラン科

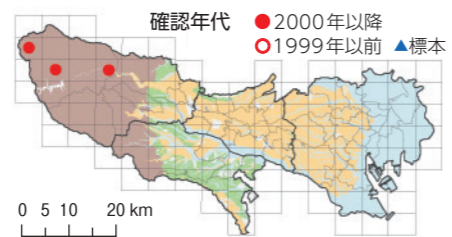
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯にかけての林床に生育する。葉は1個根生し、長さ3～6cmの卵円形。花茎は高さ10～20cm、先に1個の花をつける。花期は5～7月で、萼片と側花弁は淡緑色で披針形。唇弁は白色の卵形で3裂し、紫斑がある。都内では、西多摩の亜高山帯針葉樹林内に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、シカの食害。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 168



セッコク *Dendrobium moniliforme*

被子植物 ラン科

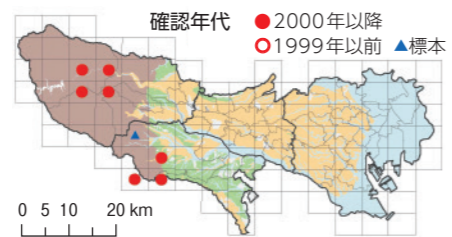
■種の特性と生育状況：本州、四国、九州、南西諸島に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の樹上や岩上に多数の根を出して着生する。茎は高さ5～25cm、節間は円柱形。葉は2年生で互生し、長さ4～7cmの披針形。花期は5～6月で、前年の葉が落ちた茎の上部の節に、白色～淡紅色の花を1～2個つける。萼片と側花弁はほぼ同長で長さ約2.5cm、唇弁はやや短く卵状楕円形で先は尖り、基部で蕊中をかかえる。都内では、南多摩や西多摩の山地の樹上や岩上に着生して生育するが、樹上ではスギに着生していることが多い。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 168, 219, 243, 247



カキラン

Epipactis thunbergii

被子植物
ラン科

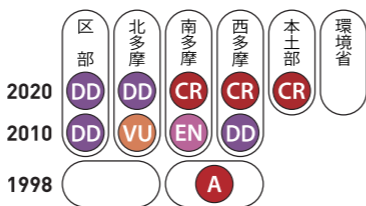
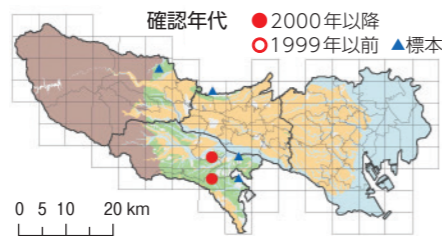
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯の日当たりのよい湿地に生育する。根茎は横に這い、節から根を出す。地上茎は高さ30～70cm、狭卵形で長さ7～12cmの葉が5～10個互生する。花期は6～8月で、黄褐色の花を10個ほどつける。唇弁の先端は矢印状で内面には紅紫色斑があり、関節により上下2唇に別れている。都内では、南多摩の丘陵地にある谷戸斜面の湿性草地などにごく稀に生育するが、南多摩から西多摩にかけての低山地尾根筋の草地でも記録されている。区部や北多摩では現状不明となっている。

■生存を脅かす要因：湿地開発、人の踏みつけ、採取、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 152, 243, 246, 247, 270



町田市 2006年6月28日

カモメラン

Galearis cyclochila

被子植物
ラン科

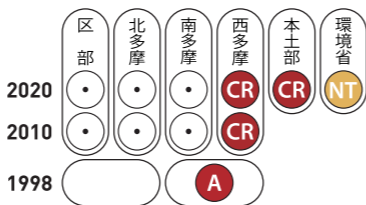
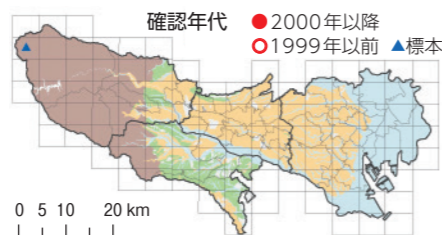
■種の特性と生育状況：北海道、本州（中国地方以北）、四国に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯にかけての湿り気のある林内に生育する。茎は高さ10～20cmで翼がある。葉は1個根生し、長さ4～6cmの広楕円形で有柄。花期は5～7月で、茎頂に淡紅色の花をふつう2個つける。唇弁は広卵形で長さ約1cm、紅紫斑が散らばる。都内では、西多摩の山地深部の石灰岩地稜線の明るい林内に稀に生育する。

■生存を脅かす要因：石灰採掘、湿地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 24, 26, 168, 292



山梨県 1980年6月

マツラン(ベニカヤラン)

Gastrochilus matsuran

被子植物
ラン科

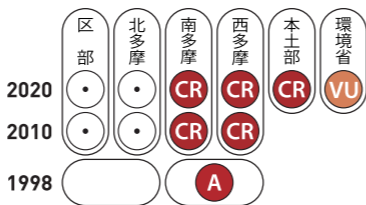
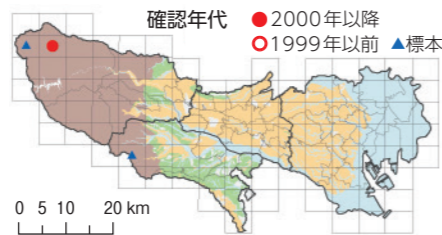
■種の特性と生育状況：本州（岩手県以南の太平洋側）、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の常緑樹林の樹幹に着生する。多数の太い根を出し樹皮に張り付く。茎は細く、長さ1～3cm。葉は2列互生し、長楕円形でやや湾曲し長さ7～20mm、暗紫色の斑紋がある。花期は4～6月で、葉腋から花茎を出し、1～4個の黄緑色の地に暗紫色の斑のある小さな花をつける。都内では、南多摩や西多摩の山地の常緑樹林や沢沿いの樹幹に着生するが、極めて稀である。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化、自然災害。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 168, 243, 246



山梨県 2021年4月14日

モミラン

Gastrochilus toramanus

被子植物
ラン科

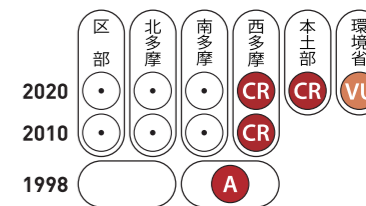
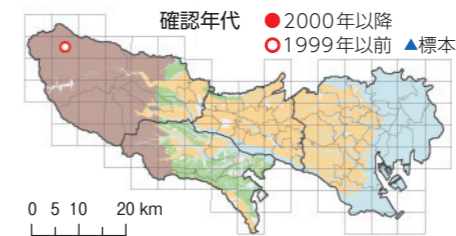
■種の特性と生育状況：本州（宮城県以南）、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯にかけての針葉樹、広葉樹の混交林の樹幹に着生する。茎は長く、葉を2列に互生する。葉は小型、革質の卵状楕円形で、長さ5～11mm、幅2.5～3mm、鋭頭でふつう暗紫色斑がある。花期は3～4月で、葉腋から出た短い花茎に小さな黄緑色の花を2～6個つける。花の内面基部に紅紫色の斑紋がある。都内では、西多摩の山地の渓谷林のカヤカエデなどの樹幹に着生して生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 168



奥多摩町 2019年4月9日

アキザキヤツシロラン

Gastrodia confusa

被子植物
ラン科

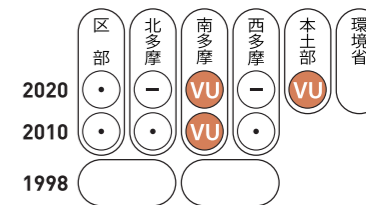
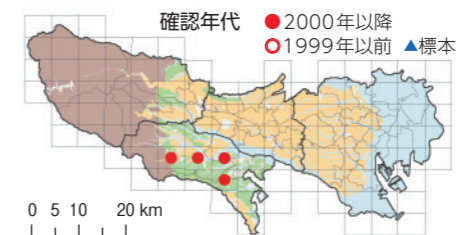
■種の特性と生育状況：本州（関東地方以西）、四国、九州に分布し、暖温帯の竹林内に生育する菌従属栄養植物。地下に紡錘状の塊茎があり、花茎は高さ3.5～10cmで鱗片葉が数個つく。花期は9～10月で、茎頂に2～8個の花をつける。花は緑褐色、萼片と側花弁が合着し鐘状筒形で表面にイボ状小突起。唇弁は無毛で黄白色、基部近くに1対の四角柱状の突起。果期には茎が伸びて長さ30cmほどになる。都内では南多摩に分布し、竹林に生育する。

■生存を脅かす要因：森林（竹林）伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 243



八王子市 2019年9月27日

オニノヤガラ

Gastrodia elata

被子植物
ラン科

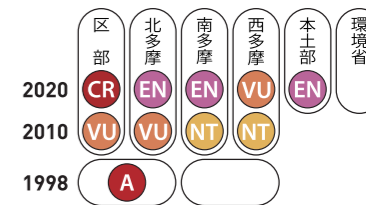
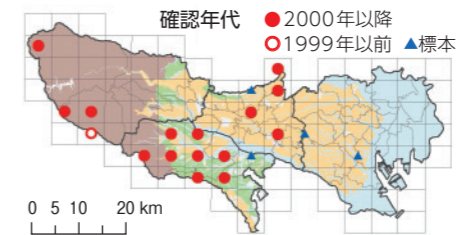
■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布し、暖温帯から亜寒帯の林床に生育する菌従属栄養植物。地上茎は直立し、高さ40～100cmで帯黄褐色、膜質の1～2cmの鱗片葉をまばらにつける。花期は6～7月で、20～50花を総状花序につける。花は黄褐色で、萼片3個が合着して壺状で上部が3裂、内側に2個の側花弁がつく。唇弁は卵状長楕円形。ときに全体が緑色のものがあり、アオテンマと呼ばれる。都内では台地から丘陵地の谷戸、山地などの雑木林に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆 新井二郎

文献一覧 17, 152, 168, 219, 243, 270



八王子市 2020年6月4日

シロテンマ

Gastrodia elata var. *pallescens*

被子植物
ラン科

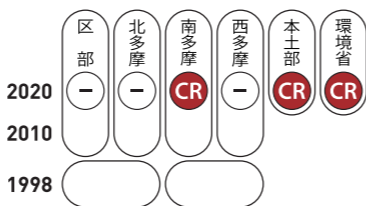
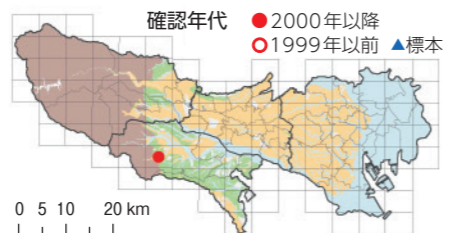
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布し、暖温帯から冷温帯にかけての落葉広葉樹林下に生育する菌従属栄養植物。オニノヤガラに似るが、全体に小さく、花茎は細く、淡黄白色で高さ40～80cm。花期は7月で、花も淡黄白色で、形はオニノヤガラによく似る。都内での分布は、南多摩の丘陵地や山地の湿り気のある所に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：オニノヤガラの品種とされてきたが、全体に小さく、花の形態に違いがあり、また花期も違うことから、最近では別変種とする見方が一般的である。

執筆者 新井二郎

文献一覧 243



八王子市 2012年7月6日

ベニシュスラン

Goodyera biflora

被子植物
ラン科

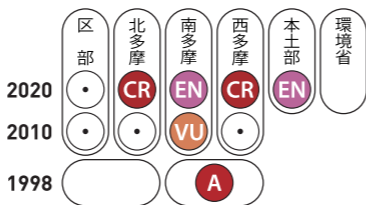
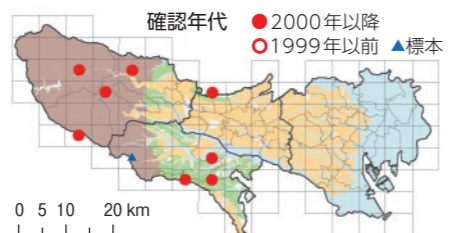
■ **種の特性と生育状況**：北海道（南部）、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯にかけての樹林内に生育する。茎は基部が横に這い、上部は斜上して高さ4～10cm。葉は3～4個が互生し、長さ2～4cm、表面は暗緑色で白色網目模様がある。花期は7～8月、茎頂に筒形で長さ3cmほどの淡紅紫色の花を横向きに1～4個つける。都内では、多摩地域の丘陵地から山地にかけての湿潤な雑木林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 219, 243



八王子市 2019年7月18日

アケボノシュスラン

Goodyera foliosa var. *laevis*

被子植物
ラン科

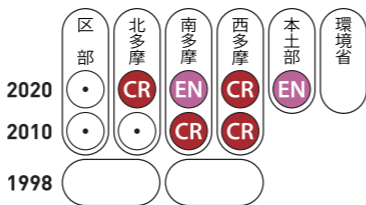
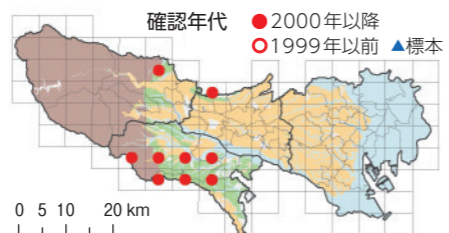
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯にかけての常緑樹林下に生育する。茎は基部が横に這い、上部は斜上して高さ5～10cm。葉は卵形で3～5個が互生し、長さ2～4cm、縁は波打つ。花期は9～10月で、茎頂に淡紅色を帯びた白色の花が密に3～7個やや偏ってつく。背萼片と側花弁は重なり合い、先がわずかに開く。都内では、多摩地域の丘陵地から低山にかけて、湿り気のある谷筋の樹林下に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 243



八王子市 2020年10月15日

ツリシュスラン

Goodyera pendula

被子植物
ラン科

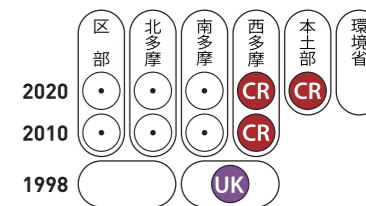
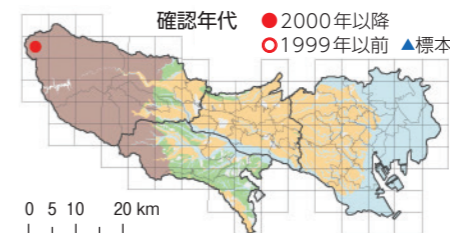
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の林内の樹上や岩上に着生する。茎は基部が少し横に這うが、先は下垂し、長さ10～20cm。葉は披針形で長さ2～3.5cm、幅0.5～1cm、数枚が互生する。花期は7～9月で、花茎の基部が立ち上がり、白色の小さな花が一方に偏って多数つく。都内では、西多摩の山地林内の樹上や岩上に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 152, 168



山梨県 2016年8月10日

ヒメミヤマウズラ

Goodyera repens

被子植物
ラン科

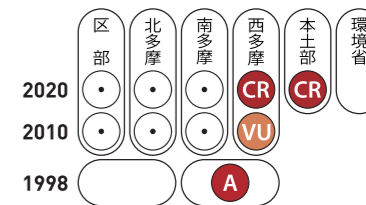
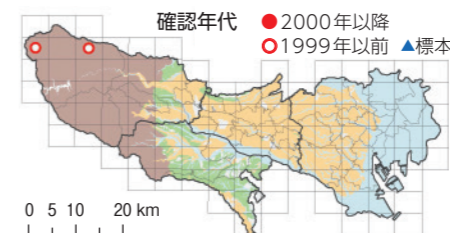
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北および大台ヶ原）に分布する多年草で、冷温帯から亜寒帯の樹林内に生育する。茎は直立し、高さ10～20cm。葉は数個、茎の株に互生し、長さ1～3cm、幅7～15mm、卵形で葉面に白色の網目斑紋がある。花期は7～8月で、白色の5～12花が偏ってつく。花は長さ4～7mm。都内では、西多摩の高標高地の針葉樹林内に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、採取。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 168



山梨県 2019年8月27日

ミヤマウズラ

Goodyera schlechtendaliana

被子植物
ラン科

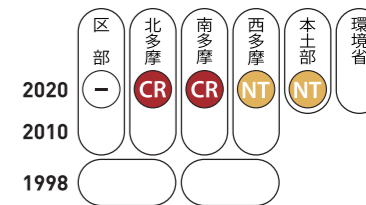
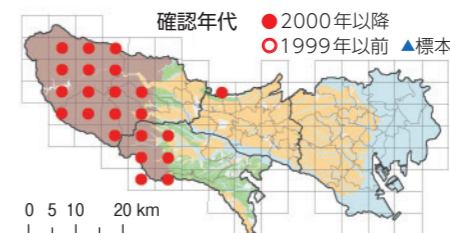
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、亜熱帯から冷温帯にかけての樹林下に生育する。茎は匍匐して先は立ち上がり、高さ12～25cm。葉は長さ2～4cm、幅1～2.5cmの卵形で、下部に数枚つけ、葉脈に沿って白色の斑紋がある。花期は8～9月で、淡紅をおびた白色花7～12個が一方に偏ってつく。都内では、南多摩、西多摩の山地の樹林内に生育するほか、北多摩の丘陵地にも生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 168, 243



八王子市 1995年8月25日

シュスラン *Goodyera velutina* 被子植物 ラン科

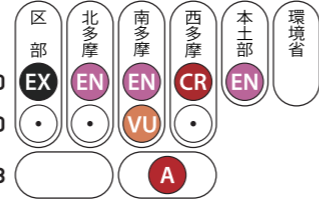
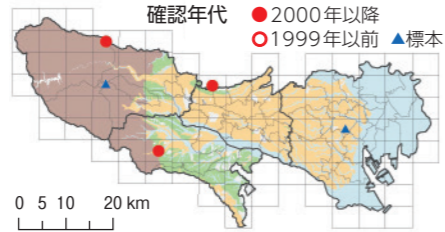
■ **種の特性と生育状況**：本州（関東以西）、四国、九州の亜熱帯から暖温帯に分布する多年草で、樹林下に生育する。茎は横に這い、先端は直立して高さ10～15cm。葉は数個下部に集まり、長さ2～4cmの長卵形、暗緑色ピロード状で中脈に白線が入る。花期は8月～10月で、淡紅色を帯びた白色の花4～10個が一方に偏ってつく。都内では、多摩地域の丘陵地や山地の常緑広葉樹林、落葉樹広葉樹林内に稀に生育する

■ **生存を脅かす要因**：採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 243, 246



千葉県 2013年9月13日

テガタチドリ *Gymnadenia conopsea* 被子植物 ラン科

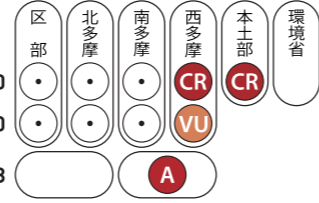
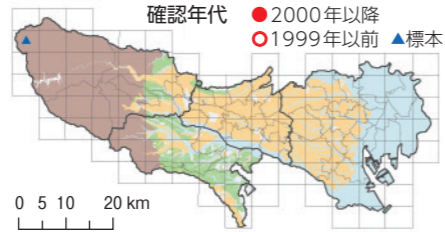
■ **種の特性と生育状況**：北海道、本州（中部地方以北）に分布する多年草で、亜高山帯から高山帯の草原に生育する。根の一部は掌状に肥厚する。茎はやや太く、高30～60cm。葉は茎の中部以下に4～6個互生し、広線形で長さ10～20cm、幅1～2.5cm。花期は7～8月で、淡紅紫色の花を多数つける。唇弁は3裂し、中裂片が大きく、距は長さ15～20mm。都内では、西多摩の山地の亜高山帯草原に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：草地開発、人の踏みつけ、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 168



富山県 2019年7月30日

ミズトンボ *Habenaria sagittifera* 被子植物 ラン科

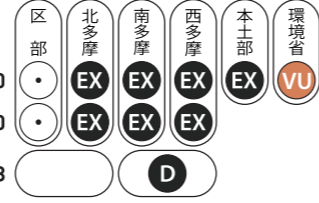
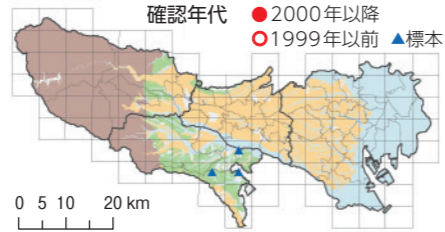
■ **種の特性と生育状況**：北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯の日当たりの良い湿地に生育する。茎は三角柱状で高さ40～80cm。葉は線形で長さ5～20cm、幅3～6mm。花期は7～9月で、淡黄緑色の花を多数つける。唇弁は長さ約2cm、3裂して十字形、裂片は線形。距は15mm、下垂して先端は球状にふくれる。都内では、多摩地域の丘陵地の谷戸などの湿地に稀に生育していたが、絶滅したものと考えられる。

■ **生存を脅かす要因**：湖沼開発、湿地開発、採取、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 243



神奈川県 2013年8月19日

ムカゴソウ *Herminium lanceum* 被子植物 ラン科

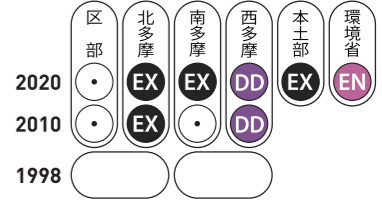
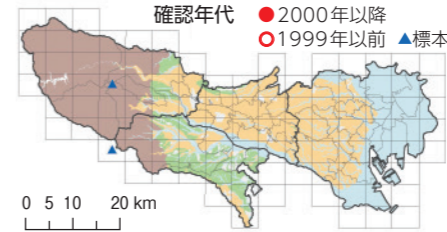
■ **種の特性と生育状況**：北海道（西南部）、本州、四国、九州に分布する多年草で、熱帯から亜寒帯にかけてのやや湿った草地に生育する。茎は高さ20～45cm。葉は線形から広線形、長さ8～20cm、茎中部に3～5葉を互生する。花期は6～8月で、淡緑色の小花を多数穂状花序につける。唇弁は下垂し、長さ5～8mm、3裂し、側裂片は長い、中裂片は短く突起状。距はない。都内では、多摩地域の湿性草地に生育していたが、北多摩と南多摩では絶滅したものと考えられ、西多摩については現状不明である。

■ **生存を脅かす要因**：湿地開発、草地開発、管理放棄、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 224, 243, 253



山梨県 2015年8月9日

ハクウンラン *Kuhlhasseltia nakaiana* 被子植物 ラン科

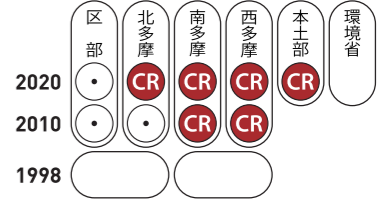
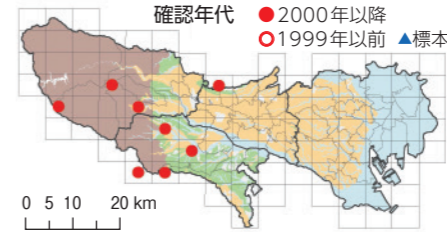
■ **種の特性と生育状況**：本州、四国、九州に分布する多年草で、主に冷温帯の落葉広葉樹林内に生育する。茎の高さ5～13cm、下部に葉を数個互生する。葉は卵円形で長さ3～7mm、葉柄があって基部は茎を抱く。花期は7～8月で、白色の花を1～7個つける。萼片と側花弁は淡緑色、赤みを帯びるものもある。唇弁の上唇部は横長の長方形、基部は側萼片に包まれる。都内では、多摩地域の山地樹林内や一部の丘陵湿地に稀に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、採取。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 243



八王子市 2018年8月11日

ムヨウラン *Lecanorchis japonica* 被子植物 ラン科

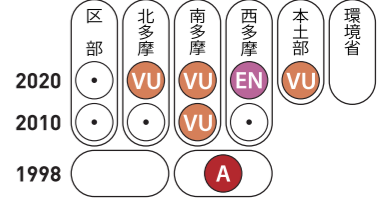
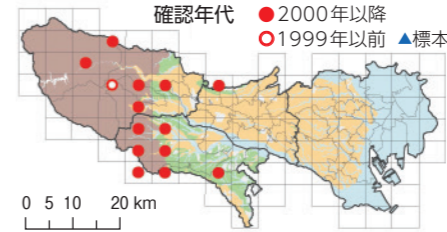
■ **種の特性と生育状況**：本州（岩手県以南）、四国、九州、西南諸島に分布し、亜熱帯から暖温帯にかけての常緑または落葉広葉樹林の林内に生育する菌従属栄養植物。花茎は直立し、高さ20～40cm、鞘状葉が数個ある。花期は5～6月で、3～10個の花をつける。花は淡黄褐色で稀に淡紫色花もある。萼片、側花弁ともに倒披針形で15～25mm、唇弁は倒卵形～倒披針形で先端は3裂、中裂片の内面に黄色の毛が密生する。都内では、多摩地域の丘陵地、山地の常緑または落葉樹林内に生育する。

■ **生存を脅かす要因**：森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化。

■ **特記事項**：

執筆者 新井二郎

文献一覧 17, 154, 219, 243



八王子市 2009年6月19日

トサノクロムヨウラン

Lecanorchis nigricans var. *patipetala*

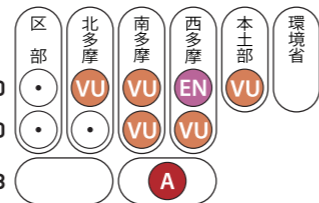
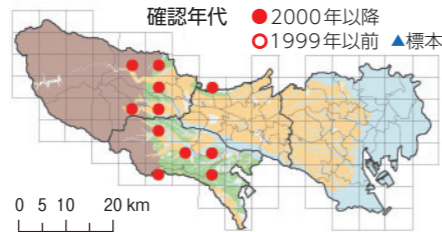
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：本州（関東地方以西）、四国、九州、西南諸島に分布し、常緑広葉樹林下に生育する菌従属栄養植物。花茎は高さ15～30cm。花期は7～8月で、花茎に5～10個つけるが、花の寿命が短いため同時に開花するのは1つの花序あたり1～2個、午前中開花して午後には閉じる。花は萼片、側花弁ともに12～17mm、淡黄褐色。唇弁はさじ形で全縁、先端が淡紫色を帯び、内面には密に毛がある。都内では、多摩地域の丘陵地から山地にかけて、常緑樹や落葉樹の樹林下に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化。

■特記事項：過去の標本をもとに分類学的な再検討が行われ、花が開かず、硬い蕾のまま落下するにも関わらず結実するものをクロムヨウラン var. *nigricans* とし、開花するものはトサノクロムヨウラン var. *patipetala* となった。

執筆者 新井二郎
文献一覧 243, 345



八王子市 2011年8月3日

エンシュウムヨウラン

Lecanorchis suginoana

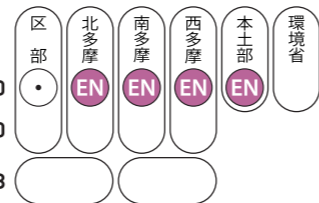
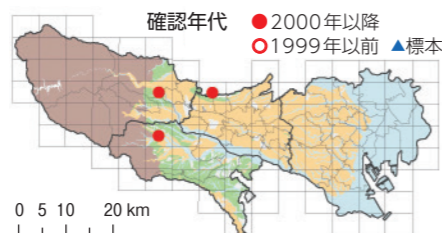
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：本州（東北・関東中部・東海・関西地方）、四国、九州に局所的に分布し、暖温帯の常緑広葉樹林や落葉広葉樹林の林床に生育する菌従属栄養植物。地上茎は直立し高さ15～30cm、淡褐色で鱗片葉が互生する。花期は5月、淡褐色の斜開した花を茎の上部にややまばらにつける。萼片と側花弁はほぼ同形、唇弁中央裂片の毛は黄色。都内では最近見つかったもので多摩地域の丘陵部の雑木林に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、人の踏みつけ、遷移進行・植生変化。

■特記事項：近年、日本各地で新産地の報告があり、分布を広げているようである。東京都内では最近自生が確認されたもので（南多摩：文献1）、その後も新しい産地が見つかった（西多摩：あきる野市、北多摩：狭山丘陵）。日本固有種である。

執筆者 新井二郎
文献一覧 150



八王子市 2020年5月12日

セイタカスズムシソウ

Liparis japonica

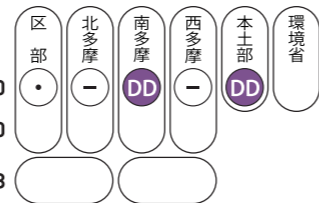
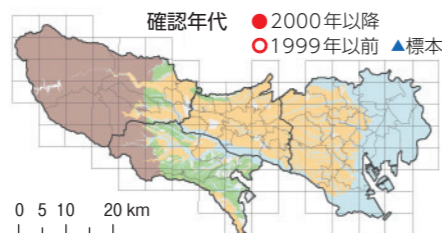
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、山地の林内、岩上に生育する。花茎は直立し、高さ20～40cm。葉は広楕円形で長さ6～12cm。花期は6～7月で、淡緑色または帯紫色の多数の花をまばらにつける。萼片、側花弁とも長さ約9mmで線形。唇弁は倒卵形で長さ約9mm。都内では、南多摩の山地にごく稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎
文献一覧 244



山梨県 2019年7月17日

ジガバチソウ

Liparis krameri

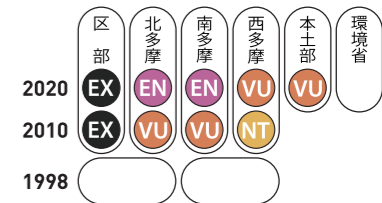
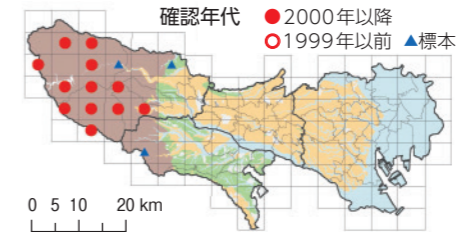
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から亜寒帯にかけての樹林下に生育する。葉は基部に2枚、広卵形、長さ3～8cm、網目模様のはっきりし、縁が波打つ。花茎は高さ8～20cm。花期は5～7月で、10～20個の花をつける。花は淡緑色または紫褐色で、萼片、側花弁は線状、唇弁は狭倒卵形で、暗紫褐色の縦筋が入り、中ほどで下方に折れる。都内では多摩地域の丘陵地から山地の落葉広葉樹林下に生育するが、北多摩や南多摩はその後現状確認ができなくなっている。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎
文献一覧 17, 168, 219, 243, 270, 291



奥多摩町 2015年7月5日

クモキリソウ

Liparis kumokiri

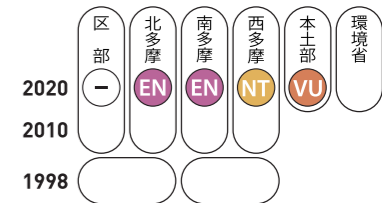
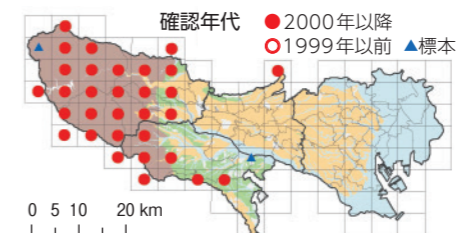
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、暖温帯から冷温帯の樹林下に生育する。葉は基部に2枚、長楕円形、長さ5～15cm、幅2.5～10cm、網目模様ははっきりせず、縁が波打つ。花茎には稜があり、高さ10～20cm。花期は6～8月で、5～20個の花をつける。花は淡緑色、萼片と側花弁は細い管状、唇弁は先が円く下方に反曲する。都内では、多摩地域の丘陵地や山地の樹林内や林縁に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎
文献一覧 17, 168, 219, 224, 243, 270



八王子市 2015年6月16日

スズムシソウ

Liparis makinoana

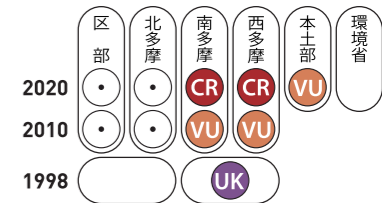
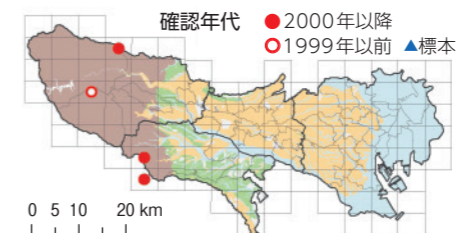
被子植物
ラン科

■種の特性と生育状況：北海道、本州、四国、九州に分布する多年草で、冷温帯の落葉紅葉樹林下に生育する。葉は基部に2枚、楕円形。花茎は高さ10～25cm。花期は5～7月で、5～20個の花をつける。花は暗紫褐色、萼片は広線形、側花弁は糸状、唇弁は倒卵形で先端は微凸端。都内では、南多摩および西多摩の山地の樹林内に極めて稀に生育する。

■生存を脅かす要因：森林伐採、採取、遷移進行・植生変化。

■特記事項：

執筆者 新井二郎
文献一覧 168, 243



八王子市 2008年5月8日